日本建築協会

建築と社会

1998 7

特集

心と体を元気にするインテリア
アジア太平洋インポートマート

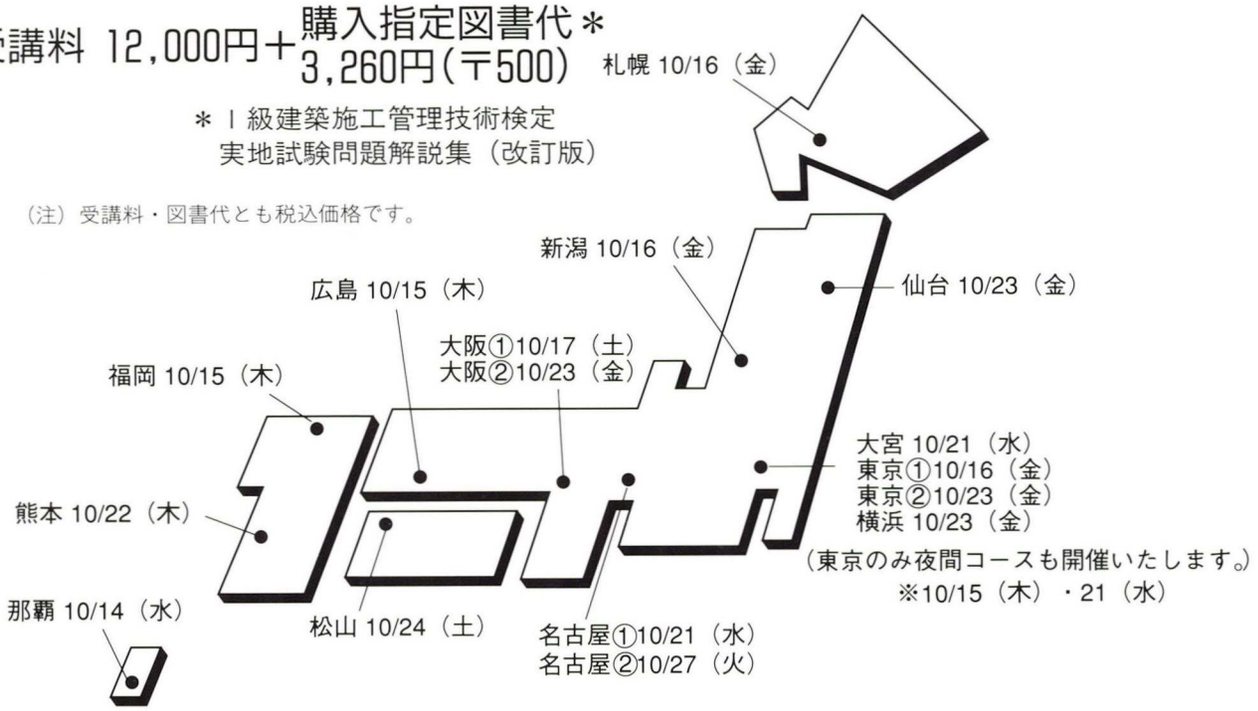
建築施工管理技士になるための

平成10年度 1級実地 受験準備講習会

■受講料 12,000円＋購入指定図書代＊3,260円(〒500)

＊1級建築施工管理技術検定
実地試験問題解説集（改訂版）

（注）受講料・図書代とも税込価格です。



■試 験 に つ い て■

(1)試験実施機関	財団法人建設業振興基金　試験研修本部　Tel.03-5473-1581 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12 虎ノ門4丁目森ビル2号館内
(2)受験申込受付期間	平成10年7月17日㈮～7月31日㈮ ■1級（学科試験）免除者および平成10年度1級（学科試験）合格者共に上記期間内に必ず各自が受験申込を行って下さい。 ■1級（学科試験）免除者とは、㋑一級建築士試験合格者の大半の方、および㋺平成9年度1級（学科試験）合格者の方です。 （但し、一級建築士試験合格者の方でも、一部の方は実務経験の内容・年数の不足により受験できない場合があります。詳細については受験申込用紙に同封の「手引き」または当会の講習案内書をご覧下さい。）
(3)試験日	平成10年11月8日㈰
(4)試験地	札幌・仙台・東京・新潟・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・那覇
(5)受験申込用紙販売機関	㈶北海道開発協会・㈳東北建設協会・㈳公共建築協会・㈳関東建設弘済会 ㈳北陸建設弘済会・㈳中部建設協会・㈳近畿建設協会・㈳中国建設弘済会 ㈳四国建設弘済会・㈳九州建設弘済会・㈳沖縄建設弘済会
(6)その他	■受験申込用紙は、6月下旬より販売される予定です。 （但し、1級（学科試験）免除者のうち、平成9年度1級（学科試験）合格者は、㈶建設業振興基金より送付される書類で受験申込を行って下さい。 また、平成10年度（学科試験）合格者は、合格通知書に同封してある郵便振替払込用紙で7月31日㈮までに受験料を払込んで下さい。） ■受験申込用紙は上記販売機関以外に各都道府県建設業協会の中で販売している協会もあります。詳しくは地元建設業協会におたずね下さい。

★詳しい資料は下記主催団体へご請求下さい。

これは受験に備えた講習会です。受験の手続きは各自が必ず行って下さい。

建設省・国土庁所管　財団法人地域開発研究所
建築施工管理技術研究会
〒102-0083 東京都千代田区麹町6-6（麹町東急ビル）
☎03-5226-0171　FAX03-5226-0165

日本建築協会名誉会長 **東畑謙三先生天寿を全うされる** 享年97歳

弔辞
巧まずして人々をリードしてきた東畑先生

京都大学建築会会長・日本建築総合試験所顧問・京都大学名誉教授
横尾義貫

東畑謙三先生の御霊前に、京都大学建築会を代表して、また先生が創設にご尽力された日本建築総合試験所に在職して、ご指導を賜ったものの一人として、先生のご業績の一端を回顧して、哀悼の誠を捧げたいと思います。

先生は大正15年京都帝国大学建築学科を卒業し、引き続き昭和７年に東畑建築事務所を開設されるまで、大学院に在籍されました。当時西欧で盛んであった近代建築思潮の活動の刺激を受けて、わが国においても、若い建築家の中に、新しい模索が始まっておりました。先生が大学院に進まれたその年、先生を含む大学院生および若い卒業生たちによって、分離派宣言署名者の一人、京大助教授、若き日の森田慶一先生を頂き、同人誌「建築学研究」が発刊されました。その推進者の一人に先生の名を見出すことができます。先生の建築の研究に対する熱情を感じるとともに、後年示された組織者としての優れた資質の片鱗を窺うような気が致します。

昭和７年独立して、東畑建築事務所を開設されます。その後、戦争への突入、敗戦、終戦後の困難な時期を経て、復興そして発展を遂げた時代時代の環境の変化に応じて、事務所を経営し発展させてこられました。昭和57年には会長にしりぞかれますが、幾多の優秀な社員を薫陶され、今日の全国有数の建築事務所の基礎を築かれました。

なお先生は戦前昭和16年、母校の京都帝国大学講師に委嘱されておられましたが、戦後の学制改革後も新制京都大学の講師として、昭和22年から37年までの15年にわたり、建築計画の一部を担当し、多くの後進の教育に当たられました。また母校学生のために奨学基金を寄贈されております。同窓一同にかわり、ここに心から御礼を申し上げ、ご冥福を祈るものであります。

思いまするに、先生は、事物が複雑に絡み合い、変化している中において、そのあるべき姿、しかも実現可能な姿を見出す優れた判断能力を、内に秘めておられたようにお見受けしました。先生は他方、多彩な趣味の人で、とくに洋蘭、古陶磁器、古書の収集、鑑識については、大家の域に達しておられました。円満なご人格とあいまって、深い教養に裏付けられた豊かな話題と、ユーモアに富む話術は、人々を惹きつけるものがありました。巧まずして人々をリードし、目標に導かれる、類まれな方であったと了解しております。この意味から、先生はまさに優れた、ある種の組織者であったといえると存じます。先生がこの組織力を遺憾なく発揮されたのは言うまでもなく、東畑建築事務所の経営においてでした。次いで日本建築総合試験所の創設であったと私は思っております。

日本建築総合試験所は、昭和39年に開設されますが、先生は創設に当たって、中心的役割を演じられました。関西の建築関係諸団体の意向をまとめて、大阪府、大阪市の積極的協力を得て、建設省および通産省の共管の財団法人を、地方の大阪に設置するという、前例の稀な難しい仕事を遂行し、実現に漕ぎつけられました。



明治35年4月11日生　平成10年4月29日逝去

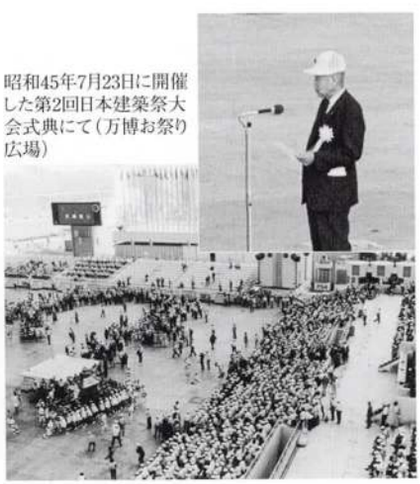
●出身地
三重県一志郡嬉野町字井上29
●住所
神戸市東灘区住吉山手4-4-35
●学歴
大正12年　第三高等学校理科甲類卒
大正15年　京都帝国大学工学部建築学科卒
昭和２年～６年　京都帝国大学大学院において研究

●職歴

昭和７年	東畑謙三建築事務所開設、建築設計監理業務に従事
昭和16年	京都帝国大学講師委嘱
昭和23年	大阪大学講師委嘱
昭和26年	組織変更により株式会社東畑建築事務所を開設、代表取締役に就任
昭和35年	社団法人日本建築家協会理事
昭和39年	財団法人日本建築総合試験所副理事長 社団法人日本建築協会会長
昭和40年	万国博覧会会場計画委員
昭和42年	万国博覧会建設顧問
昭和43年	社団法人日本建築家協会終身正会員
昭和44年	大阪市建築審査会会長
昭和46年	社団法人日本建築協会名誉会長
昭和47年	社団法人日本建築学会名誉会員
昭和48年	財団法人沖縄国際海洋博覧会協会建設顧問
昭和48年	日中建築技術交流会副会長
昭和57年	株式会社東畑建築事務所取締役会長就任

●受賞

昭和33年５月	建築行政に尽くした功績により大阪府知事表彰
昭和35年７月	建築関係功労者として建設大臣表彰
昭和36年10月	建築業協会賞受賞 （作品：大阪営林局庁舎）
昭和37年11月	藍綬褒章受章
昭和40年３月	建設省住宅局長賞受賞 （作品：甲南大学校舎）
昭和44年	日本建築学会賞受賞 （作品：大阪駅前市街地改造事業）
昭和45年	建築業協会賞受賞 （作品：鈴鹿市民会館）
昭和46年11月	建築行政に尽くした功績により大阪市長市民表彰
昭和47年５月	勲三等瑞宝章受章
昭和51年６月	建築業協会賞受賞 （作品：日商岩井㈱大阪本社）
昭和55年６月	建築業協会賞受賞 （作品：ホリディイン南海・大阪）
昭和56年４月	日本建築学会賞受賞 （作品：筑波研究学園都市）



昭和45年7月23日に開催した第2回日本建築祭大会式典にて（万博お祭り広場）

創設後も20年にわたり、副理事長として、理事長を補佐し、経営の基礎を固めてこられました。施設の計画は初代所長、２代理事長を務められました坂静雄先生が当たられ、東畑先生は、坂先生の構想を実現するために、資金調達その他に全力を尽くされました。

試験所は、他の試験機関とは異なる、いくつかの特色をもっております。

・利用者である近畿建築界の要望によって生まれた、民主導で成立したものであり、官主導ではないこと。

・近畿地区における建築センター的性格をもつこと。

・また単なる試験の実施機関ではなく、かねて試験法の研究機能を有していること。

これらの特色は、公的機関のあり方として、地方分権化、利用者のための機関を求める、新しい時代の流れに沿うものと信じます。

先生は昭和60年副理事長を辞されたのちも、理事として残られ、大所高所より試験所の行く方を見守られました。同年、私は建築技術安全審査委員会の委員長を仰せ付かり、理事に任ぜられ、それ以来、試験所ととくに深いかかわりをもつようになり、折に触れ先生の親しくご指導を受けるようになります。平成３年７月には、図らずも、ご病気の前田敏男先生の後を受けて、にわかに理事長の職を仰せ付かることになりますが、幸いにしてその後５年間、大過なく職責を果たすことができました。これも偏に、先生のご指導の賜物と強く信じております。その間に遭遇しました、私に取り忘れ難いことは、創立30周年において諸記念事業を滞りなく行うことができたことですが、試験所の30年の歴史を回顧して、先生が試験所に対して尽くされた功績の偉大さを、改めて深く悟ったことであります。

試験所は今日、平成８年６月来、五十嵐定義理事長の下に、新しい発展を遂げつつあり、本年４月には、神戸試験室を開設するに至っておりますことを、御霊前にご報告申し上げるとともに、私どもの試験所に賜りました、数々のご指導にたいして深い感謝の念を捧げるものであります。

心よりご冥福を祈ります。

平成10年5月23日

弔辞

革新的な開発と着実な技術の裏づけをみつめて

日本建築協会名誉会長

佐野正一

東畑謙三先生、今日ここに永のおわかれの言葉を申し上げねばなりません。悲しいことであります。

先生にはこのところご自宅でご静養中で、経過は順調と伺っておりましたところ突然の訃報に接して驚愕いたしました。長らく関西に在って建築界の発展を支えてこられた偉大なリーダーが卒然として逝去されたことにわれら茫然とし、ただただ痛恨のいたりであり、哀悼の言葉を知りません。

先生は三重県のご出身で京都の第三高等学校を経て、京都大学で建築デザイン、建築構造技術、建築歴史等建築学を学んで大正15年卒業され、さらに大学院で武田五一教授の薫陶を受け筆

頭門下生として修了ののち、設計の実務を志し、昭和７年に東畑謙三建築事務所を創設し、折柄昭和不況の中で苦心経営に当たり、以後戦中戦後の深刻な社会情勢に耐えて、長期にわたって経営を維持しつつ幾多の珠玉と言われる作品を世に送り、また昭和16年より京都大学、昭和24年より大阪大学講師となって後進を育て地域に大きな貢献をなされたことは称賛に値する業績であります。

この間かねて大阪に設立され活動していた日本建築協会の運営に参画し、片岡安、竹腰健造、尾崎久助の歴代会長に続く第４代会長として昭和39年より就任して協会の活動を著しく活発にし財政基礎の確立、組織の充実などに新風を導入し、昭和45年には千里丘の万国博会場において日本建築祭を催し国内外から多数の建築関係者を集めて華々しく式典を催し、先生は建築祭委員会委員長として、戦後のわが国の建築復興、建築技術の発展を内外に颯爽と謳いあげた光景を思い出すのであります。

思えば戦前の建築界の欧米レベルをめざした成長の歩み、戦時の停滞を経て、戦後苦心の復旧と新しい発展を指向したわが国独自の再生と充実への大きな動きの中で、先生は終始革新的な開発と着実な技術の裏づけをみつめて建築界全体のリード役として大きく寄与されたものと申すべきであります。

研究や業績の広報には日本建築協会機関誌「建築と社会」がよく使われましたが、このほか京都大学の学術誌「建築学研究」を興して充てたり、大阪で民間の「新建築」「新住宅」が創刊されたのは、積極的に支援して取材編集に協力された先生のご尽力の賜物であります。

この時機、建築界には法令に基づく建築材料の認定等の業務を担当することを目的に、新しく財団法人日本建築総合試験所が昭和39年設立されましたが、その出資、組織の編成、施設と人材確保など各般の問題に先生は献身的努力を重ね見事に成立させられたご功績は誠に大きいものがあります。

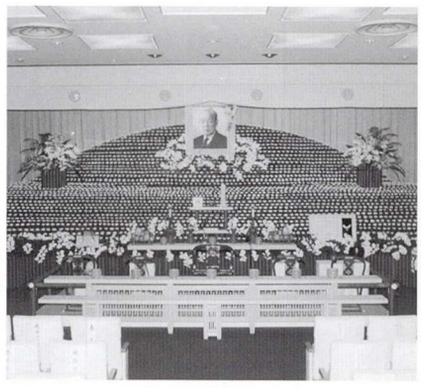
こうした建築設計にかかる行動のほか、他面、先生は無類の愛書家であり蔵書家としてつとに知られ、なかに欧米で出版された建築図書、地図等、今日では貴重な価値をもつ稀覯の古書を多数含み、専門家の間で高く評価されているとうかがっております。また本業を離れた陶磁器に対する関心、園芸果樹に対する関心についても専門的高度な対応で通常の趣味の領域をはるかに超えたハイレベルで接しておられたようにお見受けしておりました。旺盛な探求心、徹底した調査と周到な判断といったパターンはこうした私的な場面にも見られ、先生の独特のご性格として深く敬愛された所以であります。幅広い対象への関心、そして長期の大所高所からの高邁な判断、あたたかい配慮、そこから語られた先生の言行はいつまでも忘れ得ないものでありましょう。

たとえば、正月に建築関係団体合同で行う互礼会には、先生は先任者として乾杯の音頭をとり、その際その年の干支にちなむ口話を添えるのが恒例でありました。先生はそのために予め自ら関係専門家を訪ねて綿密な取材を行い、ために口話は内容豊かで活き活きとしたものになり、ユーモラスな語り口で会場をわかせるのが常でありました。十二支を二めぐり20年を越える口話でありました。先生の動物ずき、専門追求をおろそかにしない一面を物語る思い出であります。

思い出はつきませんが、偉大な大先達のご遺訓を偲びつつ心からご冥福を祈り、これをもっておわかれの言葉といたします。

どうかゆっくりとお休み下さい。

平成10年５月13日



日本建築協会名誉会長東畑謙三先生が、平成10年４月29日㈬19時50分、永眠されました。

５月１日の近親者による密葬のあと、５月13日㈬13時から西宮市山手会館で東畑建築事務所による社葬が執り行われ、松尾純・大阪府建築都市部長、大島靖・元大阪市長、佐野正一・日本建築協会名誉会長、薬袋公明・同協会副会長、竹中統一・竹中工務店社長ら約1,500人が参列し、先生のご冥福を祈りました。

ここに京都大学建築会会長・日本建築総合試験所顧問・横尾義貫氏、日本建築協会名誉会長・佐野正一氏の弔辞全文を掲載いたしました。（タイトルは編集でつけましたことをご了承下さい）

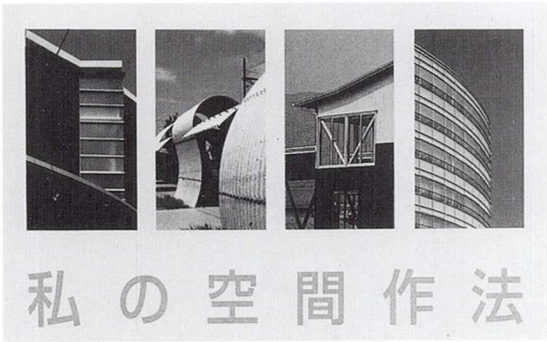
日本建築協会

会告

「建築と社会」98/11会員作品特集号

“私の空間作法”作品募集

「建築と社会」では、今年も11月号誌面で、広く会員の優れた作品をご紹介するため、ここ数年間に会員各位が設計された作品で、誌面に取り上げられていないものを掲載し、“私の空間作法”というタイトルで特集号を組むことにいたしました。
建築作品やランドスケープデザイン、インテリアデザイン等、建築に関係のあるものなら種別は問いませんので、下記要領に基づいて原稿資料をご送付下さるようご案内申し上げます。



この特集も今年で5回目を迎え、ますます充実した内容にするべく一同努力しておりますので、みなさまからのふるってのご応募をお待ちしております。

■ご用意願う原稿（提出資料）

1．写　真　外観、内部のプリント2～3枚程度（サイズはキャビネ判程度）
2．概　要　作品名称、所在地、設計者、施工者名、建築面積、延床面積、構造規模、工期など。
3．説明文　設計上の特徴や苦心された点などについて300字以内にまとめて下さい。

■掲載に際しての補足

1．掲載料は無料です。但し、写真は原則として白黒とし、ご提出写真を掲載しますが、委員会の判断で一部カラー掲載をすることがありますのでご了承下さい。
　※写真の撮影者名は必ず付記願います。
　※写真に著作権等が生ずる場合は、応募者にて処理願います。
2．掲載作品数はご協力頂ける点数にもよりますが、原則として、1社（1人）1作品とします。
3．作品の掲載順、及び誌面レイアウトにつきましては委員会で行いますので、ご了承下さい。
4．建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いする場合がありますので、その折にはご協力下さるようお願いいたします。
5．応募作品が多数の場合等は、誌面編集上、掲載できないこともありますのでご了承下さい。

■原稿期日及び送付先

1．期　日　1998年**8**月**21**日（金）必着！
2．送付先　社団法人　日本建築協会編集委員会「会員作品特集号」係
　〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100（大阪駅前第3ビル21階）
　TEL 06-348-0632　FAX 06-348-0634

青年技術者のみなさまへ

「建築と社会」平成10年12月号の
「第45回青年技術者特集号」へのおさそい

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年技術者特集号」を企画し、すでに44回にわたって若き優秀なプランナー、アーキテクト、エンジニアをめざす人たちを紹介してきました。

今回も、青年技術者選考委員会を設けて、青年技術者を選考いたしますが、昨今の建築に携わる技術者の多様化を考慮し、設計だけに限らず、計画、構造、設備、施工およびその他広く、建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を募って、その不断の研究努力とすぐれた実績への情熱などを、「建築と社会」に掲載し、顕彰することにしております。45回の企画にあたり、日常目立たない対象の実績も含めて、優秀な実績を積まれている青年技術者のみなさまのご応募をお待ちしております。

応募提出規定

1．応募される人は満35歳（平成10年9月現在）までの青年技術者であって、本会個人会員に限る。

2．原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募する。（すいせん用紙は事務局にご請求ください）
すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3．応募者は、設計（住宅・インテリアを含む）、計画（都市計画など）、構造、設備、施工、その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を本会に期日までに提出する。

4．提出された資料は「青年技術者選考委員会」にかけて選考する。

5．「青年技術者選考委員会」において選考されたものは「第45回青年技術者特集号」（平成10年12月号）に記載するとともに、記念品を贈呈する。

6．提出資料

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

A資料

A資料は、A3判用紙10枚以内にまとめる。

① 建築設計の場合
——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）
——上に準じた資料

③ 上記以外の分野の場合
——それぞれの分野にふさわしい資料

B資料

上記A資料の各実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、A資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、2000字以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者・本人の執筆に限る。

■すいせんのことば

原則として、すいせん者によるすいせんのことば（120字程度）を添付のこと。自せんの場合は不要。

※「青年技術者選考委員会」において選考し、採択されたものについては、後日、本人の写真、青年技術者としてのことば（青年技術者としての抱負、考え方、信念、建築観等々を、400字程度で執筆）の提出をお願いすることにします。

7．提出期限 平成10年9月1日（火）

8．提出先 日本建築協会「青年技術者選考委員会」
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階
電話 06-348-0635 FAX.06-348-0634

9．青年技術者選考委員会（平成10年度）

委員長 與謝野 久／日建設計常務取締役大阪本社代表
委 員 加藤 晃規／大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻・助教授
北浦 正一／竹中工務店開発計画本部長
江川 直樹／現代計画研究所代表取締役大阪事務所長
大西 晃／昭和設計常務取締役
田渕 基嗣／神戸大学工学部建設学科・教授
近藤 一雄／東畑建築事務所構造部長
大野 修二／清水建設大阪支店設備設計部長
大原 千幸／日建設計設備設計室長
桜井仙三郎／大林組本店建築生産技術部部長
佐貫 久／鹿島建設関西支店建築部生産計画室長

あべのルシアス建設工事見学会

日　時　1998年 7 月21日㈫
14:00―17:00
講　師　西口　明／昭和設計都市計画部主席
向井寛一／竹中・熊谷・松村JV所長
小倉清志／JV工事長
定　員　60人
＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
＊地下鉄・JR「天王寺」駅から徒歩約５分
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
申　込　７月14日㈫までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:あべのルシアス見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を７月15日㈬に発送します。
申込先　㈱日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-348-0633
FAX.06-348-0634
〒530-0001

関西国際空港の開港にともない大阪の南玄関口として都市整備が進む阿倍野再開発地区の中心的施設として「あべのルシアス」が建設されました。情報発信基地として期待される、ショッピング、ビジネス、アミューズメントの複合型商業施設です。低層部は南北に通り抜ける５層のガレリア（吹抜空間）を中心に物販店舗、映画館（８館のシネマコンプレックス、内２館はアポロビル内）等の複合商業施設、高層部は高度情報化社会に対応可能な事務所、及び展望レストランで構成されています。また地下には飲食店舗、駐車場が配置されています。
ぜひこの機会にご見学ください。



●建築概要
所 在 地　大阪市阿倍野区阿倍野筋1・旭町1
設計監理　大阪市都市整備局
昭和設計
施　　工　竹中工務店・熊谷組・松村組JV
敷地面積　7,072.76㎡
建築面積　5,804.05㎡
延床面積　68,484.57㎡
構造規模　S・SRC・RC、B5・16F・P3
駐車台数　284台
工　　期　1994年12月～1998年９月
オープン　1998年12月（予定）

新琵琶湖ホテル
京阪浜大津再開発事業
見学会

当プロジェクトは琵琶湖のレークフロントに立つホテルとアミューズメントの複合施設である。「京阪レークセンター」として大津市民に親しまれてきた当敷地に60数年の伝統をもつ琵琶湖ホテルを新築再生し、アミューズメント施設を併せて浜大津の活性化を図ることが事業のねらいである。
シーザー・ペリ氏の参画による外観構成では、山並みと湖水になじませた緩やかな曲面と、緑と青を基調色とし、優しさと力強さを合わせ持つデザインを意図した。



ホテルは全館レークフロントビューの眺望でリゾート感覚を、充実した宴会料飲施設で都市型機能を充たしている。アミューズメント館はシネマコンプレックス、ボーリング、ゲーム、ビデオレンタルおよび飲食店からなる若い世代を対象としたアミューズメントパークであり、今年４月に先行オープンしている。
２階レベルには両施設を結ぶボードウォークを設け、一体感を強調すると共に、洗練されたプロムナードとした。利用客が繰り返し訪れたくなる印象を残すことを本来の“リゾート”としてとらえデザインのテーマとした。ホテルとアミューズメント機能が相乗効果を発揮し浜大津が活気と魅力ある街となることを確信するものである。

（黒川省二、小川恵三）

●建築概要
所 在 地　大津市浜町3-5他
基本構想　シーザーペリ＆アソシエーツ
設　　計　竹中工務店
施　　工　竹中・錢高・京阪JV
敷地面積　33,127.05㎡
建築面積　22,856.19㎡
延床面積　61,314.38㎡
構造規模　S・SRC・RC、13F・P1
工　　期　1996年10月～1998年９月
ｸﾞﾗﾝﾄﾞｵｰﾌﾟﾝ　1998年10月（予定）

日　時　1998年 7 月28日㈫
14:00―17:30
講　師　小川恵三／竹中工務店設計室長
福谷隆教／竹中・錢高・京阪JV所長
定　員　60人
＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
＊JR「大津」駅から徒歩約10分
京阪「浜大津」駅から徒歩約５分
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
申　込　７月21日㈫までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：新琵琶湖ホテル見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を７月22日㈬に発送します。
申込先　㈱日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-348-0633
FAX.06-348-0634
〒530-0001

平成９年度事業報告書

平成９年４月１日～平成10年３月31日

1．総　　会

(1) 第１回通常総会
　平成９年６月25日　17:30～18:20
出席者　市川会長以下15名
議事　①平成８年度事業報告承認の件
　　②平成８年度決算報告承認の件
　　③報告事項　理事補選の件
(2) 第２回通常総会
　平成10年２月25日　17:30～18:00
出席者　市川会長以下30名
議事　①監事１名選挙の件
　　②本部所属評議員24名の選挙の件
　　③監事及び評議員重任の件
　　④名誉正会員推挙の件
　　⑤平成10年度事業計画案承認の件
　　⑥平成10年度収支予算案承認の件

2．評　議　員　会

(1) 第１回定時評議員会
　平成９年６月25日　17:00～17:30
出席者　鶴田議長以下45名（うち委任状27名）
議事　①平成８年度事業報告案承認の件
　　②平成８年度決算報告案承認の件
　　③理事５名補選の件
(2) 第２回定時評議員会
　平成９年11月７日　定款第34条及び同40条に基づく書面表決による議決
議事　①評議員の数を61名から60名に減員の件
(3) 第３回定時評議員会
　平成10年３月25日　17:30～18:00
出席者　鶴田議長以下33名（うち委任状21名）
議事　①議長、副議長互選の件
　　②会長、副会長３名、理事24名選任の件
　　③理事２名補選の件

3．理　事　会　等

(1) 正副会長会議　１回
(2) 定例理事会　７回
(3) 常任理事会　４回
(4) 会勢理事会　７回

4．常 設 委 員 会 等

	委員会	小委員会等
(1) 編集委員会	12回	68回
(2) 出版委員会	11回	１回
(3) 事業委員会	７回	29回
(4) 教育委員会	１回	５回
(5) 建材委員会	８回	

5．特 別 委 員 会 等

(1) 企画委員会　１回
(2) 青年技術者選考委員会　１回
(3) 工高生デザインコンクール審査委員会　１回
(4) 80年史編纂委員会　８回

6．建築と社会・特集号

４月号　建築と私と社会―80人の眼
５月号　木造建築物の伝統技術とその将来
６月号　住む空間の復興―法制度の運用と新たなる展開―
〃　まち・つくる・すまい―住宅・都市整備公団関西支社―
７月号　素材の不思議―「感」空間を演出するインテリア素材
〃　大阪ドーム
８月号　新エネルギー―環境との共生―
〃　住宅・都市整備公団改革への提言
９月号　クロスワード都市OSAKA―地下街空間の魅力を探る―
10月号　モザイク都市の住むかたち
〃　昭和設計40周年記念
11月号　私の空間作法ー会員作品ー
12月号　第44回青年技術者
〃　京都駅ビル
１月号　新しいまちづくりの予感―震災を乗り越えて―
〃　東畑建築事務所創立65周年
２月号　Concrete
〃　九州とわたし、そして建築
３月号　東海支部会員作品
〃　信州ー諏訪とその周辺ー

7．出　　版

＜建築技術選書＞
「建築を志す人びとへ」

8．見　　学　　会

神戸ファッションプラザ見学会
４月15日　参加者　43名
平城宮跡「朱雀門」復原工事見学会
４月22日　参加者　32名
フェスティバルゲート見学会
４月24日　参加者　50名
ハービスOSAKA見学会
４月25日　参加者　53名
京都駅ビル見学会
５月10日　参加者　61名
茶室見学会⑧―大徳寺・玉林院の蓑庵と霞床席―
５月17日　参加者　45名
近代建築見学会⑤―大阪倶楽部・中央電気倶楽部―
５月31日　参加者　19名
扇町キッズパーク見学会
６月26日　参加者　38名
市立泉佐野病院見学会
９月５日　参加者　51名
市立豊中病院見学会
９月17日　参加者　61名
近代建築見学会⑥―日銀大阪支店―
10月31日　参加者　35名
中国支部との合同見学会（広島美術館ほか）
11月７日・８日　参加者　23名
茶室見学会⑨―天然図画亭―
11月29日　参加者　19名
滋賀県立芸術劇場「びわ湖ホール」見学会
２月17日　参加者　90名

9．広 報 ・ 研 修 会

講演と見学会―琵琶湖博物館とロータス館―
５月27日　参加者　33名
講演会―オーガニックビルディング―
９月３日　協会サロン
講師：西田　修氏、大代光芳氏　参加者　23名
話題建築を聞く㉕―大阪ドーム―
11月７日　協会サロン
講師：寺本敏則氏　参加者　24名
話題建築を聞く㉖―ハービスOSAKA―
１月21日　協会サロン
講師：苫名　正氏　参加者　42名

10．若 い 会 員 の 集 い

30's EYE㉓ darnー原点から
４月25日　協会サロン
講師：吉本　剛氏　参加者　48名
●建築家に何ができるか
支援まちづくり専門家の役割
５月30日　協会サロン
講師：森崎輝行氏　参加者　24名
30's EYE㉔　空間への回路
６月27日　協会サロン
講師：松井紫朗氏　参加者　29名
●建築家に何ができるか
都市の記憶の継承
７月25日　協会サロン
講師：村上裕道氏　参加者　18名
30's EYE㉕　決めないということ、私達の設計プロセス
９月26日　協会サロン
講師：吉井歳晴氏　参加者　21名
●建築家に何ができるか
酒蔵のまちとの関わりで復興を考える
11月21日　協会サロン
講師：灘の酒蔵のまちを復興させる会　参加者　14名
30's EYE㉖　メディアの中の建築
１月30日　協会サロン
講師：山盛英司氏　参加者　31名
30's EYE㉗　建築の二面性
３月20日　協会サロン
講師：細田みぎわ氏　参加者　19名

11．建築工事実務講習会

東海支部主催「施工計画、積算、仮設見積」
10月２日　9:30―17:00　於　昭和ビル
講師：施工計画　細田泰彦氏／清水建設名古屋支店
　　積　　算　佐野洋治氏／竹中工務店名古屋支店
　　仮設見積　佐渡政勝氏／大林組名古屋支店
受講者　85名

12．プロのノウハウ講座

第17回「建築基準法の難解条文を読みこなすコツ」
７月18日　18:00―20:00　於　協会サロン
講師：高木任之氏／日本木造住宅産業協会 専務理事
受講者　23名

13．コ　ン　ク　ー　ル

第43回工高生デザインコンクール
設計課題　「記念展示館」
応募校　34校・123点

審査会　　10月18日
表彰式　　11月15日
審査委員長　菅家克子氏／菅家設計室 主宰
入選作　　10点（うち最優秀１点、優秀２点）

14. 表 彰 状 授 与

全国の工業高等専門学校、高等学校、専修学校などの建築科の優秀卒業生に対し、学校の推薦により、本会会長の表彰状を授与しており、本年度は240校を対象に279名を表彰した。

15. 業 務 の 受 託

公営住宅における高齢者の共生型居住方式に関する研究（共同住宅高齢化対策研究会）
委託者：㈶大阪府住宅管理センター
ネットワーク型ライフスタイルに関する調査研究
委託者：㈱竹中工務店　技術研究所
大阪ガスNEXT21における都市型集合住宅に関する居住実験調査研究（その２）
委託者：大阪ガス㈱

16. 会 員 の 増 強

昨年度に引き続き会員増強に努めた結果、年度末現在の会員数は、個人正会員2,650名、団体正会員は629団体2,089口、準会員は25名となった。

17. 後援・協賛等の承認

●ギャラリー間「藤江和子講演会」の後援
●第17回大阪まちなみ賞（大阪都市景観建築賞）の協賛
●「新たな建築行政のあり方」報告会の協賛
●「蓄熱空調フェア'97」の協賛
●「住宅設備フェア'97」の協賛
●ジャパンストンフェア・インターナショナル'97の協賛
●平成９年度「建築の日」記念事業の後援
●建築技術展／国際セミナーA/E/C SYSTEMS JAPAN '97の協賛
●第21回人間―生活環境系シンポジウムの協賛
●「維持保全計画書作成事例と解説」セミナーの協賛
●第８回建築音響・防音研修講座の協賛
●Japan Home Show '97の協賛
●パブリック・フォーラム第４回関西定例会の後援
●①「国際デザインワークショップ」②「展覧会」の協賛
●「パリ都市の詩学」大阪展の後援
●第７回大阪府公共建築設計コンクールの協賛
●低層RM構造設計指針技術講習会の後援
●第20回情報・システム・利用・技術シンポジウムの後援
●「建築家アルド・ロッシ追悼の夕べ」開催の後援
●ツキ板シンポジウム・コンペティションの後援
●「'98建築・建材展」の協賛
●基礎セミナー「木と住まい―材料・住環境・構造・耐久性―」の協賛
●「木質材料講座：健康住宅と木質新素材」の協賛
●「アーバンデザイン'98」の協賛
●ARCHITECTURE TOKYO 97の協賛
●「優良住宅建築展」及びセミナー開催の後援
●「建築トリエンナーレ奈良1998」開催の後援
●シンポジウム「インテリアとしての大阪」（大阪ガス）の後援
●セミナー「設計者のための建築情報の整理・活用」の後援
●「遊牧民の心・夢・華―キリムの素晴らしい世界」展の後援
●「ATC関西学生卒業作品展Vol.3」の後援

18. 青年技術者の顕彰

昭和29年から本顕彰を実施しているが、第44回の本年度は応募者31名のうち21名を顕彰した。
本年度の顕彰者を加え、顕彰者数は690名に達した。

19. 80年史編纂事業の実施

協会創立80周年記念事業の一環として平成９年度から「80年史編纂委員会」を設置し、80年史編纂事業に取り組んでいる。
平成９年度には、委員会を８回開催するとともに、ワーキンググループを編成する等資料収集に努めた。

20. 図 書 の 閲 覧

昭和63年度から本会所蔵の貴重な図書および資料を会員等に公開しているが、本年度閲覧者は35名であった。
なお、本年度は東畑建築事務所から「重要文化財修理工事報告書」1,160部の寄贈があり、図書を充実することが出来たが、一方図書の管理面で若干の問題が生じたので、その改善に努めた。

21. 合同忘年懇親会等

建築関係団体合同忘年懇親会
本年度は、本会が当番会を務めて下記のとおり忘年懇親会を行った。
12月12日　18:00～19:30　於　太閤園
出席者　362名
建築関係団体合同新年交礼会
１月４日　14:30～15:30　於　マイドーム大阪
出席者　766名

22. 本 会 入 会 団 体

大阪商工会議所
大阪市街地再開発促進協議会
建築行政協会大阪市支部
建築国際連絡協議会　５団体
建築関係団体連絡会　80団体
四会連合工事請負契約約款連合委員会
大阪住宅振興協議会
大阪市北区納税協会
大阪市防火管理協会

23. 役員を送っている団体

大阪商工会議所	２号議員
大阪市街地再開発促進協議会	理事
日本建築総合試験所	理事
大阪建築防災センター	理事
大阪住宅センター	理事

24. 建 築 ク ラ ブ

会員の有志で組織する「建築クラブ」は毎月１回リーガグランドホテルにおいて、広い分野から講師を招いて朝食会並びに講演会を開催するとともに４月には第300回記念事業として記念講演会を開催したほか、これまでの講演会記録を集約した出版物「話のはなし」（１セット全５冊）を発刊した。

平成９年度決算報告書

収支計算書

平成９年４月１日～平成10年３月31日

（単位：円）

Ⅰ．収入の部			
科目	予算額	決算額	差引過不足額
1 会費収入	93,452,000	90,485,212	2,966,788
個人正会員	36,650,000	34,888,015	1,761,985
地方会員	2,016,000	2,257,800	△ 241,800
団体正会員	54,450,000	53,145,417	1,304,583
準会員	336,000	193,980	142,020
2 事業収入	97,650,000	120,650,412	△ 23,000,412
会誌収入	69,700,000	92,934,273	△ 23,234,273
契約約款収入	2,200,000	2,387,365	△ 187,365
会員名簿収入	9,000,000	7,940,930	1,059,070
出版委員会収入	1,500,000	1,280,971	219,029
事業委員会収入	1,500,000	2,094,500	△ 594,500
教育委員会収入	2,650,000	550,520	2,099,480
建材委員会収入	100,000	0	100,000
記念事業基金積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0
受託事業収入	8,000,000	10,357,606	△ 2,357,606
雑収入	2,000,000	2,104,247	△ 104,247
3 寄付金収入	100,000	0	100,000
4 退職給与積立金取崩収入	11,500,000	10,500,000	1,000,000
5 雑収入	1,000,000	616,579	383,421
6 前払費用収入	0	1,373,419	△ 1,373,419
7 仮払費用収入	0	4,010,998	△ 4,010,998
当期収入合計（A）	203,702,000	227,636,620	△ 23,934,620
前期繰越収支差額	1,098,000	6,872,972	△ 5,774,972
収入合計（B）	204,800,000	234,509,592	△ 29,709,592

Ⅱ．支出の部			
科目	予算額	決算額	差引過不足額
1 事業費	93,590,000	118,508,694	△ 24,918,694
会誌発行費	69,600,000	95,027,970	△ 25,427,970
契約約款費	1,000,000	1,250,048	△ 250,048
会員名簿発行費	4,000,000	3,372,426	627,574
出版委員会事業費	1,000,000	504,387	495,613
事業委員会事業費	2,500,000	3,260,626	△ 760,626
教育委員会事業費	2,500,000	1,802,601	697,399
建材委員会事業費	50,000	37,145	12,855
記念事業費	4,000,000	1,816,368	2,183,632
受託事業費	7,440,000	9,711,976	△ 2,271,976
雑費	1,500,000	1,725,147	△ 225,147
2 管理費	106,612,000	101,324,247	△ 5,287,753
給与・手当	64,500,000	60,880,746	3,619,254
退職金	11,500,000	10,954,930	545,070
福利厚生費	7,500,000	7,434,445	65,555
助成費	4,400,000	4,122,910	277,090
会議費	1,500,000	1,564,015	△ 64,015
旅費交通費	100,000	157,920	△ 57,920
通信運搬費	2,800,000	846,086	1,953,914
集金費	2,000,000	2,173,798	△ 173,798
消耗品費	1,300,000	620,824	679,176
修繕費	100,000	16,275	83,725
印刷製本費	600,000	294,840	305,160
光熱費	300,000	285,975	14,025
火災保険料	30,000	15,960	14,040
租税公課	4,000,000	5,142,508	△ 1,142,508
清掃費	220,000	182,410	37,590
建物管理費	4,000,000	3,953,758	46,242
雑費	1,762,000	2,676,847	△ 914,847
3 退職給与引当積立金支出	3,000,000	3,000,000	0
4 中期国債ファンド積立支出	0	2,522	△ 2,522
5 前受金支出	0	3,977,162	△ 3,977,162
6 仮受金支出	0	50,396	△ 50,396
7 予備費	500,000	0	500,000
当期支出合計（C）	203,702,000	226,863,021	△ 23,161,021
当期収支差額（A）－（C）	0	773,599	△ 773,599
次期繰越収支差額（B）－（C）	1,098,000	7,646,571	△ 6,548,571

正味財産増減計算書

平成９年４月１日～平成10年３月31日

（単位：円）

科目	金額
Ⅰ．増加の部	
1. 資産増加額	
当期収支差額	773,599
中期国債ファンド増加額	2,522
小計	776,121
2. 負債減少額	
前受金減少額	3,977,162
仮受金減少額	50,396
退職給与引当金減少額	7,500,000
小計	11,527,558
合計	12,303,679
Ⅱ．減少の部	
1. 資産減少額	
前払費用減少額	1,373,419
仮払金減少額	4,010,998
退職給与積立預金減少額	7,500,000
記念事業積立預金減少額	1,000,000
小計	13,884,417
2. 負債増加額	—
小計	—
合計	13,884,417

当期正味財産減少額　1,580,738円
前期繰越正味財産額　265,602,190円
期末正味財産合計額　264,021,452円

貸借対照表

平成10年３月31日現在

（単位：円）

科　目	金　額	科　目	金　額
Ⅰ．資産の部		Ⅱ．負債の部	
流動資産	27,843,279	流動負債	47,412,441
現金・預金	14,904,269	未払金	18,516,364
未収入金	11,258,666	前受金	27,270,538
前払費用	515,624	仮受金	1,625,539
仮払金	1,164,720	固定負債	5,031,077
固定資産	288,621,691	退職給与引当金	5,031,077
基本財産	277,223,364	負債合計	52,443,518
土地	59,800,000		
建物	191,120,000	Ⅲ．正味財産の部	
定期預金	6,919,520	正味財産	264,021,452
預金	6,749,844	（うち基本金）	（277,223,364）
郵便定額	12,634,000	（うち当期正味財産減少額）	（1,580,738）
その他の固定資産	11,398,327		
什器	111,260		
退職給与積立預金	5,031,077		
記念事業積立預金	5,821,953		
中期国債ファンド	434,037		
資産合計	316,464,970	負債及び正味財産合計	316,464,970

（注）減価償却累計額は1,001,300円

計算書類に対する注記

1．重要な会計方針

(1)有価証券の評価基準及び評価方法について

該当なし。

(2)引当金の計上基準について

退職給与引当金・期末退職給与の要支給額に対し任意の金額を計上している。

(3)資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金、未収入金及び未払金を含めている。

(4)消費税の会計処理について

消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2．基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土　地	59,800,000	—	—	59,800,000
建　物	191,120,000	—	—	191,120,000
預　金	859,825	25,443,539	—	26,303,364
金銭信託	10,586,957	—	10,586,957	0
ＭＭＦ	14,856,582	—	14,856,582	0
基本金合計	277,223,364	25,443,539	25,443,539	277,223,364

3．次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期末残高
現金預金	17,088,291	14,904,269
金銭信託	1,464,254	0
未収入金	22,755,321	11,258,666
合　計	41,307,894	26,162,935
未払金	34,434,894	18,516,364
合　計	34,434,894	18,516,364
次期繰越収支差額	6,872,972	7,646,571

4．固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科　目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建　物	191,120,000	0	191,120,000
什　器	1,112,560	1,001,300	111,260
合　計	192,232,560	1,001,300	191,231,260

5.借入限度額

借入限度額は、30,000,000円である。

財産目録

平成10年３月31日現在

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ．資産の部	
1．流動資産	27,843,279
現金・預金	14,904,269
現金手元有高	61,426
中央信託銀行梅田支店	6,916,952
住友銀行高麗橋支店	4,244
大和銀行北浜支店	4,411,994
三和銀行瓦町支店	3,284,632
定期預金住友銀行高麗橋支店	49,403
郵便振替　00910－9－39975	85,928
普通預金第２ビル郵便局	89,690
未収入金	11,258,666
会誌収入	4,313,020
受託事業収入	1,432,606
会員名簿収入	384,000
雑事業収入	650,000
雑収入	144,000
個人正会員会費収入	3,447,600
団体正会員会費収入	741,240
地方会員会費収入	101,400
準会員会費収入	44,800
前払費用	515,624
会誌発行費	131,556
教育委員会事業費	34,200
助成費	344,368
集金費	5,500
仮払金	1,164,720
切手・はがき代	158,524
〃外（建築クラブ）	34,215
収入印紙代外	47,453
建築忘年懇親会	184,528
復刻版代	740,000
2．固定資産	288,621,691
(1)基本財産	277,223,364
土地　北区梅田1－1－3	59,800,000
建物　大阪駅前第3ビル	191,120,000
定期預金　住友銀行高麗橋支店	6,919,520
郵便振替　第２ビル郵便局	6,749,844
郵便定額　第２ビル郵便局	12,634,000
基本財産合計	277,223,364
(2)その他固定資産	11,398,327
什器　書棚一式	111,260
退職給与積立預金　第２ビル郵便局	3,000,000
〃　住友銀行高麗橋支店	2,031,077
記念事業積立預金　住友銀行高麗橋支店	5,200,000
〃　中央信託梅田支店	621,953
中期国債ファンド　ユニバーサル証券	434,037
資産合計	316,464,970
Ⅱ．負債の部	
1．流動負債	47,412,441
未払金	18,516,364
会誌発行費	9,491,074
出版委員会事業費	8,817
会員名簿発行費	128,300
受託事業費	6,432,913
助成金支出	155,712
集金費	209,600
租税公課	2,089,948
前受金	27,270,538
個人正会員会費収入	8,251,050
団体正会員会費収入	17,181,388
地方会員会費収入	548,100
会誌収入	1,290,000
仮受金	1,625,539
3月分給与税金	114,390
3月分204条該当分	323,910
新年交礼会決算費	310,729
建築技術選書印税	547,630
仕様書本代	12,000
建築クラブ「話のはなし」	185,840
過誤入金外	131,040
2．固定負債	5,031,077
退職給与引当金	5,031,077
負債合計	52,443,518
Ⅲ．正味財産の部	
正味財産	264,021,452
負債及び正味財産合計	316,464,970

今月の表紙
京都大学構内
撮影　絹巻　豊
表紙デザイン　安里俊久

建築と社会 7
1998
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第79集／通巻916号

CONTENTS

■特集予告
8月号／建築設備ービルメンテナンスの立場からー
9月号／建築への証言'98
10月号／新しい技術でゆれをとめる

編集委員会（平成10年度）
■副会長　田ノ畑好幸
金多　潔　西岡　道雄
薬袋　公明　野口　太郎
■編集理事　堀内　一夫
荒巻　恭士　桝井　貴廣
井上　豊　水谷　昇
小島　雄　村上幸三郎
佐野　吉彦　谷津　和久
竹中　統一　※山根　敏和
立野　一郎　□施工材料分科会
真塚　達夫　植田　実
松村　慶三　小椎八重猛
山田　修　太刀川丈爾
◎奥謝野　久　※十倉　毅
■特集小委員会
○内田　直樹　野口　幸忠
□計画分科会　福井　茂和
★計画系　□法令分科会
伊縫　憲幸　城戸　史郎
梅村　宏尚　椎名　辰之
※小浦　久子　※炭崎　勉
鈴木　克彦　中　勝生
田中　直人　中岡　光平
松川　敏正　浜野　幸雄
横関　真紀　■作品作風小委員会
吉村　英祐　赤木　隆
★建築計画系　秋山　克彦
上杉　秀隆　秋山　茂
江副　敏史　朝倉　一晃
大村　昌聡　小笠原絵理
荻窪　伸彦　川上比奈子
菅野　忠司　倉渕奈千子
笹村　欽也　杉原　繁
佐藤不二男　寺岡　宏治
塚本　史郎　中村　文紀
※刃金　国雄　藤城　義丈
服部　光宏　△前川　治彦
山本　匡　前田　幸宏
★インテリア・住宅系　牧野　雅一
※石川　佳子　増田　敬彦
加藤　力　増田　俊哉
角方　利幸　■会員企画小委員会
北浦かほる　伊藤　郁郎
小梶　吉隆　池田　聡実
小島　保人　稲木　裕子
下村　陽子　大谷由紀子
中村　雅人　檜谷　浩史
中村　孝之　河崎　敦子
畑　康之　高岡　伸一
西田　和子　高田　光雄
ペリー史子　高橋　麗子
□構造分科会　△塚口　明洋
大氏　正嗣　辻川ひとみ
岸本　一蔵　長友理津子
岸本　圭暁　花野　元一
楠本　隆　福田　瑞穂
佐治　明志　増渕　昌利
下野　直人　山岸　章子
田中　剛　■広告企画小委員会
※田辺　太一　岩井　武夫
野口　拓也　△小幡　義明
松村　和夫　加納伸太郎
吉澤　幹夫　勝　一弘
□設備分科会　河原　正雄
梶井　宏修　長野　洋一
河津　隆之　渡邊　浩文

◎委員長　○委員長代行
△副委員長　※幹事

印　刷　平成10年6月25日
発　行　平成10年7月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
日本写真印刷株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

特集●　心と体を元気にするインテリア
～生活空間における自然力を取り入れた仕掛けの数々～

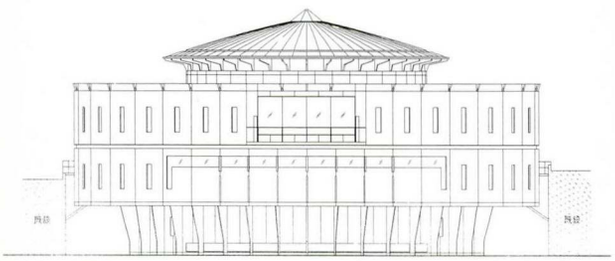
[総論1]　自然を生活空間に取り入れて元気に、そして地球にやさしくなる●荒井真一 ―― 22
[総論2]　「自然力」を引き出す逆転の発想●有馬宏明 ―― 26
[各論1]　自然をとり入れた快適空間●高橋　元 ―― 30
[各論2]　心の元気を生み出す生活空間の仕掛け
(1) 音と空間●藤本由紀夫 ―― 32
(2) 香りの空間ー心象を遊ぶ●畑　正高 ―― 34
(3) 光と空間●田村利夫 ―― 36
(4) 食ともてなしの空間●大植　宏 ―― 38
(5) 技ー自然に暮らす、道具と生活●エルマー・ヴァインマイヤー ―― 40
[各論3]　「独楽蔵」が創る元気な空間～星野厚雄氏に聞く～●澤田英行 ―― 42
[エッセー]　沖縄からの風●畑　康之 ―― 46

特集●　アジア太平洋インポートマート

[作品]
□展示場棟・西日本総合展示場新館 ―― 65
設計監理――北九州市、日建設計
施工――鹿島・フジタ・若築建設工事共同企業体
九電工・あいはら共同企業体／三信工業／ダイダン・日田共同企業体／東芝／日本電気／西部ガス
□流通センター棟
設計監理――日建設計
施工――鹿島・住友金属・山九・シャール建設工事共同企業体
[本文]
企画・建築計画●中井　進／神津昌哉 ―― 97
構造計画●吉澤幹夫／山本健二 ―― 101
設備計画●杉山　隆／伊藤昌明／松本浩作 ―― 102
施工●瓦田進一／小森浩之／木村洋介／中楯　斉 ―― 104

追悼　日本建築協会名誉会長 東畑謙三先生天寿を全うされる●横尾義貫／佐野正一ー　1
会告　98/11会員作品特集号“私の空間作法”作品募集.青年技術者のみなさまへ.あべのルシアス建設工事見学会.新琵琶湖ホテル見学会.平成9年度事業報告書.平成9年度決算報告書.　4
作品作風・新建築　智辯学園和歌山校新図書館　12
いぶき野の家　14
gallery　奄美海洋展示館（田中直人）●倉渕奈千子　16
大地の呼吸　京都修学院離宮庭園●城戸史郎　18
社会の眼　災害に強いまちづくりをソフト面から●清原桂子（兵庫県生活復興局長）　19
建築の眼　閉ざされる住宅●杉山茂一　マイホームづくり（1）●増田繁治　20
20年経って●梅原良矢　京・散策 島原“角屋”●浜崎　彰
W　座談会：美術家、ルポライターに聞く―生活空間としての建築について　48
素材と技術が生み出すデザイン　竹―籠から●高砂正弘　50
法令コーナー　誰もが暮らしやすいまちづくりを目指して―京都府福祉のまちづくり●杉山京子　52
構造の頁　テンションマリオン構法―滋賀県立琵琶湖博物館●和久井　智　54
設備の頁　新しい消火装置―ガス圧式加圧送水装置●三皷伯志　57
施工材料の頁　型枠兼用断熱パネル●堤　正範　58
基礎講座　予備電源・発電設備●谷本敏和　59
GBRCニュース　建築技術安全審査委員会について　60
書評　「地域共生の都市計画」（三村浩史　著）●濱田学昭　61
BOOK STATION　書名紹介8点　62
information　「江戸・東京モダン」展開催中.『建築の20世紀展―終わりから始まりへ―』.『ヌーヴェル・ヴァーグ:フランス現代建築家7人展』.1998年度「松井源吾賞」受賞者.（仮称）浪速区合同庁舎公開設計競技設計案募集中.「せんだいメディアテークの構造」.「トヨタプリウス―21世紀へのデザインメッセージ」.スペースデザインゼミ「進化するCAD設計」.「澤村家住宅」登録文化財に.第18回大阪まちなみ賞募集.　63
月間の動き　平成10年4月分　109

西側外観



東面・立面図　1：600



全景



▶外観ディテール

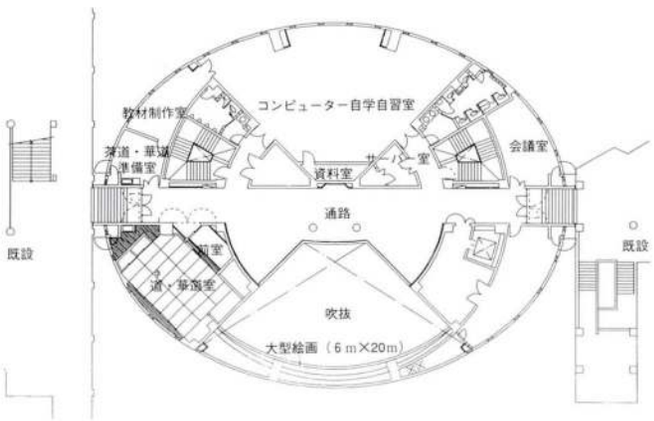
作品風作

設計監理■
佐藤総合計画

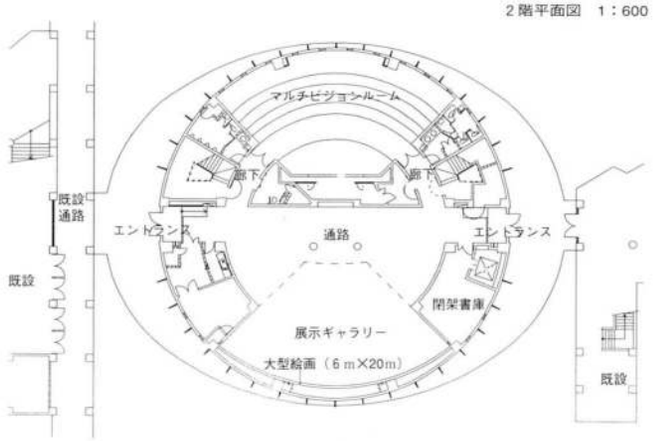
施工■
鹿島建設

智辯学園和歌山校新図書館

本図書館は、智辯学園和歌山中学・高等学校が創立二十周年を記念し、知性豊かな人間の育成を目指して建てられた施設である。
従来の図書館機能の他、学校教育施設として、多目的教室にもなる「マルチビジョンルーム」や「コンピューター自学自習室」を備えている。「マルチビジョンルーム」には、国内外から遠隔講義が受講できるよう、175インチ大型映像設備を備えており、将来海外の学校との講義を介した交流も可能としている。「コンピューター自学自習室」は、通常の情報処理実習はもとより、インターネット等の様々なネットワーク体験など多岐にわたる利用に対応しうるよう計画されている。また、中心軸通路に面する二層吹抜空間の展示ギャラリー壁面を支配する20m×6mの大型絵画は、本施設のアカデミックな印象を、一層のものとしている。　（大野義広／佐藤総合計画）

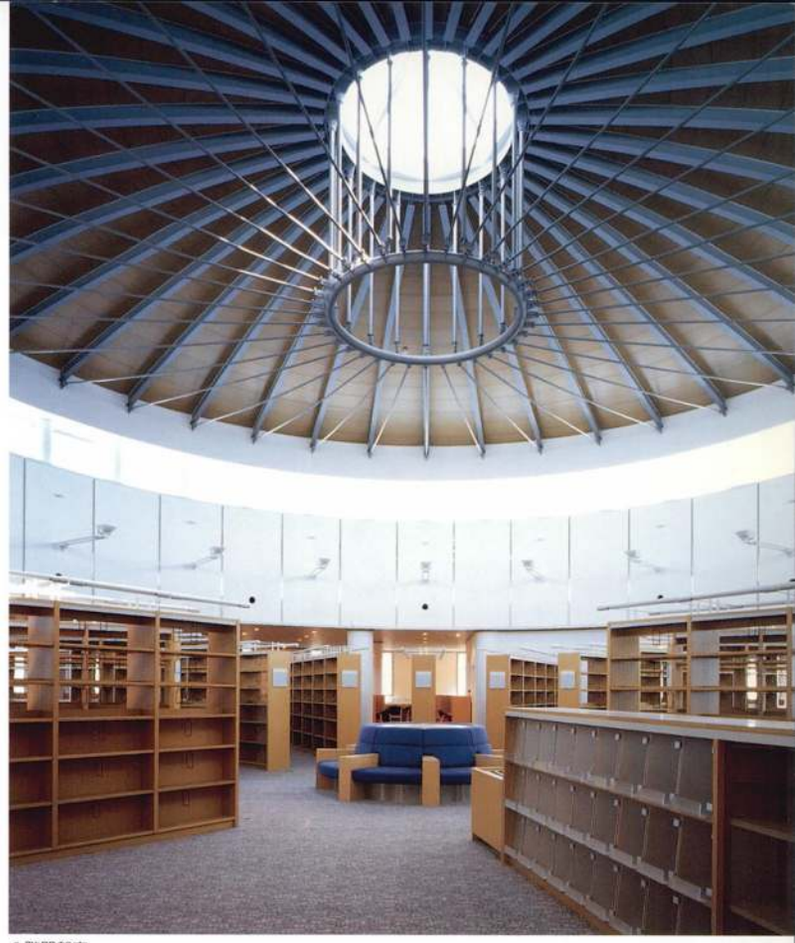


2階平面図　1：600



1階平面図　1：600

所在地 ——和歌山市冬野2066-1
敷地面積 ——98,933.00㎡
建築面積 ——　849.43㎡
延床面積 ——　2,100.30㎡
構造規模 ——RC、一部S、3F
工　　期 ——1997年5月～1998年3月
最寄駅 ——JR和歌山線・黒江駅
撮　　影 ——島　修一



3階開架室



3階閲覧席



▼1階マルチビジョンルーム

外観1



外観2

作品風作

設計監理■
森川哲治／日創設計

施工■
富士リフォーム

いぶき野の家

豊かな自然と歴史がとけ込む和泉丘陵に、370haのスケールで次代の街を描く「トリヴェール和泉」は、北部、東部、西部の３つのブロックからなり、南大阪の新拠点をめざした躍動感のある街づくりが進んでいる。その北部ブロックの「いぶき野」に今回の建物は計画されている。

今計画の課題は、完全独立型の２世帯住宅のプランニングと、その建物のボリュームを周辺の街並に対して、どのように配慮するかである。

プランニングにおいては、親世帯を道路側の南向き、子世帯を敷地奥にとり、建物中央の階段踊場より双方行き来できるように計画している。

また、建物のボリュームを如何に抑えるかについては、軽快に連続する丸屋根と、建物全体をモノトーンに配色することにより、威圧感を抑え、シンプルでモダンではあるが、何処か“あたたかみ”を感じさせる外観としている。（森川哲治）



1階平面図　1：300

所在地――大阪府和泉市いぶき野
敷地面積――226.85㎡
建築面積――112.66㎡
延床面積――216.18㎡
構造規模――W、2F
工　　期――1997年９月～1998年３月
最寄駅――泉北高速鉄道和泉中央駅
撮　　影――川元　斉


外観3


リビング（親世帯）


和室8帖（親世帯）

▼リビング（子世帯）



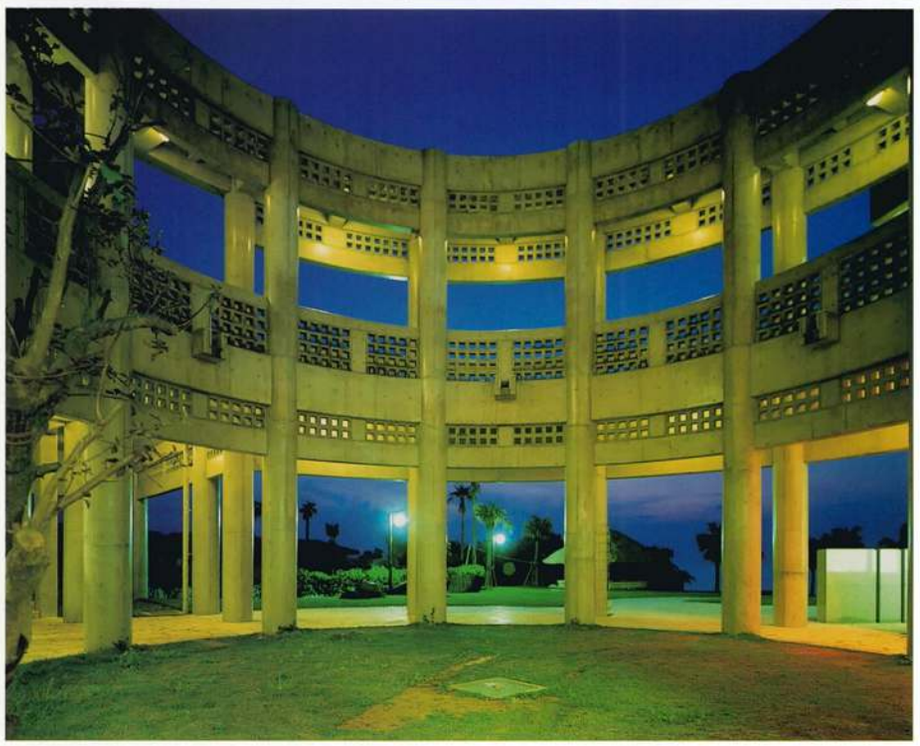
gallery

奄美海洋展示館

設計
田中直人

奄美の自然の色彩は透明感のある海と空の青そして山々の緑、砂浜の白である。海と人の共生をテーマに企画された奄美海洋展示館は、珊瑚礁の広がる名瀬市大浜海浜公園の一角にある。海洋生物のイメージを建物全体の形態として展開し、屋根は海から後方の山々へつながるスカイラインの連続性を、計画用地の不整形に対応した結果でもあるが、曲線の変化するリズムを自然界の生命の輝きとして表現した。奄美の自然は昼間の輝く太陽によって映し出される風景だけでなく、夕陽に染まる風景や満天の夜空に輝く星と語り合う夜景も特徴的である。大浜海浜公園の施設が人々にどの時間帯に関わりをもつのかを考え、夕方や夜間の演出も考慮した。そこで、昼間は外部から自然光をやさしく受入れ、夜間は内部の光を外部へのシルエットとして放つことを可能にする屋根のデザインとして、テフロン膜を用いたドーム状の屋根を、奄美の海を立体的に見せる珊瑚水槽のある展示館の中央にポイントして設けた。また、奄美を代表するブーゲンビリアを円形に回廊に配したり、珊瑚石を床面から腰壁に配して、自然のもつ四季折々の変化や生き物の変化を、展示物だけでなく、建築物そのもので人々に体感してもらえるよう自然の要素をできるだけ取り入れようとした。
大自然の時間に比して、人の営みはごく短いものであるが、時間の経過とともに建築を構成する素材独自の色彩により、風合いが醸しだされることを期待したい。





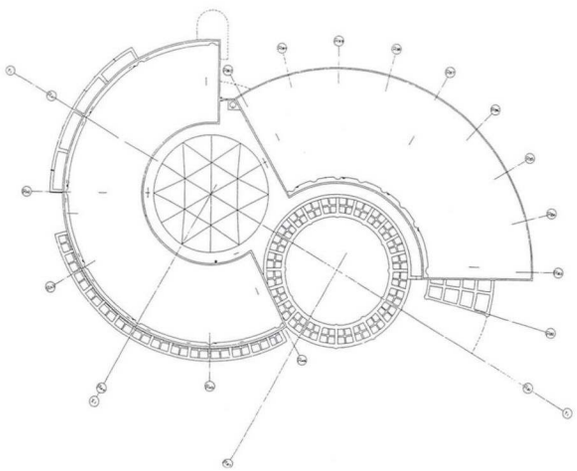
田中直人（たなかなおと）
1948　神戸市生まれ
1973　大阪大学工学部建築工学科卒業
1975　東京大学大学院工学系研究科建築学専門課程修了
1975　神戸市市役所入庁
1992　神戸芸術工科大学環境デザイン学科助教授
1996　神戸芸術工科大学環境デザイン学科教授
1997　摂南大学工学部建築学科教授

撮　影―浜田　太
企画編集―倉渕奈千子（作品作風小委員会）

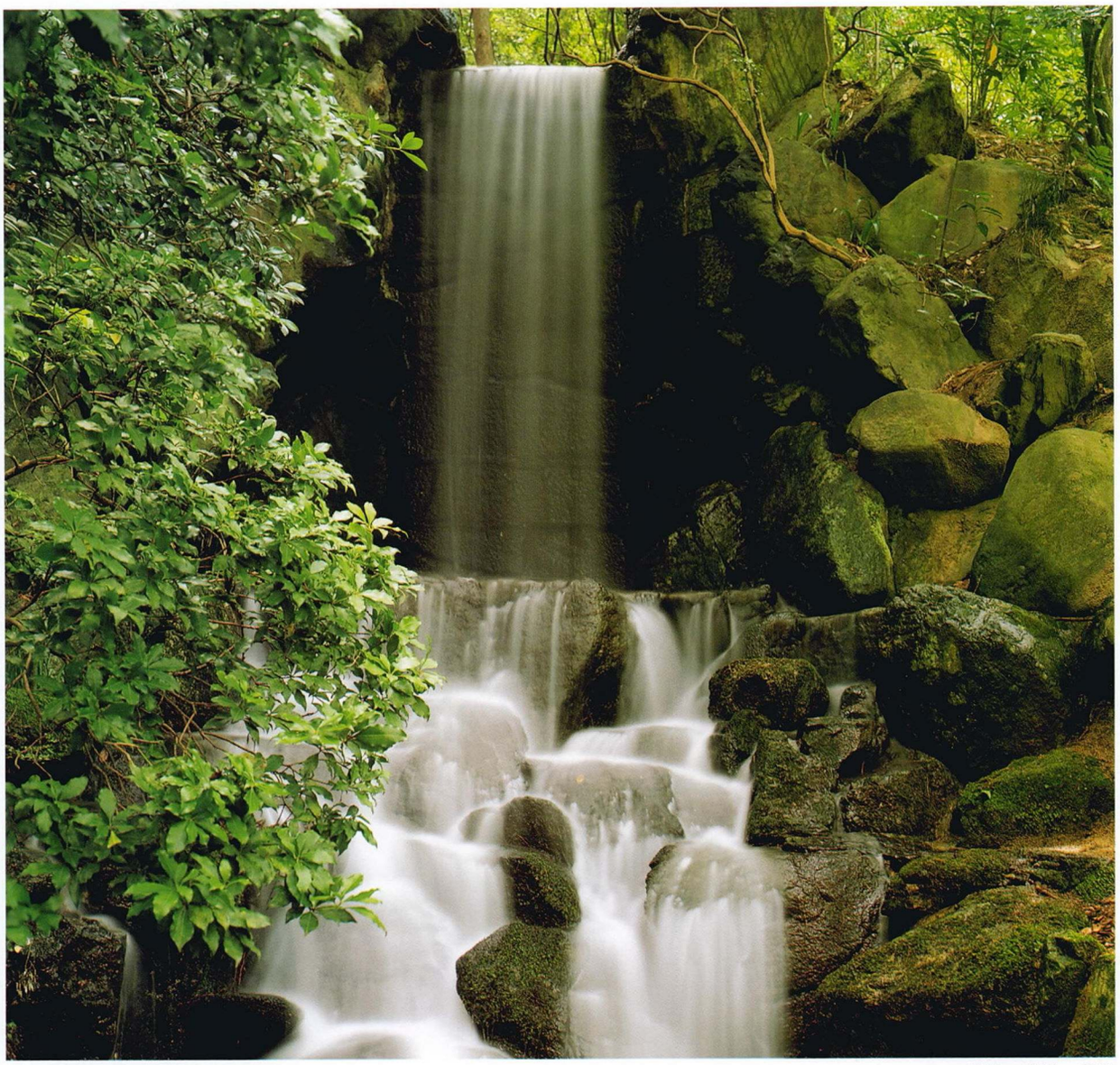








大地の呼吸



修学院離宮庭園（京都）　　撮影　松村　芳治

静かに漂うように“流れる水”、鏡のような“穏やかな水面”、高いところから低いところへと“流れる水”、
“水”は、私たちの心を和ませてくれます。
“水”は潤いを運びますが、死への恐怖をも含んでいます。
“水”を意識しない建築家は、いないと言っても過言ではないでしょう。
法令分科会では今年の６月に“地球環境”を考えるをテーマに特集を企画しました。資源には限りがあり、バランスを保つことにより地球の資源は再生されます。資源の再生に必要な時間を知り、それに応じた使い方により資源と共生できます。
“水”は、地球の友であり、環境のバロメーターではないでしょうか。
人類は川の水の濁りを見て公害を意識しました。しかし、人類の過信は、今、環境を大きく破壊しようとしています。自然は“水の濁り”に始まり様々な警告を人類に発しています。地球に生息するのは人類だけではないのです。
まして、次世代の“発展の芽”を現在の我々が摘むことは許されません。
“力強い水”を、“適度な発展の象徴としての都”を大切に！

城戸　史郎（編集委員）

社会の視

災害に強いまちづくりを、ソフト面から

地域の団体やサークルに所属していた人ほど、だれかが救出にかけつけてくれたし、心の励みになってくれた。「人間関係のバックアップシステム」がいかに重要かを認識させられた。



兵庫県生活復興局長
清原桂子（きよはら けいこ）
1952年生まれ。
関西大学文学部講師を経て、1992年（平成４年）10月、兵庫県立女性センター初代所長。
1996年（平成８年）４月から県労働部次長。
同年７月から、県生活復興局長（労働部次長兼務）。
夫と大学生・高校生の息子の４人暮らし。姫路市在住。

阪神・淡路大震災から３年５ヶ月がたち、仮設住宅入居世帯も１万５千世帯まで減って、災害復興公営住宅をはじめとする恒久住宅への移行が急ピッチですすんでいる。

建物、道路、ライフラインなどの耐震性をどう高めるか、構造物の中にどう「ねばり」を工夫するのか、高齢者福祉施設や保育所にもいざという時、定員以上に受け入れられるようスペースに余裕をもたせ、まちにも広場や公園などの「ゆとり」（リダンダンシー）をもたせるにはどうするか、などいろいろな角度からの検討も行われてきている。

そうしたハード面での課題とあわせて、今度の大震災で痛感させられたのは、災害に強いまちづくりのためのソフト面での対応の必要性だ。

特に、小学校区、中学校区くらいのエリアでの、ふだんからの近所づきあいの大切さである。大震災でガレキの下から助け出された１万８千人のうち、１万５千人は近所の人に救出された。

地域の人間関係の濃密な淡路では、これまでは、外から入った「お嫁さん」の暮らしにくさなどマイナス面で語られることが多かったけれど、どこのおじいちゃんがどこの部屋で寝ているかまでわかっているために、その日のうちに安否の確認が行われた。あとの避難所生活においても、近所の人同士の関係が深い神戸の下町ほど、毛布や弁当の配給あるいは住民間のトラブルなどに対し、自治組織がいち早く立ち上がり、解決していった。

人間関係の薄い新興住宅地でも、地域のいろいろな団体やサークルに所属していた人ほど、だれかが救出にかけつけてくれたし、あとの生活においても心の励みになってくれた。１つの関係が切れても、他の関係が機能する、いうならば「人間関係のバックアップシステム」がふだんからつくられていることが、災害時にも、災害後にも、どんなに重要かを認識させられた。

ふだんから近所づきあいのない、１人暮らしの学生やOL・サラリーマンが、思いの他、給水車や弁当配給の場所、再開した店舗、余震で危ない地区、などについての情報が行き届かない「情報弱者」となったことも、今後の課題となった。

情報については、パソコンなどのニューメディアが、安否情報や各種の連絡・手配などに大きな力を発揮できることがわかったものの、活用できるところまではいかなかった。

パソコンで流すコンテンツ（内容）にしても、操作する人の能力についても、平常時から動かしていないと、危機の時にも回らないということが共通理解された。あわせて、このたび再認識された、口コミ、チラシ、回覧板、掲示板などのオールドメディアの力の大きさを考えれば、平常時から、これらが力を発揮するためのコミュニティの人間関係づくりをしておくことが、強力な防災対策につながるということがわかった。

さらに、外国人向けのミニコミなどに、いち早く立ち上がった民間組織や、全国から集まったボランティアなどの力を活かすために、ボランティアセンターやNPOセンターなどを拠点として民間情報を集約・提供したり、「ボランティアしたい人」と「してほしい人」をマッチングしたりするシステムを、平素からコーディネーターを配置して稼働させておくことも必要である。

校庭のサッカーゴールにカーテンをかぶせ、中に穴を堀り板を渡してトイレにしたり、固くなったおにぎりを雑炊（ぞうすい）にして食べたり、救援物資のジュースのパックを赤ちゃんのオマルに工作したりなど、高齢者の「暮らしの知恵」が大変役にたったことも忘れてはならない。

こうした「暮らしの知恵」を伝承する体験学習会や、「避難警報がでてるのに、近所のだれも避難しようとしない。さア、私はどうする？」「150人避難しているのに、毛布が50枚しか届かなかった。どう配るか？」といったロールプレイ（ある場面を設定して、自分たちで寸劇を行う）やディベート（討論）・ゲームなど、講演会やパンフレットの配布、ビデオ上映というやり方だけにとどまらず、各様な参加型訓練の手法を開発することも急がれる。

閉ざされる住宅

杉山　茂一

ちょっと古い話だが一昨年、都市型集合住宅のモデルとして開発された千葉の幕張パティオスを見学して、住宅の閉鎖化の問題について感じるところがあった。

幕張パティオスでは、街区毎に事業者、設計者が異なり、これを計画設計調整者がコントロールしていくという新しい開発・設計方式がとられた。開発に際してのデザインガイドでは、街路に面して住棟を配置する街路型の構成が示され、街区を開放的にして住宅を街に向け、好ましい街並みをつくることが意図された。ところができあがった結果をみると、オートロックを設置したり、1階に駐車場が設けられたりして、街区を開放的にして住宅を街に向けるというかたちにはなっていない。

オートロックの導入によって街区を閉鎖的にするというのは、防犯のためとされるが、実際は、販売戦略上の差異化をねらってオートロックを設置するケースが多い。しかし、幕張パティオスではそういう街区が並んでいるわけで、ここではもはや差異化の意味はない。むしろ、学校の先生から家庭訪問に行きにくいというような苦情が出ているように、地域コミュニティの阻害要因として働く弊害の方が大きいように見受けられた。

大阪市立大学工学部建築学科助教授

マイホームづくり―(1)

増田　繁治

建築を志した者にとって、マイホームを自分の手でつくることは、生涯の夢である。私の子供の頃を思いだしてみると、それは、なぜか2階建てで庭付きなのである。現実のことになると、生活の基盤ができ、子供が生まれて少し大きくなった頃に自分の家を持ちたくなるようである。いい環境の元で子供を育て、自分の個室（城）をもつことに夢が膨らんでいく。それに、できれば木造で設計をまとめたいものである。また、職場の先輩のお家はどの様に造ってこられたのか、も気になるところであって、色々とアドバイスをお願いすることになるのである。

しかし、一戸建てとなると、都会の中では土地の確保が最大の問題であって、なかなか思い通りにはことが運ばないのが現実である。それでも、夢の実現に向けて、色々と資料を集めパートナーと一緒になって、ああでもない、こうでもない、と言いながらその時点での理想のプランを考え、ファサードを描いて楽しんでいる。清潔で使用勝手の良い台所、掘り炬燵のあるゆったりとした茶の間を中心に、どんどん夢は広がっていくのである。

しかし、現状では、この年代では一戸建てを手に入れるのには無理があり、とりあえず、最初のマイホームは近郊の公社か公団の分譲住宅になるようである。

兵庫県都市住宅部営繕課長

20年経って

梅原　良矢

2年前の夏、京都御苑に計画される建物のプロポーザルが有り、日本の空間について調べているうちに、西澤文隆氏の著作を再読する機会を得た。それ以来、週末毎それらの書物を車に積み、京都・奈良へ出掛けることが半年ほど続いた。

私が不思議だったのは、彼の写真が当然その建物の一番確信を持てるシーンを写し取っていると思っていたのだが、現地へ行ってみて分かったのは、往々にして私には、そのシーンが簡単に理解できるものではなかったことだった。その後、何度か足を運んでみて、そのなにげないシーンを唯一決定的なものとして見抜いた一人の建築家の眼を発見した時、夢中になって彼の美学を探し求めている自分に茫然とした記憶が有る。膨大な実測の成果に加え、氏がその著作に選んだ建築の集積が示す美学を前に私はいい知れない感動を覚えた。

事務所に入った当時、余りの知識の差に、ほとんど建築的な考え方を伺う機会もなかったが、20年経って初めて氏が求めていた繊細な美学の一端に触れることができたような気がする。プロポーザルは残念であったが、それをきっかけに最も近くに居ながら見えなかったものを、微力であるが気づかせる機会を与えてくれたことに感謝したい。

坂倉建築研究所取締役

京・散策　島原“角屋（すみや）”

浜崎　　彰

以前から京都島原の揚屋“角屋”と置屋“輪違屋”を訪ねてみたいと思っていたが、先日たまたま角屋の2階座敷の公開を知り早速でかけた。（輪違屋は非公開）揚屋とは置屋から太夫や芸妓を呼び、遊宴を行った所であり今でいう料亭にあたる。島原300余年の歴史を持つ角屋は、当時の揚屋建築唯一の遺構を伝えるものとして、国の重要文化財に指定されている。

注目の2階は扇をテーマとした座敷「扇の間」をはじめ、それぞれに異なった意匠のいくつかの座敷がある。特に黒い土壁や建具などに螺鈿を施した「青貝の間」は実に見事である。襖絵や掛軸は“応挙”や“蕪村”などの大家によるものが多く角屋がたんに遊宴の場にとどまらず、島原俳壇などを生み出した揚屋文化の中心であったことを物語っている。

また幕末には多くの勤王志士達が、度々密会の場として利用していたと聞く。明治30年以降の新制度により島原は“廓”となりその性格を一変したが、角屋は一貫して揚屋としての伝統を守りとおしてきた。従って文化性に乏しい明治以降の“廓”とは、同一視されるべきではない。

ここに座っていると、角屋が隆盛をきわめた当時のざわめきが聞こえてくるようである。

清水建設大阪支店設計部部長

特　集

心と体を元気にするインテリア

生活空間における自然力を取り入れた仕掛けの数々

■総論1
自然を生活空間に取り入れて元気に、
そして地球にやさしくなる
荒井　真一

■総論2
「自然力」を引き出す逆転の発想
有馬　宏明

■各論1
自然をとり入れた快適空間
高橋　元

■各論2
心の元気を生み出す生活空間の仕掛け
(1) 音　　/ 藤本　由紀夫
(2) 香　　/ 畑　　正高
(3) 光　　/ 田村　利夫
(4) 食　　/ 大植　宏
(5) 技・道具 / エルマー・ヴァインマイヤー

■各論3
「独楽蔵」が創る元気な空間
星野　厚雄氏に聞く

■エッセー
沖縄からの風
畑　康之

インテリア・住宅系分科会

Layout: Masato Nakamura

自然を生活空間に取り入れて元気に、そして地球にやさしくなる

荒井　真一（財団法人　地球環境センター事業部長）

はじめに

近年、温暖化を始めとする地球環境問題や化学物質による室内汚染が問題になるにつれて、環境にやさしいライフスタイルや環境共生型住宅、地球にやさしいオフィスが注目を浴びている。

緑を、内部に取り込んだアトリウムの導入等建物の設計、建築から木材を使用しない型枠を使った施工、またリサイクル材の使用等内装や設備に始まり、エコオフィス運動やグリーン購入を含む維持管理に至るまで、さまざまな段階での取り組みが考えられ、実践されてきている。

政府のレベルでは、環境基本計画に基づいて、「国の事業者、消費者としての環境保全に向けた取り組みの率先実行のための行動計画」を平成7年に閣議決定し、建築物の建築、管理等にあたっての環境保全への配慮、財やサービスの購入・使用にあたっての環境保全への配慮等について具体的な目標を掲げている。例えば、事務所の単位面積当たりの電気使用量については、平成12年度までに現状に比べて概ね90%以下にすることにしている。

また、環境庁環境研修センターは、屋上等の緑化、太陽光等自然エネルギーの有効活用等環境保全に配慮した建物が建設されている[1)]。

地方自治体においても、大阪市では、「大阪市内環境保全行動計画（エコオフィス21）」を平成9年に策定し、エネルギー使用量の抑制等に加え、環境に配慮した「市設建築物設計指針（環境編）」を策定し、次の事項に配慮している。

・太陽光発電等の自然エネルギーの利用
・廃熱等の未利用エネルギーの利用
・断熱性の高い建築工法の採用
・省エネルギー型の電気、機械設備工法の採用

地球環境センターは、1992年に国連環境計画国際環境技術センターの支援を通じ、持続可能な開発を達成し、都市環境問題の解決を図るために、環境上適正な技術の途上国及び経済移行国への移転の促進をめざして、大阪市、大阪府等によって設立された財団法人である。その設立の趣旨から、地球環境の保全とその技術の移転を取り扱う機関であり、また、両センターの活動を多くの人々に理解してもらい、人々の都市環境に対する認識を深めるため、両センターの業務である都市環境管理技術や地球環境に対する配慮というものをわかりやすく示すことをめざして、地球環境センタービルが建設された。この建物では、さまざまな環境にやさしい技術が利用されており、地球環境センターではこの評価のための調査を行っている。

また、我が国においては事業所、ビル等業務部門でのエネルギー使用が高い伸びを示しており、二酸化炭素排出量の約11%を占め、年間平均伸び率も4.6%（1970～1994年）と高いこと、また、途上国への技術の移転が比較的容易であることから、地球環境センターでは「ビルにおける省エネルギー研究会」（主査　水野稔大阪大学教授）を設置し、省エネルギー技術について先進事例調査等を行っている。

本稿では、地球環境センタービル等の設備について、これらの調査結果や筆者の経験等を元に紹介するとともに、米国のエコ・オフィス運動の例として自然資源保全委員会（Natural Resources Defense Council）について紹介し、環境への配慮とその効果、さらに実際の使い心地について考察する。

地球環境センター建物の環境対策

1）建物の概要

地球環境センターは国連環境計画国際環境技術センター設立にあたって大阪市が、同市鶴見緑地に建設したものであり、竣工平成5年9月、鉄骨2階建て、延べ面積約2800平方メートルの建物である[4)]（写真1参照）。現在約35名が両センターで勤務している。

ビルの建設にあたっては、有識者からなる「UNEP建物に関する検討会」により検討を行い、環境への優しさを表す建物、また、光、水、風、緑を意識したアメニティーの高い建物をめざした。このため、自然を取り入れた快適な環境づくりのために外部型アトリウムのパッシブ空間、照明・空調を効率よくコントロールするなど技術を駆使した快適な環境づくりのための先端技術によるアクティブ空間、さらに内部型のアトリウムを設けることにより、オフィス空間のアメニティ性を高め、自然の呼吸を感覚的に取り入れたニュートラル空間の3つのゾーンに構造上分かれている。（図1参照）

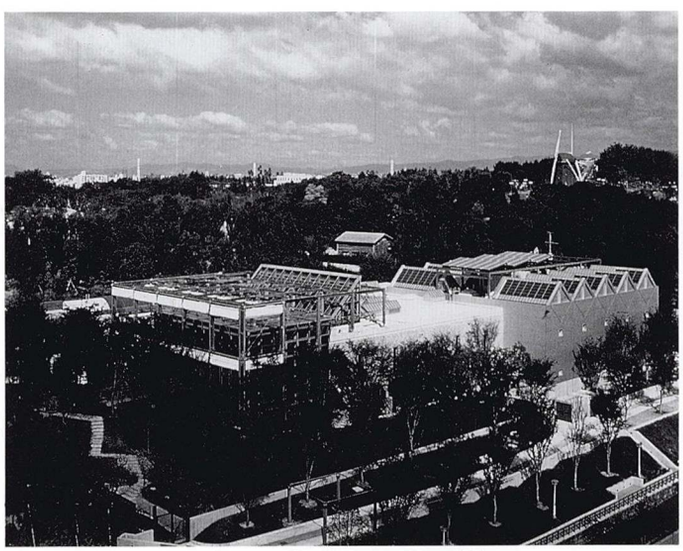


写真1　地球環境センター建物の外観

2）アトリウムゾーン（外部型アトリウムのパッシブ空間）

外部型アトリウムは、両センターの職員や見学者の交流・休息の場として環境共生型とした。このため、ガラス張りの吹き抜け空間に機械的な冷暖房はせず、幾つかの建築的な工夫、即ち日本の自然風土に根ざし、快適性と効率性を両立させるために桂離宮の月波楼にも利用されているようないわゆるパッシブ手法が取り入れられており、自然と共に生きていくライフスタイルを提案している。これらは、以下のような特徴がある。

・南側のガラス面と約半分が開閉可能であり、また、北側の三角屋根の北面も開閉することにより、自然通風が利用できる
・アトリウムの上部は、約半分の面積が日射を透過しないアルミパネルである
・アトリウム外側に日射を遮断するスクリーンがかけられ開閉できる
・二重ガラスの使用で外気温の影響を受け難く、透過日射量も少ない
・南側には2階床面積程度の築山があり、地表面反射日射の影響を避けている
・築山には、広葉樹（ケヤキ等）が植林されており影をつくる
・風圧換気としても、南側から外気が入り北側の三角屋根から排気される

これらの有効性について調査した結果では[2,3]、温熱環境に一番影響のある温度について、夏場は、アトリウム下部の温度が外気温より昼間で2～4度低く、夜間では差がほとんどなかった。また、冬場は外気温よりアトリウム下部の温度が5～7度高く推移しており、両季節とも温熱環境の改善効果が表れた。これは、夏期には、日射量の低減効果及び暖気効果の表れであり、冬季には窓閉止による本来のアトリウム効果が表れているからであると思われる。

3）エントランスゾーン（先端技術によるアクティブ空間）

外部からの影響を遮断し、エネルギーの利用効率を高めるため、現代建築及び設備に関わる技術の粋を凝縮した人工の空間であり、省エネルギー及び環境低減負荷をめざして、通気型外断熱壁の採用、窓面積の縮小化及びタスク・アンビエントライトの採用等が行われている。この結果、断熱壁により日量約5％の熱負荷の低減、窓面積が現在の2倍となったときに比べて建物全体で夏期最大約94%、冬季同90%の熱負荷となっている。

また、タスク・アンビエントライトに照明制御、省電力機器照明を合わせて、従来建物の照明電力に比べて約76%の電力使用となっている。これらを合わせた熱負荷は、従来型に比べて77%程度の熱負荷となり2割以上の省エネルギーとなっている。さらに、タスク・アンビエント照明は、従来の全般照明に比較して、ライフサイクル二酸化炭素排出量の評価を行っても、31%の削減効果が見られている。

4）中央ホールゾーン（内部型アトリウムを持った空間）

執務室、図書閲覧室等を配置し、これらとトップライトによる自然採光、雨水を利用した水路、噴水を設置した内部型アトリウムを一体的に構成することにより、人、自然、技術の融合を表現するとともに、センターで働く人々に快適で創造的な執務空間を提供している。

5）エネルギーシステムの概要

地球環境センタービルは、熱源システムとして、太陽光発電（20kW）、燃料電池コージェネレーション（50kW）及び近隣の鶴見清掃工場のごみ焼却発電の電力利用（200kW）の3つのエネルギーシステムを持っている。そして、運用ソフトウェアによって原則として太陽光発電を優先的に利用し、燃料電池コージェネレーションをベースロード用として運転し、ごみ焼却発電の利用によってエネル

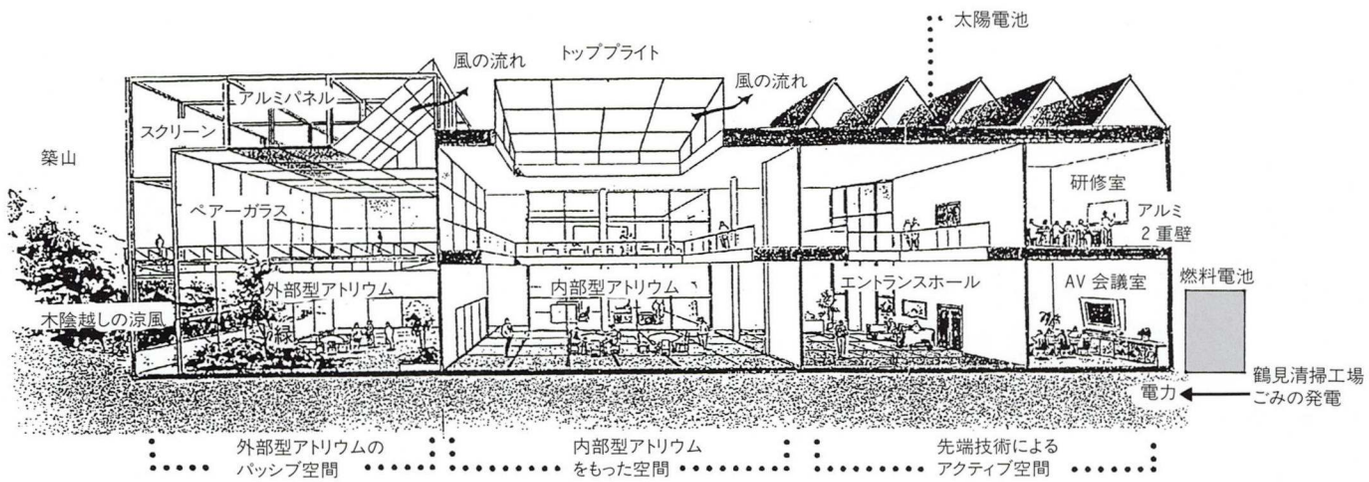


図1　地球環境センター建物の内部構造

ギー源の調整を行っている。

太陽電池による電力の全発電量に対する割合は、夏期で約４％、冬季で３％程度であり、これによって二酸化炭素の排出量を抑制している。

総合的な運転コストは、従来システムでは、地球環境センターに比べ約13%高くなると推定されており、また、一次エネルギー消費量も約５％大きくなる。従って省エネルギー性の点で地球時代のシステムとしてその効果を期待することができると評価されている。

６）その他の環境配慮手法

上記の他、外部植栽、汚泥によるインターロッキングブロックの使用、再生採石の基礎への使用、雨水の中水利用等があるほか、建築工事中にはメタル型枠、複合合板型枠の使用、既存樹木（メタセコイア等）の移設等を行い、環境の保全に留意している。

７）アメニティーの評価

上記のように地球環境センタービルにおいては、リフレッシュを目的とする外部アトリウムにはパッシブ手法、集中力が要求される研修室を中心とする空間にはアクティブ手法、事務室などの常時執務空間には両手法の併用を行っている。

アメニティーについての客観的な評価は困難であるが、筆者を始めとする執務員及び訪問者の主観的な判断では、国際会議のレセプションの開催等外部型アトリウム等について期待された効果を充分に発揮していると考えられる。

また、エネルギー的にも外部アトリウムのパッシブ対応の有効性、アクティブ空間の省エネルギー技術の有効性が先述のように証明されている。

８）先進事例の研究

技術的な対応を一層進めた先進的な例として、先導的高効率エネルギー利用型建築物モデル事業適用ビル事業で建設されたニッセイ四日市ビルについて紹介する。これは、鉄筋コンクリート造地上５階建ての、建築面積約720平方メートルのビルであり、平成７年に竣工した。

省エネルギー手法として、表１に示すさまざまな技術を取り入れたものであるが、「我慢」するのではなく、快適環境を提供することができることをめざした設計となっている。

高効率省エネ照明器具、ヒートポンプチラー、屋上面日射遮蔽、通気窓等施設や省エネルギー制御により、従来型のビルに比べイニシャルコストは約16%増加したが、エネルギー削減率は47%にも上るため、9年余りでイニシャルコストは回収できる計算であり、居住性やインテリアデザインの面でも、良い評価を得ているとのことである[5)]。

表１　省エネルギー手法（ニッセイ四日市ビルの例）

分　類	手　法
建築計画による熱負荷の低減	●窓面積の減少 ●断熱強化 ●屋上面日射遮蔽 ●通気窓
熱負荷の低減	●外気負荷の低減 ●高効率省エネ照明器具 ●熱源の最適起動
搬送動力の低減	●分散化 VAV システム ●熱源ポンプの交流置方式 ●ポンプ台数制御 ●高効率モータの採用 ●機械室自然換気方式
効率向上	●全熱交換器による熱回収 ●熱源機器の効率向上 ●断熱強化（機器、配管、ダクト）
照明電力の低減	●誘導灯の消灯 ●高効率省エネ照明器具 （Hf インバータ照明器具）
自然エネルギーの採用	●太陽光発電 ●外気冷房
省エネルギー制御	●ビルコンピュータによる省エネルギー制御、外気冷房制御ほか ●ビル管理システムによる管理評価等

自然資源保全委員会（Natural Resources Defense Coucil）におけるエコオフィスへの取り組み

筆者は、最近、米国情報局（USIA）の招待により、米国の環境政策、活動を視察するために政府、大学、自治体及び環境関連団体を訪問する機会があった。地球温暖化や酸性雨防止のため、自動車の燃費規制、硫黄酸化物の排出権取引等さまざまな取り組みについて情報を得たが、特に、エコオフィス運動が印象的であった。米国は、1993年以降大統領令により、環境に配慮した政府調達を進めており、連邦施設におけるエネルギー効率と節水等が実施されている。米国の NGO は、これより先んじて、環境にやさしいオフィスへの取り組みを実施している。

自然資源保全委員会（NRDC）は、公衆衛生及び環境を保護することを目的とした科学者、法律家、環境専門家からなる非営利団体である。1970年に設立され、現在30万以上の会員がおり、ニューヨーク、ワシントン等に事務所がある。

1996年10月に開設された現在のワシントンオフィスは、職員48名、総面積20.000平方フィートで、ビルの４階及び５階を占めている。このオフィスは、NRDC のリーダーシップを示すため、利用可

能な最も進んだ、コストエフェクティブな技術を利用して設計された環境にやさしい、エネルギー効率の良いものであり、また、建築関係者向けのモデルにもなることをめざして、以下のような環境にやさしい対策をとっている[6,7]（写真２参照）。

・新聞紙や大豆を利用した表面材を机等に利用
・揮発性有機溶剤をほとんど含まない、有害性の無い塗料や接着剤等を利用し、ホルムアルデヒド等による汚染のないクリーンな室内大気とする
・リサイクルガラスを利用した床や天井のタイルを使用、また、カーペットもナイロン再生品を使用
・部屋間を区切るパネルに採光窓をつけたり、タスク・アンビエント照明及び高効率照明器具を活用
・高効率の冷蔵庫や省エネパソコンの利用
・小麦藁のパーティクルボードを利用した仕切用パネルの採用
・持続可能な森林管理を行っている企業から調達された木材（オーク）を利用したテーブル等家具の利用
・再生コピー紙、ファイルホルダー、鉛筆等リサイクル文房具の利用

これらにより、初期コストは、平方フィート当たり45ドルと通常の35ドルより大幅に上昇する、しかし、照明用電力の75%削減により、年間12,000ドルを節約でき、数年で回収可能である。また、約66トンの二酸化炭素排出減になると計算されている。このような取り組みの一部は、我が国でも実施されているが、リサイクル材の仕切パネルや、持続可能な森林管理への配慮等間接的な影響までも考慮している点で、それよりも一歩進んでいると考えられる。

このような、エコオフィスは、ナショナル・オデュボーン・ソサエティーなど、まず環境関係団体を中心に急速に普及し、年間20～30%の割合で伸びているとのことである。



写真２　NRDC オフィス（会議室）の状況
（注）テーブル・椅子は、持続可能な森林管理によるオークを使用、天井には高効率照明、小麦藁製のパーティクルボードの仕切上部に採光窓がある。

おわりに

以上、３つの例を紹介したが、ここでは、これら建物、設備等のの優れた環境保全機能と居住性の関係について考えてみたい。地球環境センターについては、前述のように、一般的には視覚的にもすばらしく、省エネルギー性に優れていることが認められる。しかし、本特集のテーマである元気になるという点については、さらに細かい満足度が要求されることもあり、残念ながら若干の疑問点が残らざるを得ない。

例えば、省エネルギー性のクリティカルな部分の一つである建物開口部が小さいことについては、当然ながら長期間部屋にとどまると、外部と遮断され精神的にも抑圧された感情が生じてくる。また、外部型アトリウムにしても通常の空気調整機能と比べれば、機能的に劣るといわざるを得ず、さらに外部の通気時に蚊や害虫の進入を考慮することも必要になる。また、間接照明は、実質的に暗いと感じることが多い。その他、デザインに重点を置いた結果、機能が或る程度犠牲になっている面が幾つか感じられる。

これらについては、当然、設計段階で予想されなかったものもあり、対策を講じることによって改善される部分もあるが、開口部の面積等はとんど改善不可能な部分もある。このために、設計段階で環境への配慮と同時に、利用者への配慮を考えていくことが極めて重要であると考える。環境への配慮と利用者を快適、元気にするという両面が等しく考えられることが不可欠である。

この点、米国のエコオフィス計画は、環境の保全機能と利用者への配慮を随分と考えて作られているものと感じられた。例えば仕切パネルの採光窓も廊下の歩行者からは覗かれない高さに設置されている。また、クリプトスポリディウムも除去できる浄水器や有機栽培のコーヒー豆の利用まで考えられている。このような利用者と環境保全をともに考え、両立させていくことが不可欠であると考えられる。

今後、環境にやさしい、エネルギー効率の良い建築、デザインの推進はもちろんのこと、その際、設計者・建設者の自己満足に終わらない、真に効率よく大気汚染物質の排出量等環境へ負荷を減らし、継続的に改善していく機能を持った技術・対策の進歩に期待していきたい。

（あらい　しんいち）

文献

1）平成８年度　環境の状況に関する年次報告
2）財団法人　地球環境センター、都市建物におけるエネルギーシステムの評価調査報告書、1997年
3）同上、同概要報告書、1998年
4）財団法人　地球環境センター、UNEP 国際環境技術センター施設案内
5）ニッセイ四日市ビルパンフレット.
6）NRDC, NRDC Opens Eco-Office in Washington. 1996
7）NRDC, NRDC's Washington. DC Eco-Office, Tomorrow's Workplace, Today, 1996

「自然力」を引き出す逆転の発想

有馬　宏明（常葉学園短期大学教授）

はじめに

本誌7月号の特集テーマは、「心と体を元気にするインテリア」です。その中で、原稿依頼された筆者には、そのサブ・テーマである「生活空間における自然力の取り込み方」に関連して、「先人たちの知恵はどうだったのか？」というテーマが与えられました。

しかしながら、この原稿を書くにあたって、考え直したことがあります。それは、「心と体を元気にするために自然の力を取り込む」という発想を本当に実現するためには、それに十分に応えることのできる「場」がなければならないのに、それが本当に有るのか無いのか、という疑問が生れたからです。

と言うのは、こうしたテーマが採り上げられること自体が、今日の生活空間に自然力が失われているという状況を物語っていることでもあるのですが、そうした結果になるのも、そこに、自然力を受け入れないような体質なり理由なりがあるからではないか、とも考えられたからです。もし、そうであるなら、油の入った容器に水を注ぐようなもの、元気の素となるはずの水（自然力）もはじき飛ばされて役に立ちません。

たとえば、今日の生活空間と言えば、いわゆる近代都市に見られる住居ということになりますが、それらは皆、ギリギリのスペースに刻み込まれ、囲い込まれています。しかも、その中は、テーブルやベットなどの家具や調度・什器類で埋めつくされている部屋ですし、それも、それぞれの用途に応じた部屋に分割されていて、エアコン、パソコン、テレビ、冷蔵庫などの「近代に特有な機器」でぬかりなく武装されています。少々皮肉を込めてル・コルビュジェの言葉を使わせてもらうなら、まさに「住むための機械」。必要にして充分な条件をぎっしり詰め合わせたシステムを持つという点では、近代機器の特徴を立派に兼ね備えていると言うべきでしょう。

したがって、こうした機械・住居は、その性質上、外部からの影響を極力小さなものにしようとする傾向があります。たとえば、防音防湿の断熱材やアルミ・サッシによる気密性の高いインテリア空間をエアコンで管理するといったことからも分かるように、きわめて閉鎖的排他的な空間になっています。もし、こうした空間にいわゆる自然力を取り込もうとすれば、その自然力を紡ぎ出しているはずの母体から切り取ってしまう形、言い換えるなら「切り花」の形にして持ち込むしかありません。

あるいは、そうした自然力を持ち込んだとしても、機械化（？）された住居の空間にあっては、そのシステムの一部に組み込まれた「部品」という形でしかなく、その役割を果たす以上のものにはなり得ません。

「自然力」とは

これに対して、他ならぬこの「自然力」とは、いったい何の様な性質のものでしょうか？

まず、指摘されるのは、それが、人間にとっての単なる元気の素、ビタミン剤のような代物ではないということです。何故なら、私たち人間は、素粒子から原子・分子へいたる宇宙の「場」に地球が生まれ、その地球を「場」にして生まれた生物世界を指して自然と呼んでいるのであって、そうした自然全体の「営み」を指して「自然力」と呼んでいるからです。決して、特定の力・エネルギーを指しているわけではないのです。

たとえば、今更、筆者が詳説するまでもないことでしょうが、地球自然の生物世界は、いわゆる半物質のウイルスからバクテリアなどの単細胞、多細胞生物、陸上生物へといった生物層を積み重ねながら、哺乳動物から霊長類の人類に至るといった多くの階層で構成されています。しかも、こうした生物層と生物種は、それぞれが単独に存在するのではなく、互いにきわめて複雑な「依存関係」によって成り立っているのです。言うならば、「互いに互いを力として生存している」ということでもあって、それらは、一つの連環系を形成しているということにもなるでしょう。いずれにしても、これは、如何なる生物もこうした「自然循環」の中にあってこそ、生存のための力を得、生存の場を得ていることを意味しています。

「関係のデザイン」

しかも、この点で留意すべきなのは、こうした生物世界の連環が、それぞれに独自な結びつき方、言い換えるなら、独自な「関係のデザイン」によって成り立っているということでしょうか？

たとえば、一本の樹が生育するためには、大地との結びつきで根や幹を持ち、光合成のための太陽との関係で葉を持ち、受粉の関係で昆虫を招く花を持つように、そこには、それぞれの機能に対応する独自な「関係のデザイン」が見られます。あるいは、そうした樹木が、鳥やリスたちにとって生きる糧となる木の実や巣を提供し、われわれ人間には涼しい木陰や住居のための建材を提供し、それらが繁茂して森林となれば豊かな水の水源地ともなるように、生物本来の機能とは異なった「場」でも、きわめて多次元的な「関係のデザイン」を創って「自然の力」となっています。

ともあれ、生物である人間が「自然の力」に預かろうとするなら、当然のこと、この様な「自然の循環系」とそこに見られる「関係のデザイン」を無視することは出来ないでしょう。

ただし、人間にとっての「自然の力」を考える場合、もう一つ留

意すべき点があります。

それは、人間が自然と関わる上で「道具」を使用する生物だ、ということにあります。高い枝先の果物を手に入れるために長い棒を使い、鹿を追って弓矢を使い、土中の芋を掘るために鍬を使うように、自然との関わりに常に「道具」を介在させています。と言うことは、前節で指摘した「関係のデザイン」は、人間の場合、この道具の性質に現われるということにもなります。上述の長い棒や弓矢や鍬などが、それぞれに目的を叶えるための因果律（関係）に従ったデザインになっていること、改めて指摘するまでもないところでしょう。

だとするなら、少なくとも人間が生物レベル（ヒューマン・スケール）で生きるために使う道具、たとえば「住居」、その中の「インテリア空間」、あるいは、そこに組み込まれる「家具・什器」について、この様な「関係のデザイン」が求められないはずはありません。

わが国における人間と自然との交わり

事実、かっての人間の営み、他ならぬわが国の歴史には、それが見られます。

すなわち、気候・風土が変化に富んだ豊かな自然環境に生きたわが国の先祖たちは、この自然との間にきわめて友好的な関係を結び、きわめてフレキシブルな関係を結んでいます。

具体的に言うなら、①原自然の持つ基本的な要素を二次自然とも言うべき庭園空間に抽出して引き込み、②それに向かい合う住居の柱も自然の樹林に見られる空間のリズムに従って構成されていて、③インテリア空間そのものも自然の樹林空間の性質によって構成されたものになっているのです。したがって、④襖や屏風といった建具に描かれる絵画が林間の池泉や草花の役割を果たすものとなり、また、⑤インテリア空間の中心的な施設（ギャラリー）となる床の間に生けられた自然「生け花」は、①から④にいたる連続した自然空間の核・エッセンスとして、自然の生命力を生き生きと象徴的に語りかけています。

しかも、⑥そうした生活空間にあって、蒔絵や焼き物といった調度品や什器類も、それぞれに自然と対応するデザインの自律した世界を持つものとして位置づけられおり、⑦人間自身さえも、四季の草木を描いた友禅染めの着物を身に纏うことで、自然の精（フェアリー）とも言うべき役割、言い換えるなら、自然世界の主人公を演じるという他に類を見ない生活世界を創りだしている、ということです。

自然と人間が重なり得る「新しい場」

いずれにせよ、以上のように見てくると、次に問われるのは、この様な「自然の場」と「人間の場」が充分に重なり得る「新しい場」が、現実にこの日本にあり得るのか、そして、もしあるとするなら、そこでは何の様な人たちが何の様な形でそれを実現するのか、といった問題です。筆者は、たまたま、そうした問題について考えていたところなのでこの稿を引き受けたのですが、近年の社会状況を見ていくなら、それが決して無いものねだりではないことが分かるでしょう。

たとえば、よく知られていることに、ここ20年ほどに見られる驚くべきコンピュータの発達と個人レベルでの普及があります。これは、ここで詳説するまでもなく、物理的な時間・空間軸を超えた目に見えない「機能空間」を生みだしており、人間の仕事の大きな部分がこれに移されつつあります。言うならば、それは、人間が仕事のために拘束されていた時間と空間から大幅に自由になるというこ



「北畠氏館跡庭園」　人工的に造形された庭園が、原自然と溶け合って見事に調和している様子が窺える。



「金閣寺」　金閣の柱と水面に映った柱と背景の木立ちのリズムが一体化して、全体が樹林空間のリズムとなっていることに注目したい。

とも意味しています。

数年前、アメリカの電信電話会社（AT&T社）が西暦2000年までに社員の半数を自宅勤務にするという計画を発表したように、経済的な理由で従来の都市集住型の生活に拘束される必要が無いといったタイプの人たちが、次第に増加して行く傾向にあるのです。まして、現在のわが国の労働人口の約95%は都市型であることを考慮するなら、将来の日本人の居住地域と居住形態には、非常に大きな変化が見込まれるはずです。

あるいはまた、わが国の60才以上の高齢者人口は、約30%。これは、近代の経済機構からすると無力なリタイア組でしかないのでしょうが、必ずしも今日の都市に居住する必要のない人たちとして、いわゆる長寿社会における新しい第2の人生を近代的な価値観に囚われないライフ・スタイルを求める人たちと見るなら、「新しい場」に住むきわめて有力な層となるはずです。

「新しい場」の可能性

これに対して、上述の人たちに提供される「新しい場」となる地域がわが国の国土に何の様な形で在るかと言うと、まず考えられることとして、近代の経済的な価値を持たず捨てられている場所が挙げられます。統計調査のデータによると、農用地、市街地、工業地、その他道路などを含めた面積が、国土の全面積に対して21%。残り約80%は、森林など多少の経済性は持つものの、いわゆる都市型に開発されていない自然の領域です。

しかも、これを実際の地図を拡げてみると良く分かるのですが、わが国の車両通行可能な道路網は非常に密度が高く、高山奥地のかなりの地域までカバーしています。筆者の目分量でしかないのですが、生業としての利用価値は全く無いものの、少なくとも近代的な生活機能とアクセスすることのできる地域として、ある程度の高速による車両通行が可能な道路を2キロ程度の範囲内に持ち、生活物資の入手が車を使って20～30分程度で可能になる地域をチェックしていくと、実は、開発されていない自然領域の約10～15%は見込まれるのです。実面積にするとおおよそのところ48000平方キロ。近代化された地域から、第二次自然とも言うべき農用地を除いた面積7%と比べるなら、それを大きく超える巨大な面積となります。

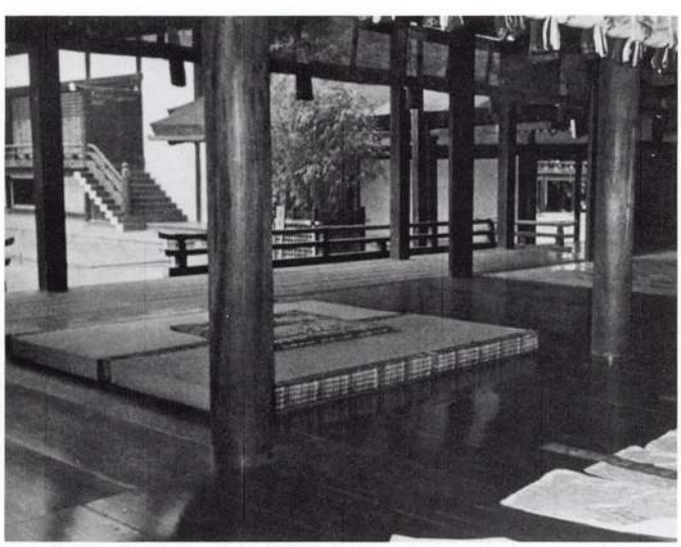
そして、この地域を「自然の場」として自然に生きようとする人たちにとって、「新しい場」に叶うだけの最低の敷地面積を、仮に1世帯当たり約1000坪と想定するなら、そこには約1400万世帯が居住可能になり、わが国の全世帯数に対する割合で見ても、約3分の1に相当するものになるのです。

高齢者層の活躍の場

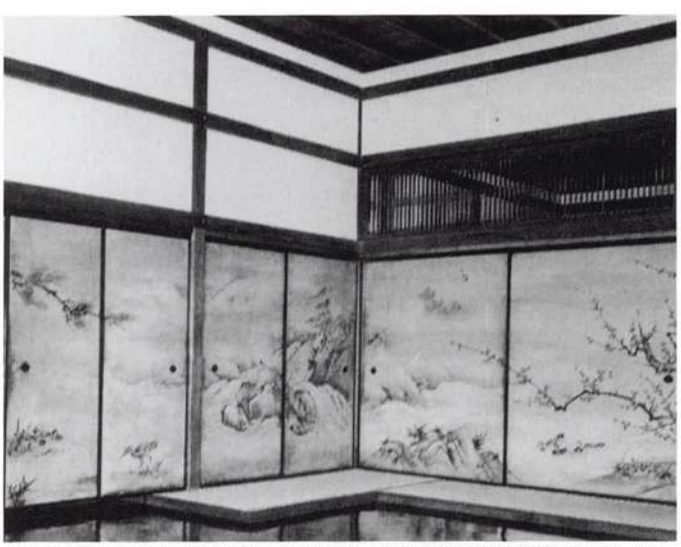
もちろん、これは単なる机上の計算に過ぎないものですが、それにしても、近代の価値観を捨ててその実利主義を逆手にとって見直すと、思いがけない世界が見えて来るものです。

たとえば、筆者は、「ネバー・エンディング・デザインの思想」（商店建築誌39巻3号～41巻2号）という連載稿で、地球自然を一つの生体と見るとき、近代の都市文明はガン細胞化しているのではないかということを指摘したことがあるのですが、この点については、上述の様な近代が捨てた自然の領域にこそ、地球自然にとっての健康な細胞を回復するための最も有力な手掛かりがある、というまことに皮肉な結果になっています。

また、そうした領域にあっては、近代にとってお荷物になるはずの高齢者の層が、逆に、近代都市の市民が失っている自然との対話をより実感的により深めることのできる世代として、自然に対して



「京都御所・清涼殿」　林立する柱があたかも林間を想わせる寝殿。もし、畳座に十二重の女性が居れば、そこに大輪の花が咲いているように想われたはず。



「京都大徳寺聚光院・花鳥図襖・狩野永徳」　柱や襖の垂直線が適当なリズムとなって、その向こうに花鳥の世界が拡がっている様子を見る趣向となっている。

より創造的により実践的に働きかける層になるという、皮肉な可能性も生まれているのです。

あるいはまた、抽象的な機能空間を仕事場とするコンピュータ世代も、それだからこそ、逆に、こうした自然を舞台とする生活空間を、生理的にも精神的にもより豊かなバランスを得るための「営みの場」としていくのではないか、と思われます。

新しい場での「関係のデザイン」

ともあれ、近代を逆手にとった視点から生まれるこの様な「新しい場」にあって機能するはずの「関係のデザイン」は、どの様な性質のものになるのでしょうか？

当然のことながら、これまた、近代的価値観に基づく近代デザインを逆手にとって見直してみる必要がありそうです。と言うのも、２章で述べているように、人間は生物連環の中にあってこそ「自然の力」を共有することができるということ、そして、そのための「関係のデザイン」は、４章で述べているように自然の空間を造形的に転化させながら「人間の場」と重ねているということを考えるなら、人間をまず「生物」として位置付け、その視点から新しいデザインを考える必要があるからです。

たとえば、この視点から見ると、「新しい場」のアクセスとなる道は、「けもの道」の性質を持つものとなるでしょう。それは、近代の道が大量高速の通過道路だとしたら、何よりも様々な物との出会いの道であり、そのための様々な仕掛けを多角的に工夫する道となります。

あるいは、人間が住む住居にしても、生物としての人間が棲む場所という意味からすれば、「獣の巣」と見做す視点も可能になるでしょう。そうすれば、もともと経済性のない山岳丘陵や河川渓谷地帯を立地条件とする「新しい場」としての住居も、かえって近代的なデザインの常識に囚われない、きわめて自由で大胆な工夫が生まれて来るはずです。もちろん、それが自然の場の巣である以上、その素材も形態も、それぞれの環境に特有な性質と最も調和したデザイン、言い換えるなら、きわめて独自なデザインになるはずです。

そしてまた、そのインテリア空間についても、同じことが言えるでしょう。それは、わが国の伝統的な建築・インテリアがそうであったように、自然空間を連続的に捉えた工夫がなければならないのですが、そこでは、与えられた自然環境の性質を活かした壁面構成や家具が多様に工夫されるはずですし、それがまた、其処にしかない独自な造形空間を創りだすことになるのです。

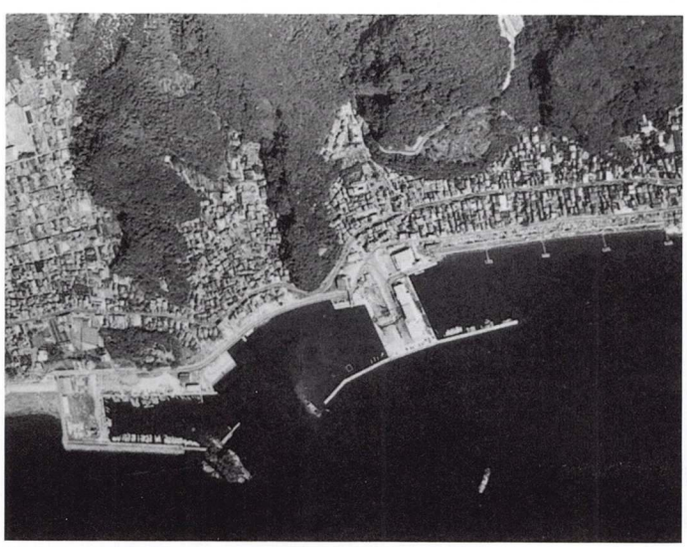
当然のこと、その中の調度・什器類にも、そうしたインテリア空間と共鳴する性質の独自な造形が求められます。そして、それは、そこに棲む人たちにとって最も身近かな共生者となるものであるところから、使用者自身のメンタリティに最もかなった、より自由なデザインの道具にもなっていくと思われます。

終わりに

以上、筆者なりに考えられる「新しい場」としてのデザインの性質についてその概略を述べましたが、こうした性質をベースにして具体的なデザインを考えると、従来のデザインとは全く性質を異にするものの、きわめて多様な思いがけないデザインが浮かんで来るようです。

筆者自身は、実技畑の人間ではないのですが、これからは、そうしたデザインを可能にする具体的なケース、あるいは、そのために必要な具体的条件などについて考えていきたいと思っています。

（ありま　ひろゆき）



緑豊かな山と青い海に挟まれた平担地、人間の住む市街区だけが異様に白っぽく瘡ぶたの様に見える航空写真。



海に近い場所ながら、山合いに流れる川と道と少しばかりの集落以外はすべて緑の海となっている。わが国ではごくありふれた風景。

自然をとり入れた快適空間

高橋　元(ひと・環境計画 代表)

都市空間や生活空間に緑があると、とても気持ちがいいことは皆さんの実感として良く知られた事実です。最近特に、都市居住空間での緑の働きが見直されてきています。

住宅廻りの緑化スペースや室内の植物は昔から、環境を和らげ、浄化し、人々の精神的な安らぎをもたらしてくれることを、人々は実感してきたようです。特に住宅地や建物の緑化、住居内やオフィス空間などの緑化の効用が再認識されています。緑の具体的な効用は、視覚的な快よさや、植物の世話をする快よさといったこと以外に次のような点が指摘されています。

屋外でまとまってあれば微気候調整効果、温熱環境改善効果、心理的快適性効果、生態系支援効果、嗅覚的快適性効果があり、量が少なくても空気浄化効果、視覚的快適性効果など、さまざまな効果が期待できるといわれています。人々や生物への恩恵は現在の科学でわかっていない点を含めると計り知れないといえるでしょう。

実際の計画での配慮

実際の建築計画にあたっては、まず既存のまとまった緑をなるべく残す工夫をしたいものです。また小さな敷地であっても既存樹木等があれば、配置計画で残したり移植できないか、必ず一度は検討すべきです。ドイツでは、除去した緑と同じ面積の緑を、敷地内の緑化や建物緑化などによって取り戻すことを義務づけている自治体もあるといわれています。

敷地内の緑化は照り返し防止や地表面温度の冷却効果、樹木による採風効果、火災時の火炎緩和効果など機能的な面だけでも効用があります。緑の効用を積極的に配置計画に活かすことはこれからの建築計画の重要事項といえるでしょう。

外壁緑化

外壁緑化は都市内の環境改善の効果とともに、日射遮蔽により外壁の熱負荷を軽減し、建築内部の温熱環境改善にも役立ちます。

○街区全体で次のような効果が期待できます。

・植物は粉塵や化学的有害物質を捕捉してくれる（有害物質削減効果）
・騒音を抑制する効果がある
・屋根植物は昆虫の生息地や鳥の生活空間として生物的バランスを回復してくれる（生物的バランス回復効果）
・都市居住者の目の保養となる（視覚的景観改善効果）

○住戸単位での効果として、次のような点があげられます。

・紫外線によって劣化しやすい外壁を保護し、寿命を延ばす（外壁保護効果）
・屋根の直射日光を遮り、熱負荷を軽減してくれる（日射遮蔽効果）

外壁緑化の実際の効果

植物による日射遮蔽は昔から行われていますが、具体的にはどのくらいの日射遮蔽効果があるのでしょうか。例えばツタのないコンクリート壁の西側では正午から直射を受け、15時ごろには外壁の表面温度は45℃にも上昇します。この吸収された日射熱が室内側に伝わり、18時頃には室内側表面温度は37℃に達します。ツタをはわせた場合には、ツタの表面温度は若干上昇しますが、西壁への日射の影響はほぼ完全に除かれます。よく成長したツタのスクリーンでは壁面からツタの先端まで、30cm近い空気層が形成されているようです。

葉の先端から壁面までの距離があるほど、また葉の被覆率が高いほど日射透過率は小さく、育成状況の良いツタスクリーンの日射透過率は数パーセントといわれています。

外壁緑化の技術的な問題

外壁緑化の技術的問題はほとんどありませんが、吸着植物を利用する場合、外壁や屋根下地への根の侵入に注意する必要があります。また、外壁緑化植物は種類が多いので、その性質を知ることが大切です。

つる植物には常緑と落葉があり、各々巻きつる型、吸着型があります。常緑ではさらに下垂型があります。また、格子の形状も植物によって適正があるので相応の配慮をする必要があります。また、外壁のメンテナンス上邪魔になる場合もあるので、あらかじめ外壁から離した位置に植物を絡ませる格子やメッシュを設置するなどの工夫も必要になるかもしれません。

建物の緑化は考えようによっては、比較的低コストでできる断熱材、日射遮蔽システム、空気清浄システム、クーリングシステムといえるでしょう。外壁緑化の要領でフェンスを緑化するのも建物廻りの緑化の効果的な手法です。比較的費用をかけず緑の効用を楽しむことができます。

室内緑化

室内の観葉植物は人の目を楽しませてくれたり、心をいやしてくれるばかりでなく、空気中の有害物質を浄化する働きがあることがわかっています。米国NASAの研究によれば、植物は葉の小さな穴から二酸化炭素を吸収し、酸素と水蒸気を吐き出す光合成のプロセスの一部として、空気中の汚染物質を吸収するといいます。つまり分子レベルで、吸収した有害化学物質は無害化されるというわけで







緑をとり入れた健康的な住まいづくりの実例

す。約9㎡当たり一つの鉢植えで、充分空気中の汚染物質を取り除くことができるといいます。

特にホルムアルデヒド、ベンゼン、トリクロロエチレンなどを浄化する効果があるといわれ、NASAの調査では、成長の早い植物は空気浄化に向いているといわれます。ゴムの木、ツルニチソウ、イングリッシュアイビー、デイフェンバキアなどは多くの有害物質を吸収し、オリズルラン、フィロデンドロン属、アマリリス、ゴールデンポトスはホルムアルデヒド浄化の効果があり、ガーベラや菊はベンゼンを吸収する効果があるとされています。

このように植物は人と共生することにより、心理的、精神的にプラスの働きをしてくれるばかりか、空気浄化という物理的な働きもしてくれるのです。さらに、植物は室内や屋外の湿度の安定化調節にも役立ってくれます。植物と土壌は完全な環境調和的な空調装置を造り上げてくれるといえます。例えば一本の樹木は一日にかなりの水の量を蒸発させるといわれ、一本のブナの木は800戸の住宅が発生させるのと同量の二酸化炭素を吸収するといわれます。これらの効果は樹木だけでなく小さな観葉植物もそれ相応にあるといえるでしょう。

人と自然との共存・共生は、21世紀の新しい住まいのテーマとなっていくことは間違いありません。　(たかはし　はじめ)

音と空間

藤本　由紀夫（サウンド・アーティスト）

鳴き龍の体験

日光東照宮本地堂（薬師堂）は「鳴き龍」で有名である。十数年前、日光に行き、初めてその鳴き龍を体験した時の驚きは忘れられない。

「鳴き龍」とは、空間が作り出す独特な反響現象の一つで、一般には「フラッター・エコー」と呼ばれる音響現象である。天井と床、壁と壁といったような、平行に向かい合う面で、音の反射が繰り返され、独特の音色を作り出す現象をさす。この非常に単純な音響現象がなぜ私を驚かせたかというと、まず、その響きの音色が、シンセサイザーで作っている人工的な音と非常に似ていたことであった。電子音楽を専門としていた私にとって、スタジオで最先端の高価な電子機器で作っていた音と同じような音が、意外な所で体験できたことにまず驚かされた。そして、何よりもショックだったのは、「鳴き龍」の音を体験するためには、何の装置もいらないという事実である。御堂には当然、音響のための機器など一つもない。これといって特色のない、木でできた建築空間である。その空間自身が「鳴き龍」という独特の音を生み出していることに改めて驚かされた。そしてまた、その独特の音は、御堂の特定の場所で何らかの音（手を叩く）を出してやらないと発生しないことが新鮮であった。単純なアクションに対して、空間が独特の音で応答するという事実は、体験して初めてその面白さがわかった。

この私を魅了した東照宮の「鳴き龍」を２～３年前再び体験する機会があった。靴を脱いでワクワクしながら御堂に入ると、以前は見学者一人一人が手を叩いて体験できていたのが、僧侶が20～30人を前に、拍子木を叩き「これが鳴き龍です」と解説するシステムに代わっていた。私はなにか物足りなさを感じた。

「音」と「響き」

我々が「音」について考える時、ついつい「音楽」なり「音」の発音源について問題にする傾向がある。「自動車の音」「携帯電話の音」「波の音」「ピアノの音」「バイオリンの音」といったような。しかし、日常の生活において、発音源の音のみを体験していることは、まずほとんどないと言ってよいだろう。

「音を聞く」という体験は、発音源から直接耳に伝わる振動をキャッチするばかりではなく、発音源から四方八方に拡散した音波が、その空間の様々な場所に跳ね返って複雑な経路を辿って耳に到達する音も同時にキャッチしているのである。この空間を巡ってたまたま耳に入った音の総和が、我々には「響き」として認識される。発音体からの直接の「音」と、空間を巡った「響き」が一体となって我々は「音響」を知覚しているのである。つまり、我々の音響体験にとって「空間」は単なる「音のいれもの」ではなく、音の個性を作り上げる「音響装置」として重要な意味を持っているのである。

この事実を私は「鳴き龍」と「鶯張りの廊下」での体験を通して実感した。しかも「鳴き龍」と「鶯張りの廊下」では、発音体は自分自身なのである。「手を叩く」「歩く」という、ごく日常的な行為に対して「空間」は独特な反応を示してくるために驚くのである。この特異な現象から、日常の環境における「音」と「空間」の関係について、少しばかり耳を研ぎすましてみると、日常の様々な空間はそれぞれ、ささやかながら独特の響きを創りだしていることがわかる。

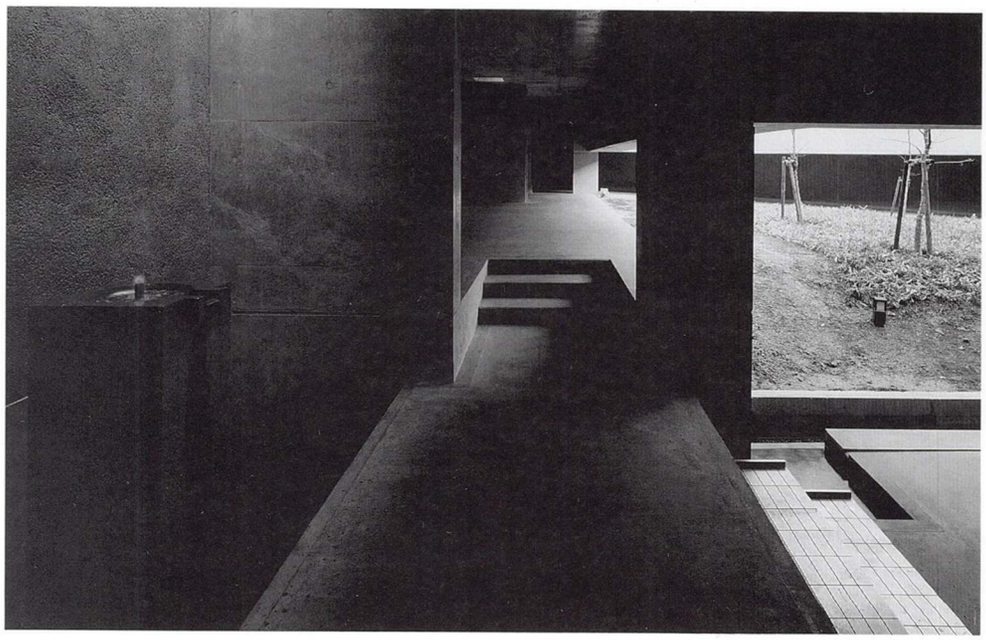
これらの独自の響きは何によって創られているのか。それは、まず第一に「素材」である。素材の固さ、表面の凹凸、重さ等によって音の反射の仕方がそれぞれ異なる。そして同じ素材でも、形や大きさが異なれば、響きの度合いも変化する。つまり「空間」の違いにより音も生き物のように変化するのである。「素材」と「空間」…これは建築物そのものである。つまり、建築を創るということは、同時に独特の「響き」も潜在的に創りだしているのである。

しかしながら、建築空間自体では音は生み出さない。その空間で何らかの振動が発せられた時、その振動に対して空間が応答するのである。建築空間においては、その発音源のほとんどは自分自身が創りだしているのである。歩いたり、話しをしたり、書類をめくったり、といった日常の動作は、自身から音が発せられ、その音に対して空間が「響き」で応答しているのである。その響きを聞くのは自分自身に他ならない。つまり、響きを通して、自身と空間との関わり具合をコントロールすることにより、我々は自分自身を「興奮」させたり「癒し」たりすることができるはずであると私は考える。

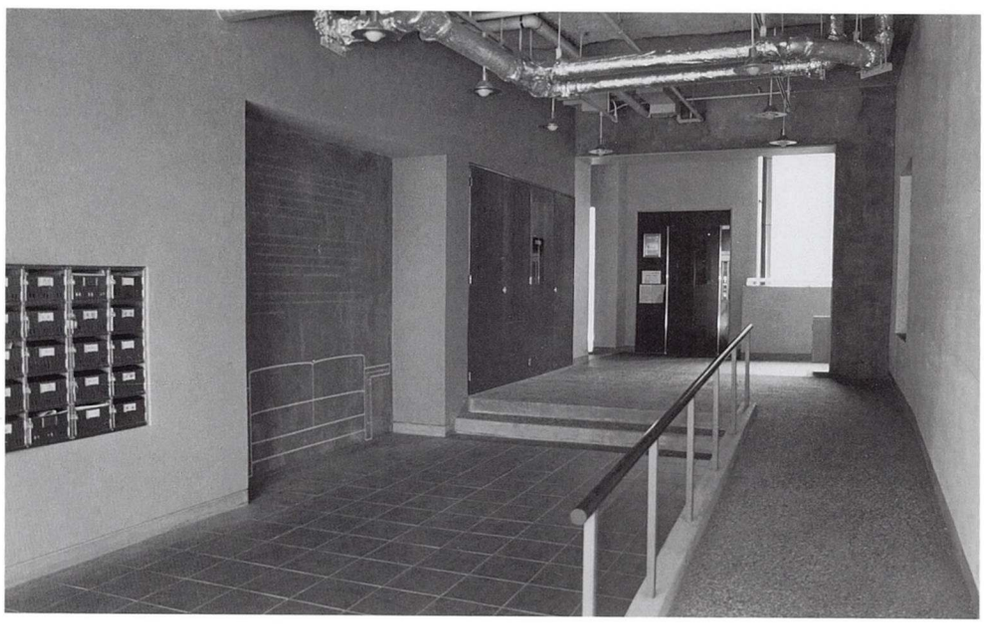
空間というものは、人間に対して繊細な反応を示すものであって欲しい。そのためには、素材の多様性、形状、大きさの豊かさが「響き」には重要な要素となる。そしてまた、そのような空間は人間に対して、豊かな響きを知覚できるアクションを要求する。そのアクションが日本では「作法」という言葉でマニュアル化されてきたのではないだろうか。

「音」と「空間」

このような、微妙ではあるが豊かな響きを持った建築空間を実際に体験できる機会があった。神戸改革派神学校は、プロテスタント・キリスト教の中でも一際厳格な、偶像礼拝を拒否した思想を設計に反映させた建築空間である。そのため、施設は装飾性を排除したシンプルな空間となっている。この建築空間を、耳をそばだたせながら



神戸改革派神学校の建築空間
撮影　松村芳治



南芦屋浜コミュニティ＆アート計画
曖昧な空間 wall-floor-mall ceiling／藤本由紀夫

ら歩いてみると、視覚とはうらはらに非常に変化に富んだ聴覚体験を味わえる。それは、細部まで丁寧に設計された「素材」や「形状」「ヴォリューム」の変化のさせ方により、場所場所での響きが微妙に異なっているのである。この微妙な響きに耳を集中させようとすると、響きのもとである発音源の自分の歩き方が自然に落ち着いた動作になっているのに気づいた。「作法」というものは本来そういうものなのであろう。

この建築空間にはことさら私を癒すような「音楽」も「音」も存在しない。自分が発する足音や、外から伝わってくる自動車の音などが、建築空間の様々な場所に反射して私の耳にやさしく語りかけてくるのである。「響き」を手掛かりに自分で自分をコントロールしているのである。人間と空間との間で、聴覚を通してフィードバックを繰り返すことにより、我々は我々自身を元気づけることができるのである。

このような、人間と建築空間の関係を、聴覚を通して考えて、私が制作したのが、南芦屋浜の県営住宅のエントランス・ピロティである。この空間を制作するにあたっては、神戸改革派神学校での体験がきっかけとなった。

壁、床、天井は異なった素材で構成した。そして壁にはわずかばかりの勾配がつけられている。一見何の特徴もないシンプルな空間であるが、空間内の様々な場所では、わずかながら「見え方」と「聞こえ方」が変化する。毎日通過する空間ではあるが、ある日ふと、この微妙な変化に気づく人がいたらと考えて制作した空間である。

そのためには、やはり一種の「作法」が必要となる。強制ではなく自然にこの「作法」を身に付けた人は、空間とのささやかな関わりにおいて、自分自身を元気づけられることができるのではないだろうか。

「この音はよくない」「この音は心地良い」といった判断で、発音源そのものが評価対象になることが多い。しかしながら、日常生活において我々が聞いている音というものは、発音源そのものではなく、空間が創りだしている音であることを認識すべきである。そしてまた、発音源自身も他ならぬ、自分自身がほとんど創りだしていることを自覚すべきではないだろうか。

（ふじもと　ゆきお）

香りの空間―心象を遊ぶ

畑　正高(㈱松栄堂代表取締役専務)

嗅覚と匂い

香りを楽しむためという明確なコンセプトに基づいて建てられた建物は、歴史上にどれほど存在するのでしょうか。

唐の時代、玄宗皇帝が寵愛する楊貴妃のために建てた「沈香亭(ぢんこうてい)」という建物は、白檀や沈香木(ぢんこうぼく)をふんだんに使い、壁面には丁字などの香料が塗られていたといいます。南方の国々から運ばれてくる貴重な香料を建築材として選ぶなど、贅を尽くした発想に改めて驚きを感じてはいるのですが、はたしてこの豪勢な香料の館でどれだけ香りを楽しむことができたのか、少々不思議に感じることがあります。

昨今、香りに対する関心がとても高まっています。その一方で、嗅覚と匂いの関係に関しての考察があまりなされていない事が心配です。人間が持ち合わせた五感の中で、他の器官に比較して嗅覚が顕著に持つ特質があります。視覚や聴覚などとは違い、嗅覚は、恒久的に存在する環境にとても容易に順応するということです。

鼻は自分を取り巻く匂いに対して簡単に慣れてしまうのですが、その一方で新しい刺激に対しては敏感に反応する事ができるのです。このことによって、私たち人間は日常生活を穏やかに送ることができます。毎日自分の家の匂いを感じ続けるようなことはありえないのです。

前述の「沈香亭」が庶民の話題に上ることはあっても、そこに住んだ人が香りをどれほど楽しみ続けたか、はなはだ疑問に思う理由はここにあるのです。

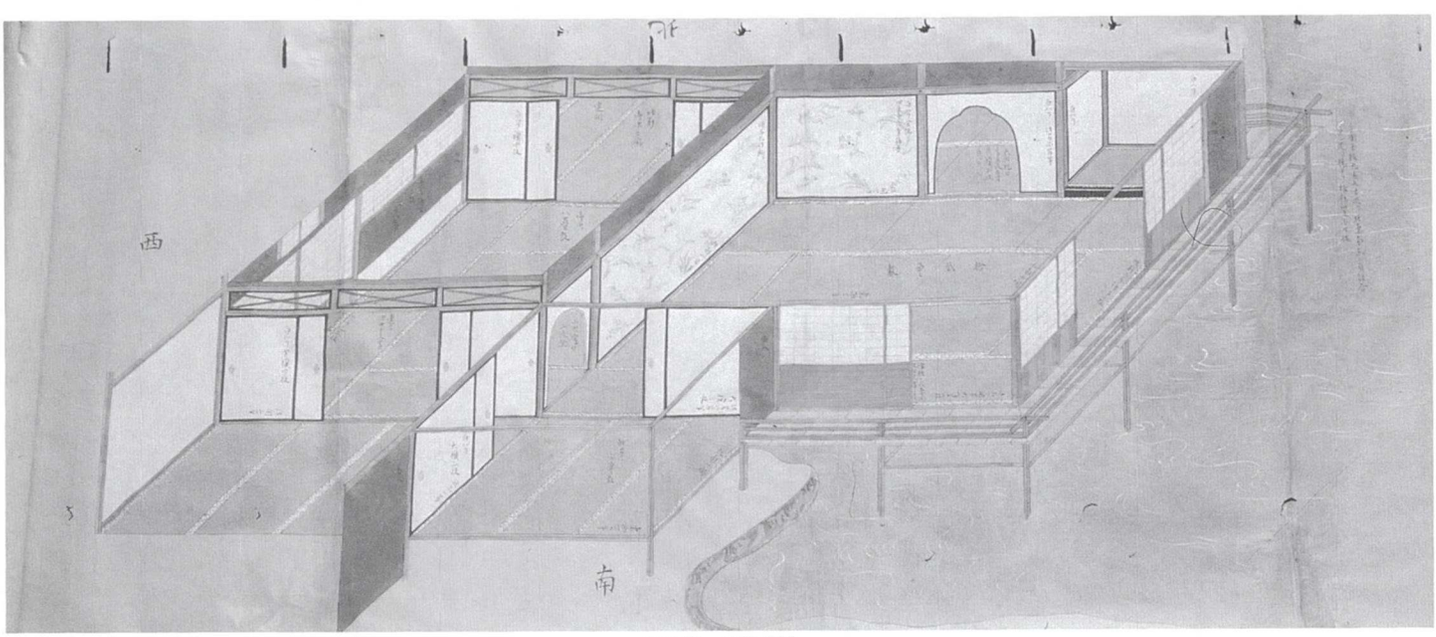
「香の座敷」

日本においては、室町時代中期に「香の座敷」が登場いたします。15世紀後半、洛中は打ち続く応仁の乱によって焼けただれていたようですし、戦乱を避けて多くの公家や文化人たちは安住の地を求めて地方へのがれていました。

足利8代将軍義政を中心に同朋衆と呼ばれた人々は閑静な東山の麓に寄り合い、文化サロンを形成しました。この人々によって営まれた建築物が、「銀閣」や「東求堂(とうぐどう)」として今日まで伝承されているのです。

創建当時の建造物はわずかこの二つのみとなっていますが、古文書によりますと十二の堂塔があったといいます。とても興味深いことには、その一つ一つが、とても明確なコンセプトに基づいて建築されていたようなのです。「東求堂」は仏殿として考えられていましたし、それに隣接する四畳半の部屋は茶処として使用されたと言います。今日まで室町文化の趣を伝える国宝の「同仁斎(どうじんさい)」がこれにあたります。

夏日、涼を求めた舟と船宿もあったようです。その一つとして、池の上に張り出すように造られた「泉殿(いずみどの)」と呼ばれた香の座敷があったのです。今日、銀閣寺の境内では「弄清亭(ろうせいてい)」として知られていますが、残念なことに度重なる火災に見舞われ、明治期に再建された物が現存しているのです。適度な湿度が香りを楽しむためにとても重要だったようですし、花頭口の位置や床の間の趣など、多くの工夫を凝らしていた様子がうかがえます。



東山殿　泉殿の図

香りがもたらす心象の広がり

香りのための建築であっても、この香の座敷は、玄宗皇帝の夢の館とは全く趣を異にしています。建物自身に香料材料をふんだんに使用したのではなく、人々が寄り合い「香」の香りを楽しむために様々な工夫を凝らして造った物なのです。大変貴重な沈水香木（じんすいこうぼく）をほんの少量加熱し、その香りを参会者が共有しながら鑑賞するのですが、天然の香りに触れることによって、季節感や美意識、古典文学など、様々な情景をイメージの世界で楽しんだようです。この空間から生まれた独特の様式が、香道として伝承されるようになったのです。ここでは、香りはあくまできっかけでしかなく、人々は香りを楽しみながら、心象の中に広がる想像の世界を創造し、時空を建立したのです。

「視覚情報依存過多症候群」

今世紀末を迎えて、とても混迷の色を深めている現代日本の社会ですが、私は、その症状を「視覚情報依存過多症候群」と名付けています。今日のような情報化社会において、正確で新しい情報に対する価値観がきっちり確立されるようになってきてはいるのですが、各種情報の持っている本質的な性格とそれを収集する感覚器官の特質をよく理解していないと、結果的には作為的な情報に振り回されることとなってしまうのです。視覚に訴える情報、中でも写真や映像は、その残存性・具体性や瞬間的情報量の多さに圧倒的な強みを持っています。私たちは、加速度的に進展してきた近代化の波に押し流されながら、無意識のうちに情報収集手段として、とても安易に視覚に依存するようになってしまったのではないでしょうか。

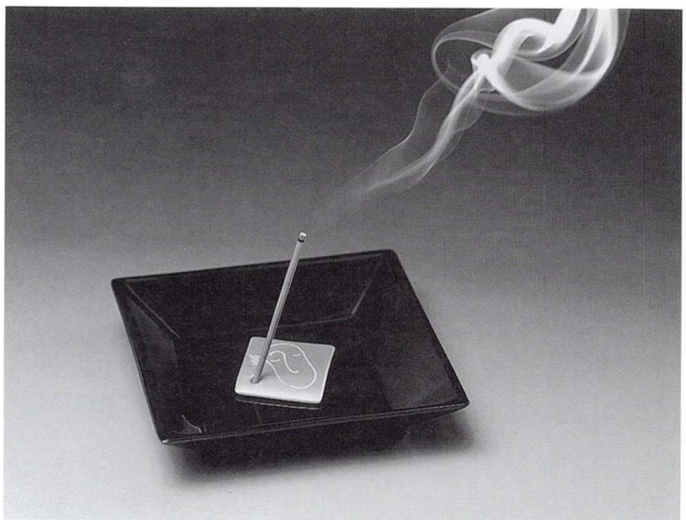
このような環境の中にあって、香りの存在と嗅覚のもてる可能性に目を向けるなら、これは視覚をも含んだ五感のバランスの再構築でなくてはならないと感じるのです。短絡的なファッション性や表面的な知識情報にのみ惑わされるのではなく、味覚・触覚・聴覚とともにそれぞれの特性をよく理解して見つめ、再配置をしていくことによって、第六の感覚まで呼び覚ますことが可能になるのではなどと期待もしてしまいます。

香りを生活空間に生かす

香りは、その存在自体は、単なるハードウェアでしかないということに気づいていただけたでしょうか。香りという具体的な存在を認識することによって、その向こうに広がる抽象の世界をいかに押し広げていけるか、このことは私たち一人一人が持ち合わせるソフトウェアにかかっているのです。沈香亭のように贅を尽くして香料を集めることで香りの持つ力を享受できるのではなく、香りを楽しむに相応しい空間を持つことによって、香りとの出会いがもたらす心象の広がりこそが、本当の意味で心と体を元気にする香りの可能性ではないかと考えています。そしてその空間に於いては、他の感覚器官も常に活発に活動を続け、人間性豊かな時の流れを感じることが出来るのではないでしょうか。

香りに対する関心が急激に高まっている現代の日本社会においてこそ、もっと本質的な部分で香りを生活の中に生かす工夫を学ばなければならないと、少々の危惧を感じている次第です。

（はた　まさたか）



お香（インセンス）を気軽に楽しむ



香席　香を聞く

光

光と空間

田村　利夫（照明作家）

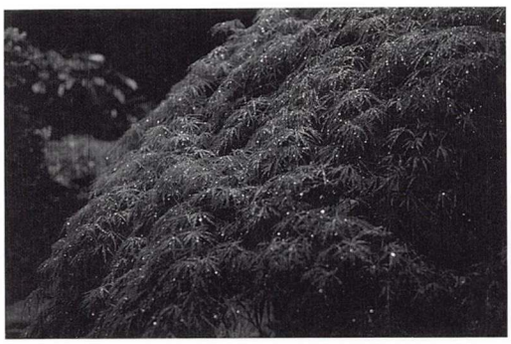
光について

心の元気を生み出す仕掛けを考える前に我々人間は光がなければ建物も、花も木も、空間も認識することが出来ないことを忘れてはならない。

この光は周知の様に、自然光と人工光の２種類に分かれる。自然光は太陽の光と火による光である。そして人工光は、人工光源によって生み出される光である。この人工光源、歴史は百年少々であるが、現在数万種類をこす光源があるといわれている。今やこれらの人工光が闇を制しているといっても言い過ぎではない。闇を制することにより生じてきているさまざまな問題の中に心のストレスも含まれるのではないだろうか。

自然光は人間だけではなくすべての生命に対し、さまざまな形でエネルギーを供給してくれるが、一方、人工光はエネルギーを消費していることも忘れてはいけない。

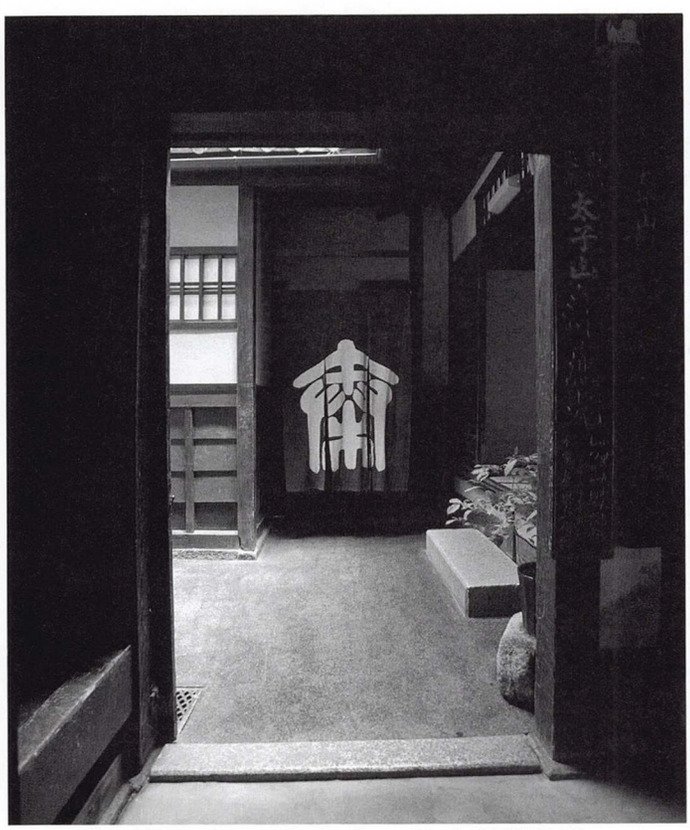
太陽は朝昇り始めてから夕方沈むまで、少しずつ光の色を変化させている。朝日の爽やかな暖色はエネルギーを感じさせ、昼の白色は活動感、夕方のオレンジ色は寛ぎと楽しさを感じさせてくれる。一日の太陽光の変化は、人間の情緒的な面にも影響を与えているのである。



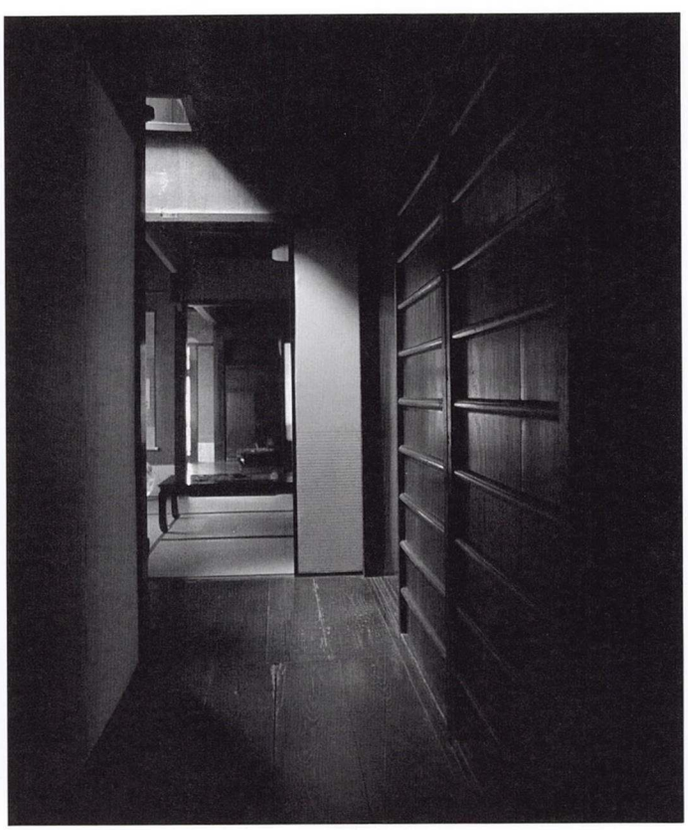
自然光は時に
我々を魅了する
町家は京都の秦家
撮影　荒木義久

光と空間

フランク・ロイド・ライトやルイス・カーンといった建築家達は、外光をどの様に制御し、空間に導き入れるかに大変な努力と神経を使い建物を設計をしたと言われるが、それは光が空間においていかに重要であるかを再認識させられる。建物は、壁を建てることから始まり、それらで仕切られたところに空間が出現する。その壁や天井にどのように窓や開口を設け、時にはダイレクトに、時には間接的に、あるいは何かを透過させることにより、外光を取り込み、最終的に光が、その部屋の一部になり、快適で心地よい空間を作り出すわけである。じつはこれが照明設計の基本であり、人工光を大量に使い、影のない均一な空間を作り出すことではない。



廊下などに設けられた天窓からの光は、奥行感や誘導効果がある



同左

代表的な日本建築である京都の町家で外光の取り入れ方を見てみると、外部に面した大きな間戸から入った光は縁側をへて、座敷へと導かれる。その間に、すだれや障子などで光は拡散され、畳を照らし、座敷全体を包み込んでいる。また、障子などとともに軒は夏の直射を避け、冬は陽射しを奥まで招き入れる役目を果たしている。そして障子などの拡散面は視覚的な明るさをもたらし、実際の照度より暗さを感じさせない。

廊下や通り庭などに設けられた天窓（トップライト）は奥行き感と、誘導効果がある。夏場に行う道具替えは、障子から葦戸に替えることにより光だけでなく、風も招き入れ、葦簀（よしず）の細かな隙間は夏の強い陽射しを心地よいきらめきに変えてくれるのである。

光を使ったストレス解消法

自然光の一種である火を使ったリラックスの方法を紹介すると、まず、食卓の上にローソクやアルコールランプを置き、室の照明を暗くし、食事を楽しむ。これは多くの方が経験済みだと思いますが、火のもつ適度な輝度感と、炎のゆらめき、オレンジ色の光が食事をより美味しく楽しくさせてくれます。

次は風呂で古い洗面器などにローソクを立て、浴室の隅に置き、温めのお湯にゆっくりとつかってみると、湯気の中でゆらめく炎がより幻想的な雰囲気をつくり、体の疲れとともに心の疲れも癒やしてくれるはずです。

マンションなどでどうしてもローソクを使うことが難しい場合、洗面所の照明だけで入浴すれば近い効果は得られます。最後は庭やベランダなどで楽しむ方法だが、少し大きめの鉢や、深めのガラスの器などに水を取り、浮きローソクを３～４個浮かし、それを庭などの適当なところに置き、室の照明を消して楽しみます。水に映り込むローソクの炎と、炎により優しく照らし出された草花が昼とは異なった表情を見せてくれるとともに、心の元気も取りもどせるかもしれません。（くれぐれも火の取り扱いに御注意を）

＊　　＊

我々人間は、もともと自然のサイクルの中で生きていることを再認識すると同時に、闇もたんに制するのではなく、楽しむことも大切である。

〝この家が私を育て、教育してくれるんです〟。これは紹介した町家に住まわれている方の言葉である。建築設計に携わる人々は、光が空間を構成する大きな要素としてもっと自然光を採り入れることを計画の段階から考えてみる必要があるのではないだろうか。

（たむら　としお／AZU設計工房代表）



畳によって反射された自然光はより優しさを増す



影の演出が、光空間の質を高める



障子や格子戸は自然光を面光源に変化させる

食ともてなしの空間

――大植　宏氏(サロン・ド・オトワ)に聞く――

大阪の北摂、緑の山間。市街地から車で約1時間、郊外の住宅地を抜け、舗装された山道のたくさんのカーブを曲がり、そろそろかな、と思う頃に到着です。石垣の小道を上がり、大きく開かれた門をくぐる時、まるで知人の家を訪れたような気がします。ここが一軒家レストラン「サロン・ド・オトワ」。迎えて下さるのは、オーナーシェフの大植氏です。心地よい音楽とともに、あれこれお話を伺いました。

「食」は五感の楽しみ

人間にとって、「食べる」ことは一番重要なことですが、人間が文化を持ったり、遊んだりするなかで、「食べる」ことは、同時に、五感で楽しめること、だと思うのです。

私自身が料理の世界に入ったのは、自分で何かを作りたかったからです。ラジオでフランス人シェフが、「自分が東京へ来て料理を作っても、自分の料理表現の30%でしかない」というのを聞いて、料理というのはただ食べるだけでなく、おもてなしの部分があること、五感すべてで感じながら食べる、皿の上以外の要素が非常に強い、と知りました。そのあたりの表現を自分で出来る、と思いました。

フランスへ料理の修行に行って、自分が表現することはこれだと強烈にうけとめ、帰ってからしばらくは、食に関わる周辺のイベントやパーティーを企画して、自分の料理を食べてもらっていたりしていました。初めは街中に出店することも考えたのですが、それではたんなるフランス料理店になってしまう。ここ上音羽の家で、予約の一日一組だけのお客様に料理をお出しすることにより、自分の表現したいエスプリを最大限に出すことが出来ました。お客様もゆっくりと寛いでいかれます。場所も、雑踏から異次元に入っていくのに、遠すぎず近すぎず、という距離にあります。

こちらへ来て、美味しいものを食べること以上に、自然の中の寛いだ空間でストレスを解消していただければ、と思います。いきなりお食事を差し上げるのでなく、お天気が良ければ庭を歩き、和室でお茶を飲み、気分を和らげ、好きで集めたギャラリーの品を見てもらったり、それから、料理を召し上がっていただくのです。美味しく食べる、楽しく食べるために、音楽も流れを考えて順番を組んでいます。

「食べる」空間について

お客様をもてなすこの空間を作るため、長い時間をかけました。家自体は8年前に建て直したもので、和室は150年前の旧建物と同じ、景色を取り込めるレイアウトです。建築自体に対しては設計の小田切さんに具体的な事は何も言わなかったのですが、和室にコンセントなどの近代文化の気配を見せないでください、とだけお願いしました。リビングの空間についても、一番好きな安藤忠雄さんのコシノヒロコ邸の「空気感」を作ってほしいとだけ注文しました。うまく高さを作って、光取りの窓のある、いい縦空間ができ上がりました。この縦空間が活きるよう、鳥が舞い下りるイメージの螺旋階段は、私がこだわったものです。

家具やオーディオは建物より前に決まっていました。特にこのオーディオ（デンマークのバング・アンド・オルフセン）は、機能はもちろんのこと、生活の中に入り込むデザイン感覚がすばらしいのです。調和が単体として醸し出せるのです。そしてマッキントッシュの家具。いい緊張感を与えてくれる気持ち良さが伝わります。家具は，使ってこそのものですから、カッシーナの椅子は東京のショールームに行くたびに、1時間くらいズーっと座って決めました。

本当に長続きのする快適さを生み出したいと思っています。建ち上がってからは、施主が責任を持って住まいこなし、家を生かしていかなければ、と思っています。



サロン・ド・オトワ（大植家）の外観



客はまず座敷に通り庭の景色を楽しむ

サロン・ド・オトワ
大阪府茨木市上音羽2-1　TEL0726-49-3017　FAX0726-49-0155
北大阪ネオポリス線千里中央駅より余野行バスで約40分。
名神高速道路茨木ICより車で約30分。
営業時間は昼の部11：00～16：00　夜の部17：00～23：00
予約は4日前までに電話かFAXで。無休。
コースは昼の部のみ一人13,000円より、夜の部は一人17,000円より。



ギャラリーを兼ねたリビングルーム。右奥に2階へ上る螺旋階段がみえる

サロンのもてなし

お客様は多彩です。若い方から最高85歳の方まで来られます。料理は強い仕込みはせずに、お顔を拝見した上で食器も合わせて考え、出していきます。一日に一組だけのお客様ですから、その方だけに集中できます。

お客様を満足させる方法論はたくさんあります。女性の方には、お帰りの際にテーブルの花を差し上げると喜ばれます。花自体も、都心から来られる年輩の方には庭や野山の花を、若い方には花屋にオーダーして華やかな花を使ったりします。

器は、揃えたものを使うことは少なく、隣の人とは違ったもの、同じ作家のものでも絵柄違い色違い、などを楽しんでもらっています。レストランではなく、サロンですから、楽しみの種は多いほどいいと思います。素材も土地の山野菜や猪、鹿を用いたり、炭もこの山の木を焼いたものを使っています。

フランスで一番学んだのは、いかにお客を楽しませるか、そしてそれ以上に、客の方も食べて楽しんでやろうという意欲を持っていることです。日本人のうちに向けた美意識と、西欧の積極的な楽しみ方を、バランスよく表現できたら、と思います。

これからも上手な楽しみ方を、お客様と一緒に求めていこうと思っています。　（談）

（聞き手：石川佳子／編集委員・インテリアデザイナー）

技道具

技──自然に暮らす、道具と生活

──エルマー・ヴァインマイヤー氏(ギャラリー日々)に聞く──

エルマー氏は、大学時代に京都で哲学を学んだ後、ドイツに戻り、ふたたび来日し、京都の大学で語学を教える。また、日本の文化に関するエッセイを書き、日本の漆器、陶器などの「良さ」をヨーロッパの人々に伝えるなど、日本とドイツの文化の架け橋としての役割を果たしている。そんな忙しい日々をおくるエルマー氏に、欧米と日本の自然観、道具と生活などについて語ってもらった。

欧米と日本の自然観

──ドイツのご出身ですが今は日本にお住まいですね。日本とドイツでは自然に対する考え方に違いがあると思われますか。

一般的に日本人は自然と共に生活し、ヨーロッパの人々、例えばドイツ人は自然を征服してきたなどと言われますが、そのような比較は昔の日本と今のドイツとを比べているようなものであまり意味がありません。むしろ昔のドイツと昔の日本の生活を比べると非常に似ていたように思います。例えば5世紀頃までドイツの人々は自然や廻りの環境に非常に気を使いながら生活をしてきました。それは日本と同じです。でも焦点を現代に当てると、ドイツの人の方が日本人よりも自然を気にしている人が多いように感じます。

もちろん日本でも問題意識を持っている人は多いと思います。特に建築や工芸の世界にいる人たちは敏感ですが、一般の人々の意識が薄いような気がしますね。日本人は自然を遠くに置きたいのではないだろうかという印象さえ受けるのです。自然に対する管理主義が進んでいると思いますね。

日本にはもともと伝統的に「自然は自然のまま」という考えがあったと思うのですが、それは明治以降、特に戦後大きく変わってしまいました。ヨーロッパでは人間の力で自然を支配しようという考え方が発達したのと同時に、人間のそうした力を抑制しようという力が常に同時進行で働いてきて、バランスを取りながら現代に至るのですが、日本は急激な技術力の進歩の陰でそうしたバランスを取るのに苦しんでいるように思います。

和辻哲郎の「風土」によれば、日本の自然は人間にとって恵み多く豊かであると同時に大いなる脅威ともなり得ました。そこで日本人は恵みに対しては自然に対する敬愛の念を抱く一方で、脅威に対してはただ黙って耐えるしかないという受け身の姿勢を取らざるを得ませんでした。でも技術が進歩して自然をコントロールできる力が培われると、人々はやっと自然の脅威となる部分、嫌な部分を抑えられるようになり自然に対して過剰防衛になってきているのではないでしょうか。

日本の住宅は昔と異なって今では外（自然）に対して非常に締め切った空間になっていますね。その中で湿度が高い時期には除湿をする、気温が高いときにはクーラーをかけるというのが、一般の人の日常的な生活になってきていると思います。

──日本とドイツの自然を比べるとどうでしょう。

植物にとっては日本の自然は非常に豊かです。例えば北海道から沖縄まで通してみると非常に多種多様な植物が見られます。これはドイツには無いことですね。なのに人々の住んでいる身近なところに花が無いのです。もちろん山に行けば花はたくさんありますよ。でも日常生活においては、花屋さんに行って南洋産の花を買って来る。

ドイツの自然は長い間、人間と共同生活をしてきた自然であって、その自然にはほとんど人間の手が入っています。そういう意味では人工的な自然なのですが、その自然と人間は長い間非常に仲良くやってきたんです。例えばどこにでもハイキングできるような身近な自然があって、日常的に花を摘んで帰って来てそれを花瓶に入れる、というような形で、人々は今でも自然を生活にうまく取り入れています。日本には人の手が入っていない自然がまだまだたくさん残っていますが、逆に人の住んでいる身近な部分では完全に自然を支配しているようにも思います。

日本の「道具」の文化

──自然を生活に取り入れるというお話がありましたが、ご自身のお住まいについての工夫をお聞かせください。特に例えば今インタビューをさせていただいているお部屋は畳敷で、窓には薩摩すだれがかかっていて、伝統的な道具による工夫をしていらっしゃるようにお見受けしますが。

この薩摩すだれは職人さんに寸法をいって作ってもらったんです。普通の簾よりもかなり太いでしょう。職人さんには薩摩武士のように強いんだと教えられました。

これは個人的な話になりますが、私は職人文化に非常に興味があるのです。特に日本の職人文化に対して。日本ほど工芸や職人の手仕事が優れた国はないと思います。いわゆる「道具」の文化は世界的に見て日本は非常に優れています。日本人は道具と人間の生活とのつなぎ方が非常にうまいということです。ウォークマンもそうですよね(笑)。畳の部屋の使い方、食卓や布団によるしつらえ、食器にしても器で遊ぶという感覚。そういった道具の使い方が日本人は非常にうまいし、そうした伝統的な道具には今でもすばらしい物が職人文化として残っています。例えば鋸や鉋などの大工道具は日本の物が一番素材の美しさを引き出すことが出来ると思います。良い仕事のためだけに日本製の刃物を使うというドイツの職人を知っていますよ。

また漆器の技術も非常に良い物が残っていますね。私は昔からあ

る技や知恵に興味を持って、良い物を見ることは大切なことだと思うのです。例えばそのような漆器を日常の生活に取り入れてみてはどうでしょう。確かに非常に高い技術で作られた漆器は大量生産されたプラスチックの椀に比べれば価格も高いのですが、30年もつことを考えれば決して高くないと思います。もちろんプラスチックの椀が悪いと思っているわけではありません。大量生産の椀は現代の工業化された大量生産の時代には非常に「自然な」ものです。それよりも私には「本物らしく見せた」まがいものの漆器のほうが非常にわざとらしいものに感じられます。杉柾だと思っていた天井を触ってみたら印刷だったというとき、私はそこに非常に不自然なものを感じます。

自然の素材を活かし自然に暮らす

ところで最近、自然の木をそのままの形で使った椅子のようなものに人気が集まったりしていますね。一方にはシックハウスのようなものがあって、そこに疲れた人たちが何か新しいものを求めようというときに非常に極端な方向に走るように思うのです。例えば東南アジアの籠や自然を感じさせる木の根っこなどをほとんど信仰に近いような形で住まいに持ち込んで慰めを感じていたりします。これは心理的にはよく理解できるのですが、もの作りの文化にとってはあまり歓迎されたことではありません。ものに救いを求めるような姿勢には気をつけなければならないと思います。

私は近代化を踏まえながらも良心的に手で物を作ろうという職人の動きに魅力を感じています。というのは今の時代すべての工程を昔ながらの手法で作るのは無理ですし、不自然でもありますから、現代の技術をうまく取り入れているものに興味があるのです。そこから出てきたものは完全に自然なものというわけではないですが非常に魅力的です。

今、私が注目しているのはドイツ食器を作っている５人の職人の工房です。もちろん手作りなんですが、電動ろくろを使ってガス窯で焼いています。

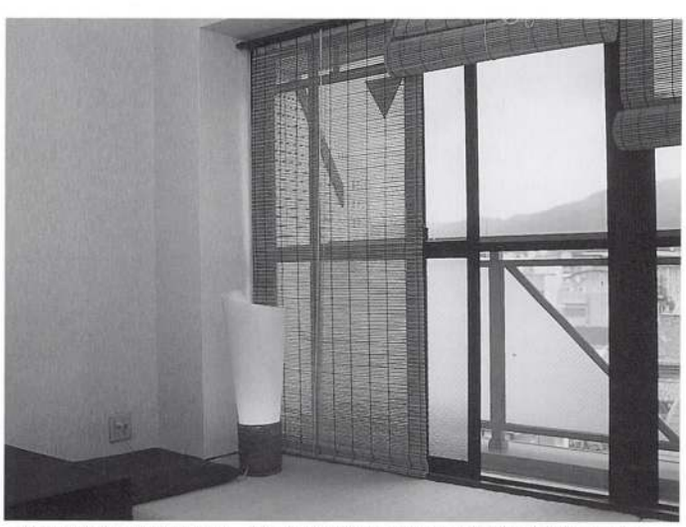
最近の日本の若い陶工さんの中で気になるのは、ろくろ目を残してわざと形をいびつにしてみるような傾向があるのです。大量生産で完璧な形のものが出来るから面白くないといってくずす。それが「自然」だという既成概念があるように思います。それによって自然を思い起こさせようとしているのでしょうが、私にとってはそれは非常に人工的に思えます。わざとらしいものに感じるんですね。自然のようで自然でない、嘘を通した自然ですね。

英語のNATURALにはいわゆる「自然の」という意味と「無理のない」とか「自発的な」というような意味がありますが、私はそのような無理の無さ、わざとらしくないものに惹かれます。「自然に」暮らす。これには両方の意味があるのです。無理なく自然に暮らしていく。その中でできれば自然の素材を活かしたものを身近な生活の中に取り込んでいく。例えば食器や家具、畳の部屋なんかもそうですね。そのうち「自然」に対しての意識も高くなる。こういった住まい方が理想ではないでしょうか。

良い家に住んでいる人はその廻りにあるもの、食事や住まいを取り巻く自然といったものに対しても「自然に」興味を持っていくようになるのだと思います。　(談)

(聞き手：西田和子／編集委員・大林組)

ギャラリー「日々」
京都市中京区新烏丸通二条上ル
TEL075-256-1270
FAX075-256-1255
ギャラリー見学を希望の方は、前もって上記にご連絡下さい。


窓には薩摩すだれが掛かり、部屋には和紙でつくられた照明器具が置かれてある


ギャラリー「日々」に置かれている陶器の数々

「独楽蔵」が創る元気な空間

――星野厚雄氏(独楽蔵代表)に聞く――


星野厚雄氏

「建築」の世界は、社会そのものの中へ浸透、同化し見えにくくなっている、といわれている。これはむしろ連綿とそうであったにもかかわらず、近代建築がその狭義の領域性に拘泥し、自己を参照しつづけてしまったからである。オモシロゲな技術や理論的背景も百花繚乱するが、どうも具体性に乏しく企業論理やメディアの話題作りへの関与に留まる。リアリティのなさが元気（社会のためになにかやろうという）を触発しないのである。しかし、試みの中には、ホンモノを感じるものもある。病弊化した都市を治癒することは他人事ではなくなっているのだ。

われわれの生きる環境を「住宅」という装置によって見直し、人らしさを復権しようとする、「元気な」建築家がいる。「独楽蔵」星野厚雄氏は東京の郊外、埼玉県の入間にホームグラウンドを持ち、全国津々浦々に「住むことの楽しさ」を発信している。場所に潜在する「元気」の根を掘り起こし、着実に文化として熟成させていく。「楽しい住まい」の道先案内人として注目され続けている。そうした氏のリアルな取り組みを紹介する。

平凡を磨く

――多くの作品を通して、流行にとらわれない元気な表現が注目されていますが。

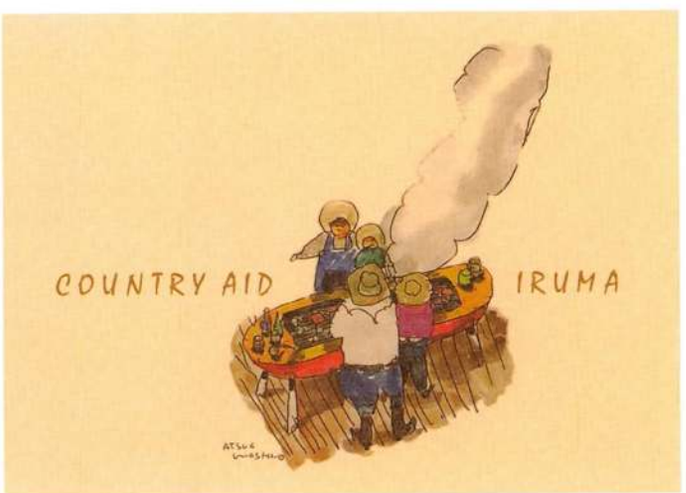
私は、理論などを構築して権威を持たせるようなやり方の、いわば建築村みたいなものはあまり信用していません。むしろ否定的ですね。歴史や風土に培われた正直さや世相、外的条件から見えてくる流行歌のようなものが私のベースといえるかもしれない。物事には必ず人間にとって良いものとそうでないものがある。それを見抜き、形や素材そして空間へと高めたいと思っています。それはとても平凡なことだけど、回帰性がある。平凡を磨くのです。日本人は自分自身の住み方や生き方をどうも照れて隠してしまう。それを引き出して強調してあげるのです。ほかの誰にもないその人だけの動作のようなものを形にするのです。つまりそれが「仕掛ける」ということです。バブルを通しても時代的によいものは残っている。そこに含まれない何か欠けてしまった部分を見ようとしているのです。

――独楽蔵はどのように活動しているのですか。

今現在は私を入れて4人です。所員には、実務への対応、アピール能力、マスコミへの対応、仕事の発掘、計画、実施、監理まで誰もがすべてをこなせるよう指導をしています。これらの内容を自己管理シートというものを作って所員の自己採点と私の評価によってその達成度を確認していく方法を取っています。所員が仕事を取ってきたりもしますよ。とにかくあらゆる面で実践主義なのです。私自身、学生時代決して優等生ではなかった。大学で身についたものは何一つないし、むしろそれ以外で学んだことの方が役に立っているくらいです。学校やメディアは視覚的なことを中心に教えます。しかし私は五感のうちでも触覚が特に大事だと考えています。材料を手にして実際に作ってみる。そこで所員には、煙突掃除、枝下ろし、薪の割り方、堆肥の作り方、芝生の育て方、そんな実体験をこの独楽蔵の敷地全体で仕事としてさせています。そんな行為の中で生きた空間性を体得していくように指導しています。作品の中にも我々の手で作ったものがいくつもあります。また私自身、スケッチをかなり描きます。私はテキサスの田舎町が好きでこの前も行ってスケッチを随分描いてきたのですが、私にとって描くということは即ち風景を体に取り込むことなのです。テキサスでは人間が風景と自然の一部という感じがします。ハードなトレーニングによって何かを極めるように、描けば描くほど風景が体にしみ込んでくる。喩えていえば円空が仏像を彫りつづけることで何かを極めようとした、というようなことに共感を覚えるのですよ。その反面、最近のコンピューター、あれは信用できない。同じ枠の中でのレースに過ぎない、という感じがします。私は施主にプレゼンテーションをするとき、こんな風に屏風状の本のようにしてイメージをまとめるのです。毎回形を変えて、そのときに応じてスケッチやことばを綴る。これは施主にこちらのハートの温度を伝えようと考えたことです。

この新しい独楽蔵は10年前、芝生を貼った人工地盤をつくって土

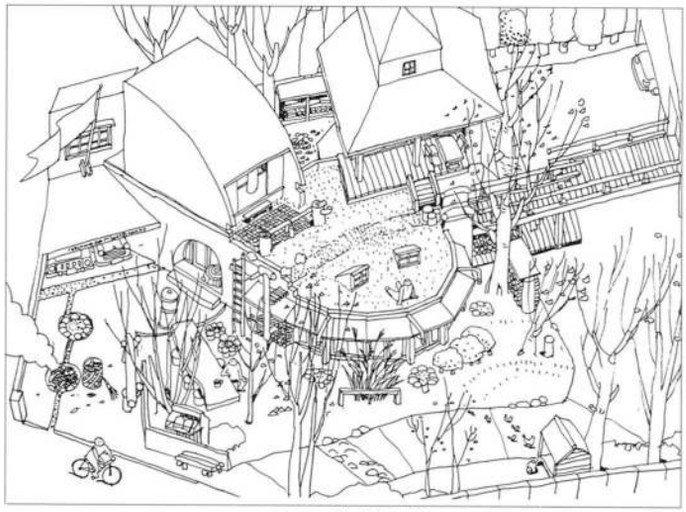

マキ割りをする所員の皆さん



イラスト・テキサスの風景



施主への想いを込めたスケッチ集



イラスト・独楽蔵全景



左はボクシングジム、右は星野氏のプライベートオフィス、下はリビングルーム、群造形の間に緑が割って入る

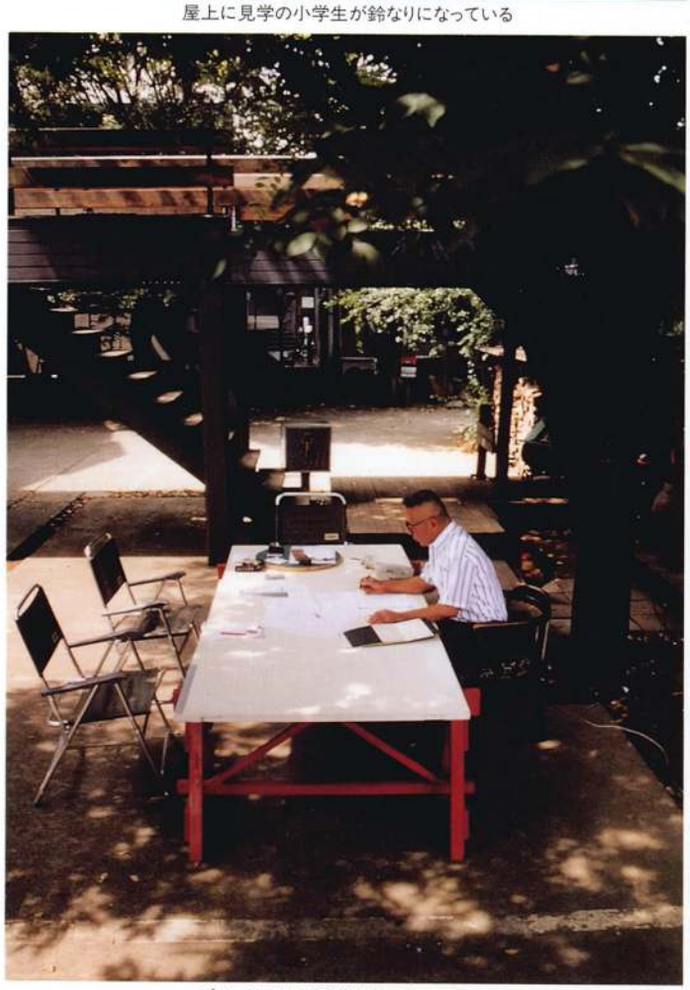


屋上に見学の小学生が鈴なりになっている

地の有効利用をしようということで、15年間住み慣れた以前のアトリエを壊して新築したものです。独楽蔵の中をちょっと見ますか、見たほうが話も早いですよ。

玄関から入るといきなり裏が見える。星野氏によると、最近の住宅には裏という発想が少なくなってきているらしい。昔の民家だと納屋があったり、井戸があったり、洗濯場があったり、そういう生活の多くの部分が裏にあった。それを現代の住宅は隠してしまったのだ、という。

玄関の脇に2.25m平方の身体感覚の小さな和室がしつらえられている。日本人の広さ信仰に対して、狭さへの憧れを呼び起こそうとしてつくったものだという。星野氏はこの空間を「道具のような空間」と呼んでいた。玄関から見渡す空間はリビング兼ホールである。ここは、ミニコンサートや独楽蔵の個展、星野氏の講演（一部の企業が研修のために星野氏のもとへ社員を送り込んでくるそうだ）など活気ある多目的な使われ方をする。中二階が所員のアトリエ、たびたび模様替えをするらしい。その上が星野氏のプライベートオフィス。屋上が芝生貼りになっており、ボクシングジムとコテージ風の小オフィスがそれに面する。楽しげな群造形の隙間に樹木などの自然を滑り込ませ、まさに風景化した建築である。この芝生のフィールドは、ジムになったりテラスになったり、子供たちの写生の場（小学生が屋上一面に鈴なりになっている写真をみてびっくりした）になったり、「季節まみれになって森羅万象、様々な発見と出来事を誘発する」仕掛けである。隣の喫茶店とはブリッジで繋がれており、時折お茶を飲みにくる客と目が合う。このブリッジが「あっちとこっち」をつくり、渡る、見返る、という行為が異なる風景感を生み出す。ブリッジの下の緑陰は夏のワークフィールド。なにしろどの部分をとっても一つの行為と用途で説明できるところがない。星野氏は、安全性や動線なんて考えない、という。家族には動線という制約は必要ない、と言い切る。



ブリッジの下の緑陰はワークフィールド

施主と「家」

――独楽蔵の中にもいろんな仕掛けがありますが、どういう設計プロセスをとるのでしょうか。

家庭は「家」と「庭」と書きますね。私は家と庭を区切らないで考えます。そして地域に繋がっている「庭」を意識することで家全体を街や自然に溶け込んだ「ヤシキ」として捉えたいと思っています。しかも建築家の思いつきで作るのではなく、家を取り巻く環境や習慣、ハレやケみたいなものをうまく化けさせることで、風土と一体となった「ヤシキ」が作れるのではと考えています。

たとえば飲み食いのコミュニケーション。飲食にはいろんな形があります。火が好きだったら、囲炉裏やかまどや暖炉。これらは食文化そのものを変えます。生火（なまび）をうまく操る空間を作るのです。そういう事柄をいかに施主の記憶や習慣から引き出して具体化するかです。

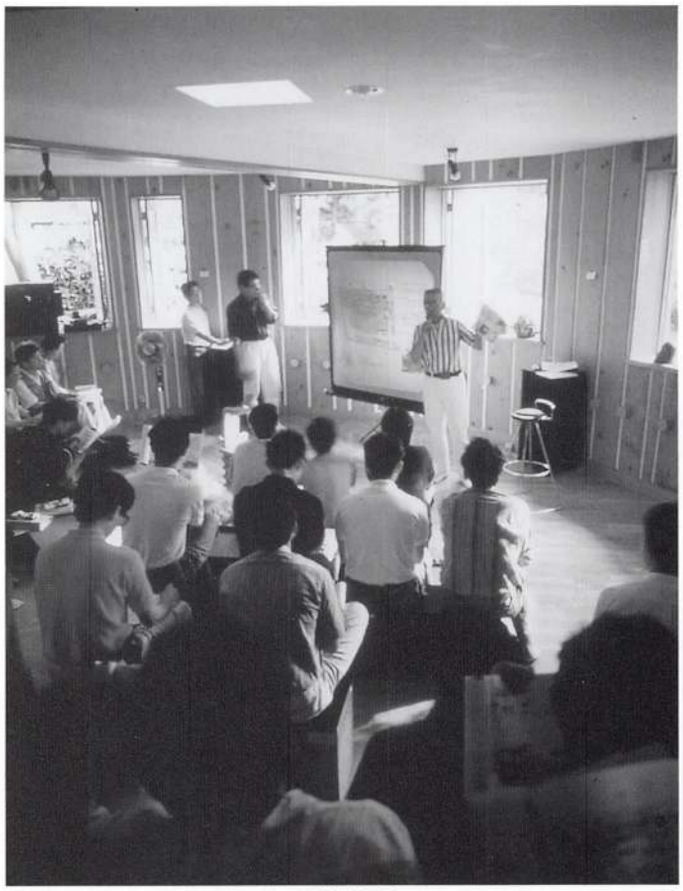
――施主とはどういうコミュニケーションをとるのですか。

ヤシキを「つくる」も、そこに「住む」も、大変なエネルギーが必要です。我々だけではなく、施主自身にも大変な労力がかかるのです。

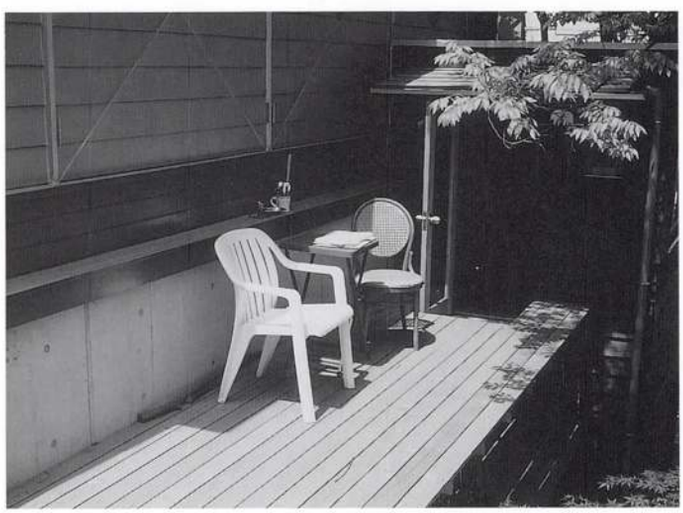
これまで25年間の間に三百数十軒あまりの住宅をやってきましたが、70年代の頃付き合っていた施主は「住む」ということに貪欲な人が多かった。彼らには社会への否定形みたいなものがあった。今はこの否定形に耐えられない人が増えてきています。施主の体力が落ちてきたといえるかもしれません。

これは決して世の中の不景気が理由ではない。生活に対する感性や姿勢、つまり生活能力の弱体化ですね。そういう印象を持っています。40歳から50歳代前半の男性に冒険心がない。表向きの薄っぺらな部分にしか興味がなく、しかも奥さんや子供のいうがままという場合が多い。「家を創るのだ」という力強さがないのです。

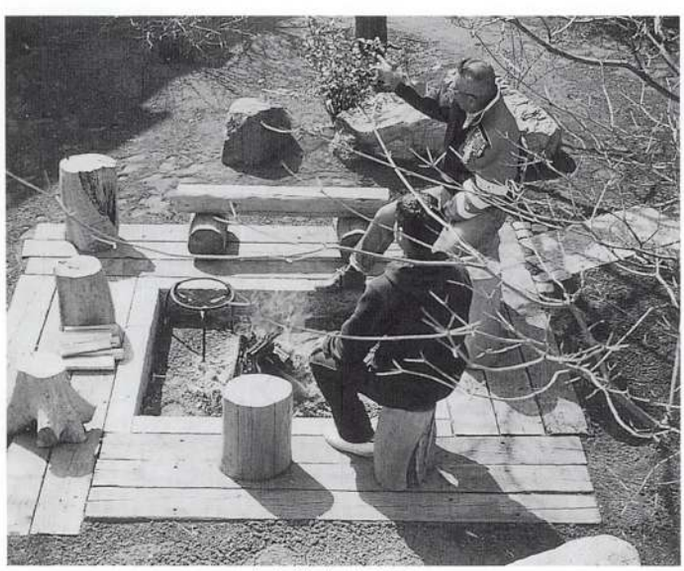
それと、住宅文化の質の低下は、多くの企業の責任も大きいと思います。想像力の訓練から始めるべきなのにいきなりもののイメージから入る。苦労なしに簡単にイメージを得てしまうのです。簡単に辿り着いたものはたかが知れていますよ。



リビングが講演会場になる



はみ出す書斎



生火（なまび）を囲んで



三百数十軒の施主の名前が書いてある札（旧アトリエ）

高齢化よりも幼齢化

――昨今の環境の問題や高齢化社会への関心はありますか。

さきほどの家づくりのこともそうだけど、世の中にヒューマニズムが不足しているように感じる。そのことで特に最近思うことは、子供空間にそれが欠けているということ。私は老人福祉というものはあまり必要だとは思っていない。老人の元気よりもむしろ子供の元気がないのに気づくべきだと思う。子供のために金をもっと使うべきでしょう。これからの世の中は幼齢化社会ですよ。2003年あたりには受験生と定員がほぼ同じ数になると聞いた。学歴の社会はもう終わりです。これからはまさに個性の時代ですよ。誰もが自分の子供をよくしたいし、そのためにはあらゆる情熱をかける。何のためにかけるのかという疑問や展望もなくかける。建築家はさまざまな建築や空間で、理想的青少年社会とはどういうものかを考えるべきです。体力と情操そして頭脳。子供のための空間を考えるのはとても楽しいですよ。 (談)

緑に囲まれた独楽蔵は、ドライな表情の入間市役所と向き合うように立地している。その対照的な風景は星野氏の「公共」に対する真剣な眼差しが、行政の態度を見据えているような、独楽蔵の思想を象徴するかのようでもある。通りに面して独楽蔵自作のショーケースがあった。独楽蔵内で催される内容を通りに対して発信しているのである。時には子供に、時には大人に。小雨の降るなか、訪れた独楽蔵の玄関にはスリッパが一そろえ用意してあった。吊るされた鐘を鳴らすと予想以上に大きく響いたのには驚いた。星野氏は、初対面の来客に対して非常に積極的に話をしてくれた。闊達に繰り出される言葉群にどんどん引込まれる。いつしか取材であることを忘れて、興味本位に話を伺うことになってしまった。後で思えば、星野氏はこうして相手を「共に考える」という行為に誘い込むのかもしれない。住宅作家というにはあまりにも広範囲な思考とアグレッシブな行動。30歳を過ぎて何か遣り残したことがあるといって始めたというボクシングでは、10年間かけてトレーナーとオーナーライセンスを取得したという。取材中にも氏が主宰するジムへの入会申し込みの電話が鳴った。氏は言う。「ボクシングはことが速くていい。前線に立って挑めるかが、まさにダイレクトに問われるのだ。」なるほど、何ものにも真っ正面に向き合いファイティングポーズをとる。そうして次の場面のために仕掛けるのだ。

(聞き手：澤田英行　KAJIMA　DESIGN)



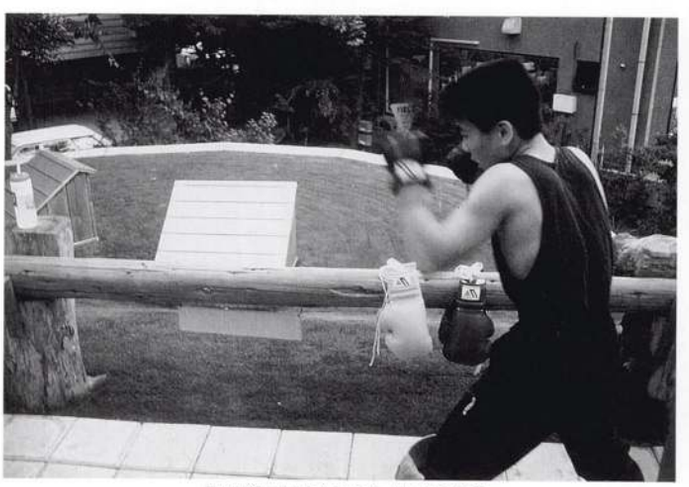
星野氏のスケッチ



子供の工作大会



通りに面する独楽蔵のショーケース


「汗と緑と風は友達なんだ」と星野氏

沖縄からの風

畑　康之(編集委員)

沖縄での心と体を元気にする空間とは

空間の中にいる人の視覚や聴覚、触覚など五感に訴えかけるさまざまな要素が有効に作用する時、その空間は心と体を元気にしてくれるのではないか。

そういった点で考えると沖縄での心と体を元気にする空間は、今回の特集の主旨から外れるようで残念だが、インテリアでなくエクステリアの自然環境にこそ存在しているように思える。そこには五感を刺激する要素が溢れているからだ。

陽の光、海や空の色、流れる雲。海の中には色とりどりの魚達。木々の緑や花、そしてその香り。鳥のさえずりや虫の声。それらは単体で感じられるのではなく、いくつかの要素が互いに関係しあって訴えかけてくる。大きく枝を張った木々の木陰の意外な涼しさがあるからこそ陽射しの強さをさらに実感する。天気の良し悪しは海の色に影響を及ぼす。雲の動き、木々や花の香りに風を感じるといった具合である。

地元の人達にとって

全国的にもアウトドアライフが流行(はやり)のようだが、特に沖縄では土曜・日曜ともなると多くの人達がビーチや公園にパラソルやテント用品、バーベキューセットを持参してゆったりと過ごす光景をよく目にする。

ビーチといってもガイドブックに出ているような有名なビーチばかりではなく那覇近郊のちょっとしたビーチで、公園もハイキングコースが整備されているような大型自然公園のたぐいでなく、都市公園でも緑豊かで木陰さえあればといった感じのおおらかさである。とにかく一定の時間、自然環境の場に身を置くことが大切なのだろう。

旅行者にとって

旅行者にとっても沖縄は滞在期間の長短にかかわらず、その魅力を素直に受け容れる姿勢と天気にさえ恵まれれば、(長期滞在すれば雨もまた良いものなのだが) きっと心と体を元気にしてくれる場所だと思う。

白砂が透けて見える透明感、リーフで囲まれた内海のエメラルドグリーン、そして外海の深い紺色と、言葉にできないほど豊かな色数の海だけでもその魅力は十分であるが、できればお気に入りの本か雑誌を片手に、海の見える風のそよぐ木陰などでボーッと過ごしてみてほしい。

雲の動きや太陽の高度に伴って変化する海の色を、西海岸であれば夕日が眺めれば言うことなしだ。スコールもまた楽しい。そういったものに少しでも触れることさえできれば、たとえ短期間の強行スケジュールの旅で身体が疲れていようと、少々陽に焼きすぎて背中がヒリヒリしていようと、皆その目をイキイキと輝かせながら帰路につくようである。

沖縄での建築は

しかし、豊かな自然は時としてきびしい環境へとその姿を変えてしまう。その為沖縄における建築物は、照りつける太陽や猛威を奮う台風などから身を守るシェルターとしての役割を第一とせざるを得ない。

だからこそ沖縄の建築物は、自然環境の穏やかな時には積極的にその恩恵をインテリアに取り込もうと、数々の工夫が施されている。

沖縄ならではのインテリアの醍醐味はオープンエアにあると思う。現代建築を対象とした場合、名護市役所は特に有名なところだが、それ以外にも数多くの例があげられる。

近年竣工したあるリゾートホテルのロビーでは、オーシャンビューの前面はもちろん背面の壁をも可動壁にするほどの徹底したオープン化に取り組み、客室への通路にもサッシュはない。エアコンディショニングと外部の風をみごとに両立させているのである。

家庭や自家用車においても、窓を開けたままでエアコンディションしているケースは少なくない。エコロジカル(環境にやさしいか)やエコノミカル (経済的か) な評価は別の機会に譲るとして、気温が高くても絶えず風がある沖縄ならではの、精神的にもとても贅沢な空間作法であるように私には思える。

それは実に気持ち良く、そして元気になるのだ。

(はた　やすゆき／安井建築設計事務所インテリア部統括主任)



沖縄のリゾートホテル（テラス）

「建築と社会」誌

特集一覧● 1978~1998

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局(TEL 06-348-0635、FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1978 Vol. 59	●デザインの動向―新旧のコントラスト	●水*	●医療施設―病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画*	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD―設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン*	●商業空間*	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建設金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文―北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法―安全な環境をめざして*	●都市住宅―住まい手からの発想*	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開*	●省エネルギーと開口部*	●医療施設―地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質*	●都市景観―まちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）*	●ホール建築と音*	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル*	●ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展ー*	●建設産業とロボット開発*	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホールーそれが生みだす文化ー	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみるー ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめてー ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明*	●制振*	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讃賀テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざしてー*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観*	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくりーIー	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりーIIー ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念*	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語―人がかわる、まちがかわるー	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システムー	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台―仮設の魅力に学ぶー ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割ー ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと観	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かってー会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美ー建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音―騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法ー会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築記
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念	●遠江一その地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり*	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の眼―	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へー ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA*	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 Vol. 79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア					

*は欠号

[座談会]

Welcoming

美術家、ルポライターに聞く

―生活空間としての建築について―

――まず、自己紹介からお願いします。

野寺　フリーのルポライターです。写真家として紹介してくださるところが増えましたが、人に会いに行って人の生活を見る、あるいは自分の生活で感じたことを書く、撮る、ということが、あるときには詩になったり、あるときにはコラムになったり、あるときには写真展になったりと、表現の形が変わるだけで、私自身は、根っこのところはフリーの新聞記者だと思っています。写真は主に白黒です。人物をずっと撮ってきました。それは保育園の子供たちであったり、私と同世代の臨月の106人の女性であったり、もちろん男の人も撮ります。男性を撮っても、女性を撮っても、子供を撮っても、私の中では向かい合い方はそんなに変わりません。あまり子供らしくとか決めつけた向かい方をしない。女性らしさを打ち破るような写真を撮り続けてきたと思われることが多いんですけれども、広い意味で、いろんな〝らしさ〟にとらわれない、そういう分かりやすい枠組みを打ち破るような、人物の写真を撮っていきたいなあと思い、少しずつ撮っているつもりです。「臨月」も、突出したものではなく、自分が年をとっていくのとだぶらせつつ、同世代の女性達に出会ってきたなかの一つであると思いますね。



「鼓動を聞く」
―「京都・伏見・あゆみ助産院のいち日」より―
野寺夕子

古家　小さいときから指にペンダコができていて、描いていないとあふれてくるから苦しいという感じがあったんですね。流れ星なんか見たら、絵を描く人になりたいと思ってましたね。私は、フェミニズムの歴史とともに生きてきたような世代で、女であることを意識せざるを得なくなっておりました。私の、京都大学の恩師から、仕事と家庭が両立するか何度も忠告をくださったような時代でした。そういう意味で、女って何かとか、女が仕事をするってなんだとか、結婚とは何かとか―から考えなければならなかったんです。また、フランスの詩が好きで、なかでも女性詩人のヴァルモールが好きでして、そのテーマで描いたりしていました。そのようななかで、恋愛についても、男女のはかなさ、もろさを感じていた頃でして、ふと「蜻蛉日記」を読んだんですね。そしたらどうして1000年も前に私の思っていることを書いてくれたんやとびっくりしました。それから紫式部、和泉式部に夢中になりました。ちょうどフリーセックスとかいわれ始めたころやから、平安朝の教育を授けられ、経済的にも恵まれた場所にいた女性たちの考えていたことというのが、その頃の男女のあり方にとっても示唆があるのやないかと思って、そういうテーマで絵も描きました。そして形式的にも日本の伝統的な大和絵の方法を現代絵画に生かしたらどうかと思いました。レオナルド・ダ・ヴィンチの三次元的なものは男の人が考えた文化で、それに対して、大和絵って女性的な視点からかけているんですね。そういう実験を20年間ぐらいしまして、最近は「死」とは何かとか、死後の世界に魅かれています。このまえは「夢の果ての扉」という個展をしました。私にとりまして、絵というものはその時その時に感じていることを何かの形で描かずにおられないからやっているだけのことで、まあ、絵日記のようなものやないかと思っています。

野寺　私はどちらかというと言葉から入っているから、足りない部分を言葉で説明してしまう。わき出てくる人にはかなわないですね。

古家　あなたの「春の布団」はすばらしいお仕事です！　何もかもあけっ広げなんですが女性の可憐さがあります。それで「言葉」に関してですが、日本の伝統芸術は言葉と密接に関わっています。私自身も言葉と造形のスレスレの世界を追求しているんです。人生、考えながら生きていくうえで、「言葉」なしではあり得ないんです。

野寺　文章と写真で1＋1＝3になればいいなとずっと思っていました。文章と写真の微妙なずれが表現してくれるものに期待しながら、です。また、私はウーマンリブからフェミニズムと言葉が変わったころに結婚して出産したので、「女」をいかに消すかということに力を入れていた頃がありました。「臨月」の時も、女だからできたといわれるのがいやだった。でも間違いなく、女だから受け入れてくれたんですよね。もう少し女であることをおおらかに受け入れてもいいのにと思い始めています。

――古家さん、「死」について最近考えておられることを少しお話ください。

古家　死ぬということがそんなに惨めな恐ろしいこととは思えなくなりまして、何となくあの世を信じているんですね。とても親しいものに感じる。それで、かえって死の闇という黒の色が、今まで炎のような色で描いてきたけれど、何となくエロチックな、美しいもののように思えます。宇宙の闇とか、星座とかとつながっていて。この青い星の上に私たちがいて、いろんなこんなすてきなことを考えるというのは、すごい不思議なことやから、死んだからといって全く消え去るとは思えないですね。

野寺　私は、小さい時から死の瞬間を身近に見てきました。2人の祖父の寝たきりと痴呆という状態が、とても苦しくドロドロしたものだったので、死の瞬間をいつも見つめていたのでしょう。いつまで生きられるかわからないけれども、生きていられる間は一所懸命生きようという衝動はものすごく強かったですね。



野寺夕子

ルポライター

1959年岐阜県生まれ。岐阜日日新聞（岐阜県紙）を経て、フリーのルポライターに。女性の生き方や母子、夫婦の関係などを取材、コラムや写真を新聞等に寄稿。女性学実践編としての「写真教室」や「表現講座」を指導。育児・性・家族・表現などで講演も。96年度（第33回）準太陽賞「臨月」（平凡社主催、正賞は空席）。著書に「春の布団」「女の顔に惚れるとき」（共に法政出版）、写真集「臨月」（100人のドキュメントヌード、かもがわ出版）等。



古家玲子

美術家

1952年、京大美学を卒後、大阪市立美術研究所、パリ・グランド・ショーミェール、小磯良平氏に学ぶ。初期にデモクラート運動に参加。日本アンデパンダンと個展で発表（大阪・京都・東京23回）、マドリッド日本人画家展、瑛久とデモクラート展、京都銅版画協会シアトル展、兵庫現代美術展、関西女流選抜ウイメンズ展などグループ展。1974詩画集「枯れ落つる花の如く」（詩聖咲奇氏）。1979〜85毎日新聞「女の講座」「女の神々」、1987〜89朝日新聞「さらりいまんよう」等連載挿絵。1996ローマ「クオレ・アルテ・ディ・ローマ」展入賞。フェミニズムの歴史とともに女の魂を炎のように描きたかった。平安鎌倉の女流文学をテーマに伝統的様式の現代化を実験。今は死と終末のイメージに魅かれる。仕事は私の生の絵日記。

企画／会員企画小委員会
Director/A. TSUKAGUCHI
1998年３月３日　於本会会議室

W

古家　いつまでも生きるんやったら生の美しさというものはないですわね。死というものがあるから、それに裏打ちされているから美しく、後ろが真っ暗だから前がカラフルに感じられるわけです。



「夢の征き来」（1996）
古家玲子

――思い出の風景などの中で印象に残る建築についてお話ください。

古家　私が好きなのは、ヨーロッパのオペラ劇場です。古典主義的な。たとえば田舎の小さな町に行っても、樫の木の家具が入った円形の同じ形式の劇場があります。建築というものは、役に立つ箱であるほかに、夢の場所になるんですね。そして、あの形は、母の胎内のような、赤と金でうっとりするような、現実にないものですね。それに対して、日本は河原に掘っ立て小屋を建てたのが始めやから立派な劇場でも小屋といいますね。今の日本は、都市にしても建築にしても実用的すぎると思います。

野寺　パスポートを持ったことがありません。町なかの路地を徘徊して過ごしているといったところです。日本家屋の木の古びてゆく様が好きなんです。瓦の朽ち方と全然違うみっともない朽ち方をしていく建築材を見ますと胸が痛みますね。10年後や20年後に自分の皮膚が変わっていくように、〝時〟を吸収していくような建築物のそばで暮らしていると幸せですね。

古家　古さとか懐かしさとかいうものは大事ですね。それに昔の道を見たら坂道になったのに沿って家が建っているから絵を描くにしても、とても風景の線が美しい。今の町は、道がまっすぐで「不思議さ」の要素がなくなりましたね。

――建築家に期待することは。

古家　ダリが「これからの建築は毛深くなる」といったが、そんな建築を見たことがない。バルセロナのガウディはそんな気がするけど。私は、フニャリと大きさが自由になり、外からは見えないガラスで囲われていて、宇宙船のように空を飛べる家があったらいいなと思う。家の中は、形も色もマーブリングのようにカラフルに変形したらいいなと思う。だって、セーヌの上で住んでいる人がいるし、それを発展させれば海の上でも住めるし。

野寺　気分的には竪穴式住居に戻って欲しいなと思いますね。マンションの閉塞した空間や暮らしの中で子供を育てていくことの息苦しさが気になります。親子の関係、夫婦の関係も、もとをたどれば間取りや建築材料との関わり方がつくってきたのではないかと感じることがあります。

古家　みんなの共有している懐かしい風景を壊さないでいただきたい。古いものには人間の思い出があります。フランスにいっても、30年前の方がゆったりして潤いがありましたね。アメリカの影響か、なんか恐ろしい時代が来ているなと感じます。

野寺　この春、築百年ほどの古い家に移り住むんですね。古びた家のあちこちを触っているうち、無名の職人の細かい仕事に感動しまして、見ていて涙がでました。写真を撮っていて感じたんですが、人間の皮膚の古び方に価値をおく文化は、古い建物の朽ちていくのを〝良し〟としていけるんじゃないかと思うんですね。干からびていくことが、みっともないとか、惨めだねで終わらないで、あんなとこになかった皺がどうしてできてくるのか、面白いねえ、不思議だねえというようなことで、子供の心に繰り返し伝えてやれる大人たちならば、古い町やら建物の見方も実に変わってくると思います。

古家　ごみになっていくか骨董品になっていくかの違いですね。

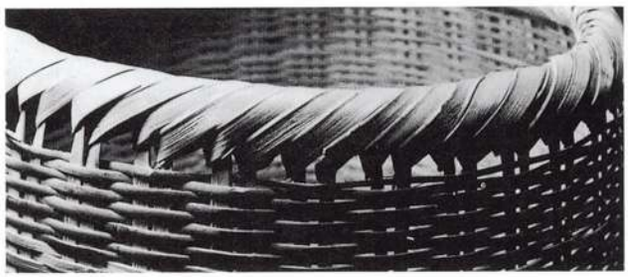
野寺　粗大ごみを捨てる大人の姿を見て子供が育つんですものね。

古家　それとね、昔はお正月になると百人一首するとか、子供でも、浄瑠璃の一つもうなって、芝居のまねをしたりとかありました。そういう共通の教養というか、ゆとりというか、それが少ないですね。伝統の美意識や美しいものにもっと子供の時から親しんで、それが良識の基盤になるように小学校、幼稚園から潤いのある共通感覚をもっとつくってあげたら、世の中良くなるんじゃないかと思います。

竹 籠から

髙砂　正弘　建築家
Takasago Masahiro

素材、技術の源流へ re-approach によって新たなる創造性に向かうことを企画するシリーズ第７回は「竹」について考える。竹は木材資源として古来より生活道具や建築材料として多様されてきた。普段、ほとんど意識しないほど心の奥深くにかかわっている。その中から、素朴な味わいを持つ籠をとおして竹の新たな展開を探りたい。
（「素材と技術が生み出す design」幹事会）

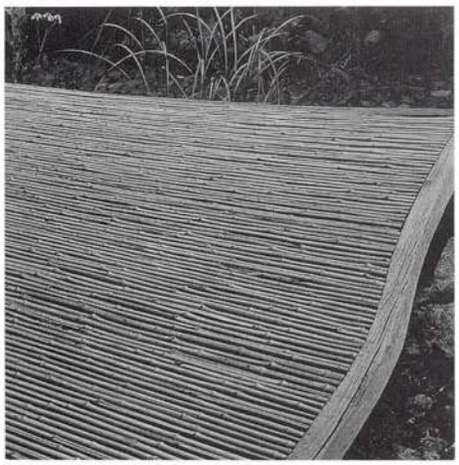


しなう

かつて私たちの生活の中には自然素材を巧みに利用した道具がたくさん見られた。その中には竹を使ったものも意外なほど多かった。竹が日常の道具として愛されてきた理由を考えてみると、強くて軽い性質がある。さらに編まれた竹の道具は一層強い。その強さは竹のしなやかさにある。

細い竹が高く伸びて風にしなっているのを見ることがあるが、折れることはない。竹は繊維が強く、力が係ってもそれを受けて曲がり、もとに戻ることができるのである。竹の強度は木と鉄の中間で、強度テストによるとモウソウチクは、圧縮、引っ張り、曲げのいずれもヒノキの約1.5倍から２倍の大きさを持つ。

竹は温暖な気候を好み、ほぼ日本中に分布している。西日本ではモウソウチクとマダケをよく目にする。竹細工には主にマダケを用いる。日本以外にも竹は分布している。東南アジアにあるバンブーといわれる種類は空洞が少なく加工には向かない。このように気候や種類の違いで竹細工に適さない素材も多い。





爽やぐ

私たちはこうした竹の特徴と恵まれた風土を十分に理解し、日々の生活の中で巧みに利用してきた。特に口や手など、素肌に直接触れる物の中には、竹で出来たものがとても多かった。今でも箸や楊枝、杓子などは竹を使っている家庭も少なくない。知らないままに清潔な素材として認識している。竹林に生えている時から、その艶やかな表皮に触れ、感じているのである。

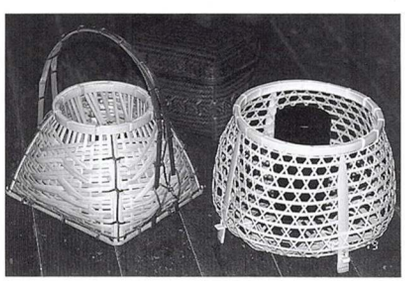
実際、竹の表皮はとても緻密で、水を掛けてみるとコーティングでもしてあるかのように水滴が滑り落ちていく。この質感は高温多湿な日本の風土においては、たいへん貴重なものである。かつて庭先に見られた竹を並べた縁側は、家の中を素足で歩く習慣をもつ日本人が、蒸し暑い夏を心地よく過ごすために考えた優れた床材であった。

編む

私たちは竹を割いたり編んだりして日用品をつくってきた。竹は籠や器になっても清潔さを損なうことはない。むしろ編まれることによって光を透かして清涼感を増す。

竹細工では、籠などをつくることを編組（へんそ）と呼ぶ。その編み方は基本的なもので８種類。その応用となると数百種という多様さである。ひと通り覚えるだけでも10年はかかるという。そして、この技は縄文時代から竹工の手で連綿と受け継がれてきたのである。今では伝統工芸としての価値まで見いだされるその技は、竹の長所を余すところなく使っている。

細く割かれた竹ひごは、それだけを見れば弱いものであるが、これを縦横斜めにと編むことによって強い製品が生まれる。例えば、ザルは竹のしなやかに曲がる性質を使って半球状に編む。竹は曲がっても、真直ぐな形に戻ろうと反発するために強さが生まれる。その強さは人が乗っても壊れない。色々な手法で編まれたザルや籠は生きているものだけが放つ緊張感をもって私たちを感動させる。そして編目の美しさは見るものの眼を選ぶことはない。



新（あら）たし

茶道では今なお多くの竹製品が使われている。竹が茶道に残ったのは、その質素で清潔な美しさが茶の精神に繋がるからであろう。利休がつくり上げた美の世界は、プラスチックなどの新しい材料で代れるものではなかったのである。日用品がプラスチックに代ったのは、美しさに対する妥協があったのではないだろうか。竹は決して高価なものではなかったはずである。安易な普遍性を求めたために、日常生活から美しさを遠ざけてしまったのである。

竹は生れてから枯れて土となるまで、休みなく私たちに恵みを与えてくれる。土から高くそびえる姿を観賞し、時に食し、その皮でものを包み、繊維をとって紙を漉き、布を織る。竹は成長過程のすべてを私たちの生活に提供してくれる。再び目を向ければ、これからも限りない恵みを与え続けてくれるのである。

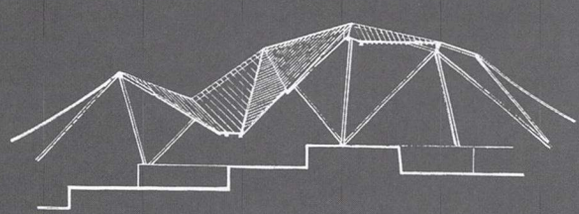
竹の柱にかやの屋根

竹と日本文化は切っても切れないほど深い関係がある。すぐ思いつくのは竹取物語。そのロマン豊かなストーリーに、日本人がいかに竹に囲まれて生活していたかを知ることができる。「古事記」や「日本書紀」は竹が天下の良材であると記し、弓矢、槍、柄杓、箸、簾など幅広い用途を伝えている。その後も武道や茶道、華道が盛んになり、竹の需要も増し、文化の発展に貢献した。いずれも竹の性質を生かして、竹ならではの清楚な美しさをつくりだしていると言える。

竹の柱は限られた数寄屋で使われるだけであるが、濡れ縁、窓の連子、壁の小舞、屋根裏、簀の子など住まいに竹はつきものだった。また、外回りでも垣根や雨樋などに多用されていた。数え上げればきりがない。また、資材が著しく不足した昭和の初めに、鉄の代わりに竹を用いた竹筋コンクリートも実用に供されたと聞く。まったく窮すれば通ず、知恵があちこちで見られたようである。

日本の匠は木の素性を知り尽くし、それを余すところなく生かし、その美を磨き出した。それは竹に対しても同じである。木にはない無機的にさえみえる軽くて爽快な働きを引き出し、情緒的表現とともに抽象的な造形にも活用した。日本建築の美しさは、そうした木と竹のアンサンブルにあるといっても過言ではない。

竹は木でも草でもない植物といわれる。竹の子が一雨ごとに10cmも伸び、やがて３～４年で親竹に成長する。木であれば20年はかかるであろう。竹は草のように早く成長するのに木と同じ多年性で堅くなる。森林資源の枯渇が心配されている今、木に変わる新素材として竹をさらに活用する時がきていると思う。「竹の柱にかやの屋根」この人と自然そして資源に優しい建築を見直したいものである。



協力　石田竹美斎

誰もが暮らしやすいまちづくりを目指して―京都府福祉のまちづくり―

杉山京子
京都府福祉のまち推進室長

高齢社会を迎え、障害者や高齢者をはじめすべての人が安心して快適に暮らし、自らの意思で自由に移動し、社会に参加することのできる「福祉のまちづくり」が重要な課題となっている。

京都府では、この福祉のまちづくりを進めるため、平成7年3月に「京都府福祉のまちづくり条例（以下「条例」という。）」を制定し、同年10月から施行している。

福祉のまちづくりの推進

1．条例の適用

条例では、病院、飲食店、物品販売店など不特定多数の人が利用する建築物や道路、公園、駐車場を「まちづくり施設」とし、これらの施設について、出入口・廊下・階段・エレベーター・トイレなどを、障害者や高齢者をはじめすべての人が利用する際の安全性及び利便性に配慮された整備の基準（以下「整備基準」という。）に適合させるよう努めなければならないとしている。さらに、まちづくり施設のうち、社会生活を営む上でより重要と認められる施設を「特定まちづくり施設」（**表1**）とし、整備基準への適合を義務付けている。

なお、条例の実効性を高めるため、条例の制定とともに建築基準法施行条例の改正を行い、同時に施行した。

また、この条例の特色としては、1200年の歴史を持つ京都が有する歴史、文化、学術等の世界的な蓄積を、すべての人が享受できる環境づくりを進めるため、全国に先駆けて、神社・寺院等をも条例の対象としたことである。

表1　特定まちづくり施設一覧

用途		手続きが必要な施設の規模
学校		すべてのもの
博物館・美術館・図書館		
病院・診療所（病室のあるもの）		
福祉施設		
公会堂・集会場		
火葬場		
飲食店・物品販売店	*	500㎡を超えるもの
体育館など	*	1000㎡を超えるもの
劇場・観覧場など	*	
展示場など	*	
遊技場	*	
ホテル・旅館	*	
公衆浴場	*	
共同住宅・寄宿舎		3000㎡を超えるもの
事務所		
工場		5000㎡を超えるもの
官公庁舎など		すべてのもの
電気・ガス事業者などの営業所		
銀行など		
理容・美容所	*	500㎡を超えるもの
旅行代理店など	*	
その他のサービス店舗	*	
神社・寺院・教会		
各施設の併用	（*のあるものに限る）	2000㎡を超えるもの
駅・停留場		すべてのもの
港湾旅客施設		
バスターミナル		
地下街		
道路		
都市公園		
遊園地・動物園・植物園		
駐車場（路外）		50台以上のもの

2．手続きと整備基準適合証



図1　「整備基準適合証」

特定まちづくり施設を設置しようとする場合には、建築確認に先立ち工事着手前に知事への事前協議を行い、工事完了後に届出を求めている。これらの協議と届出によって、施設が整備基準に適合しているかどうかを確認し、適合しているものについては「整備基準適合証」（**図1**）を交付している。この整備基準適合証は、その施設が整備基準に適合していることを示すとともに、事業者に施設の適切な維持管理が継続されるように促す役割を果たしている。なお、平成10年3月末現在、府内の301施設に交付している。

3．整備の基本的な考え方

具体的な整備基準の内容は、施設の状況等によってそれぞれに定められているが、いずれも以下のような考え方を基本としている。

・利便性　整備のための基本的な考え方は、すべての人にとって施設を利用しやすくしようということである。誰もが必ず老いを迎え、また、障害者となる可能性があるという認識の下に、誰でも施設を利用でき、そこで同じようにサービスを受けられるようにすることが求められる。

・安全性　施設内でどうしても危険を伴う場所、たとえば、階段などでは手すりや視覚障害者誘導用ブロックを設置する、床は滑りにくい材料を使うなど、安全への配慮が大切である。

・共通性　障害者や高齢者のための特別なものを別途用意することは必ずしも必要ではない。トイレの設置にしても「車いす用トイレ」ではなく、子供連れの方など「誰もが使えるトイレ」としてすべての人が使えるということが大切になる。

また、これ以外にも、自然な動線を考慮した移動の連続性、デザインにも配慮された快適性、誰にでもわかりやすい明快性などへの配慮を重視している。

4．事業者、市町村に対する支援

京都府では、福祉のまちづくりを総合的に推進するため、事業者や市町村に対し、様々な財政支援を行っている（**表2**）。

平成9年度には、近鉄新田辺駅（京田辺市）に新方式のエレベーター（出入口が直角2方向）を全国に先駆けて設置する事業に助成を行うなど、京都府の助成の積極的な活用により安全で快適な環境づくりが進められている。

福祉のまちづくりの普及啓発

福祉のまちづくりはハード整備だけで進められるものではない。施設の整備とともに、すべての府民が福祉のまちづくりについての理解を深め、地域社会の一員として共に生き、共に支え合う意識づくりも重要である。

1．京都府福祉のまちづくり推進協議会

「京都府福祉のまちづくり推進協議会（会長・蜂須賀弘久神戸女子短期大学学長）」は、学識経験者や建築、福祉、経済、行政など計70の団体等で構成され、平成6年3月に設立されて以来、福祉のまちづくりの普及啓発の推進母体となっている。福祉のまちづくりは府民総参加による息の長い取り組みであることから、京都府は協議会とともに、シンポジウムや府民講座の開催など、様々な府民への

表２　推進事業一覧

事業名等	趣旨	実績
鉄道駅舎エレベーター整備事業 補助対象　乗降客5000人以上/日 段差5m以上 補助率　鉄道事業者が実施 府・市町村　1／4 市町村が実施 府　1／3 補助限度額　鉄道事業者　25,000千円 市町村　33,333千円	特に重要なアクセス手段である鉄道の利用を促進するため、駅舎エレベーター整備に対し補助を行う。	京阪中書島駅 京阪丹波橋駅 近鉄新田辺駅
まちづくり施設整備促進事業(利子補給) 補給対象　条例に定める既存のまちづくり施設の改修 補助率　年利率2.3%との差 補助期間　5年間	既存施設の整備を促進するため、整備改修のための借入資金に対し利子補給金を交付する。	京阪中書島駅 京阪丹波橋駅
歴史的文化財共有のための環境づくり推進事業 補助対象　国・府指定文化財を広く公開している寺院等の改修 補助率　府1/2 補助限度額　5,000千円	広く利用できる文化財保有施設について、京都が有する歴史や文化をすべての人が共有・享受できるよう条例に基づく整備を進める。	西本願寺 平等院 醍醐寺 成相寺 東福寺
福祉のまちモデル地区整備促進事業 補助対象　市町村が行う重点地区整備計画策定等 補助率　府1/2 補助限度額　2,500千円	公共性の高い施設について、連続的な移動を確保できるよう面的な整備を促進するためモデル地区を指定し計画的な整備・改修を実施する。	宮津市 城陽市 亀岡市 京田辺市
障害者等の住みよい街づくり推進事業 補助対象　生活環境改善事業 住民啓発事業　等 補助率　府　1/2 補助限度額 市　5,000千円(3年で計10,000千円以内) 町村　2,500千円(3年で計5,000千円以内)	市町村の既存の公共施設、道路交通安全施設等の改善を図り、障害者等の住みよい街づくりの推進を図る。	府内34市町村で実施。平成９年度は１市３町１村(宮津市、山城町、岩滝町、弥栄町、南山城村)

普及啓発を行っている。

２．福祉のまちづくり100選

福祉のまちづくり100選は、府民や事業者の方々の福祉のまちづくりに対する関心を高めるための施策の一つとして、京都府内に実在する障害者や高齢者への配慮や工夫がなされている建物や取り組みなどを紹介した事例集である。この選定に当たっては、府民の方々からの推薦を基にし、前述の「京都府福祉のまちづくり推進協議会」の意見を得て、平成９年３月に100事例を選定した。この中では、移動、衣食住、教育・文化、文化財（京都らしさ）、レジャー、設備・機器の６つの分野に分類して写真を数多く盛り込んだ事例集としてまとめ、広く情報発信を行った（**写真１、２**）。



△写真１　竜安寺の石庭ミニチュア
視覚障害者に方丈庭園（史跡及び特別名勝）の配置が理解できるようにミニチュアを設置



◁写真２　京都府立植物園の観覧温室
大温室を車いすのまま見て回れる。温室内に車いす使用者が利用できるトイレも

３．啓発ビデオ「まちのやさしさウォッチング」

平成９年度には、府民一人ひとりに福祉のまちづくりについて考えていただけるよう、啓発ビデオ「まちのやさしさウォッチング」を作成した。このビデオは「福祉のまちづくり100選」の事例などを数多く織り込みながら、主人公の小学生と車いすの女性との交流を通し、「福祉のまちづくり条例」の理念、まちの現況や課題などについて考える契機となるように配慮している。

４．「さあ　でかけよう！公園・スポーツ施設ガイドマップ」

障害者や高齢者の方々の社会参加の機会の増大に応えるため、府内で利用の多い公園・スポーツ施設について、施設やその周辺地域などをわかりやすく紹介する「さあ でかけよう！ 公園・スポーツ施設ガイドマップ」を作成した。公園・スポーツ施設について、車いすの方も利用できるトイレや駐車場の位置など施設の現況とともに、車いすの方が一人で行けるルートや介助があれば行けるルートなどをイラストを使ってわかりやすく表示している。なお、平成10年度は、引き続き、美術館や寺社等の文化施設についてのガイドマップを作成していく予定である。

今後の取り組み

条例の施行後、福祉のまちづくりの気運は高まりつつあり、府内各地で利用者の利便性・安全性に配慮された施設が増えてきている。

たとえば、ＪＲ西日本京都駅ではすべてのホームにエレベーターが設置され、また、京都市営地下鉄東西線ではすべての駅にホームドアが設置されることにより視覚障害者等の転落事故を防ぐなどの配慮や工夫がなされている。

すでに建築されている施設についても、地形や敷地など様々な制約がある中で、条例の趣旨を活かす改修がなされ、障害者や高齢者の外出にとって欠かせないエレベーターや車いす対応型トイレの設置、また寺院等では車いすの方の拝観を容易にする通路の整備などが行われている。

また、「男山（おとこやま）京都府歴史的自然環境保全地域（八幡市）」においては、散策路への手すりやスロープの設置、点字の樹名札や車いすに対応した休憩所やトイレの整備など、障害者や高齢者をはじめ、誰もが安心して自然と触れあえる施設の整備が行われ、五感を使って自然を体験するネイチャーフィーリング観察会等の開催、車いす利用者や視覚障害者の自然観察マニュアルの作成など、新たな取り組みが展開されている。

「整備基準適合証」にも用いられている福祉のまちづくりのシンボルマーク（**図２**）は、K（Kyoto-fu）F（Fukushi）M（Machizukuri）の３つの文字からできており、高齢社会を迎え、障害者や高齢者をはじめ多様な人が互いに理解し、地域社会で共に暮らす姿をデザインしたもので、ノーマライゼーションの理念を表現している。このシンボルマークの理念の下、「障害者や高齢者の暮らしやすいまちはすべての府民にとっても暮らしやすいまち」を合言葉に、今後とも京都府をはじめ国、市町村の行政はもとより、民間事業者及び府民が一体となって、京都らしい文化と福祉がとけあうまちづくりの実現を目指すこととしている。



図２　「福祉のまちづくりシンボルマーク」

（すぎやま　きょうこ）

滋賀県立琵琶湖博物館　テンションマリオン構法

和久井　智
旭硝子㈱硝子・建材事業本部技術開発部部長補佐

滋賀県立琵琶湖博物館は、草津市の琵琶湖岸の烏丸半島に位置しており、建物の前面には琵琶湖の美しい大自然が広がっている。琵琶湖と人間のかかわり合いを通じて「人間と湖のよりよい共存関係」をつくり出すことを設置理念として建設されている。

建物は、本館棟と水族館棟から構成されている。

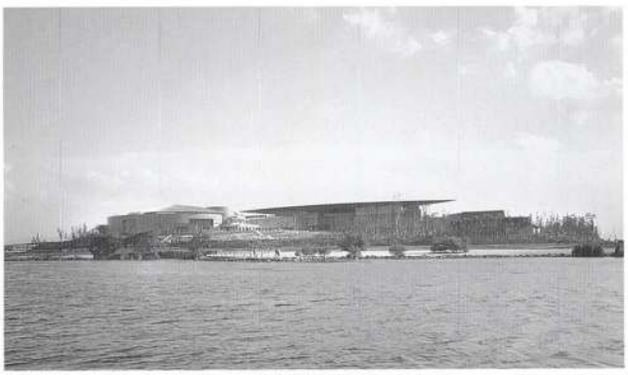


写真1　湖岸からの博物館全景　撮影 東出清彦

本館棟は、湖上交通の主力であった丸子船の船底をイメージした全長120mにおよぶ三日月形平面形の木張りの大天井を持つ建物である（**写真1**）。この大天井の下には、透明感のあるガラスファサードが施工され、湖岸側から建物を見ると、ガラスファサードによってその上に船底をイメージした大天井の丸子船が浮き上がって見える。また、建物内部から外を見ると、このガラスファサードによって眺望の良さと開放感が実現され、「琵琶湖を見ることから、この博物館のストーリーが始まる」というコンセプトが具現化されている。

設計・監理　滋賀県土木部建築課、日建設計
施　　工　本館棟／竹中工務店
　　水族館棟／辻寅建設、笹川組、伊藤工務店 JV

テンションマリオンの概要

この高さ9～12m、総延長100mにおよぶ巨大で透明感あふれるガラスファサードは、「テンションマリオン構法」により施工されている。

「テンションマリオン構法」は、ガラスの持つ透明性を最大限に引き出した構法の一つである（**写真2、3、図1**）。

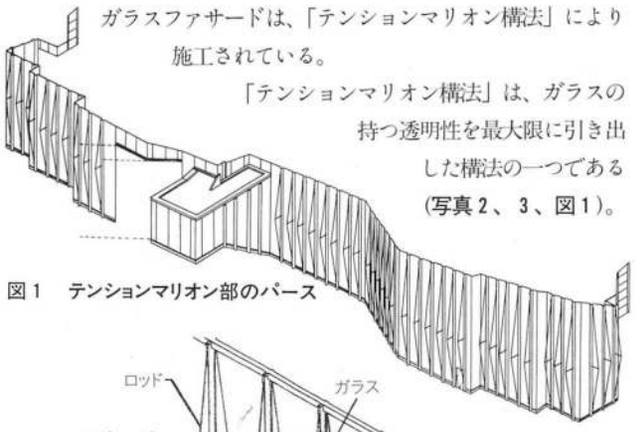


図1　テンションマリオン部のパース

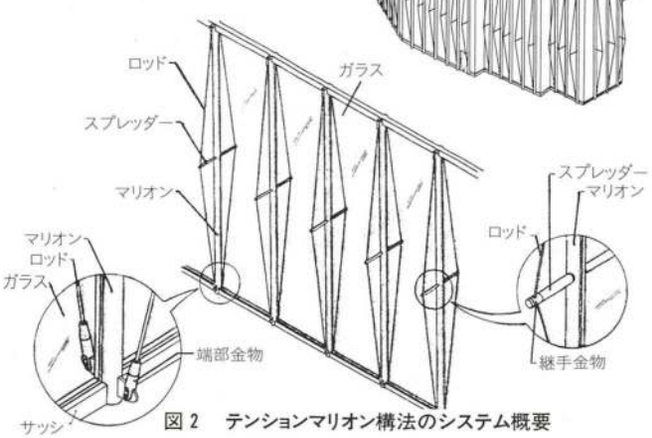
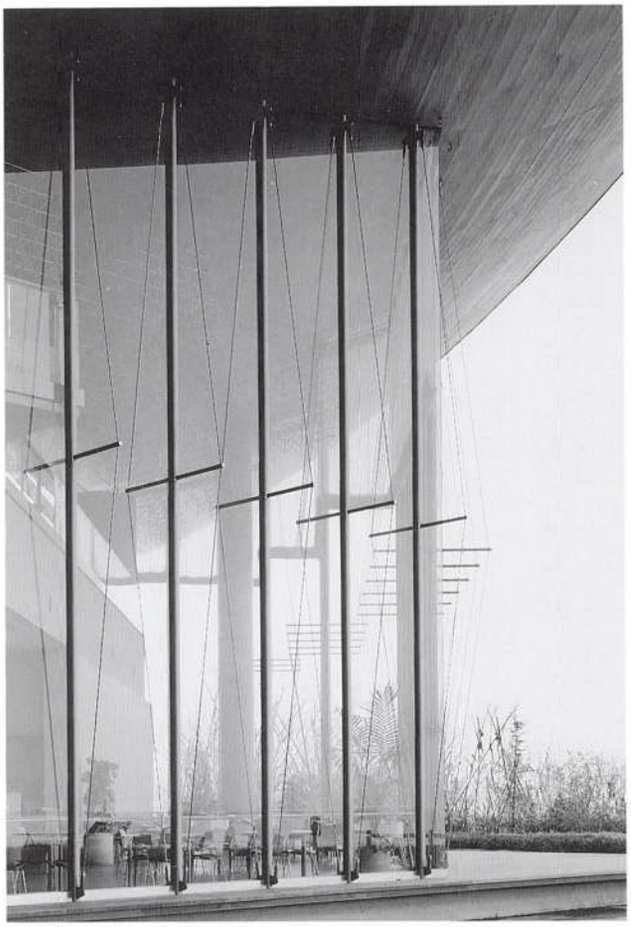


図2　テンションマリオン構法のシステム概要



▲写真2　外観　撮影 大野繁



▼写真3　内観

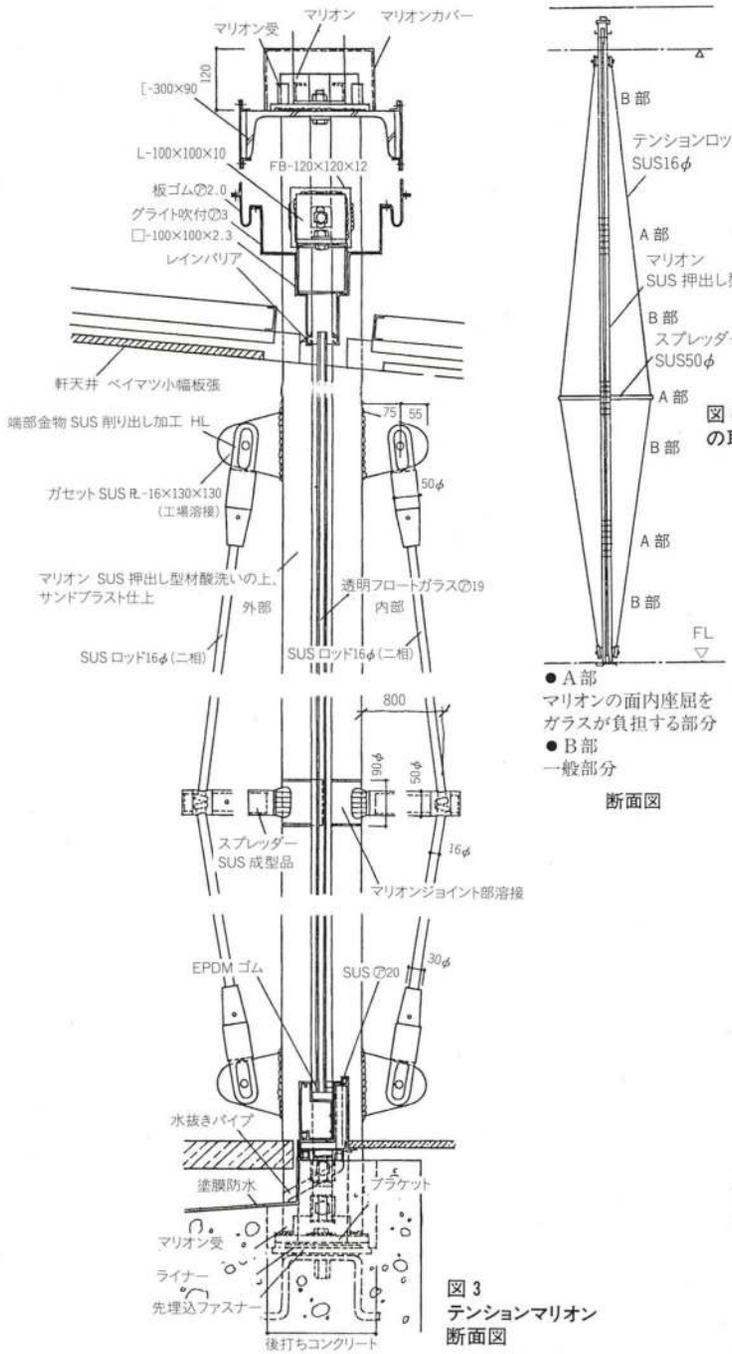


図3
テンションマリオン
断面図

● A部
マリオンの面内座屈を
ガラスが負担する部分
● B部
一般部分

断面図

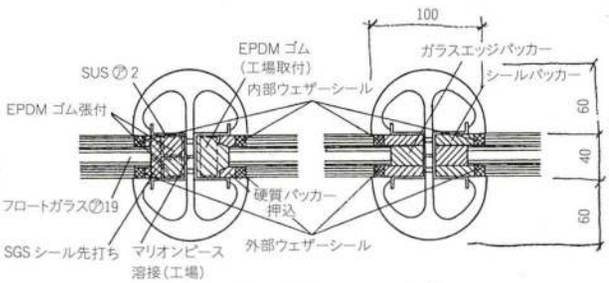


図4　マリオンとガラスの取り合い

A部（横座屈防止）　　B部
マリオン SUS 押出し型材・平断面図

いかにガラスの支持部材の構成を細く、かつシンプルにするかを追求するため、ヨットの技術を随所に取り入れている。

ガラスを支持するテンションマリオンは、ヨットのマストのような構成になっている。できるだけ目立たないように細い部材で構成し、視界を遮る無目を取りやめ、縦のマリオン（方立）を強調したシンプルな構成となっている。

マリオンは、最大高さが12mあり、アルミに比べて強度が高いステンレス材を用いた押し出し成型品である。断面の大きさは、見込寸法が160㎜、見付寸法が110㎜の楕円形をしている。このマリオンの高さ中央より水平材（スプレッダー）が室内・室外に突き出ている。このマリオンの上下端とスプレッダーの先端を、ロッド材でつないで、ヨットのマストのような菱形の形状をしたテンションマリオンを構成している（図2）。このロッドは16φ二相ステンレスでできており、約3.6tの初期張力が導入されている。16φのロッドは、高さ12mのガラスファサードに比較すると非常に細く、少し離れるとほとんど目立たない。

このテンションマリオンに、ガラスがはめ込まれている。ガラスは高さ9～12m、幅1.5m（コーナー部分では0.75m）、厚さ19㎜のフロートガラスを床置きにして用いている（図3）。

ガラスが風圧力を受けると、その力がテンションマリオンに伝わる。テンションマリオンは細い部材で構成されているが、菱形をしたトラス構造となっているため、風圧方向の力に対し十分に耐える構造となっている。

一方、マリオンには軸方向の圧縮力が加わるため、風圧方向と直交する方向に対しては横座屈しやすくなる。通常はマリオン同士をつなぐ無目によりマリオンの横座屈を防ぐのだが、本構法では透明性を追求するために無目を用いていない。そこで、ガラスの面剛性によりマリオンの横座屈を防止するという、今までにない設計手法を採用した。図4に示すように、マリオンの高さ方向3点（A部）において、マリオンとガラスの間の隙間をEPDMゴムと高モジュラスシールでふさぎ、マリオンの横座屈防止を行っている。

また、ロッドの上下の接合点をマリオンよりも室内外に出すことにより、風圧を受けてもスプレッダーの先端が横方向に回転しないように工夫し、スプレッダー同士を結ぶ横つなぎ材が不要となり、すっきりとした外観を可能にした。

部品設計

部品設計においても、ヨットの加工技術を随所に取り入れ、部品をコンパクトにすることを追求した（図5）。

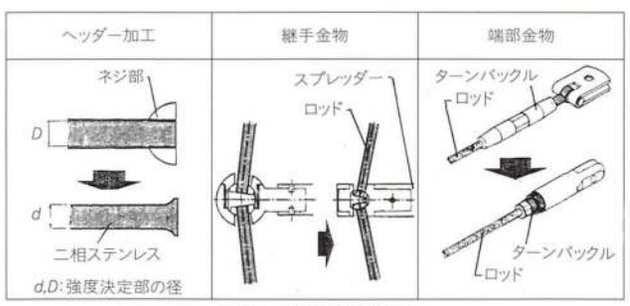


図5　各種部品概要

(1) 二相ステンレス製ロッド

ロッドには16φの二相ステンレスを用いている。二相ステンレスは、一般のステンレスに比べ高強度でかつ耐久性に優れているため、径を小さくできる。二相ステンレスは、ヨットや飛行機の部品には使われているが、まだ建築構造材としてそれほど採用されていない。強度、耐久性に優れているため、今後は建築構造材としても使われる材料と考える。

(2) ロッドのヘッダー加工

通常のロッドの両先端はねじ加工されており、ロッドの強度はねじの谷部分が一番弱いので、ロッド径は太くなってしまう。しかし、

本構法では、ヨット部材で使われている「ヘッダー加工」と呼ばれる冷間プレス加工により、ロッドの両先端の径を一般部の径より太くしている。そのため、強度的に弱点になるねじ部がないため、16φという細いロッドの使用が可能となった。ヘッダー加工した二相ステンレスのロッドの使用により、ねじ切りした一般のステンレスロッドに比べ、2回りほど細い径のロッドの使用が可能となった。

（3）上下のロッド同士をつなぐ継手金物

スプレッダーの先端につく、上下のロッド同士をつなぐ継手金物は、一般には大きな断面が必要となってくる。しかし本物件では、ロッドのヘッダー加工の形状を生かし、スプレッダーと同径の継手金物とし、あたかも継手金物なしでロッド同士が連結しているように見えるような機構となっている。

（4）コンパクトな端部金物

一般に、ロッド材の途中にはターンバックルがついており、張力導入や長さ調整に使われている。本物件ではターンバックル機能を内蔵したコンパクトな端部金物を採用し、シンプルなデザインとなっている。またターンバックルの共回り防止機構も端部金物に組み込んだため、通常2人必要なターンバックルの回転作業が一人でできて、施工費の低減に役立っている。

張力計

ロッドに加える初期張力は、今まではロードセルや歪みゲージ、音による判別などで測定されていたが、簡便性、メンテナンス、測定精度などすべてを満足する方法がなかった。本物件では新たに開発した「張力計」を用いてロッドの初期張力を測定した(**図6**)。

張力計には両端2点の支持点と中央1点の支持点があり、この3点をロッドにひっかけて張力計を取り付けて、端部の支持点を一定量動かすことにより、ロッドに一定の変形角を生じさせる。その変形角を生じさせる分力を測定し、その分力からロッド材の張力を換算して求める測定器である。施工性を考慮し、軽量かつコードレスで操作も簡単である。引き渡し後にもロッドの張力変化の定期測定が可能であり、メンテナンス時に迅速な対応が可能となった。

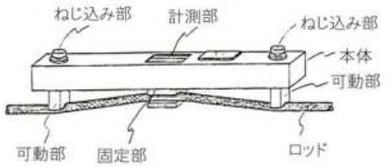


図6　張力計

もともと張力計は、ケーブル材の張力を高精度に測定するために開発した測定器であり、ロッドに使用するのは本物件が最初であった。ここで一つの問題があった。真円であると考えていたロッドの断面が製造誤差から真円でなかったため、張力計の支持点に一定量の変形を加えても、張力計を取り付ける位置によりロッドに生ずる変形角が微妙に異なってしまい、張力の測定値にばらつきが生じた。しかし、最終的には支持点の接触部の形状を修正することなどにより、張力の測定誤差を±5%に抑えられた。

実大実験

実際の施工に入る前の設計段階において、風圧を受けたときのロッドの張力、テンションマリオンの変位の確認を行うために、高さ11mの実大サイズの試験体を用いた試験を行った（**図7**）。

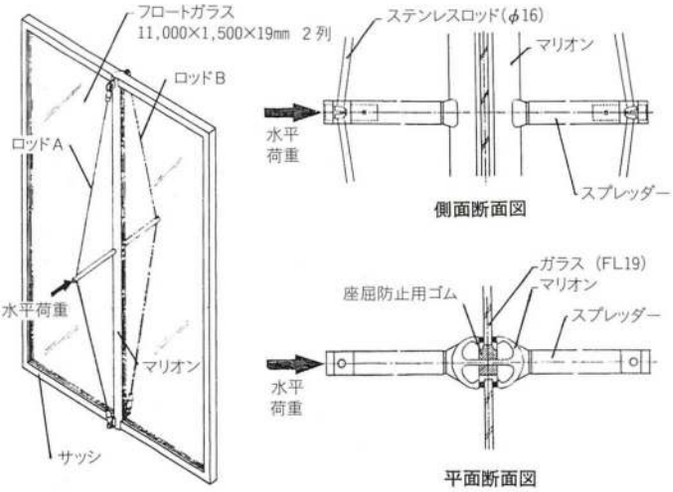


図7　実大強度試験概要

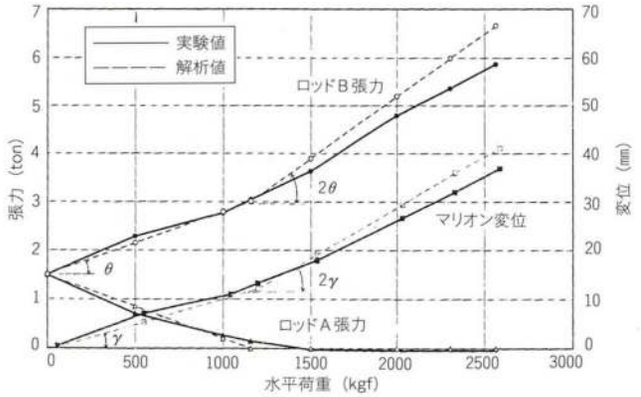


図8　水平荷重と張力・変位の関係（初期張力1.5ton）

試験を行った際の水平荷重とロッドの張力、マリオンの水平変位との関係の実験結果の一例を**図8**に示す。点線で、幾何学的非線形を考慮した解析値も併記する。図8からも分かるように、実験値と解析値が非常によく一致し、解析の有効性が確認できた。

また、ロッドに初期張力3.5tを導入し、風圧相当の水平力を加えても、マリオンの横座屈を止めるためにガラスに発生する応力はほとんど0tであり、マリオンの横座屈の心配がないことを確認した。

最後に

ガラス透明建築を遂行するにあたり、ガラスは透明材として扱われ、外からも内からも高い「ガラス透明美」が求められる。しかし、ガラス透明美を追求すればするほど、ガラスを支えている支持部材が目立ってくるため、支持部材の断面を細くし、構成をシンプルにし、美しくデザインした「支持構造体の構造美」が求められる。すなわち、「ガラス透明美」と「支持構造体の構造美」の両立が求められる。

それを実現するために、テンションマリオン構法では、ヨットの加工技術、知識を随所に取り入れた。ヨットの部材は、高耐食性と高強度を求められる過酷な条件下で使われており、シンプルな全体構成になっている。例えば、ヨットのマストを連想させるテンションマリオンの形状、二相ステンレスの使用、ヘッダー加工などはヨットの技術の応用である。

今後は、ヨットに限らず、航空機などの建築以外の分野の知識が新しい建築の創造に役立っていくと思われる。

（わくい　さとる）

新しい消火装置 ガス圧式加圧送水装置

三皷伯志
ポエック㈱営業部開発1課課長

阪神大震災直後に停電や断水により消火する水が出なくなり、結果として大きな被害を出した。その時より、電気の要らない消火設備はできないかと考え、窒素ガスの圧力を利用したガス圧式加圧送水装置の開発が開始された。

今年1月、財団法人日本消防設備安全センターの審査を経て、ガス圧式加圧送水装置が従来の消火装置と同等の性能があるとして評定品に認められた。電気不要のガス圧式加圧送水装置「ウォータップ」として商品化することができた。



写真1　WAT6000

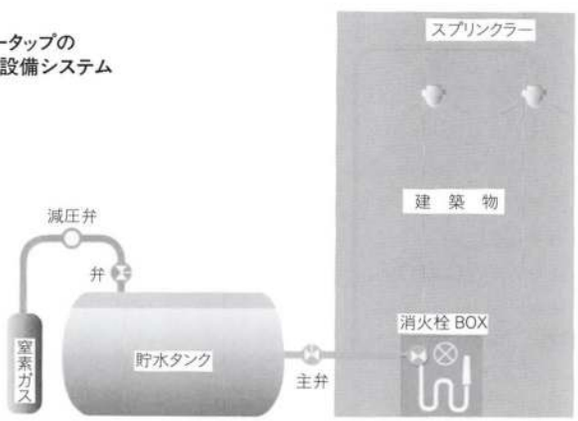
消火のしくみと特徴

高圧容器に貯蔵されている窒素ガスを、減圧弁により使用圧力に減圧をする。減圧された窒素ガスを圧力水槽に送り込み、加圧した状態にしておく。消火栓設備においては消火栓ボックスのバルブを開けることにより放水ができ、またスプリンクラー設備においてはヘッドの作動と同時に放水して自動消火ができる。

大きな特徴として、電気動力が不要になり、地震や火事で停電になっても確実に作動し消火作業ができる。また非常電源、自家発電機が不要になり、動力設備も含めて設備費の大きな軽減になる。受電設備が小さくてすみ、受電のしにくい山間地、島には多くのメリットがある。従来、設備のポンプなどは内部の水によりサビやかじりつきを起こすなど、経年変化による機械的な故障要因を数多くかかえているが、この「ウォータップ」は静止機器なので経年変化も少なく、窒素ガスに密封されており腐食もなく、非常に信頼性の高い装置である。また貯水槽の水も腐敗しにくく、非常用水として活用できる。吐出圧力は脈動もなく小流量から大流量まで安定した圧力が得られるため、放水時の圧力変動や振れが少なく、女性や老人でも容易に放水ができる。押し出すエネルギーの窒素ガス（N_2）は空気中に78%も存在し、不活性な気体であり、自然や環境にやさしく安全で、しかも安価なガスとして採用している。

消火のしくみを図1に示す。

図1
ウォータップの
消火設備システム



仕様・用途・構造

消火設備の屋内消火栓、屋外消火栓、スプリンクラー設備等の加圧送水装置として設置できる。圧力水槽（二種圧力容器）、減圧弁及び高圧容器（窒素ガス）で構成され、各設備に必要な20分間の有効水量が確保されている。（主な水量、吐出圧力は、**表1**を参照）。設置は、機械室、地下ピット、屋上などに可能である。

表1　標準仕様　　（）評定取得予定

	WAT3000	WAT4000	WAT6000	WAT16000
有効水量（ℓ）	3000	4000	6000	16000
定格吐出水量（ℓ／min）	130	200	260	800
定格吐出圧力（kgf／cm²）	(7.0)	(7.0)	(7.0) 6.0	(7.0) 6.0
最高静水圧（kgf／cm²）	(8.0)	(8.0)	(8.0) 6.9	(8.0) 6.9
圧力水槽・二種圧力容器（kgf/cm²）	9.9	9.9	9.9	9.9
設置ボンベ本数	5本	6本	10本	24本
吐出口径	40Φ	50Φ	50Φ	100Φ
評定品	（予定）	（予定）	取得	取得
用途	屋内消火栓 1号 2号	共同住宅 屋上設置	屋内消火栓 2栓用 1号	スプリンクラー 10コ

設置上の主な留意点

火災の恐れのない不燃区画で、直射日光の当たらない、高熱の発生しない場所に設置し、周囲温度は40℃以下に保つこと。窒素ガス容器の入れ替えや点検スペースの確保をしておく。屋内及び屋外消火栓箱での起動スイッチと起動灯は不要であり、取り扱い操作方法の標識についても、ガス圧式加圧送水装置用になる。施工・保守・点検は消防設備士、消防設備点検資格者のうちガス圧式加圧送水装置に精通した者が取り扱うこと。消防法施行令第32条の適用によるため、所轄消防署と協議のうえ計画を進める。

今後の展望

窒素ガスで水を押し出すガス圧式加圧送水装置は、今までにない全く新しい消火装置で、電気がなくてもバルブを開ければ放水できる。また、電気やエンジン動力を使わないため、排気ガスやCO_2などで地球環境を害さない消火設備でもある。一番多い住宅火災よる高齢者や子どもなどへの被害を最小限にとどめられるような一般住宅向け商品の小型化も計る。初期消火への信頼性を高め、人々の尊い命と財産を守り、安心で安全な暮らしを支える防災機器として今後、広く浸透していくと確信している。　（みつづみ　はくし）

型枠兼用断熱パネル

堤　正範
日本セメント㈱建材事業部特販課

はじめに

近年、熱帯雨林の伐採による自然破壊や、建設廃材の発生制御など、地球環境に対する負荷の低減が国際的な問題になっています。

一方、建築業界では、作業員の高齢化・若手作業員等の不足などによる労働力不足や、労働時間の短縮、労働生産性の向上などの対応が求められています。

特に、鉄筋コンクリート造建築物における型枠工事は、熱帯雨林材を原材料とした型枠用合板を大量に使用するため、地球環境に配慮した型枠への転換が望まれており、また、型枠工の技術を必要とする労働集約型の工事であるため、労働生産性が向上しにくい工事であるため、これらの改善が望まれています。

アサノマルチパネルとは

アサノマルチパネルとは、ビデオテープ、オーディオテープ等の磁気テープの製造時にメーカーから発生する磁気粉の付着した磁気テープ類の廃材を原料として、これを粉砕し特殊処理を行い、バインダーを加え、加工成型したパネルです。

特徴

アサノマルチパネルは型枠としての性能をもった断熱パネルであり、断熱材と型枠の組立作業が一度で済むほか、型枠の撤去作業もないため工程を短縮できます。

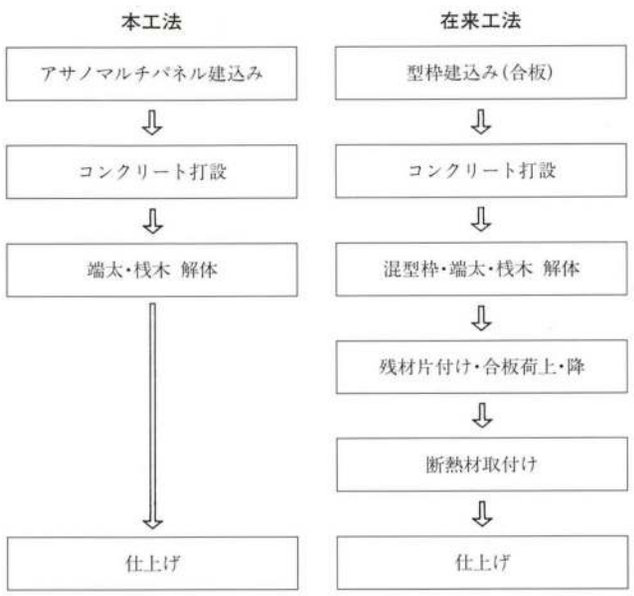


図1　在来工法との比較

表1　アサノマルチパネルの物性

項　目	単　位	特性値
密度	g/cm³	0.4
曲げ強度	kgf/cm²	48.9
接着強度	kgf/cm²	2.6
木ネジ保持力	kgf	12
熱伝導率	kcal/mh℃	0.04
防火性能		難燃3級

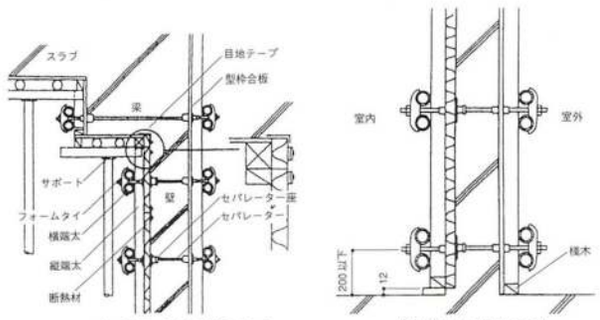
性能

断熱性能によるアサノマルチパネルの必要厚さは住宅金融公庫の断熱構造基準に準じると以下のとおりになります。

Ⅰ地区　コンクリート150㎜＋アサノマルチパネル30㎜＋内装仕上げ

Ⅱ地区　コンクリート150㎜＋アサノマルチパネル30㎜

Ⅲ地区　コンクリート150㎜＋アサノマルチパネル20㎜



スラブ一壁取合部建込み図　　壁部取合建込み図

図2　納まり参考図

まとめ

多数の現場施工により、作業性も問題のないことを確認しました。また、アサノマルチパネルは廃磁気テープを用いたパネルであり、リサイクルの観点からも「地球に優しいパネル」です。

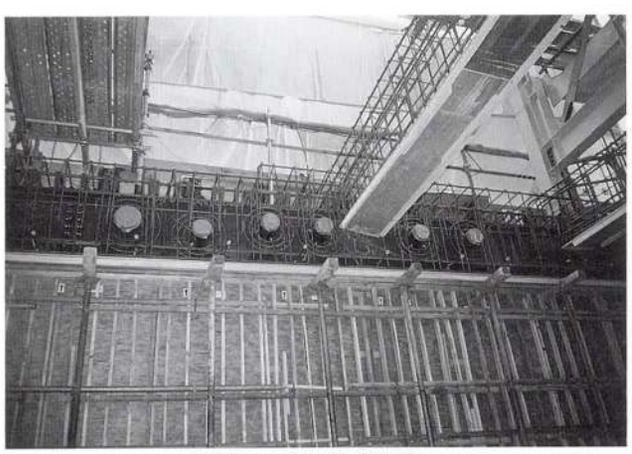


写真1　施工例（壁面）

予備電源・発電設備

谷本敏和
㈱きんでん技術本部 FM・BM 推進部部長

社会ニーズとして、電源の信頼性が強く求められていますが、最優先は人命の尊重であることは当然であります。したがって電力会社の停電対策として、防災電源・非常電源の確保は重要です。

一方、経営合理化のための省エネルギー化の電源システムや地球環境保全のための新電源の開発も進められています。

電源信頼性の確保

電力会社の停電対策としての発電機・蓄電池・UPS（交流無停電電源）設備などの切り替え方式の概要は、**図1**をご参照下さい。

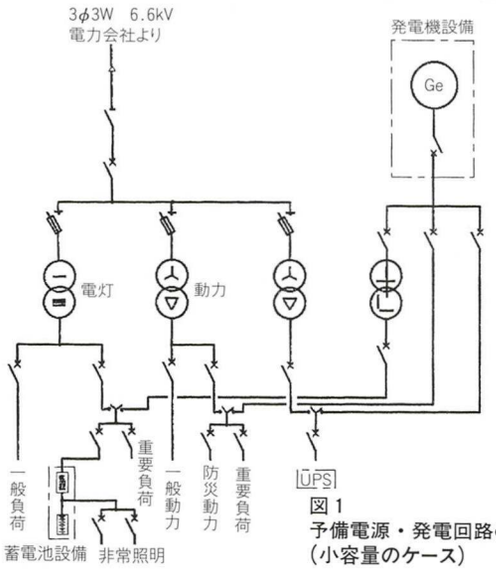


図1
予備電源・発電回路の概略結線図（小容量のケース）

(1) 自家発電設備

大きく区分して、**表1**に示す2種類が多く採用されていますが、その使用目的に応じた最適システムを採用します。

表1 ガスタービン発電機とデイゼル発電機の特性比較（超概要）

	冷却方式	燃焼用空気量	重量・スペース	振動	容量
ガスタービン発電機	空冷式	大	小	小	小容量なし
デイゼル発電機	水冷式	小	大	大	小～大まで

(2) 蓄電池設備

アルカリ蓄電池と鉛蓄電池の2種類がありますが(**表2**)、その使用目的に応じた最適システムを採用します。

表2 アルカリ蓄電池と鉛蓄電池の特性比較（超概要）

	寿命	公称容量	電圧	コスト
アルカリ蓄電池	長い	5時間率（Ah）	1.2V	高価
鉛蓄電池	短い	10時間率（Ah）	2.0V	安価

(3) 交流無停電電源装置（UPS）

コンピューター・OA・FAなどの重要負荷に対して、定電圧・定周波（CV・CF）の安定した電源を停電または瞬時電圧降下に関係なく供給する装置です。また発電機電源をバックアップさせ、長時間の供給も可能にしています（**図2**）。

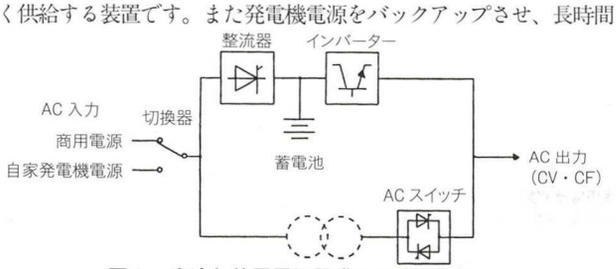


図2 交流無停電電源設備システム構成図

省エネルギー化（常用発電設備）

契約電力のピークカットによる電力料金の低減及び、安価な燃料とか排熱利用による常用発電を行い、エネルギーの低減化が進められています。**図3**にその代表例のコージェネレーションシステム（CGS）の概要システムを記述します。

当システムは、商用電源と並列に発電した電力を利用し、そのエンジンより発生する排熱を利用し、冷暖房や給湯などに利用するもので、その排熱が十分に活用できる施設では大きなメリットがあります。

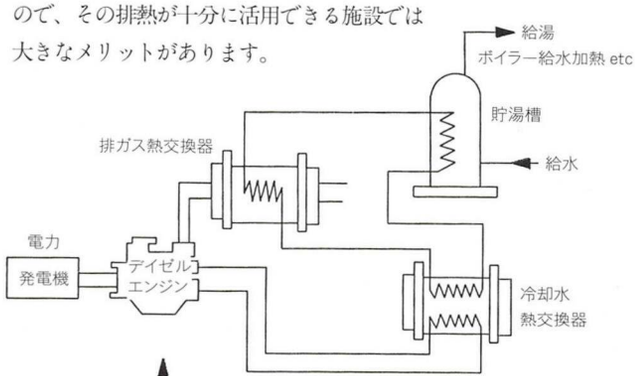


図3.1 システムフロー図

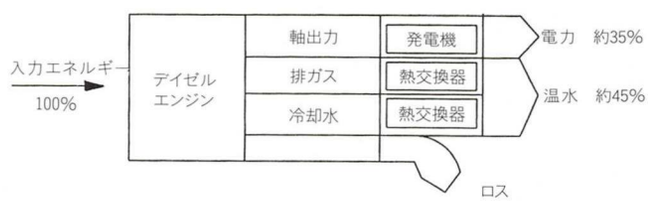


図3.2 デイゼルエンジンでのCGSのフロー図

地球環境保全のための新電源

昨年、京都国際会議場で開催されたCOP 3で、地球環境保全のための省エネルギー化の長期目標が設定されました。地球環境保全の問題上、将来ますます増加するであろうエネルギー需要に対応するために、以前よりクリーンエネルギーとしての新電源システムの開発が進められています。その概要を次に記述します。

(1) 太陽光発電システム

パネルに太陽光が入射すると、直接電気が発生するシステムで、すでに数十万kWのシステムが稼働しています。

ただし現状では、製品のコストが高く、また効率も低く、天候に左右されるという欠点があります。

(2) 燃料電池発電システム

燃料と酸素を電気化学的に反応させ、直接電気を発生させるシステムです。排熱を利用すれば高効率となります。

燃料には、天然ガス、LPG、石油、メタノール、石炭ガス等が利用されています。

(3) その他の発電システム

①風力発電システム
②地熱発電システム
等が現在すでに実用化されています。

（たにもと としかず）

GBRCニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9：00～17：15

建築技術安全審査委員会について

はじめに

当委員会は、昭和49年11月近畿建築行政連絡会議の要請により建築主事の諮問機関として発足し、同連絡会議が定める構造等取扱要領に掲げられた建物等の安全審査（以下「審査」という）を行うことを目的としています。同要領は、昭和56年６月の建築基準法施行令の改正に伴って建設省住指発第96号の通達を受けて改訂され、高さが45m（鉄筋コンクリート造は31m）を超えて60m以下の高層建築物についての安全性を判断する「評価」が追加されました。

なお、当委員会では近畿以外の地域の物件についても「評価」や「審査」を行っております。

運営

当委員会は、大学の構造系研究者及び構造技術者協会から推せんされた設計実務家で構成されており、月１回開かれる常任委員会において申込み案件を審議し、案件ごとに２～３名の委員からなる小委員会（部会）を設けます。詳細審議はこの小委員会で行われ、通常２～３回開かれます。審議終了後、担当委員により報告書（案）が作成され、常任委員会での審議を経て報告書が交付されます。

申込み方法

建築主事から建築確認申請予定物件について、当委員会の評価あるいは審査を受けるように指示された場合、下記の書類をそろえて、常任委員会開催１週間前までに当試験所にお申込み下さい。

なお、資料等の作成にあたっては、事前に当試験所と相談の上、進めていただくようお願いします。

○評価又は審査申込書（当試験所所定の用紙）……１通
○委員会用資料……22部

評価・審査の手数料について

基本手数料（税別）は、評価95万円、審査60万円です。

常任委員会での受付終了後、当試験所より申込者に対し、請求書を送付しますので、審議終了までに所定の銀行に振込んでいただくことになっております。

常任委員会の開催日

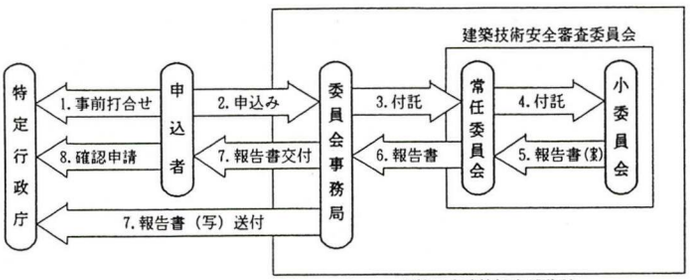
原則として第３火曜日です。平成10年度の常任委員会開催日は、6/16、7/21、8/18、※9/22、10/20、11/17、12/15

平成11年　1/19、2/16、3/16の予定です。

※９月のみ第４火曜日です

資料請求およびお問い合わせは、

当所　企画課庶務係（電話06-834-4775（直））までご連絡下さい。



建築技術安全審査委員会委員名簿　敬称略・50音順（平成10年５月１日現在）

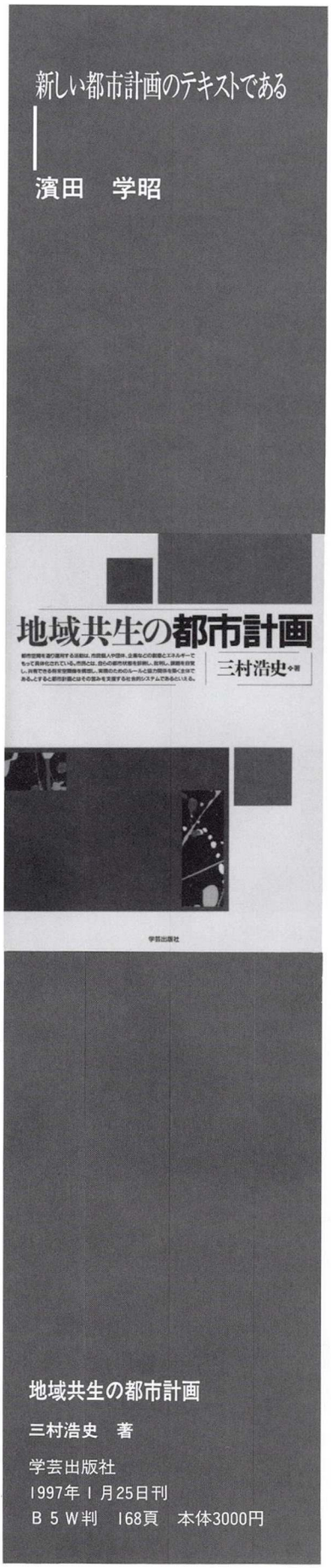
委員長
若林　實　㈶日本建築総合試験所顧問

副委員長
◎森田司郎　㈶日本建築総合試験所所長

委員
浅野幸一郎　関西大学教授
市之瀬敏勝　名古屋工業大学教授
○井上一朗　大阪大学助教授
○井上豊　大阪大学教授
○上谷宏二　京都大学教授
○大野義照　大阪大学教授
大場新太郎　大阪工業大学教授
○角徹三　豊橋技術科学大学教授
桂順治　京都大学教授
河野允宏　京都大学助教授
河村廣　神戸大学教授
日下部馨　神戸大学教授
國枝治郎　京都大学教授
○窪田敏行　近畿大学教授
甲津功夫　大阪工業大学教授
○小林克巳　福井大学教授
○近藤一雄　㈳日本建築構造技術者協会関西支部〔㈱東畑建築事務所構造部長〕
坂壽二　大阪市立大学教授
篠崎祐三　京都大学助教授
柴田道生　摂南大学教授
鈴木祥之　京都大学助教授
○田川健吾　福井大学教授
田才晃　大阪工業大学助教授
橘英三郎　大阪大学教授
○谷池義人　大阪市立大学教授
○田渕基嗣　神戸大学教授
○辻文三　京都大学教授
富永恵　京都大学助教授
中島正愛　京都大学助教授
中島茂壽　大阪工業大学助教授
中塚佶　大阪大学助教授
中村武　京都工芸繊維大学教授
永井興史郎　摂南大学教授
○長岡弘明　京都大学教授
西澤英和　京都大学講師
西村泰志　大阪工業大学助教授
野中泰二郎　京都大学教授
○馬場研介　大阪大学助教授
藤井栄　京都大学助教授
藤原悌三　滋賀県立大学教授
益尾潔　㈶日本建築総合試験所構造部長
○松岡洋　㈳日本建築構造技術者協会関西支部〔㈱大建設計大阪事務所構造室室長〕
松永裕之　摂南大学教授
○南宏一　福山大学教授
○室田達郎　㈶日本建築総合試験所理事
○八尾真太郎　関西大学教授
○山本豊弘　㈳日本建築構造技術者協会関西支部〔㈱昭和設計常務取締役〕
脇山広三　大阪産業大学教授
渡辺史夫　京都大学教授

◎印は、常任委員会委員長、○印は、常任委員会委員

書評



地域共生の都市計画

三村浩史　著

学芸出版社
1997年１月25日刊
Ｂ５Ｗ判　168頁　本体3000円

「地域共生の都市計画」というタイトルは、都市計画の新しいパラダイムを主張している。

本書は、人、地域から都市を見つめてこられた著者が、京都大学での全学共通講義ノートに最新内容などを加筆されたものである。冒頭に都市計画観と本書の位置づけがある。都市計画は、これまで建築・土木などの建設系の必須専門分野とされてきた、しかし今日では、建設系専門分野を中心に多様な他分野との連携を要する広範囲な「社会システム」として変化している。変化に応えるために、建設系専門家だけでなく、建設系外の専門家、市民などに都市計画を理解、学習してもらうテキストとしたいとの思いが述べられている。

「思い」の試みについて述べてみる。

第一は、都市計画に関わる人についての記述と位置づけ（本書の構成）である。全体５章構成の第１章で、都市計画の主体である市民、プランナー、コンサルタント、支援ボランティア専門家、学者・研究者、自治体行政スタッフなどの人の役割が述べられている。一般的テキストと比較すると特徴が顕著である。通常は、第１章では都市論、都市計画の歴史が記述される。さらに、これまでは市民など人についての記述は希である。あっても都市施設の利用者などとしての登場である。

第二に、人に対する位置づけは、都市計画とは何かという定義に発展する。第４章の「都市空間を造り運用する活動は、市民個人や団体、企業などの創意とエネルギーでもって具体化されている。市民とは、自らの都市状態を診断し、批判し、課題を自覚し、共有できる将来空間像を構想し、実現のためのルールと協力関係を築く主体である。とすると都市計画とはその営みを支援する社会システムであるといえる。」という文が表紙に再掲されている。都市空間を実現し、有用なモノとしているのは、都市計画の制度・事業でなく、根源的には市民などの人、団体の創造的エネルギーである。都市計画はエネルギーが結実するようにする支援システムである、との位置づけである。人、特に市民の都市計画への主体的、能動的な関わり、働きかけが期待されている。

第三は、構成の特徴である。同特徴として人についての記述が第１にあることに触れたが、その他に、５章構成の中で、都市計画の「計画論」が多様、多層な計画の調整として第３章の「計画の総合性」に、都市計画の「開発・実現論」が第４章の「市街地開発・居住地整備の仕組み」に、それぞれ全体の３分の１以上を割いて記述されており、この二つの章に重点が置かれている。さらに、最後の第５章に「これからの課題」として、本書の書名である地域共生の都市計画に向けての課題が語られている。網羅的に記述すると、都市計画の仕組みが見え難くなるので、意図的に明示的な構成にしたと思われる。

以上の他に、以下の内容が語られている。

都市計画としては、都市計画に関わる人が人材として育成できる計画プロセスが非常に重要である。主体となる市民の都市づくり能力の発達が都市計画の発展の基盤であるので、能力発達の支援が必要である。そのためには都市計画に関わるプランナー、コンサルタントには、計画策定のプロセスを企画、準備、支援する新しい専門家としての資質能力が求められる。

近代都市計画は欧米先進国の思想と実践の学習・導入から始まったが、他分野との共同作業が可能なプロセス、および、市民、プランナーなどが育成するプロセスを提供する社会システムとするなら、都市計画は借り物でなく人と地域に同化する必要がある。アジア地域への同化ではわが国における都市計画の成果が発信出来る。また、発信・交流に積極的な気持ちがあれば、人の育つプロセスをもつ社会システムとしての都市計画が発展すると述べて、発信交流に前向きに取り組む意義の大きさを語っている。

全体として「人間らしさ、地域らしさ」を追求する都市計画が語られている。多数掲載されている手書き的イラストはテキストに親近観を与えている。

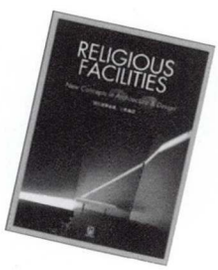
実際に利用してみると、建設系専門家でない人が少し本格的に都市計画を理解するテキストとして、専門家教育では第２のテキストとして極めて有用であると思われる。

（はまだ　たかあき／和歌山大学システム工学部
環境システム学科教授、都市計画家）

BOOK STATION
ブックステーション

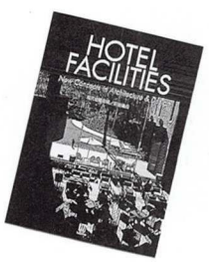
RELIGIOUS FACILITIES
New Concepts in Architecture & Design
現代建築集成／宗教施設
藤木隆男 監修

メイセイ出版
1997.6.20刊
A4判変形　224頁　本体15534円



HOTEL FACILITIES
New Concepts in Architecture & Design
現代建築集成／宿泊施設
柴田陽三 監修

メイセイ出版
1997.9.20刊
A4判変形　224頁　本体15534円



和風建築と竹
造作と意匠
和風建築社　企画・編集

学芸出版社
1997.12.10刊
A4W 判　144頁　本体5700円



建築基準法・大改正
建築の設計はこう変わる
建築基準法研究会 編著

日経 BP 社
1997.10.17刊
A5判　252頁　本体2800円



日経 BP・建築デジタルブックス・01
大江匡のデジタル・スタジオ
勝ち残るための CAD 環境構築法
大江匡、泉俊哉 著

日経 BP 社
1998.2.23刊
B5変形判　176頁　本体2800円



日経 BP・建築デジタルブックス・02
CG でよみがえる古代都市
NHK スペシャルにも登場した驚異の復元技術
大成建設設計本部 CG デザイン室 著

日経 BP 社
1998.2.23刊
B5変形判　168頁　本体2800円



都市・公共土木の CG プレゼンテーション
ーデザイン・コミュニケーションと合意形成のメディアー
榊原和彦 編著
小谷通泰・土橋正彦・山中英生・吉川耕司 著

学芸出版社
1997.10.20刊
B5W 判　176頁　本体3500円



「建築情報」整理・活用マニュアル
社団法人日本建築学会図書委員会
ドキュメンテーション小委員会 編著

学芸出版社
1997.10.25刊
B5判　200頁　本体2800円



BOOK STATION

[お知らせ] information

「江戸・東京モダン」展開催中

ＪＲ東京駅・赤煉瓦駅舎内の東京ステーションギャラリーで、「江戸・東京モダン―浮世絵に見る幕末・明治期の世相」展を開催中。

江戸幕末から明治30年代に最後の繁栄を迎えた浮世絵約200点（五雲亭貞秀、三代歌川広重、楊州周延、井上安治ら最後期の浮世絵師が画いた）で、激動の時代の政治、風俗、文化の変遷を紹介している。

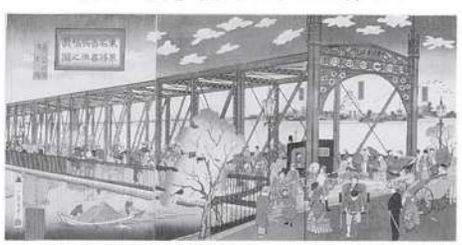
会　期　1998年6月6日(土)～7月20日(月・祝)
10：00～20：00(土日祝日は18：00まで)
＊7月20日を除く月曜日は休館

会　場　東京ステーションギャラリー(赤煉瓦駅舎)
(＊ＪＲ東京駅・丸の内中央口下車)

主　催　(財)東日本鉄道文化財団/東日本旅客鉄道㈱

入場料　一般800円、大高生600円、中小生400円

出　品　『浅草公園陵雲閣之図』(田口米作、1890年)、『東京汐留鉄道御開業祭礼之図』(三代歌川広重、1872年)、『芝公園紅葉館楼上之真図』(三代歌川広重、1881年)、『東京海運橋第一国立銀行の全図』(永島孟斎、1876年)、『貴顕舞踏の略景』(楊州周延、1888年)ほか



『東京名勝吾妻橋鉄橋之真図長八十六間巾七間』
1888年　小林幾英

1998年度「松井源吾賞」受賞者

わが国構造設計の向上発展に貢献した故・松井源吾氏の早稲田大学退職を記念し、1991年に「松井源吾賞」が創設され、毎年、構造設計者の功績をたたえている。第8回「松井源吾賞」の選考には、菊竹清訓（委員代表）・青木繁・内井昭蔵・小堀鐸二・佐々木睦朗の5氏があたり、受賞者は安藤欽也氏、丹野吉雄氏に決定。

●安藤欽也氏(あんどうきんや)／1944年2月東京生まれ 1967年法政大学工学部建設工学科卒業。㈱藤田組(現・フジタ）に入社。現在、建築本部エンジニアリング設計部担当部長。受賞対象はパークドーム熊本（設計／第一工房・フジタ共同体、施工／フジタ九州支店、構造／S造、RC造、ケーブル補強二重空気膜構造）

●丹野吉雄氏（たんのよしお）／1951年宮城県生まれ 1972年宮城高専建築学科卒業。1972年㈱竹中工務店入社、現在、東京本店設計部構造担当副部長。受賞対象は大館樹海ドーム（設計／伊東豊雄建築設計事務所・竹中工務店、施工／竹中工務店、構造／秋田杉大断面集成材アーチ構造屋根＋RC造）

『建築の20世紀展―終わりから始まりへ―』

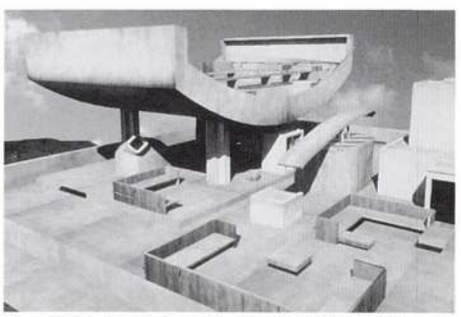
建築や都市の分野からこの100年間の変動を振り返り、それを革新と伝統という二つの関係性の枠組みの中で再考しようとする展覧会を、東京都現代美術館で企画。本展は、さまざまな要素が競い合い、その関係性の中で矛盾をはらみながら20世紀の建築は発展してきたとする史観に基づいた企画で、未来の人間と建築・都市との関係を展望するものである。

と　き　1998年7月10日(金)～9月6日(日)
月曜休館（ただし7月20日開館、7月21日休館)、10：00～18：00（金曜日21：00まで）

会　場　東京都現代美術館・企画展示室
東京都江東区三好4-1-1　TEL03-5245-4111
東西線・木場駅／都営新宿線・菊川駅

観覧料　一般1200円、小中高生600円

展示構成（一例）
- 世紀末の大計画：世界を秩序だてるマッピング
- 20世紀初頭の植民地主義
- バウハウスで近代的な教育と生活
- 田園都市とニュータウン：ヨーロッパ、米国、中東
- 荒廃と再建：都市の再建
- 今世紀後半における新しい首都の創造
- エコロジーの建築
- 構造の表現
- ユートピアのエッジ：巨大構造と社会資本
- 1960年代～70年代の建築理論の台頭



ル・コルビュジエ《チャンディガールの知事公邸》1953年
チーム・アンビルトによるコンピューター再現イメージ

■記念シンポジウム「建築・都市の未来に向けて」

と　き　1998年7月10日(金) 18：00～21：00

会　場　東京グローヴ座／東京都新宿区百人町3-1-2
高田馬場駅徒歩9分、新大久保駅徒歩6分

構　成　●基調講演：ジャン＝ルイ・コーエン氏（パリ＝ヴィルマン建築大学教授）
●討論会：荒川修作氏(芸術家)／石山修武氏(建築家)／ジャン＝ルイ・コーエン氏／エリザベス・スミス氏（ロサンゼルス現代美術館キュレータ）

参　加　入場無料、同時通訳付、定員700名先着順

申　込　参加希望者は所要事項と参加証返信先住所を記入し、FAXでデルファイ研究所（TEL03-3222-5031、FAX03-3222-5062）へ。

『ヌーヴェル・ヴァーグ：フランス現代建築家7人展』

日本で初めて、フランスのパリではなく地方において精力的に活動する30～40歳代を中心とした建築家にスポットをあてた展覧会『ヌーヴェル・ヴァーグ：フランフ現代建築家7人展』が開催される。入場無料。

本展は、「日本におけるフランス年」の公式イベントであり、建築家の選定は『l'Architecture d'aujourd'hui』誌主幹のパトリス・グーレ氏、写真は建築写真の第一人者フィリップ・ルオー氏による。

会　期　1998年7月6日(月)～9月11日(金)
10：00～17：00　土日祝日と8月8～16日休み

会　場　ギャルリー・タイセイ　TEL03-5381-5510
東京都新宿区西新宿1-25-1新宿センタービル

協　力　フランス建築協会（ifa）

展　示　①Olivier Baudry(1957年生まれ)、②BDM&Aeria（Ducerf/BDM・1948年＋Marc/BDM・1950年＋Lullne/Aeria1945年)、③Manuelle Gautrand(1961年)、④Raphaelle Hondelatte（1967年)、⑤Lacaton&Vassal(Lacaton1955年＋Vassal1954年)、⑥Bruno Plisson（1957年)、⑦Rudy Ricciotti（1952年）の作品を、建築写真を中心に展観。会場内では建築家紹介のCD-ROMも。



Olivier Baudry 映画館「カフェ・デ・ジマージュ」座
©1998 philippe Ruault

■シンポジウム「今、マーヴェル・ヴァーグとは？」

日　時　1998年7月8日(水) 18：00～20：30

会　場　大成建設大ホール（新宿センタービル52F）

出席者　相田武文、三宅理一、パトリス・グーレ、フィリップ・ルオー、マニュエル・タルディッツ、ラカトン&ヴァッサル、リュディ・リッショッティの各氏ら12名

申　込　電話にてギャルリー・タイセイ（TEL03-5381-5510）へ。先着順150名。参加費無料。

(仮称)浪速区合同庁舎公開設計競技設計案募集中

現在の浪速区役所用地に区役所と保健所の合同庁舎を建てることを決定した大阪市は、公開設計競技方式(応募資格のある設計事務所すべてが設計競技に参加できる)で設計案を募集しているが(本誌5月号で予告)、その詳細が発表された。

応募案提出　1998年9月1日㈫～3日㈭ 昼休みは除く
受付場所　大阪市都市整備局営繕部企画課
(仮称)浪速区合同庁舎公開設計競技事務局 TEL06-208-9324
審査委員　三輪雅久氏(大阪市立大学名誉教授)
片倉健雄氏(近畿大学理工学部教授)
篠崎由紀子氏(都市生活研究所主宰)
賞　金　最優秀作品1点200万円ほか

審査結果の発表と公開展示は10月下旬予定。平成11年度に工事着手。平13年度完成予定。



●(仮称)浪速区合同庁舎計画概要

所在地　大阪市浪速区敷津東1-4-19(現区役所用地)
地域地区　商業地域、防火地域(一部準防火地域)、容積率600%
面　積　敷地面積1633㎡、延床面積約9800㎡
施設内容　区役所――事務室、区民ギャラリー、会議室、宿直室等/保健所――事務室、保健相談室、保健指導室、集団検診室等/共用――パブリックスペース、地下駐車場、駐輪場等

「せんだいメディアテークの構造」―建築Next Phase研究会―

95年のコンペで最優秀に選ばれた伊東豊雄氏設計のせんだいメディアテークは、99年3月の竣工を目指して工事が進められている。

ユラユラと波に漂う海草を連想させる、「チューブ」と名付けられた13本の柱。伊東豊雄氏のこのイメージを、構造家・佐々木睦朗氏がどのように受けとめ、実現させていったのか、苦心点を交えながら構造上の特徴を解説する。

日　時　1998年7月16日㈭ 18:30～20:30
講演者　佐々木睦朗氏(佐々木睦朗構造計画研究所)
会　場　東京デザインセンター TEL03-3445-1121
東京都品川区東五反田5-25-19
参加費　1000円
申　込　名前・勤務先・TEL・FAXを記入してFAXで東京デザインセンター建築Next Phase研究会(FAX03-3445-1125)へ。

「トヨタ プリウス―21世紀へのデザインメッセージ」

大阪デザイン振興プラザデザインセミナー「ヒットデザインはいかにして創られるか」シリーズの12回目は、電気とガソリンの両方をパワーソースとするハイブリッドエンジンを搭載した初の国産車「プリウス」を取り上げる。低燃費、低公害、さらにデザインにおいても今後のセダンの指針とすべく斬新なスタイルを導入したこの車に込められたデザイナーの夢を、開発プロセスに沿って紹介する。

講　師　澤　正憲氏(トヨタ自動車㈱第2デザイン部第21プロダクトデザイン室プリウス室内デザイン担当)
日　時　1998年7月17日㈮ 15:00～16:30
会　場　アジア太平洋トレードセンターITM棟10F ODPデザインセンター内セミナールーム
定　員　100名(先着順)
参加費　1500円(当日受付支払い)
申　込　開催前日までに電話06-615-5510かFAX06-615-5173でODPセミナー係へ。

スペースデザインゼミ「進化するCAD設計」

●7月10日㈮ 18:30～20:50
「CAD化・ネットワーク化でどのようなことができるのか」基本概念・各種機能・2次元～3次元CADへ

●7月24日㈮ 18:30～20:50
「設計の実務の中でどう使うのか」(実演)協力事務所との図面のやり取り・インターネット、イントラネットの利用

●A班7月31日㈮ or B班8月7日㈮ 18:30～
「設計者による活用に向けて」(実習)図面データや部品の活用、3次元でのヴォリューム把握

会　場　大阪ガスインテリアデザインスクール教室
大阪市中央区備後町3-6-14備後町オークビル
受講料　一般25000円(税込み、教材費別途)―講義初日に受付で支払い―
申　込　受講申込書をFAXまたは郵送で同スクール(FAX06-262-7202)へ。定員は20名

講師・鈴木裕二氏プロフィール
1954年生まれ。1991年に西宮市で一級建築士事務所アド設計を創設。AutoCADアプリケーション「アドメニュー」や「LT_Basic」の開発・販売も行う。

「澤村家住宅」登録文化財に

日本建築協会が大正11年に大阪府箕面市桜ケ丘で開催した「大正住宅改造博覧会」で建てた洋館で、今も残る9棟のうち「澤村家住宅」が、5月15日に国の登録文化財建造物として、文化財保護審議会から文部大臣に答申され、指定された。

「住宅改造博」開催のため、日本建築協会は大正10年～11年に3回の「改良住宅懸賞募集」を行い、第1回と第3回の上位入選作品から各4点計8点に変更を加え博覧会に協会出品として建設した。澤村家住宅は、その第1回の1等当選図案で、設計者は谷本甲子三。阪急電車箕面線・桜井駅を降り、北に向かって5分ほど歩くと、箕面川の田村橋にさしかかる。ここから前方に緩い上り坂が250mほど続く。この坂の東側が当時5000坪の実物住宅展示場であった箕面市桜ヶ丘2丁目。

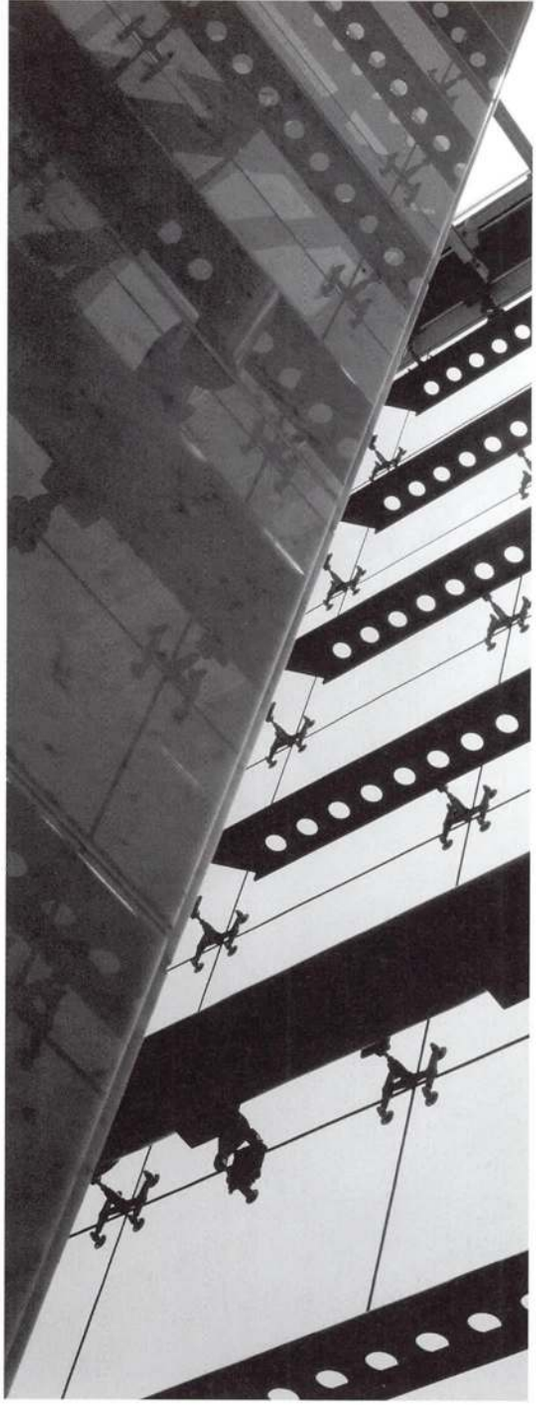
L字形の木造総2階建ての澤村家は、人造石の外壁に日本瓦をふき、落ち着いたたたずまいを見せる。内部は、応接室兼書斎の壁面に3カ所アーチ形の窓をつけるなど、ミッション様式の洋風的要素を加えている。



第18回大阪まちなみ賞募集

大阪府域内の建物及び建物を中心としたまちなみで、周辺環境の向上に資し、かつ景観上すぐれたものを表彰する「大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞)」は、今年も7月1日～7月31日まで市民による自薦、推薦を受け付けている。入賞発表は11月中旬予定。

対　象　建物:平成5年8月～平成9年7月末竣工
まちなみ:平成9年7月末までに完成
推薦方法　官製ハガキに、推薦物件の名称・所在地・完成時期・推薦理由・推薦者の氏名・連絡先住所・同電話番号を記入し、大阪府都市景観建築賞事務局(〒540-0011大阪市中央区農人橋2-1-10 大阪府建築士会内、TEL06-947-1961)へ。
審査委員　浅野満男・今井範子・岩井珠恵・織田峰彦・紙野桂人・高橋叡子・徳田二美郎・速水久夫・ベルナルドカトリッセ・増田昇・松村慶三・宮井市太郎・宮本茂弘・山下弘・吉川博教の各氏。

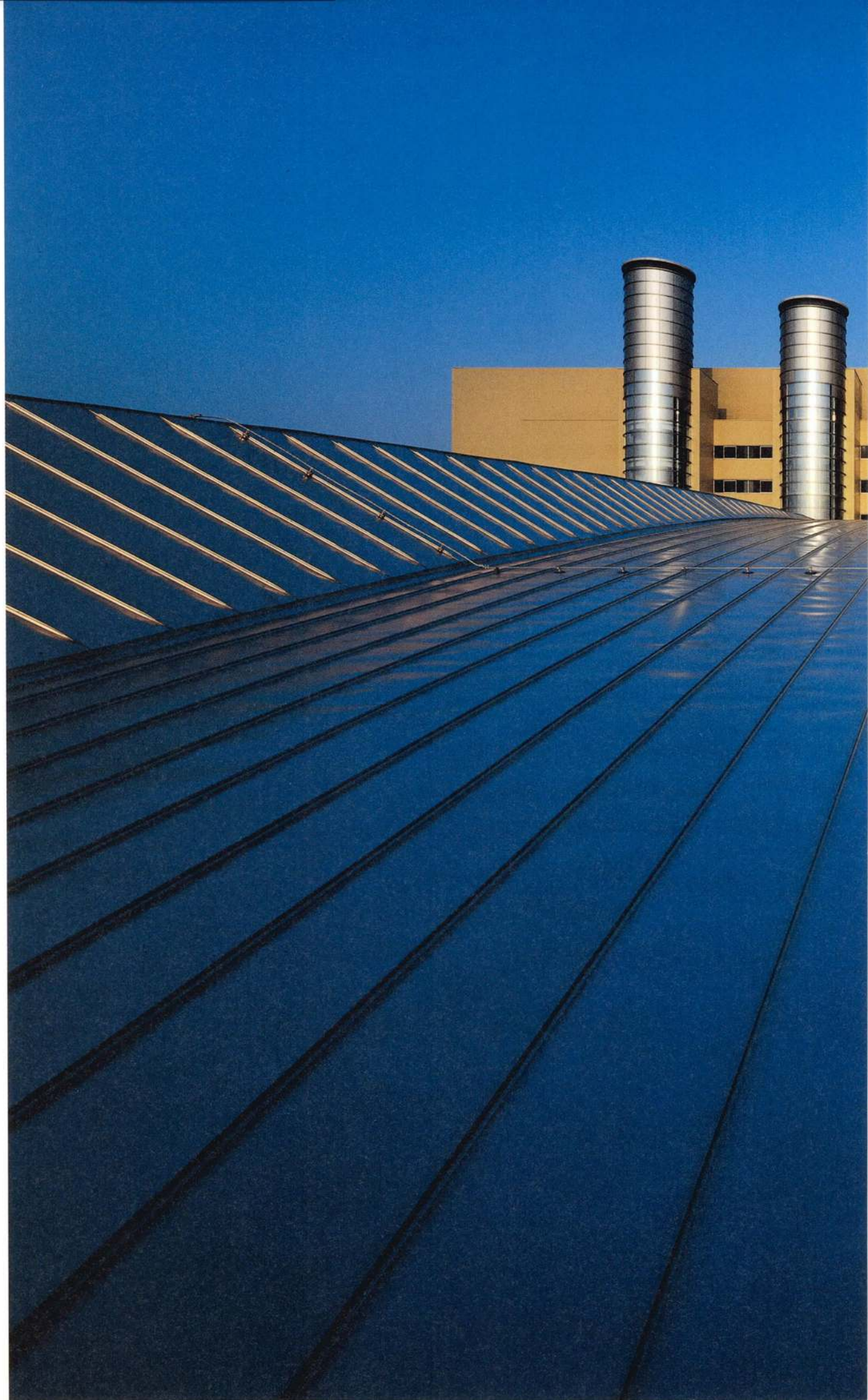


アジア太平洋インポートマート
Asia-Pacific Import Mart

展示場棟・西日本総合展示場新館
設計監理／北九州市、日建設計
施工／鹿島・フジタ・若築建設工事共同企業体
九電工・あいはら共同企業体
三信工業
ダイダン・日田共同企業体
東芝
日本電気
西部ガス

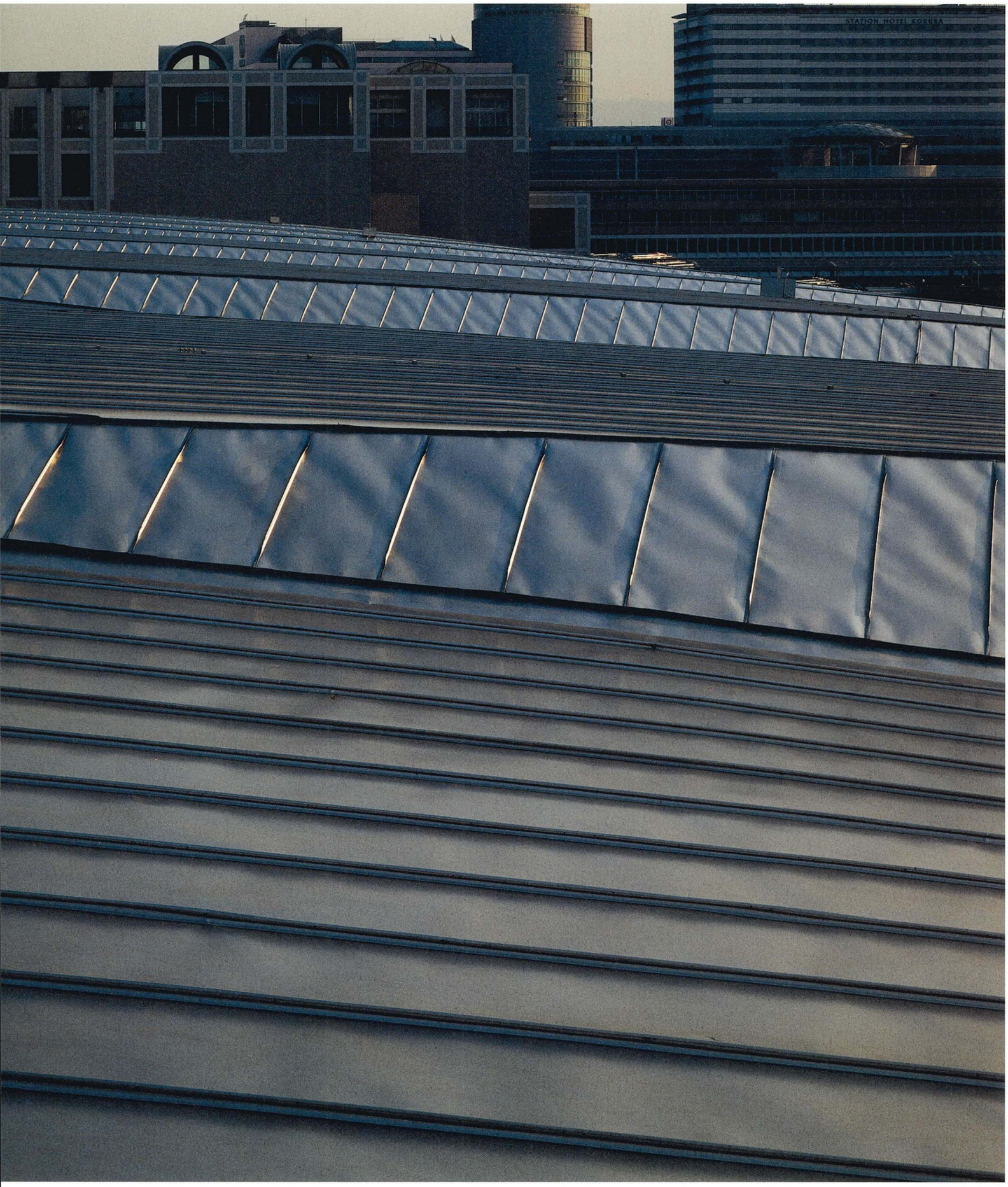
流通センター棟
設計監理／日建設計
施工／鹿島・住友金属・山九・シャール建設工事共同企業体

写真／東出清彦



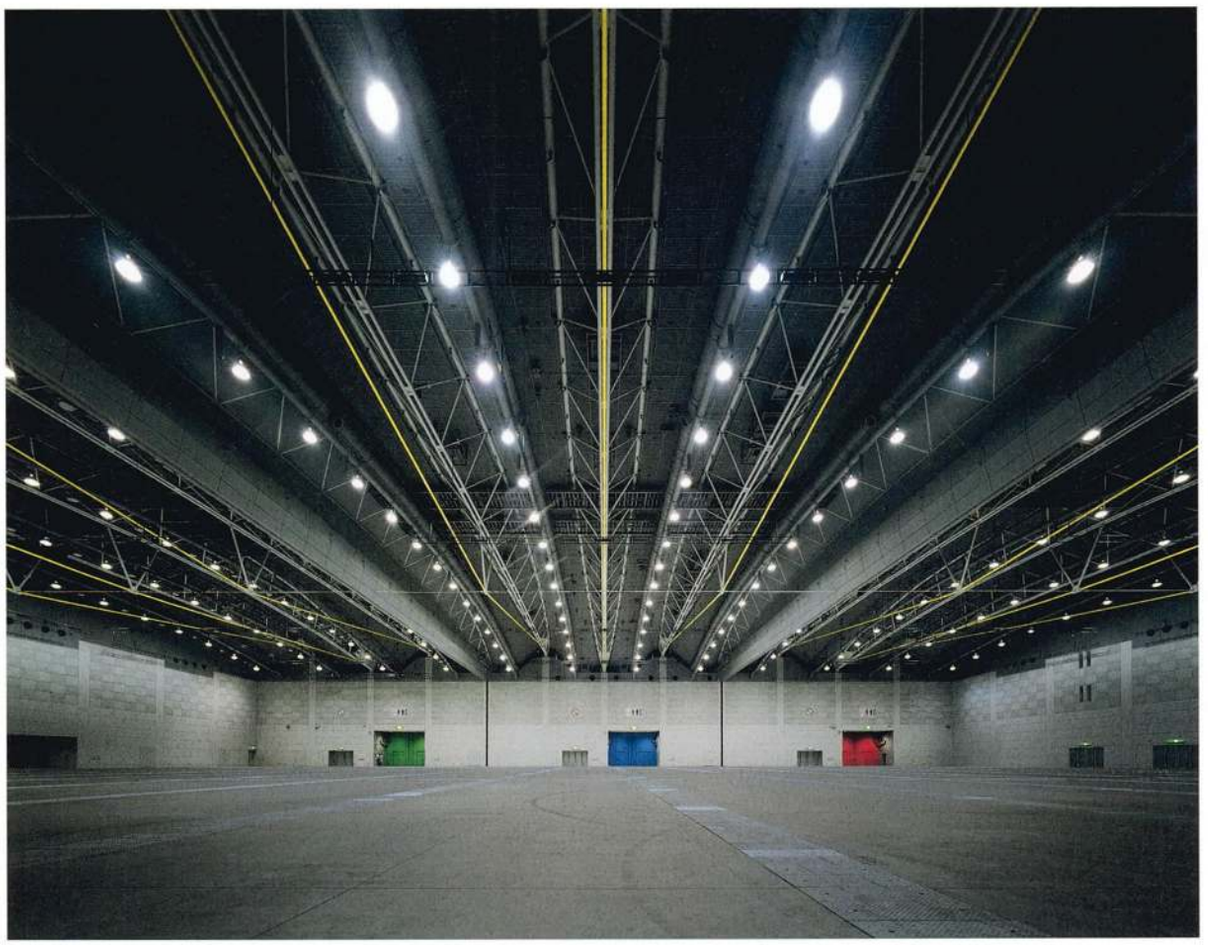

AIM




STATION HOTEL KOKURA








TOYOTA
TOYOTA
HONDA
Happy Together!

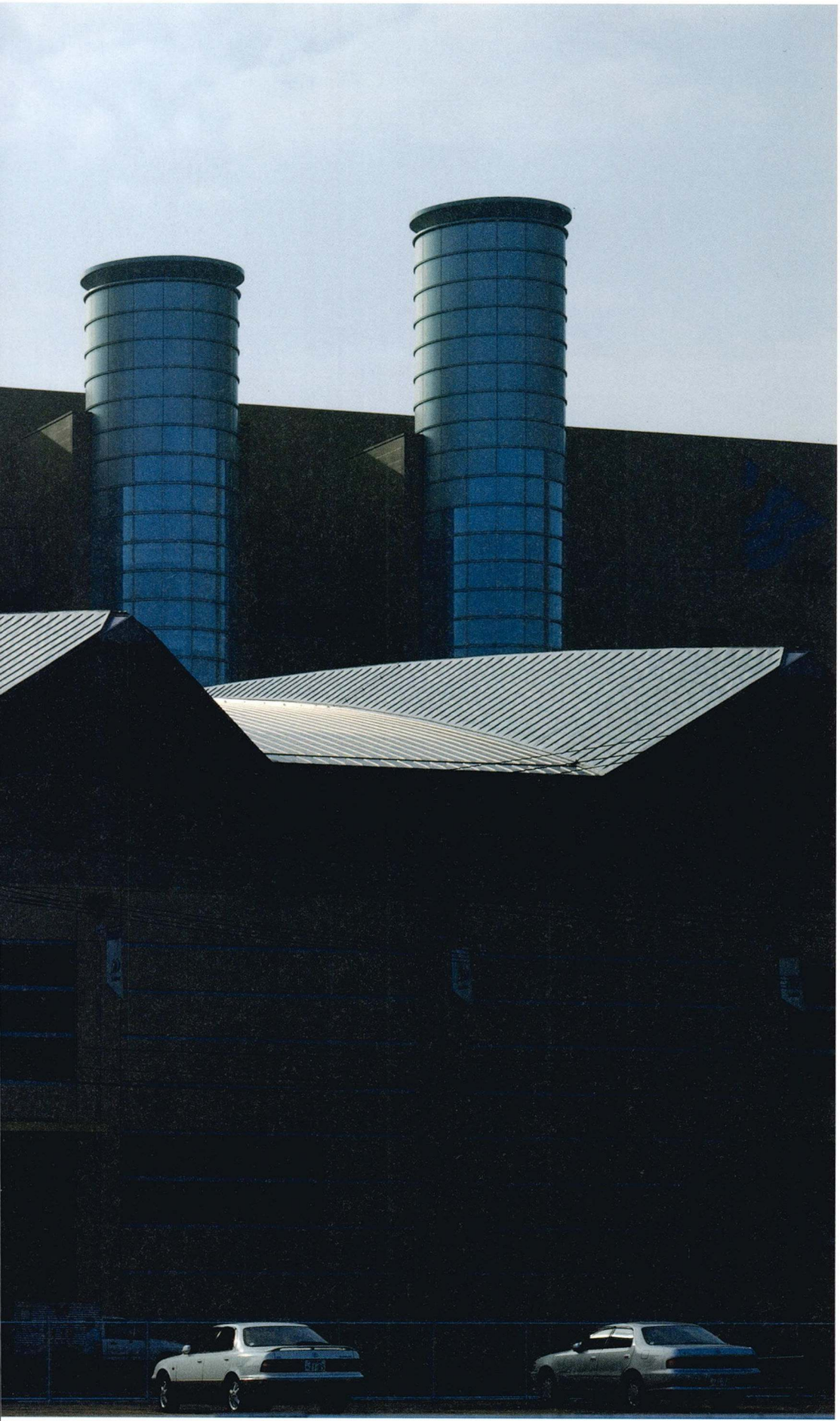



C1
東





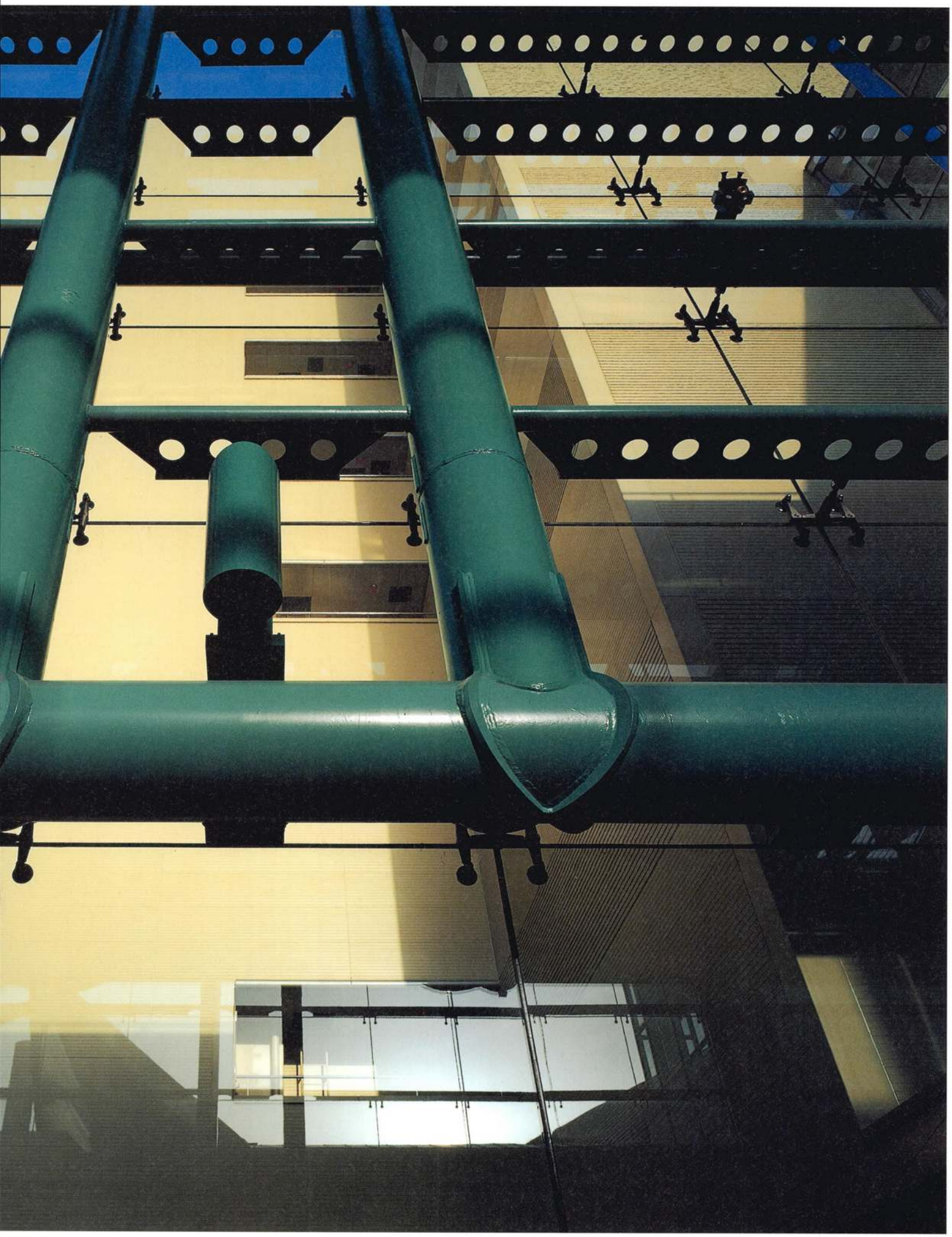


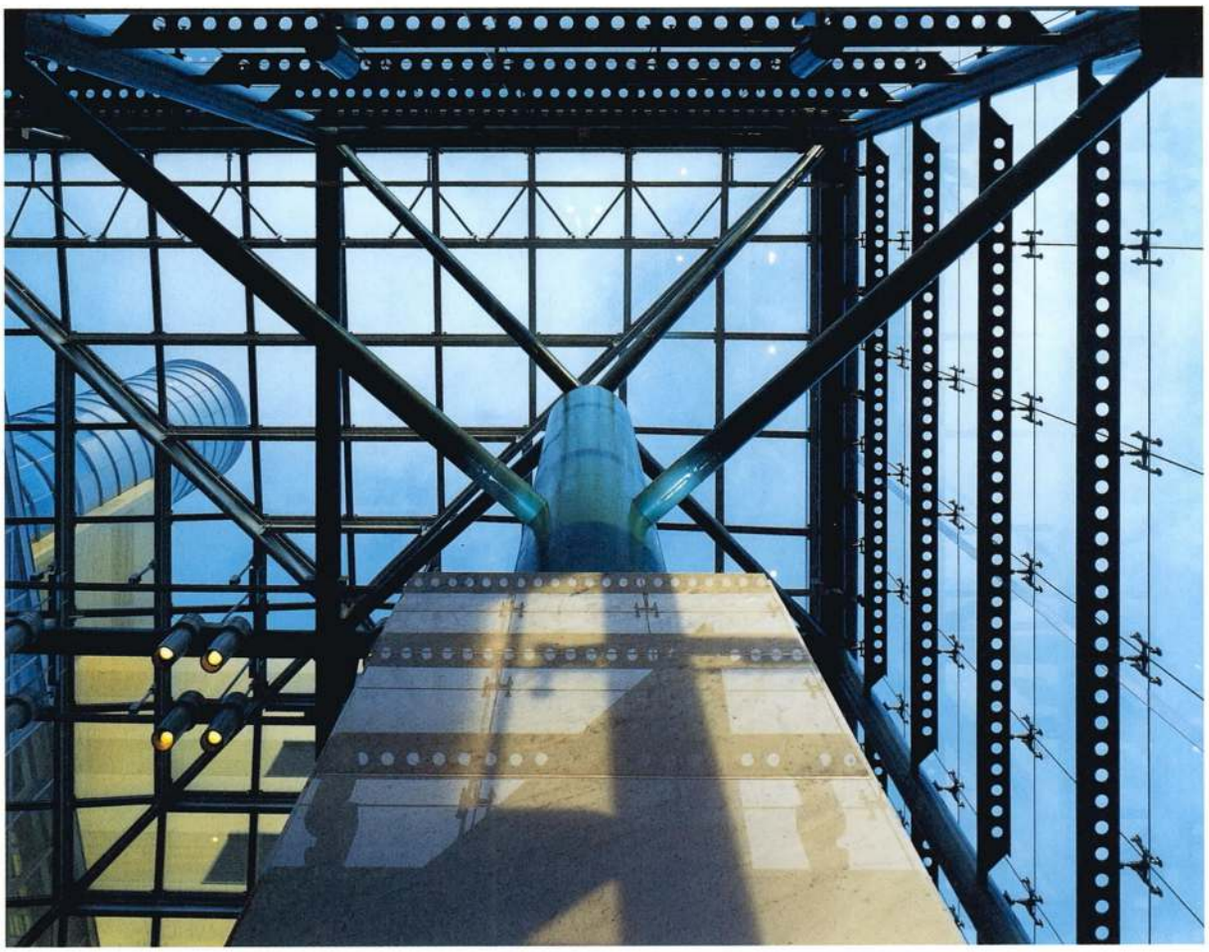




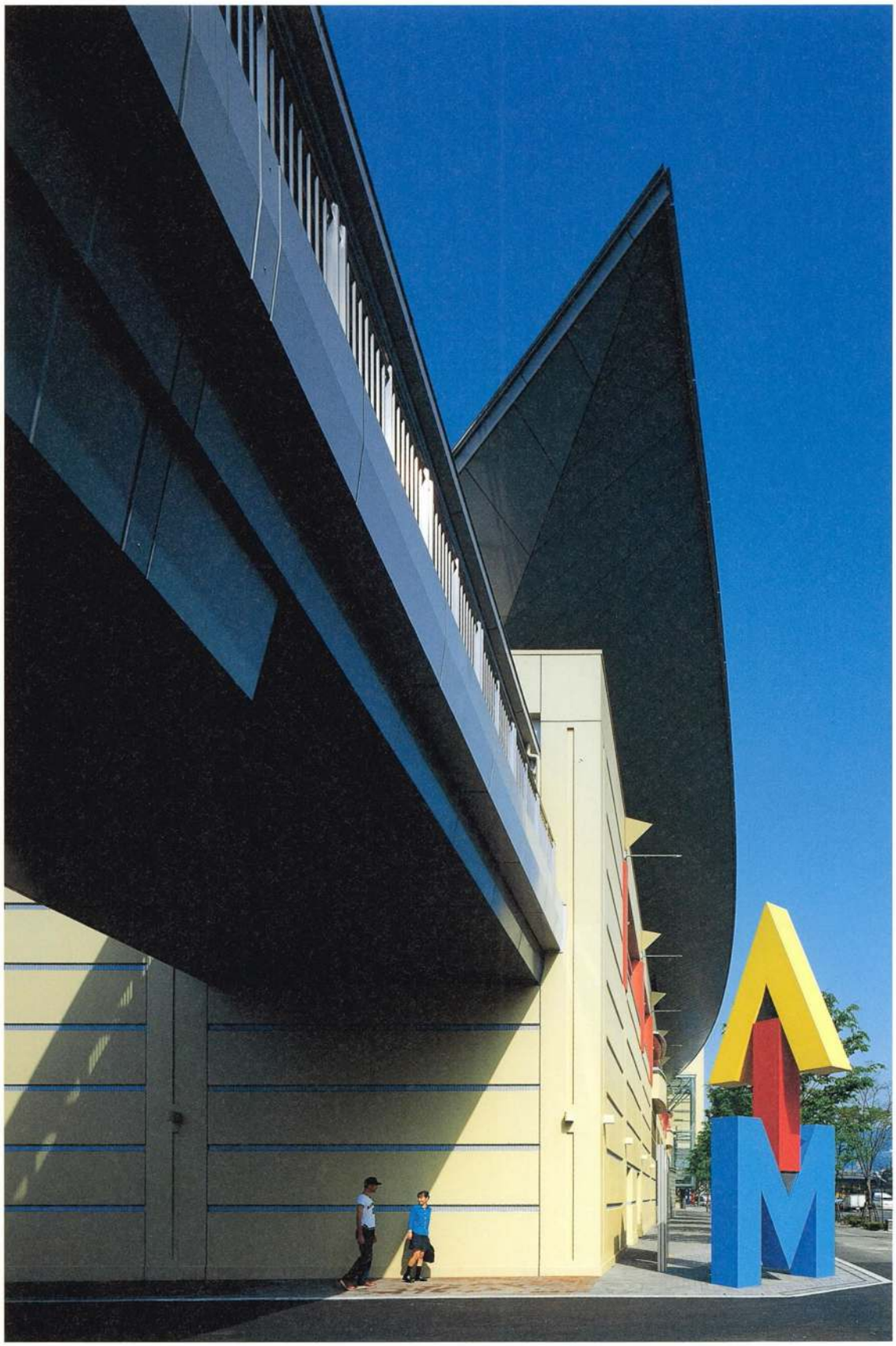


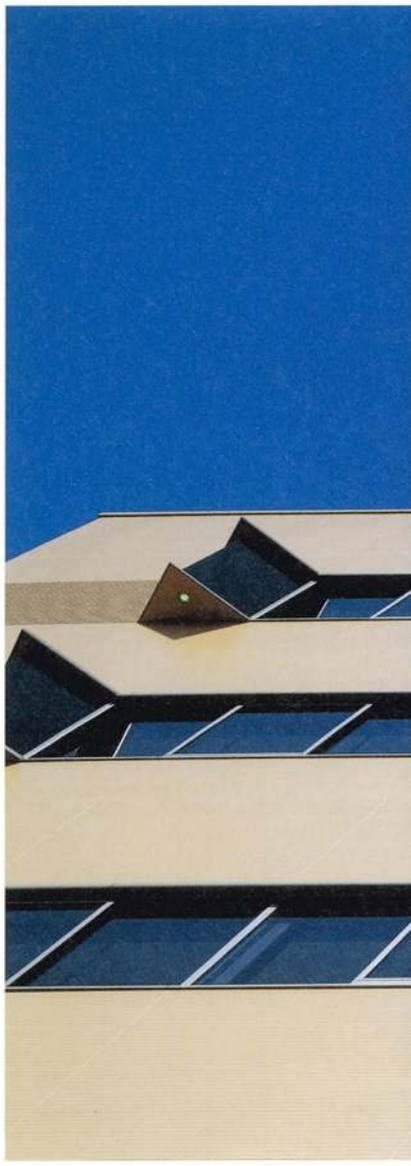






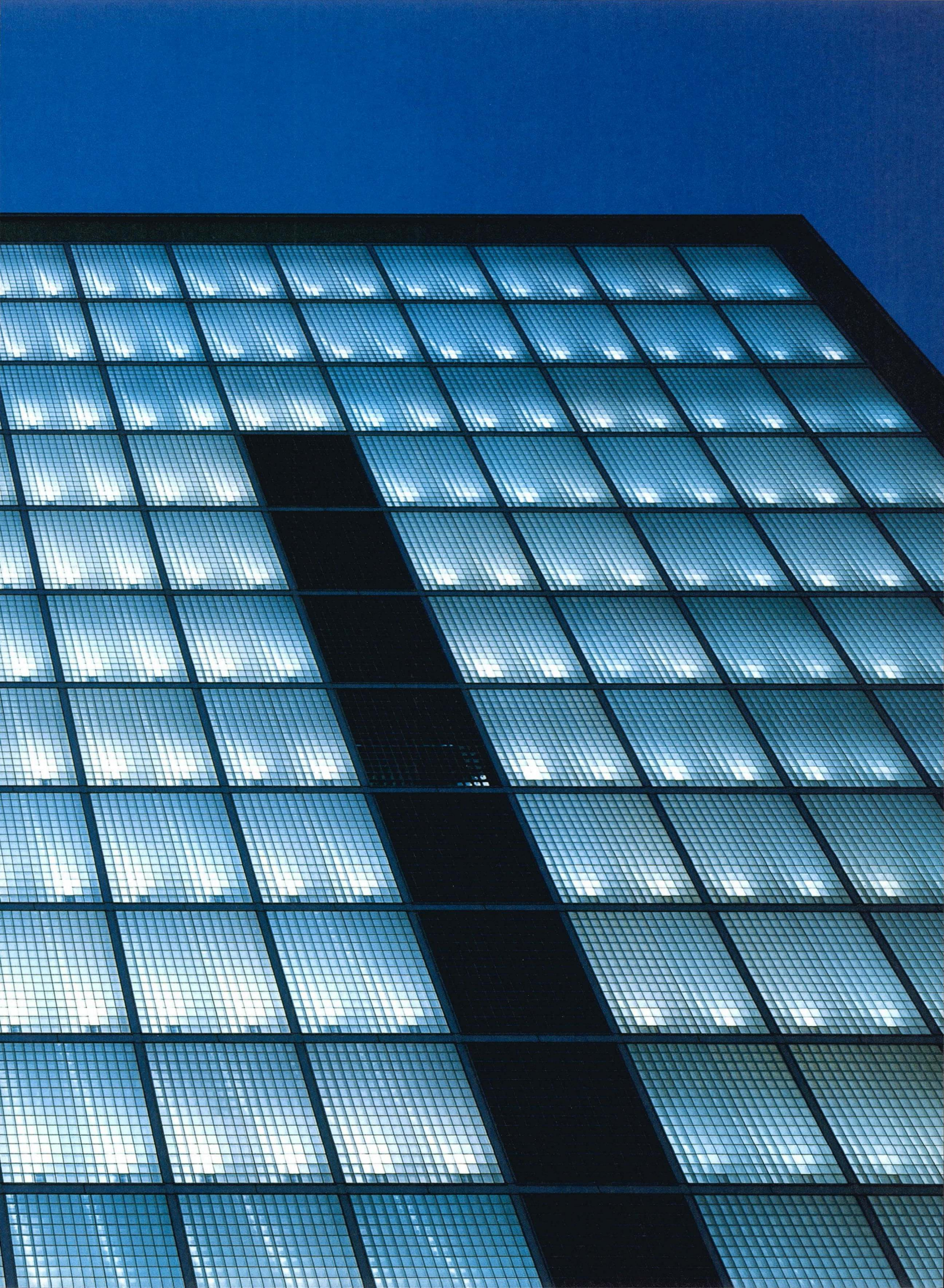






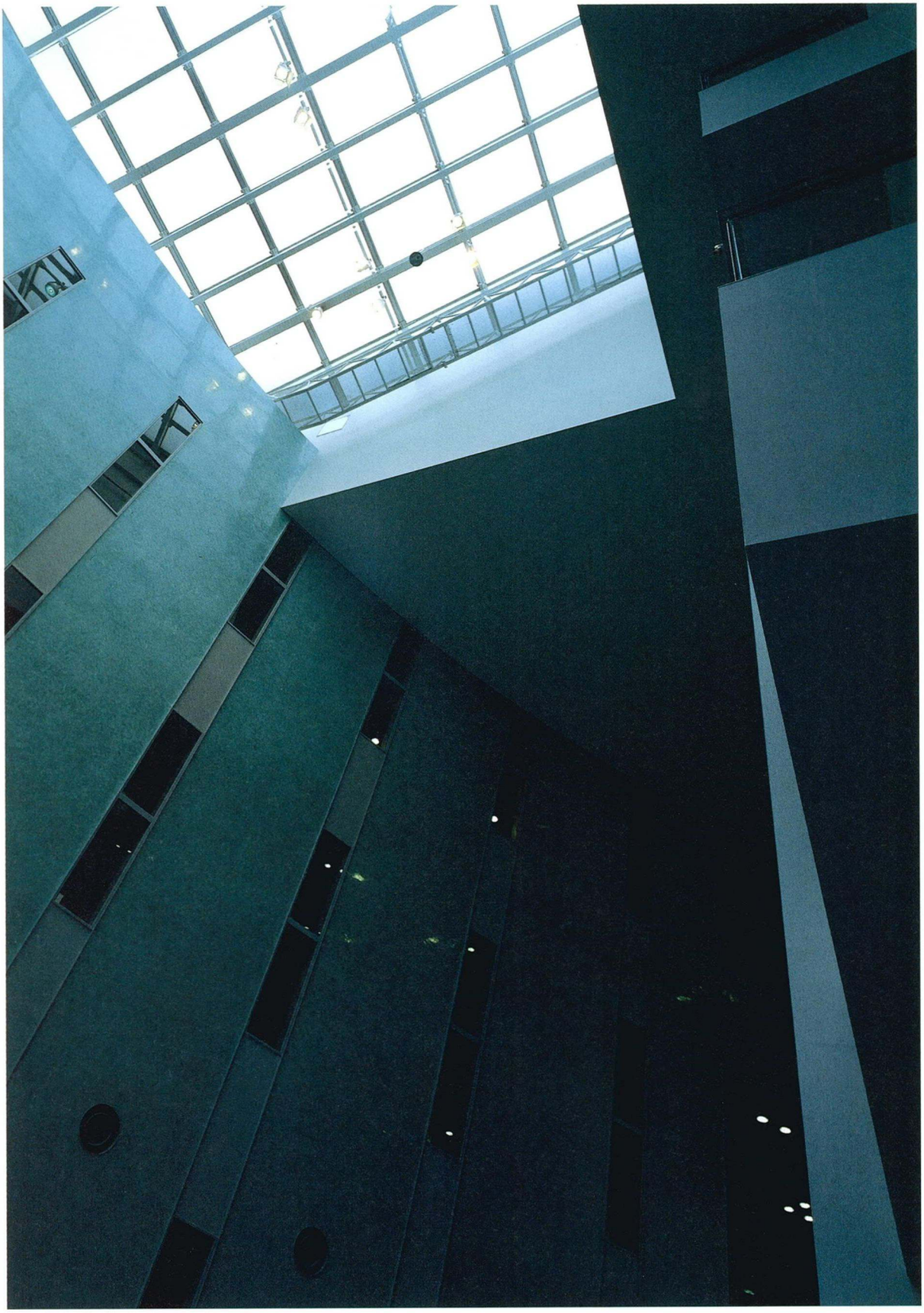







AIM

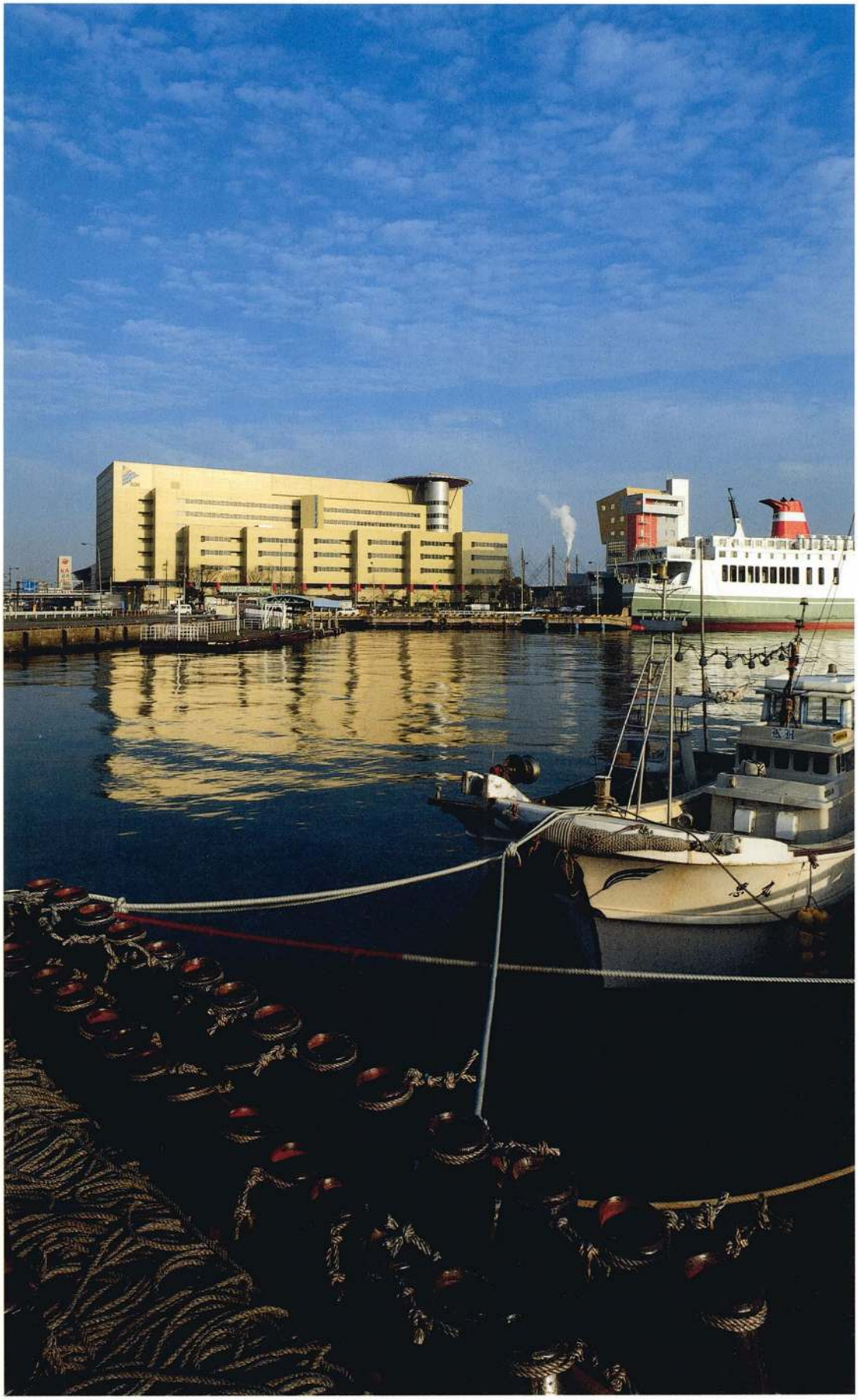












企画・建築計画

Planning／Architectural Design

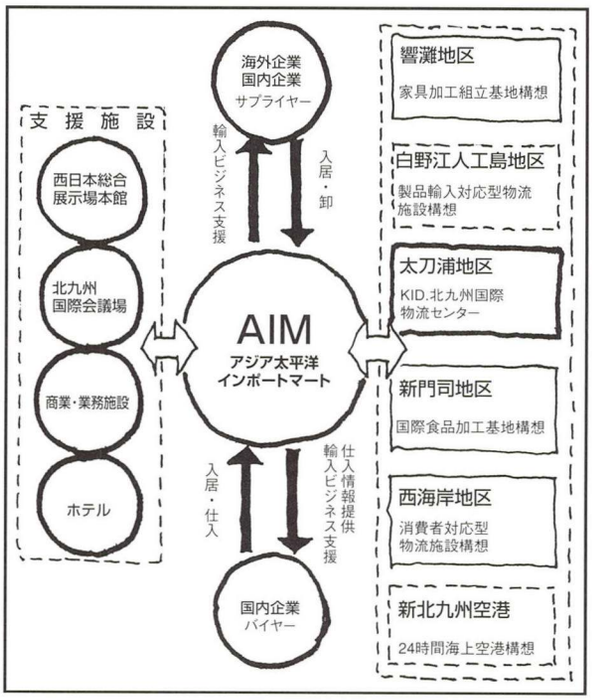
中井　進／神津　昌哉

■ 北九州市FAZ計画

グローバル化・ボーダレス化が進展する世界経済の変化の中で、日本でも一層の輸入促進や国際経済交流が急務となっている。1993年北九州市は、国際貿易港としての長い歴史と伝統に新たな活力を加え、国際都市への新たな飛躍を目指して、国からFAZ（輸入促進地域　Foreign Access Zone）の第一指定を受け、北九州FAZ計画を策定した。FAZ計画の目標は、地域の特性・機能を最大限に活かし、物流基盤の整備にとどまらず広く輸入品に対する需要を喚起・創出する創造型の輸入拠点づくりである。具体的には、第３セクターKIPRO（㈱北九州輸入促進センター）を主体として、国際総合流通センターを整備し、港湾地区の物流機能を増強し、それぞれをネットワーク化して拠点形成づくりをすることとなる。その中心施設として、アジア太平洋インポートマート・AIMが位置づけられている。

AIMは、①卸売マート機能、②ビジネスバックアップ機能、③プロモーション機能、④イベント、コンベンション機能をもち、国内外の貿易・流通業者、貿易促進団体等が入居し、卸・展示・取引・商談や情報サービスの行われる大規模複合施設である。ここでは良質で多種多様な海外製品に容易にアクセスすることが可能となる。

北九州市FAZ計画





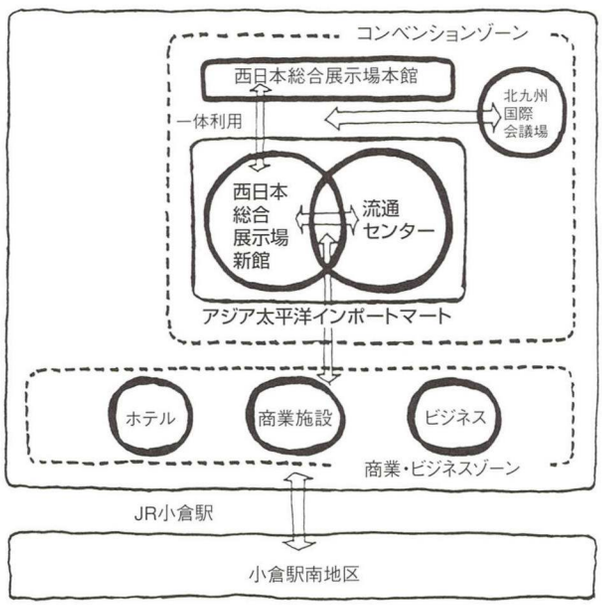
小倉駅北口地区より市街地を臨む

■ 北九州市ルネッサンス構想と小倉駅北口地区開発

北九州市では「水と緑とふれあいの国際テクノロジー都市」をテーマとした“北九州市ルネッサンス構想”を推進しており、AIMの立地する小倉駅北口地区は「海に拡がるにぎわいの交流都市」の実現のための最も重要な地域と位置づけられている。ここでは既に商業・業務施設が着々と整備されており、またJR小倉駅、モノレール駅、国道199号線、フェリーターミナルと交通アクセスにもすぐれている。AIMはこの地区の中核施設として、既設の西日本総合展示場、北九州国際会議場、リーガロイヤルホテル小倉などと連携して、一大コンベンションゾーンを形成する役割をもっている。

またAIMのオープンにあわせ、小倉駅、商業施設、ホテル、会議場、展示場、駐車場との回遊動線であるペデストリアンネットワークが整備された。このネットワークは北九州市の新しい玄関口としてのシンボル的な広場や、今後整備がすすめられる施設群との歩行者動線を確保するものと位置づけられている。

小倉駅北口地区開発



■ アジア太平洋インポートマート

次のような点を基本としAIMの建築計画をすすめた。

① 国際交流拠点の中核施設にふさわしい活気と交流を創出する。

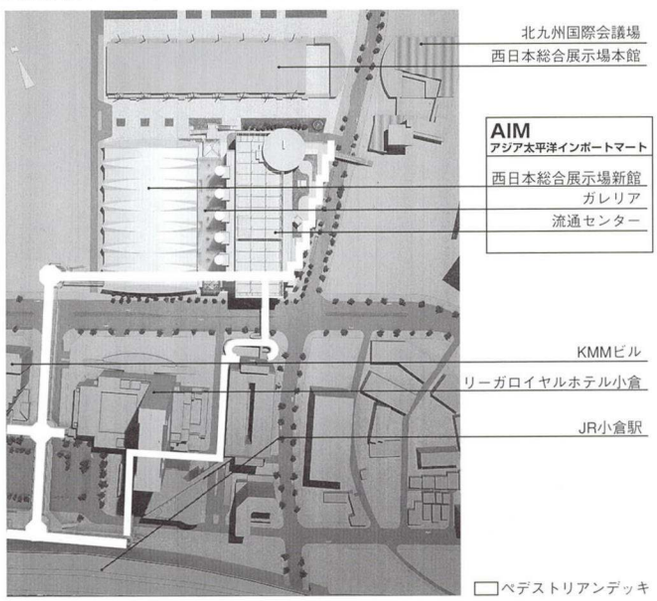
②“アジアの輸入拠点都市”北九州市を象徴し、良好な都市景観をつくる魅力ある施設とする。

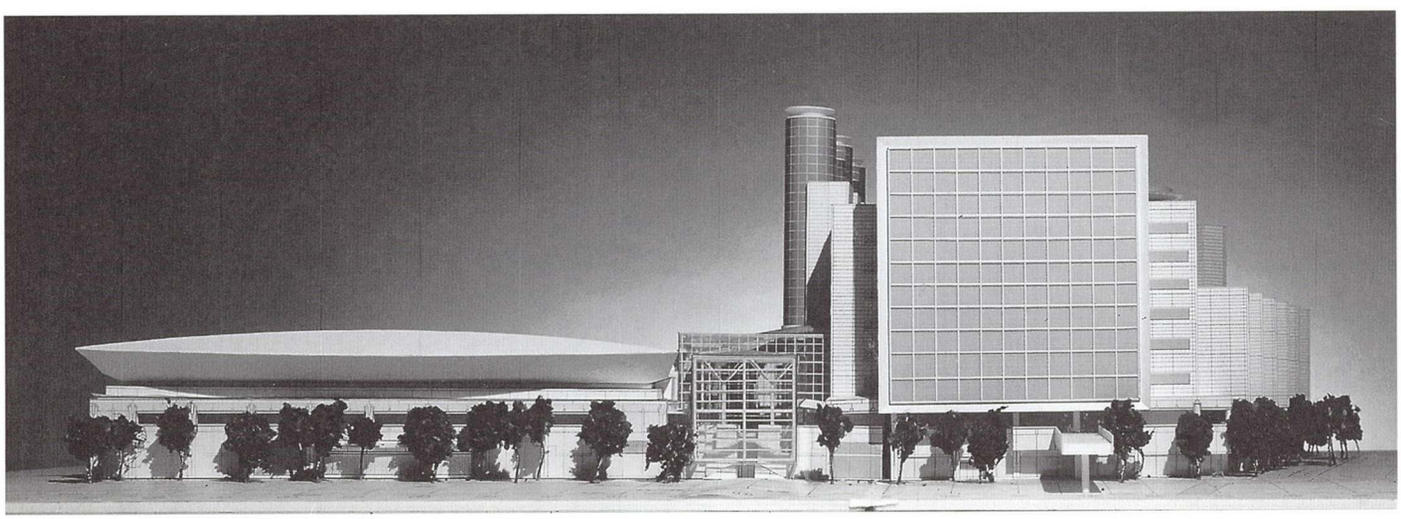
③ わかりやすく安全で、高い機能性・経済性をもつ施設とする。

ペデストリアンネットワークにつながる大空間“ガレリア”を中央に、東に流通センター、西に展示場を配し、全ての動線がガレリアからはじまり、自然なにぎわいと交流が生まれる構成とした。

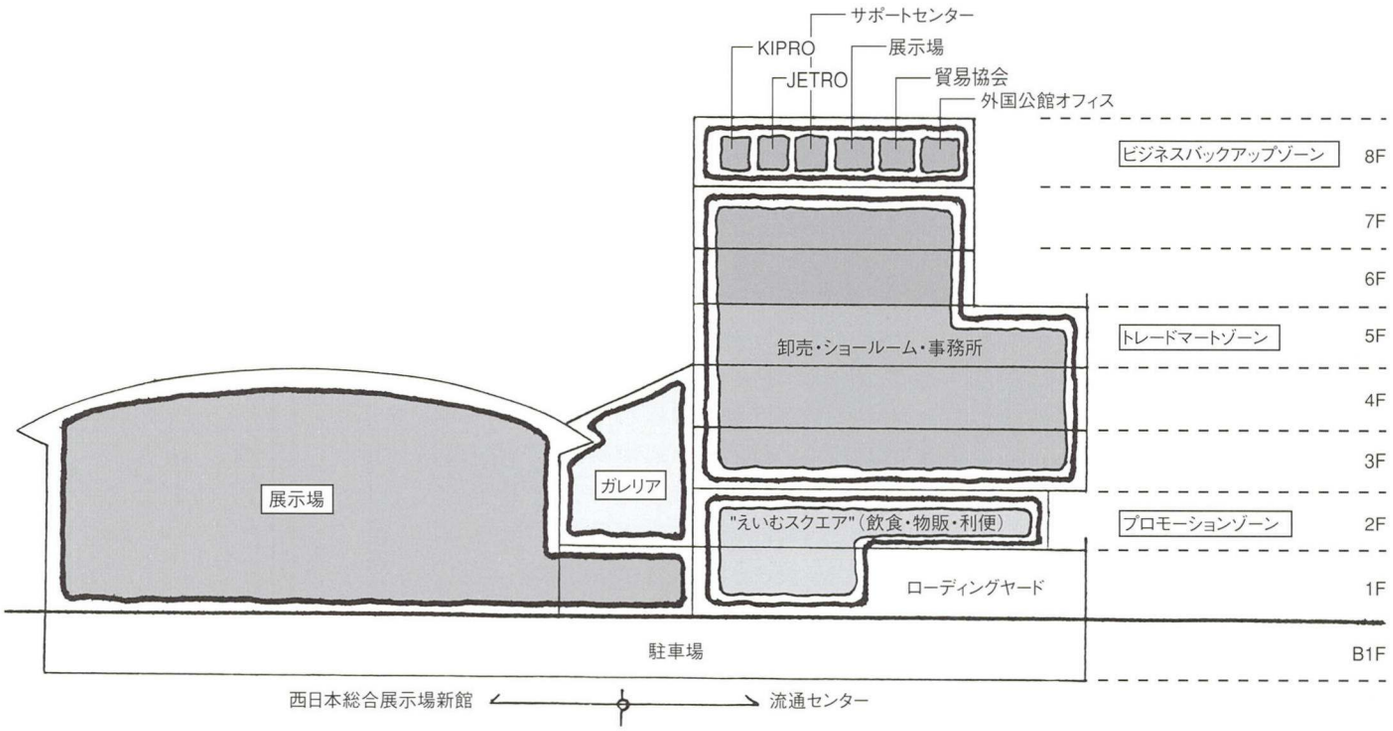
外観は、周辺のコンベンションゾーン既設建物や街並と統一した軸線の上にリズム感のある特徴的なシルエットで、新しい時代を拓く核施設にふさわしく、風をはらんで大海に出帆する船団を表現している。リズミックな五本のシャフトは開かれた世界・五大陸を象徴し、風・波を表現する銀色の屋根、明るいベージュ色の外観やポイントカラー、30m四方のガラスブロックの大表示壁面で、人々が集うにぎわいと楽しさを創出するものとした。

小倉駅北口ペデストリアンネットワーク

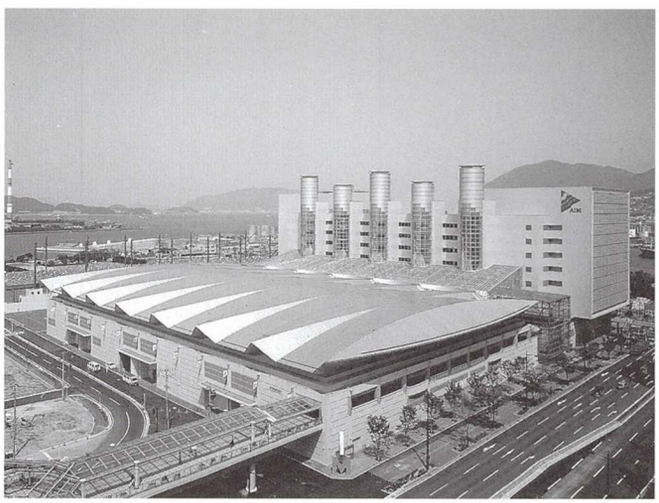




アジア太平洋インポートマート



アジア太平洋インポートマート施設構成



小倉駅北口地区開発の中核施設〈AIM〉



にぎわいと楽しさを創出するメインエントランス〈ガレリア〉

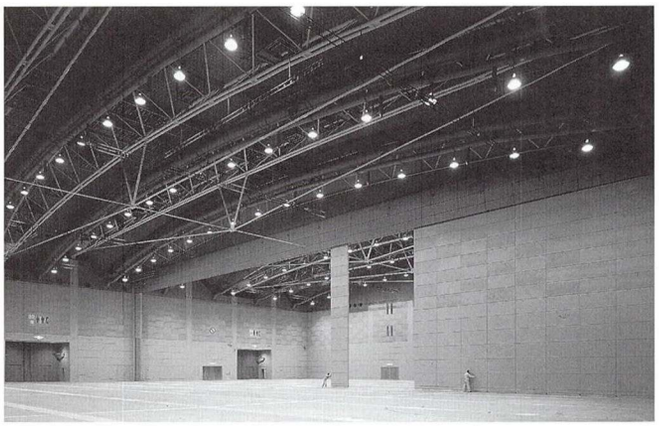
■ 施設構成

小倉駅から連続するペデストリアンデッキを２階南・東に通して、それと結ぶ南北に動線の中心であるガレリアを配し、東側に輸入ビジネスの拠点となる８階の流通センターを、西側に8,000㎡の大空間をもつ展示場を、ガレリアから北にガラス屋根で既設展示場と結ぶ構成としている。地下には、東側タコマ通りより出入口をとった500台収容の駐車場を設け、またJR駅ビル、ホテル、会議場など北口地区をカバーする地域冷暖房施設を併設している。

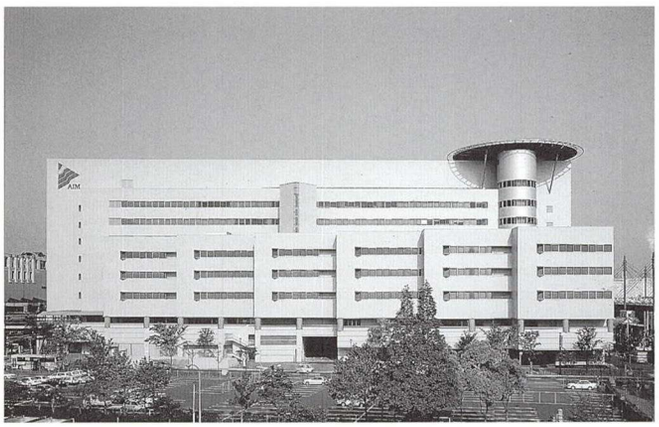
〈ガレリア〉

ガレリアは流通センターと展示場のメインエントランスであり、ロビー、コンコースの性格もあわせてもっている。流通センター側は商業施設“えいむスクエア”に面し、展示場入口のエスカレータも設けられ、あらゆる動線の要として、また周辺施設と結ぶ交流軸としても機能する。幅16m、長さ110m、高さ13mの大空間の中に、やしの樹列、コンセプトアート、シースルーエレベータ、エスカレータなどの要素で施設にふさわしいにぎわいや出会いを演出している。

ガレリアは波形網入りガラス屋根からの分散光の淡い光にみたされた110mのメインアトリウムと、南北のDPG工法による15m立方の透明なガラスキューブから構成されている。昼間は電動遮光幕により照度調整を行い、夜間はライトアップにより表情を一転させ、ガラスキューブが外観にあふれる光をみせることで施設のにぎわいを感じられるものとした。



3分割可能な8000㎡の無柱空間〈西日本総合展示場新館〉



多様な卸売ビジネス拠点〈流通センター〉

〈西日本総合展示場新館〉

8,000㎡、有効高さ13m以上の大空間をもつ展示場は、張弦梁構造の軽快な鉄骨トラスで無柱空間を構成している。大屋根は耐食性の極めて高いオーティスナイト系0.4㎜防眩型表面処理ステンレス板で覆われている。

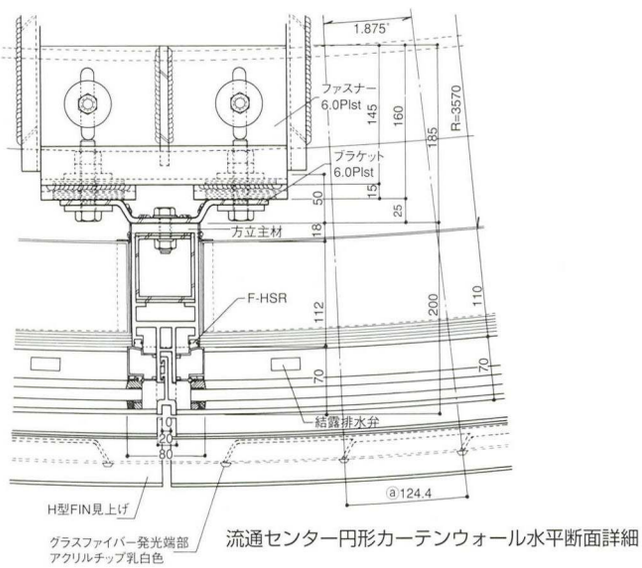
8,000㎡は可動間仕切で3分割でき、壁面・天井面は吸音性を高め講演会・集会など様々なイベントにも対応できるものとした。展示場はトラックが一方通行できる動線、搬出入口をとり、重量物展示や搬入に配慮して床荷重は5t/㎡として計画した。また様々なユーティリティ供給ピットや吊物機構なども備え、高いサービス水準としている。防災上も38条特認手続きにより蓄煙方式、開放型散水設備と万全のものとした。

既設展示場本館とあわせ西日本最大級の15,000㎡を確保でき、国内で行われる見本市・展示会の約80%をカバーできる計画としている。

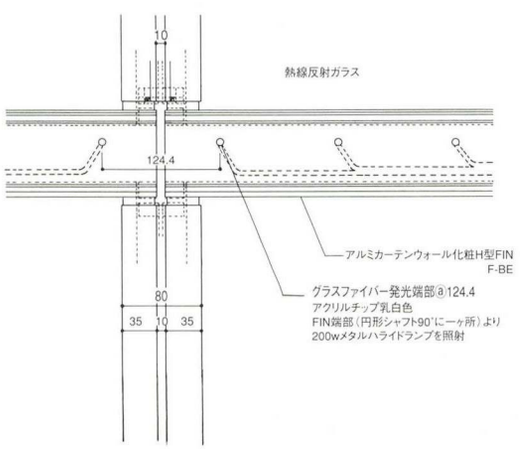
〈流通センター〉

流通センターは2階を中心に8層構成で、1・2階をプロモーションゾーンとしての一般向け飲食・物販の"えいむスクエア"、3～7階を卸売やショールーム、事務所などのトレードマートゾーン、8階をKIPRO, JETRO、サポートセンター、展示場、貿易協会・外国公館オフィスなどのビジネスバックアップゾーンとしている。9m×9mのグリッドを基本として構成し、フレキシブルな平面計画としている。また2～5階には将来の商業施設対応にも配慮して、物販としての法的条件を備えるものとした。3階はキャッシュアンドキャリーなどの卸売店舗に対応できる充分な階高、荷重条件とし、また6,7階と地下1階を結ぶ垂直商品搬送システムも備えて、多様な卸売ビジネスへの対応を可能としている。物品の搬出入は1階ローディングヤードとし大型トレーラーの動線も可能とし、地下1階の駐車場はハイルーフ車に対応できる高さとして、買受の荷物をピックアップできるシステムとしている。

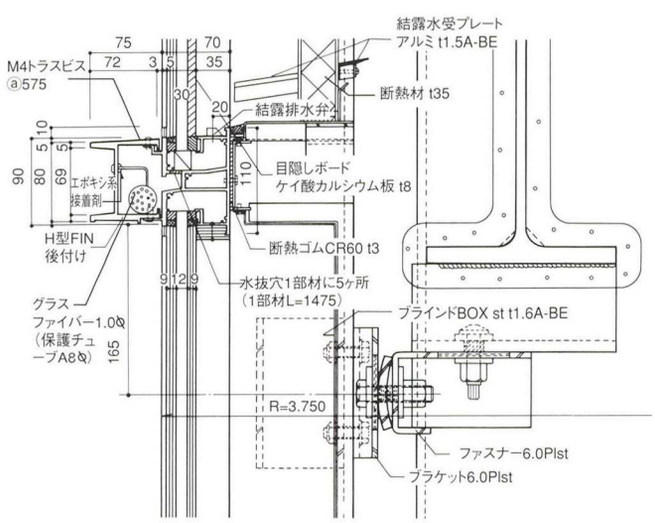
(なかい すすむ 日建設計・大阪 設計室長 ／ こうず まさや 同 設計室)



流通センター円形カーテンウォール水平断面詳細



円形カーテンウォールグラスファイバー発光部



流通センター円形カーテンウォール垂直断面詳細

構造計画

Structural Design

吉澤　幹夫 ／ 山本　健二

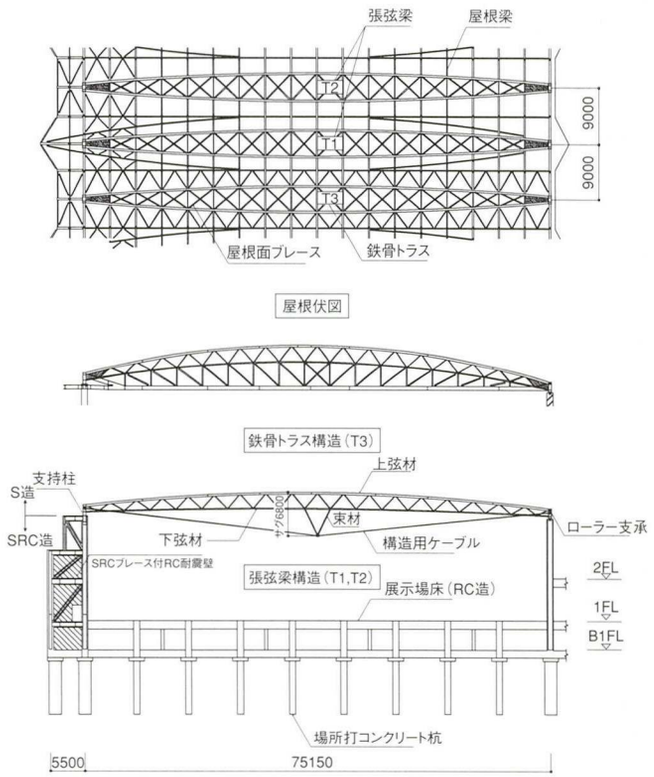
■ 西日本総合展示場新館

展示場は75m×108m、有効高さ13m以上の無柱大空間で、屋根構造には鋼管の立体トラスで構成したアーチ架構と高強度の被覆平行線ケーブルとを合成した一方向の張弦梁を採用した。

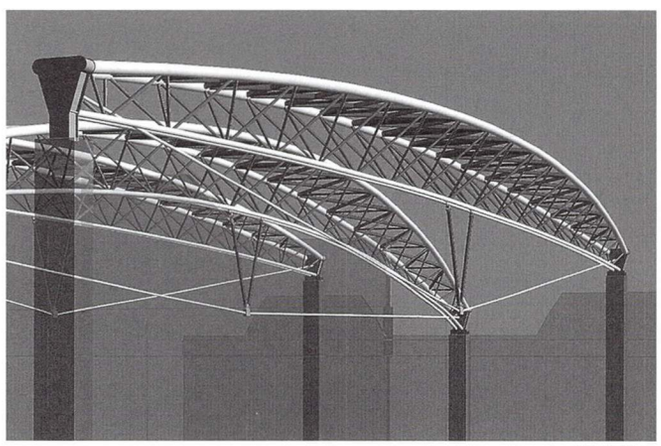
屋根架構は、波をイメージした外観を形作るために、東西の軒先を南北方向9m毎に高低差をつけたアーチ架構を配置した。アーチ架構の形状は、頂部レベルを同一に揃えた2種類の異なる曲率半径を持った形としている。

アーチ架構を構成する鋼管立体トラスの形状は意匠性と応力変形性状を基にして決定した。立体トラスの断面形は逆三角形の断面をもち、下弦材を2本ペアの鋼管とした断面形としている。東西の支承部は東側のスパン方向をローラー支承とし、大スパンで生じるスラストを解放させるとともにケーブルへの張力導入をスムーズにさせることを意図した。

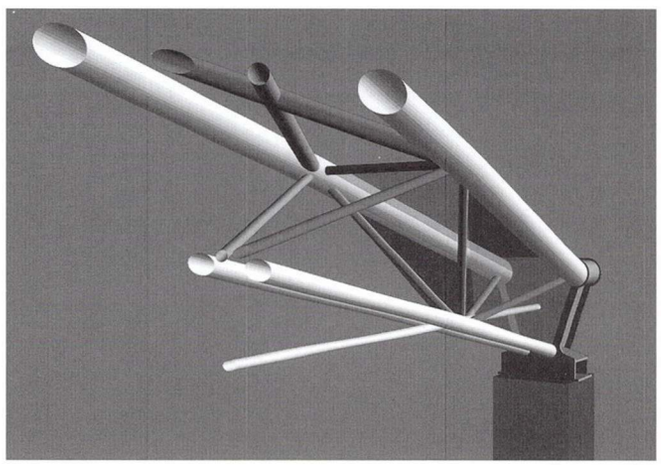
ケーブル材は耐久性の信頼が高い被覆平行線ケーブルを張弦材に採用し、材質は日本構造協会「構造用ケーブル規格」に適合するNGS-121を選定した。これは直径7㎜の高強度（160kg/㎟）の亜鉛めっき鋼線の素線121本を束ねてポリエチレン被覆したもので、ストランドの外径は85㎜である。ケーブル導入張力は、風荷重時にケーブル張力が抜けないこと、並びにケーブルのリラクセーションと施工誤差を考慮して決定している。ケーブル定着部は意匠的に見えがかりとなることを避け、下弦材を2本ペアとしたことを利用して立体トラスの内部に納めて展示場内部から見えないようにした。



展示場構造概要図



張弦梁骨組



ケーブル端部

■ 流通センター

流通センターの柱スパン間隔は9mグリッドで統一されている。架構形式としては柱SRC造、梁S造の純ラーメン構造として、粘り強い構造であるとともにフレキシブルな平面配置計画が可能なものとしている。

■ ガレリア

南北のエントランスゾーンには、一辺が約15mの立方体のガラスキューブを設けている。このガラスキューブの構造フレームは鋼管を田の字型に構成し、ブレースなどの斜め材を設けないように努めた。ガラスキューブの内部では、2本のSRC柱頂部から傘状に鋼管を広げ、屋根面の構造フレームを支持している。またガラスカーテンウォールはDPG工法を採用し、斜め材のない構造フレームとともに透明感のある空間を演出している。

（よしざわ みきお 日建設計・大阪 構造設計主管 ／ やまもと けんじ 同 構造設計室）

設備計画

Building Services

杉山　隆 ／ 伊藤　昌明 ／ 松本　浩作

■ 基本的な考え方

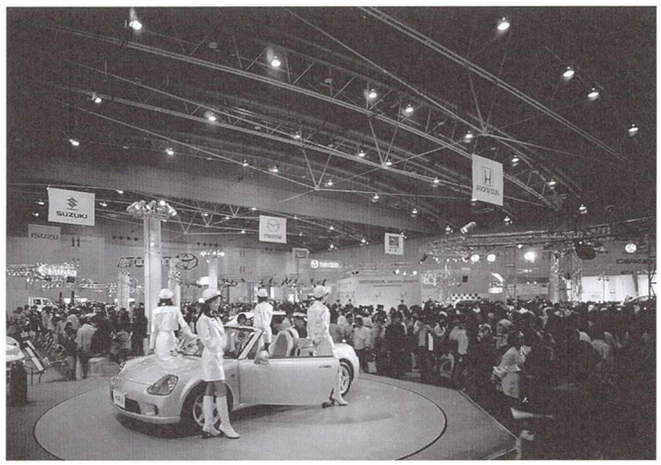
多様な用途・機能をもつ大規模複合施設に適した、機能性、柔軟性、安全性、経済性の高い設備設計とした。

・展示場や流通センターの核施設の用途、使用形態、空間特性に応じた柔軟で確実な設備システムを構築した。展示場には電気、給排水、ガス、エアーなどユーティリティ供給ピットを設け、また照明の部分点滅や調光、照明パトン設置など多様な使用形態にフレキシブルに対応できるよう計画している。また流通センターへはテナント単位毎に電源・空調などのモジュール供給をおこない、柔軟な設備フレームを構築するとともに全体空調システムと個別空調システムを併用するなど快適性の向上を図った。

・不特定多数の人々が安全に施設利用できるよう各種防災システムの充実を図った。特に大空間対応消火システムとしての散水設備、高感度分離型感知器、火災検出センサーなどを採用し、消防防災システム評価を受け防災上の安全性を高めた。また展示場の大空間は38条特認により蓄煙方式としている。

・最小限のエネルギーやコストで最大限の機能を発揮できる計画とした。ポンプ台数制御、外気冷房、CO_2濃度による外気取入れ量制御などの省エネルギー設計を行い、また地域冷暖房施設ブロー水を中水利用し、節水型器具を採用するなど省資源化も図っている。

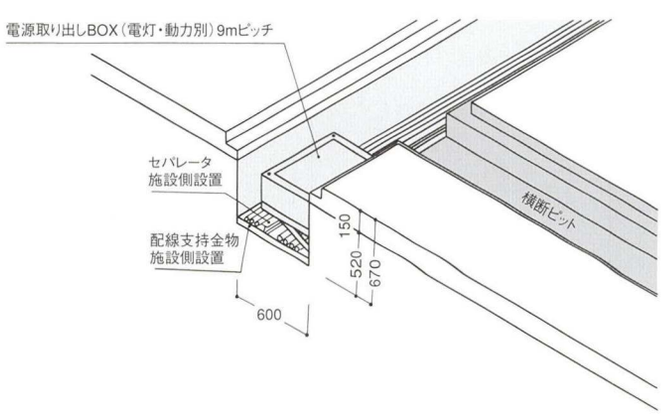
・多様な用途、使用区分に対し管理の明確化、容易化を図る計画とした。AIM全体の設備管理を一元化して保守運営の合理化を図るため流通センター、展示場の設備監視を統合した中央監視盤設備を設置している。また展示場諸室や各テナント毎のユーティリティ計量を行い、課金などを集中管理できるシステムを導入した。AIM各所にITV、パッシブセンサーなどを適所に配置し防犯上の万全も期している。



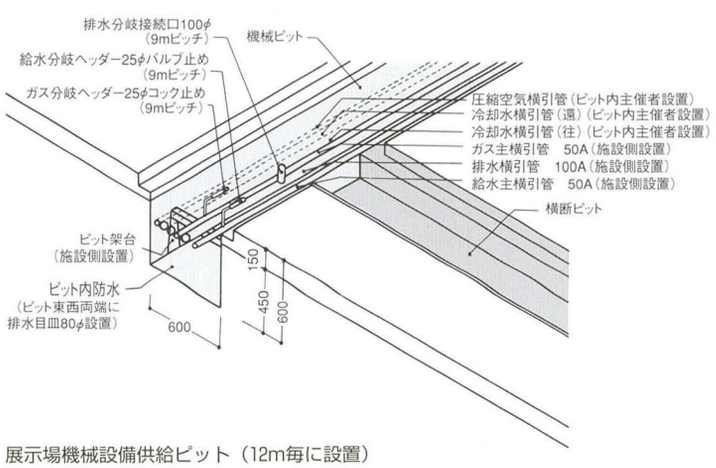
九州モーターショー（1998.5）



使用形態にフレキシブルに対応できる展示場設備



展示場電気設備供給ピット（12m毎に設置）



展示場機械設備供給ピット（12m毎に設置）

■ 照明計画

AIMの照明計画では機能性、省エネルギーに配慮するとともに、より高い付加価値を創出し快適性を演出するものとした。事務室等における〈機能照明〉に加え、建築と一体化して空間を形作る〈空間創出照明〉、AIM施設をシンボライズする高付加価値の〈演出照明〉について明確な性格づけのうえ計画した。

建築の構成と動線を強調し、空間をドラマチックに演出するため、次の事項を指針としてシステマティックな手法で全体を統合するものとした。

・必要な場所に必要な明るさを確保し、光のダイナミズムを確保する。(狭角光源の組合せにより適光適所を構成する。)
・自然光による光と影の動きに呼応する鉛直光の構成を試みる。
・光の色温度などに配慮し、非日常光と日常的光を差別化する。
・各種フィルターなどを利用し人の五感に優しい、心地よい光環境を創出する。
・器具とランプ効率、目的別配光と制御に配慮し、ランニングコストの逓減を図る。
・小倉駅北口のにぎわいを創出するライトアップを行う。

■ 大型ガラスブロック面のAIMビジョン

施設のイメージアップを図り、小倉駅北口の夜間ランドスポットを創出することを目的として、流通センター南側約30m角のガラスブロックカーテンウォール面にRGB照明装置で任意のメッセージ・動画・グラフィックなどを表示する設備を設置し、様々な情報発信など注目を集めている。

発光素子部は乳白色ガラスブロックの裏面に設置された約3,000個のRGBネオン管収容の発光ユニットで構成されている。電源ユニットはインバータ方式のCRネオントランスと調光システムを内蔵しており、RGB各32階調、約32,000色表示可能で、パソコン制御により任意の画像を表示できる。素子寿命は約50,000時間、設備容量は50KVA以下であり、ランニングコストにも配慮した設計としている。

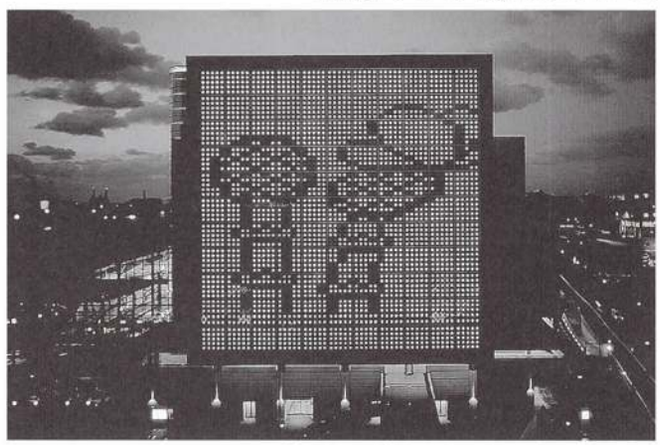
(すぎやま たかし 日建設計・大阪 設備設計主管／いとう まさあき 同 設備設計主管／まつもと こうさく 木谷デザイン事務所)



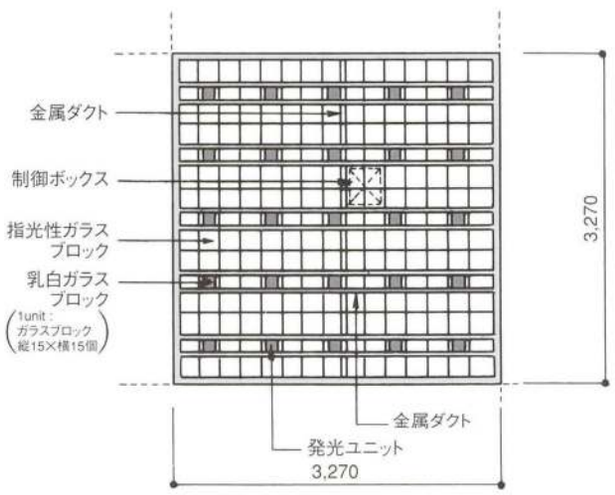
建築と一体化して空間を創出・統合する照明



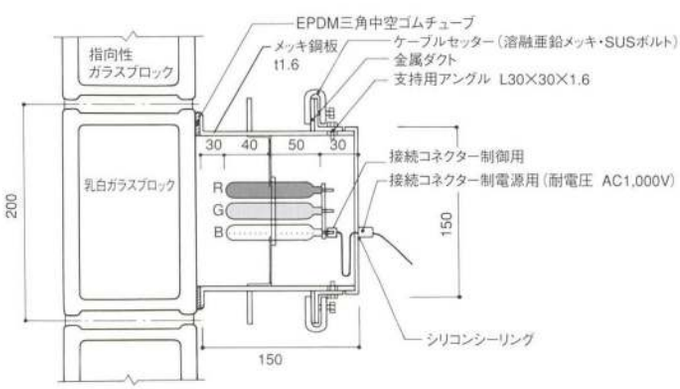
AIMをドラマチックに演出するライトアップ



小倉駅北口の夜間ランドスポット〈AIMビジョン〉



ガラスブロックカーテンウォール1unit　RGB発光ユニット取付位置図
(AIMビジョンは縦11×横11unitで構成)



RGB発光ユニット断面図

施工

Construction

瓦田　進一 ／ 小森　浩之 ／ 木村　洋介 ／ 中楯　斉

■ 展示場棟・西日本総合展示場新館

展示場棟の屋根架構は、約75mスパンの鋼管立体トラスとケーブルを合成した張弦梁および従来の鉄骨トラス梁で構成されており、施工計画は次のとおりとした。

屋根鉄骨建方は建物外周部を１FLまでSRC化完了後、補強したBIF耐圧盤上より行った。８分割で工場製作したトラスを海上輸送し、現場で75mのトラス梁を２分割で地組し、300tクローラークレーンを用いて上架した。２分割したトラスのジョイント部には仮設ベント支柱を設置した。

張弦梁の施工は①トラス鉄骨地組②仮設ベント組立③トラス鉄骨仮設④トラス間つなぎ梁仮取付け⑤２分割トラスジョイント部溶接⑥ケーブル取付け、緊張（張力約200t）⑦仮設ベント解体⑧各トラス間つなぎ梁本締め、の手順で行った。張力管理はケーブル緊張時のジャッキ油圧管理、ローラー支承部水平変位およびトラス中央部鉛直変位の確認を行い、緊張後は振動法により張力の確認を行った。

以上の施工手順を繰り返し、トラス梁を１台ずつ架設していくが、建方は建物北側より仮設スロープ構台のある建物中央部に向かって架設後、南側より中央部に向け架設、中央部最終トラス梁については、全長を３分割し、建物西側道路上より360t油圧クレーンを用いて行った。

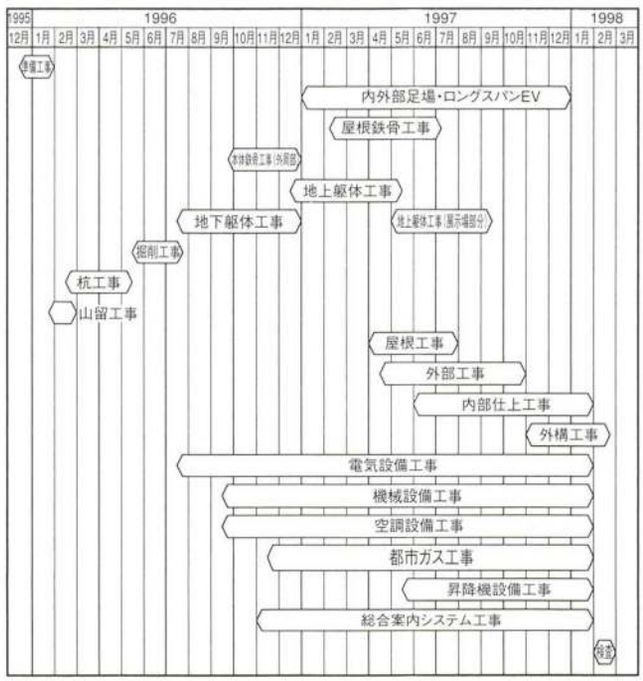
■ 流通センター棟

流通センター棟地下１，２階には竣工に先立ち1997年10月から周辺施設に熱供給を開始する地域冷暖房施設が入居しており、また同一敷地内で稼働中の西日本総合展示場の増築工事という仮設上の制約から、施工計画に工夫が必要であった。以下の点が施工上の特徴である。

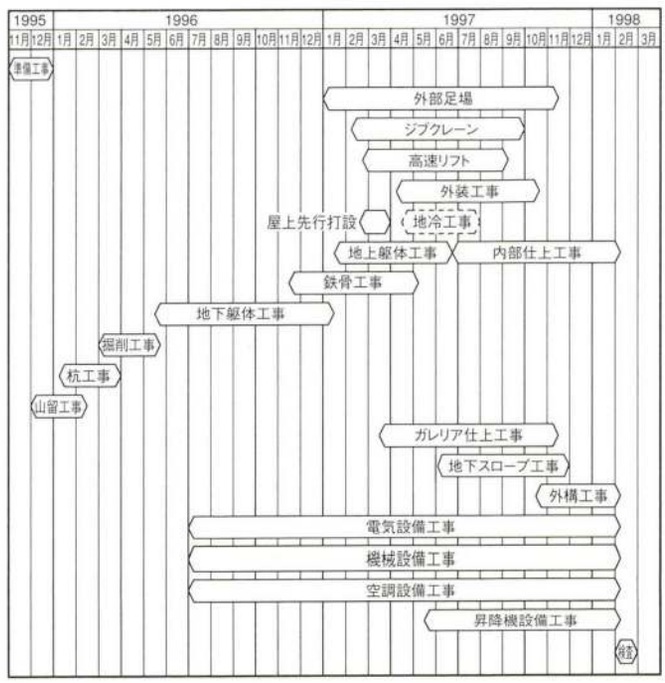
- 地上鉄骨建方を100tクローラークレーン２台、80tクローラークレーン１台により、通常と異り垂直方向に先行する屏風建てとした。
- 資材揚重・外装材取付けのために本体鉄骨を補強し、R階上部に走行式ジブクレーン２台、固定式ジブクレーン１台を設置した。また高速リフト２台、人荷用EV２台およびホイストクレーン３台を設置し内外装材の揚重に使用している。
- 外壁位置と敷地境界との関係から、揚重スペースの確保が困難なため、１階躯体を補強し生コン車・大型車両の通行部分を確保した。同様に揚重スペース確保のため東側スロープ施工時期の調整を行っている。
- 地域冷暖房施設の冷却塔が1997年４月よりR階に設置開始のため、R階スラブを先行打設し、基礎・防水工事を地上躯体と平行して施工した。

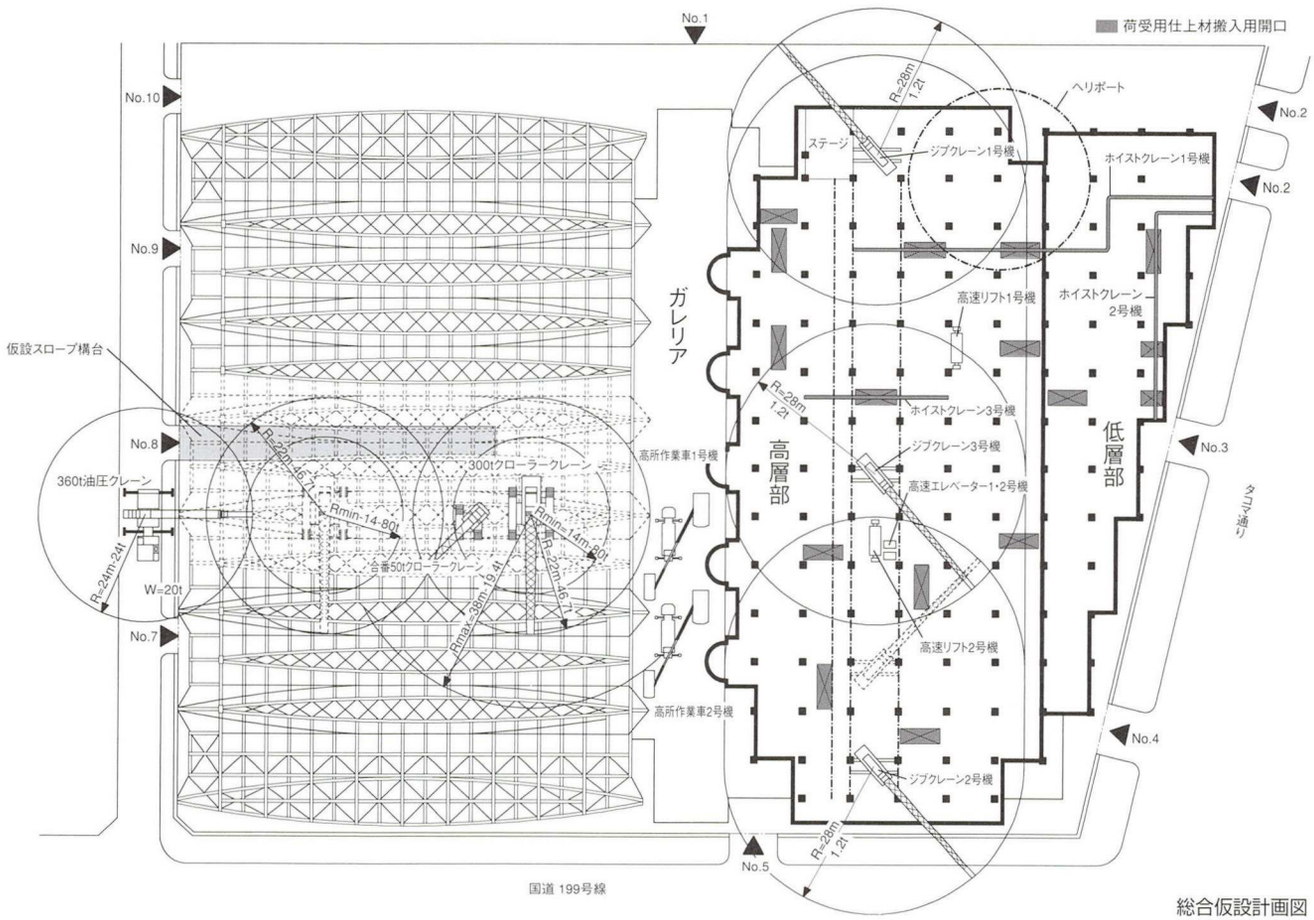
(かわらだ しんいち 鹿島･フジタ･若築建設工事共同企業体 所長／
こもり ひろゆき 同 工事課長
きむら ようすけ 鹿島･住友金属･山九･シャール建設工事共同企業体 所長／
なかだて ひとし 同 工務課長)

展示場棟・西日本総合展示場新館総合工程表



流通センター棟総合工程表





総合仮設計画図



地中連続壁工事　96.2



杭工事　96.3



構台・掘削工事　96.6



掘削・耐圧盤工事　96.9



鉄骨建方・地下躯体工事　96.11



鉄骨建方・地上躯体工事　97.2



屋根鉄骨・鉄骨建方・屋上先行打設　97.3



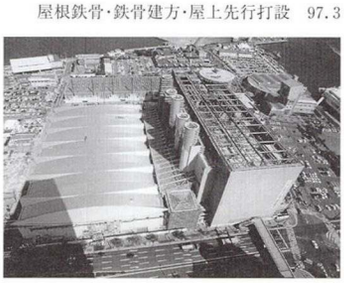
屋根鉄骨・鉄骨建方工事　97.5



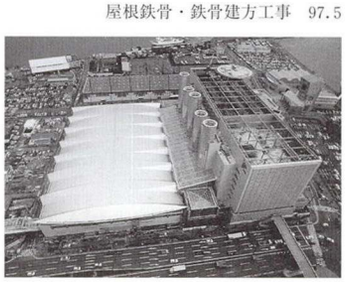
屋根鉄骨・屋根鋼板葺工事　97.6



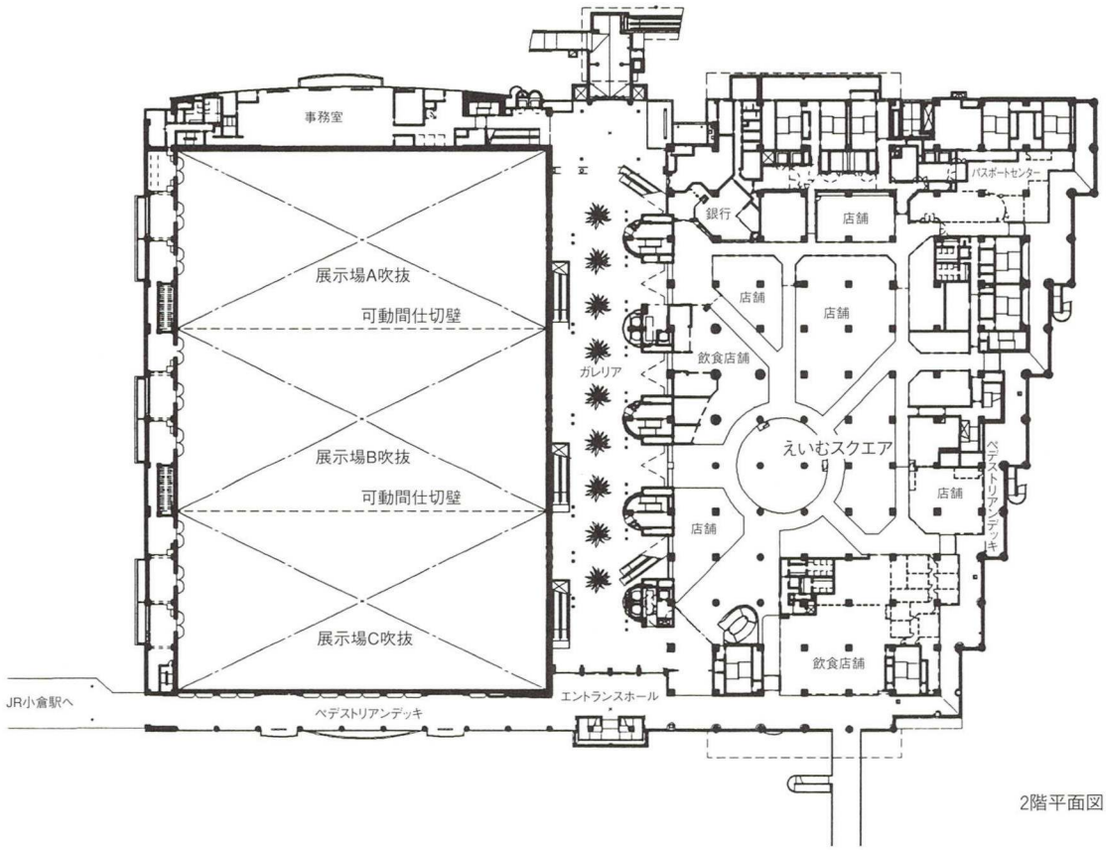
外装工事　97.7



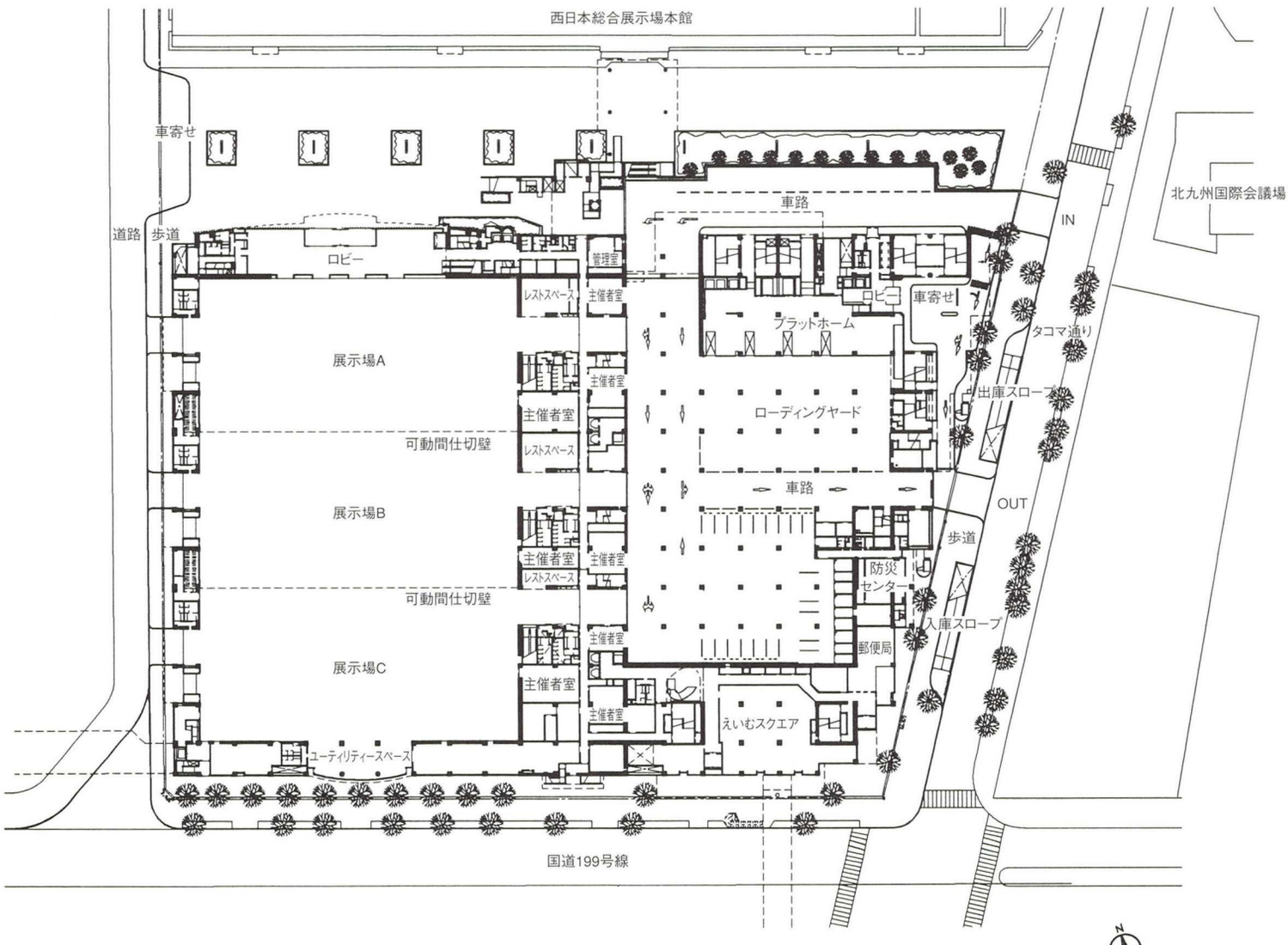
外装・内装工事　97.10



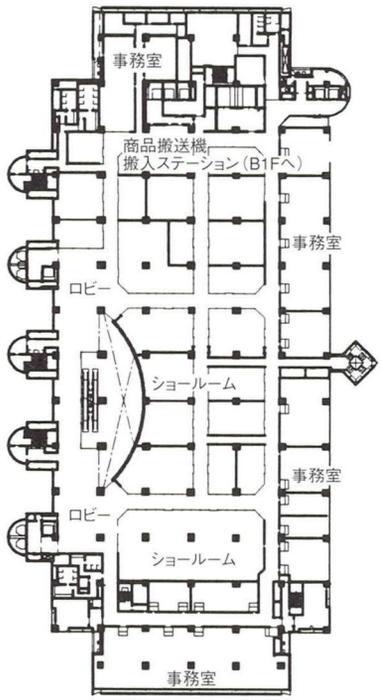
内装・外構工事　97.12



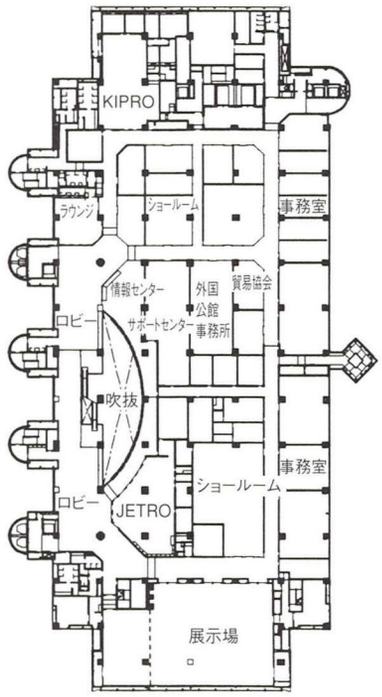
2階平面図　1／1500



1階平面図　1／1500

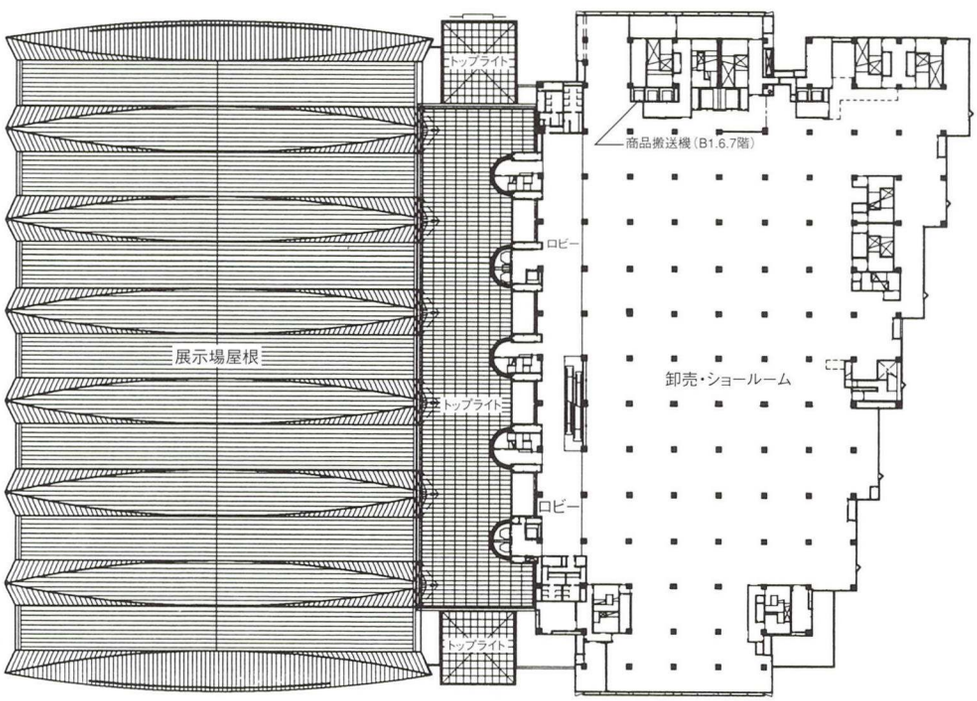


6～7階平面図　1／1500

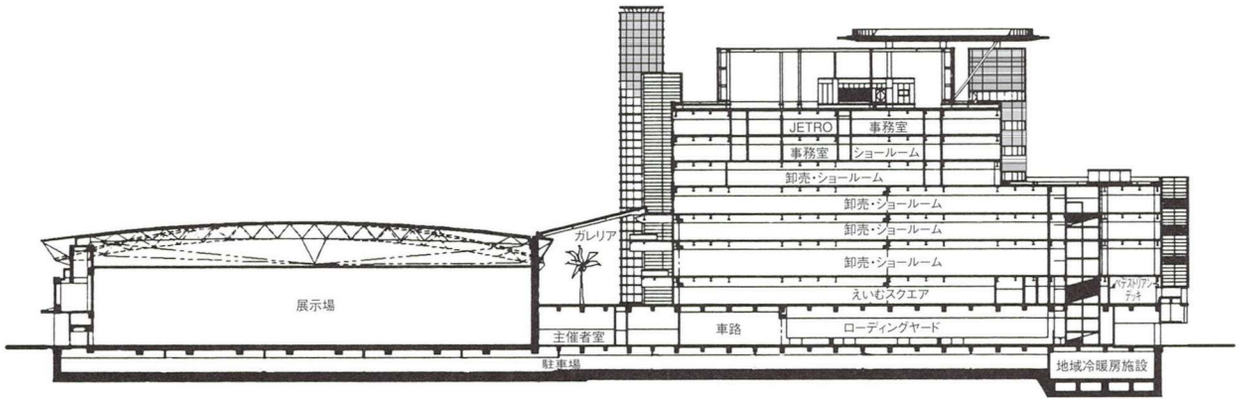


8階平面図　1／1500





3～5階平面図　1／1500



東西断面図

アジア太平洋インポートマート概要

●建築主　北九州市
㈱北九州輸入促進センター
●設計監理　北九州市、日建設計
●施工　**展示場棟・西日本総合展示場新館**
建築工事：鹿島・フジタ・若築建設工事共同企業体
電気工事：九電工・あいはら共同企業体
空調工事：ダイダン・日田共同企業体
機械工事：三信工業
昇降機工事：東芝
都市ガス設備工事：西部ガス
総合案内板システム設備工事：日本電気
流通センター棟
総合：鹿島・住友金属・山九・シャール建設工事共同企業体
電気工事：九電工・きんでん・住友電設・日鉄エレックス共同企業体
空調工事：九電工・高砂熱学工業・東洋熱工業共同企業体
機械工事：東洋熱工業・三機工業・新菱冷熱工業共同企業体
昇降機工事：東芝・三菱電機・日立製作所
商品搬送機工事：日本シューター
●建設地　福岡県北九州市小倉北区浅野３丁目８番１号
●地区・地域　準工業地域・防火地域指定なし
●主要用途　展示場・卸売・事務所・店舗・駐車場・地域冷暖房施設
●敷地面積　58,832.33㎡
●建築面積　23,819.38㎡（既設等を含め　34,050.66㎡　建蔽率　57.9%）
●延床面積　112,165.01㎡（既設等を含め　125,495.32㎡　建蔽率　182.9%）
●建築規模　地下２階、地上８階、塔屋２階
（西日本総合展示場新館：地下１階、地上４階）
（流通センター：地下２階、地上８階、塔屋２階）
●構造　地業：場所打ち鉄筋コンクリート杭
主体構造地下：鉄筋コンクリート造
地上：鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
展示場屋根：鉄骨トラス造（張弦梁工法）
●最高高さ　56.900m（建物高さ49.400m）
●駐車台数　503台
●工期期間　1995年11月～1998年２月
●外部仕上　**西日本総合展示場新館**
外壁：アルミカーテンウォール（高性能熱線反射ガラス）、
コンクリート吹付塗装、ボーダー磁器質タイル貼り
建具：ステンレスサッシュビーズブラスト仕上げ
屋根：ステンレスシームレス工法屋根
ガレリア
外壁：強化ガラスDPG工法、
アルミカーテンウォール（フッ素焼付塗装）
建具：ステンレスサッシュビーズブラスト仕上げ
トップライト：波形網入ガラス
流通センター
外壁：ガラスブロックカーテンウォール、
アルミカーテンウォール（熱線反射ガラス）
押出成形セメント板シリコン塗装
建具：アルミサッシュ（フッ素焼付塗装）
ステンレスサッシュビーズブラスト仕上げ
屋根：アスファルト防水押えコンクリート
●内部仕上　**西日本総合展示場新館**
床：コンクリート金鏝押え
壁：アルミ繊維吸音板一部コンクリートEP塗装
天井：グラスウール吸音材システム天井
ガレリア
床：花崗岩J&P貼り一部大理石模様貼り
壁：コンクリートEP塗装、押出成形セメント板シリコン塗装、
アルミカーテンウォール（熱線反射ガラス＋網入りガラス）
流通センター
床：OAフロアー下地タイルカーペット
壁：石膏ボード下地EP塗装
天井：岩綿吸音板
●電気設備
受電方式　**西日本総合展示場新館**：高圧6.6KV、4,200KVA
流通センター：特高22KV、2,000KVA×３
地域冷暖房施設：特高22KV、2,000KVA×３
予備電源　**西日本総合展示場新館**：屋内開放型ディーゼルエンジン300KVA
流通センター：屋内開放型ディーゼルエンジン1,500KVA
地域冷暖房施設：屋内開放型ディーゼルエンジン55KVA
蓄電池　据置型鉛蓄電池を設置
●空調設備
熱源　地域冷暖房施設より冷水、蒸気受入れ
空調方式　展示室系統：専用空調機方式
事務室系統：各階空調機＋FCU併用方式
店舗系統：各階空調機＋FCU併用方式
●衛生設備
給水　**西日本総合展示場新館**：上水（直圧式）、中水の２系統
流通センター：上水（重力式）、中水の２系統
地域冷暖房施設：上水（加圧ポンプ式）
給湯　電気式局所給湯方式
排水　汚水、雑排水の分流式、下水本館に放流
●防災設備
消火　スプリンクラー、泡消化、散水設備（展示場、ガレリア、流通センター吹抜け部）、CO_2消化、連結送水管、屋内消火栓設備、消防用水
排煙　機械排煙一部自然排煙、展示場は38条特認による蓄煙方式
監視制御　中央監視盤設備（１階防災センター、副盤を展示場管理室に設置）
●昇降機　**西日本総合展示場新館**：乗用３基、人荷用１基、エスカレータ２基
流通センター：乗用５基、非常用４基、人荷用１基、荷物用２基、
エスカレータ22基、商品搬送機１基（B１,６,７階停止）

●担当者名
日建設計：中井進　中津敏明　神津昌哉　藤倉正大　船越久美子　田中公康　山本武志　吉澤幹夫　山本健二　伊藤敦　村上義弘　伊藤昌明　向井文悟　杉山隆　武田裕　二瓶学　前田泰幸　濱上眞博　高下克己　日野徹　石元順一　田中博隆　砂田栄一　岩下武敏／木谷賢治　松本浩作（木谷デザイン事務所）
展示場棟・西日本総合展示場新館施工：瓦田進一　小森浩之　山下良次　河野友治　佐藤和昭／佐伯勝年　鷲巣保正　高瀬修／谷川誠　村上昭／北江三次／隈本新／深堀彬／宮崎寿一
流通センター棟施工：木村洋介　中園定次　亀岡正治　西山興夫　八尋信一　中楯斉　田中成人　阿部幸雄　荒金裕貴／堤利勝　黒川高徳　池田祥司　岩田保雄　高木功／小出孝法　事柴洋一郎　坂田義孝　藤重俊徳／柿原秀規　佐藤修三　中原寛之／石川剛　吉野泰宏　牟田弘一／木下哉／中村文夫　向井義明　川端芳治　鷹巣元司

日本建築協会

月間の動き

【平成10年4月分】

理事会

第1回定例理事会
22日・4時～4時50分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか24名
議　事　(1)副会長・理事の会務分掌および常任理事選任
(2)平成10年度各常設委員会委員・特別委員会委員委嘱
(3)他団体役員引き継ぎ
(4)定例理事会および常任理事会日程
(5)入退会者承認
(6)事業報告、その他
第1回会勢理事会
22日・3時～4時・於本会会議室
出席者　岡本副会長ほか8名
議　事　(1)入・退会状況報告
(2)今後の進め方

編集委員会

第14回構造分科会
1日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　田辺幹事ほか7名
議　事　(1)「構造の頁」の企画
(2)10月号構造特集の企画
(3)構造分科会幹事の選出
第1回施工材料分科会
2日・4時～6時・於本会会議室
出席者　十倉幹事ほか5名
議　事　(1)「施工材料の頁」の企画
(2)平成10年度幹事の推薦
(3)平成10年度委員交代の件
第1回計画分科会―建築系―
7日・7時～9時半・於本会会議室
出席者　塚本幹事ほか7名
議　事　9月号建築分科会担当の特集企画
第1回会員企画小委員会
7日・7時～8時半・於本会会議室
出席者　塚口副委員長ほか4名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第1回計画分科会―インテリア・住宅系―
8日・7時～9時・於本会会議室
出席者　石川委員ほか4名
議　事　7月号「インテリア・住宅」特集企画
第1回設備分科会
13日・6時～8時45分・於本会会議室
出席者　安江特別幹事、桝井委員ほか7名
議　事　(1)8月号「建築設備メンテナンスの展望」特集企画
(2)「設備の頁」の企画
第1回法令分科会
15日・2時～3時45分・於本会会議室
出席者　炭崎幹事ほか3名
議　事　(1)6月号「地球環境保全と建築」特集の検討
(2)「法令コーナー」の企画
(3)委員の交代
第1回「素材と技術が生み出すデザイン」幹事会
16日・6時半～9時45分・於本会会議室
出席者　遠藤幹事ほか6名
議　事　5～8月号テーマの内容検討
編集委員会総会・第1回編集委員会
17日・5時～6時半・於本会会議室
出席者　市川会長、與謝野委員長ほか28名
議　事　(1)会長の挨拶
(2)編集委員長の選出と挨拶
(3)小委員会副委員長・分科会幹事の選出
(4)出席委員の自己紹介
(5)編集委員会の構成と「建築と社会」の編集についての説明
(6)報告事項―5月号、6月号、7月号、8月号の企画
(7)編集委員会定例日
(8)本年度の編集のあり方と本年度収支目標
第1回作品作風小委員会
23日・6時半～9時・於本会会議室
出席者　前川副委員長ほか3名
議　事　(1)作品の掲載状況・掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「gallery」掲載報告・予定
(4)「SKETCH BOOK」掲載予定

事業委員会

第1回見学会小委員会
9日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか10名
議　事　(1)新旧委員の挨拶と各委員の自己紹介
(2)平成10年度見学会小委員会の副委員長・幹事互選
(3)前回事業委員会の報告
(4)今後の予定
(5)今後の見学会の候補
第1回情報小委員会
13日・6時～8時35分・於本会会議室
出席者　川村副委員長ほか15名
議　事　(1)各委員の自己紹介
(2)平成10年度情報小委員会の副委員長・幹事互選
(3)事業委員会の報告
(4)今後の予定
(5)平成10年度の企画・担当
第1回若い会員の集い小委員会
14日・7時～9時10分・於本会会議室
出席者　芦田委員ほか8名
議　事　(1)実施報告
(2)今後の予定
(3)委員の時間
事業委員会総会（新旧委員合同）
15日・5時～6時半・於清交社会議室
出席者　多井委員長ほか13名
議　事　(1)平成10年度正副委員長・幹事の選出
(2)各小委員会からの報告と検討

建材委員会

第1回建材委員会
8日・3時半～5時半・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか8名
講　演　「松下電工の地球環境保全への取り組み」
議　題　今後の予定

出版委員会

第1回出版委員会
16日・5時半～7時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか6名
議　事　(1)平成10年度正副委員長の選出
(2)本年度の委員会活動について
(3)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(4)今後のテーマと執筆者選定

30's EYE―21世紀へのエスキス

森田昌宏／竹中工務店設計部
「アアルト記念国際コンペ入賞レポート」
24日・6時半～9時5分　参加者35名

建築クラブ

第312回朝食会
14日・8時～9時半・於リーガグランドホテル
演　題　「聞くクスリ・・・話のはなし」
講　師　小池　清氏（MBS企画顧問）
参加者　44名

入会者（敬称略）

〔団体会員1社〕
ユニ・タイセイ（株）
〔個人会員36名〕

植田　久夫（間組）	嶋村　勉（間組）	江口　正則（奥村組）
澤田　靖三（奥村組）	森本　育宏（奥村組）	上田　紘夫（尼崎市役所）
上松　勝男（上松一級建築士事務所）	大西　正宜（今宮工業高校）	国岡　隆（国岡建設）
齋藤　公平（三信建築設計事務所）	坂元　義隆（川崎重工業）	阪田　弘一（大阪大学大学院）
瀬川支名子（三井ホーム）	谷山　紀子（コンコード建築設計事務所）	筒井　勲（竹中工務店技術研究所）
徳山　正司（錢高組）	長堀　晃治（大阪府建築都市部）	糟谷　修（安藤建設）
橋口　和久（象ファクトリー）	橋本　友行	林　佐智代（三座建築事務所）
東野　良平（布施工業高校）	平井　康之（高砂熱学工業）	細田みぎわ（細田みぎわアーキスタジオ）
天野　直樹（竹中工務店）	青山　昭（竹中工務店九州支店）	有角　昇純（竹中工務店九州支店）
泉　裕之（竹中工務店九州支店）	小川　徹（竹中工務店九州支店）	大村　次（竹中工務店九州支店）
賀来　正義（竹中工務店九州支店）	片岡　照雄（竹中工務店九州支店）	木村　康彦（竹中工務店九州支店）
琴谷　裕之（竹中工務店九州支店）	田中　宏太（竹中工務店九州支店）	廣松　賢治（竹中工務店九州支店）

暑中お見舞申し上げます

平成10年盛夏

(50音順)

青山幸夫

株式会社　青山建築積算事務所　代表取締役

〒550-0004 大阪市西区鞍本町1-6-10本町西井ビル
電話06(443)0430
〒610-1125 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

浅海伸之

浅海電気株式会社　代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701
〒665-0845 自宅・宝塚市栄町2丁目10番26—1102号
電話0797(81)1174

五十嵐定義

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565-0873 吹田市藤白台5丁目8番1号 電話06(872)0391

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社　代表取締役

〒547-0001 大阪市平野区加美北5丁目11番12号
電話06(792)4425代
〒547-0041 大阪市平野区平野北2丁目9番15号
電話06(796)1839

上西圭治

株式会社　大気社　代表取締役会長

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル7階
電話06(448)3603
〒659-0025 自宅・兵庫県芦屋市浜町12-14　電話0797(22)5949

植野知雄

株式会社　寿建築積算事務所　所長

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29　つるのすビル
電話06(244)1561代
〒599-8126 自宅・堺市大美野5—9　電話0722(37)1162

歌俊美

株式会社　歌建築設計事務所　代表取締役

〒649-6414 和歌山事務所：和歌山県那賀郡打田町打田316
電話0736(77)2711
〒537-0021 大阪事務所：大阪市東成区東中本3-16-23-304
電話06(977)0625

梅田能邦

大晃設備株式会社　取締役社長

〒554-0012 大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電話06(466)4779
(ダイヤルイン)

多井幸男（オオイ）

多井建築研究所　所長

〒657-0063 神戸市灘区曽和町3—1—11 電話078(821)6133

岡野節壽

日本電設工業株式会社　大阪支店　専務取締役 支店長

〒531-0072 大阪市北区豊崎3丁目17—15 電話06(372)3533
〒560-0032 自宅・豊中市蛍池東町2-6-11 電話06(841)3832



岡本行善

株式会社　昭和設計　取締役会長

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-800号 オーク1番街
Tel 06-575-5555 Fax 06-575-5556
URL http://www.showa-sekkei.co.jp

恩庄治郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長

〒565-0821 吹田市山田東1—12—12　電話06(876)2334
〒565-0821 自宅・吹田市山田東1—12—12 電話06(877)1406

数井利美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205～0207
〒654-0103 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39—13
電話078(792)5862

久米宏和

社団法人 大阪建設業協会　専務理事

〒540-0031 大阪市中央区北浜東1番30号 電話06(941)4821
URL http://www.o-wave-or.jp/

取締役会長　**小西岬**
取締役副会長　**橋本正章**
取締役社長　**此谷浩**

株式会社　小西設計

〒550-0012 大阪市西区立売堀1丁目12—16　電話06(532)4051

小林四郎

住友電設株式会社　相談役

〒550-0011 大阪市西区阿波座2—1—4 電話06(537)3430
〒662-0093 自宅・西宮市西平町19—11　電話0798(74)6621

名誉会長

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長

〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番7号 電話06(943)1371代
〒662-0064 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長

〒530-0017 大阪市北区角田町2番15号 電話06(372)7151代

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長

〒540-0004 大阪市中央区玉造2丁目25番20号　電話06(765)5650代
FAX06(765)5655
〒614-8056 自宅・八幡市八幡福禄谷98-7　電話075(971)0395

暑中お見舞申し上げます

平成10年盛夏

(50音順)

取締役会長　高橋慶夫
取締役社長　上田宏二
株式会社　高橋上田設計事務所

〒550-0013 本社・大阪市西区新町1-4-21 大幸ビル 電話06(533)0972
大阪事務所・〃 電話06(533)0971
〒162-0824 東京事務所・東京都新宿区揚場町1-21 電話03(5261)8081
飯田橋升本ビル
〒802-0081 九州事務所・北九州市小倉北区紺屋町11-10 林ビル
電話093(551)5543
神戸事務所・京都事務所・マニラ事務所

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所 代表取締役会長

〒675-1379 兵庫県小野市上本町240 小野ビル 電話0794(62)4757代
〒675-1362 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話0794(62)4668

松田恒彦

株式会社 ART 建築設計事務所　代表取締役所長

〒530-0044 大阪市北区東天満2丁目3-10 トップス天満ビル
電話06(357)5351代
〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2丁目8-7
電話06(701)4571

立野一郎

株式会社　ユニオン　会長

〒550-0015 大阪市西区南堀江2丁目13番22号 電話06(532)3188

中原英雄

株式会社　創美設計　代表取締役

〒530-0054 大阪市北区南森町1丁目2番25号 南森町isビル
電話06(312)3001

松原満佐子

有限会社　柳々堂　代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-3 電話06(443)0167～8
FAX06(443)1826

玉川公弘

株式会社　西原衛生工業所大阪店　代表取締役社長

〒531-0071 大阪市北区中津6丁目8番4号 電話06(458)3628
〒659-0015 自宅・芦屋市楠町1－5 電話0797(22)8166

蜷川守男

大阪装飾株式会社　代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目13番24号 電話06(444)1410
〒665-0071 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号 電話0797(72)6045

松本弘

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2丁目1番2号 電話06(543)2553

名誉正会員

知見義夫

元・本会理事

〒601-8413 自宅・京都市南区西九条春日町48
電話075(691)3860



三谷忠義

株式会社　三谷設計　代表取締役社長

〒694-0051 島根県大田市久手町波根西777－1
電話08548(2)8121代
〒694-0051 自宅・島根県大田市久手町波根西225-2
電話08548(5)8320

辻本豊

株式会社　ツジモトユタカ設計事務所　代表

〒640-8266 和歌山市東長町中ノ丁20番地 電話0734(26)2030
〒640-8266 自宅・和歌山市東長町中ノ丁20番地
電話0734(26)0576

三宗司郎

株式会社　昭和設計　代表取締役社長

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-800号 オーク1番街
Tel 06-575-5555 Fax 06-575-5556
URL http://www.showa-sekkei.co.jp

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒557-0042 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22—507
電話06(651)0566

福谷剛

株式会社　ゼネラルプリンティング　代表取締役社長

〒542-0063 大阪市中央区東平1丁目4-17 電話06(763)2541
〒666-0129 川西市緑台1丁目8－7 電話0727(93)0409

副会長

薬袋公明

日建設計　取締役会長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号 電話06(203)2361

徳岡昌克

株式会社　徳岡昌克建築設計事務所　代表取締役

〒530-0047 大阪市北区西天満6-3-11-205 電話06(314)1688
〒661-0965 尼崎市次屋3-6-60 電話06(499)0701
〒812-0007 福岡市博多区東比恵3丁目25番5号 電話092(474)2112
〒520-0501 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157
電話0775(96)1149
〒532-0033 自宅・大阪市淀川区新高6-6-18
電話06(391)8182

牧英二

日建設計　取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号 電話06(203)2361

村石全

株式会社 クトクコーポレーション
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長

〒556-0022 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号 電話06(568)3671
〒596-0011 工場・岸和田市木材町9番地の3 電話0724(37)2524
〒649-7167 工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
電話0736(22)7880

暑中お見舞申し上げます

平成10年盛夏

(50音順)

八　木　重　喜

YAGISO BRICKS
八木惣株式会社　常務取締役
〒593-8322 堺市津久野町3丁28-10　電話0722(62)3838
〒593-8322 自宅・堺市津久野町3丁28-10 電話0722(61)0443

矢　野　卓　生

中央電設株式会社　取締役社長
(旧社名　中央電気工業株式会社)
〒530-0051 大阪市北区太融寺町3番24号　電話06(312)8881代表

山　内　恒　男

株式会社 石本建築事務所　取締役 大阪支所長
〒541-0054 大阪支所・大阪市中央区南本町2-6-12
(サンマリオン大阪)　電話06(251)7507
〒102-0074 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(3262)7161
札幌・名古屋・九州・東北・横浜・中国・PORTLAND

山　本　貴　士

朝陽電気株式会社　代表取締役
〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565-0873 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06(871)0851

和　田　克　朗

財団法人　大阪住宅センター　理事長
〒542-0081 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(253)0071

和　田　眞　一

株式会社　東　和　組　代表取締役社長
〒530-0047 大阪市北区天満4丁目5番14号 電話06(363)4051代
〒659-0065 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

和　中　勝

株式会社　和　中　商　店　取締役会長
〒531-0072 大阪市北区豊崎5丁目8番11号 電話06(371)0731～5
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町11－5　電話03(3464)9723
〒453-0804 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地 電話052(481)7338
〒662-0836 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798(67)0386

事務局職員一同



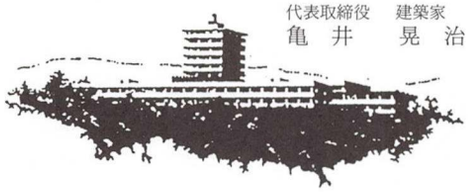
暑中お見舞申し上げます

平成10年盛夏

設計事務所有志

健康で豊かな生活文化の創造に貢献する

株式会社 A.R.I 建築事務所



代表取締役　建築家
亀井　晃治

■本　　社／大阪府大阪市中央区谷町7-3-4-203　〒542-0012
TEL 06-768-1771　FAX 06-768-1406
■東京支店／東京都千代田区東神田1-7-8　東神田大治ビル内
■神戸支店／兵庫県神戸市東灘区本山北町6-17-24
■創　　立／昭和37年4月1日　　■資　　本／7,600万円
■登　　録／一級建築士事務所　　大阪府知事　(リ)第1848号
■作　　品／帝塚山学院大学、帝塚山学園大学、関西外国語大学、
大阪明浄女子短期大学など多数
■グループ／(株)arix

浅井謙建築研究所株式会社

KEN ASAI ARCHITECTURAL RESEARCH INC.

〒530-0047　大阪市北区西天満2-9-4
TEL. 06(361)0035 FAX. 06(361)0149

代表取締役　浅井　謙

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　岡　本　清　彦

〒556-0016 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪(06)646-0161㈹

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長　鋤　納　忠　治
代表取締役社長　織　田　愈　史

本　　社　〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目2番13号(名古屋センタービル)　電話〈052〉222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田三丁目5番12号(聖公会神田ビル)　電話〈03〉5294-6211

ISHIMOTO

株式会社石本建築事務所

代表取締役会長　古　畠　誠　一
代表取締役社長　菅　原　道　雄
取締役大阪支所長　山　内　恒　男

本　　社　〒102-0074 東京都千代田区九段南4－6－12　電話03(3262)7161
大阪支所　〒541-0054 大阪市中央区南本町2-6-12(サンマリオン大阪)　電話06(251)7507代
支　　所　札幌・名古屋・九州　　事務所　東北・横浜・中国・PORTLAND

URABESEKKEI
株式会社 浦辺設計
URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル 〒530-0001　電話 06(341)1680
岡山事務所　岡山市問屋町26—103　〒700-0977　電話 086(245)0090

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長　三宗司郎

本　社　552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800 オーク1番街　TEL 06-575-5555
東　京　160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル4F　TEL 03-3357-8631
神　戸　650-0024 神戸市中央区海岸通り6番地 建隆ビル302号　TEL 078-331-4568
広　島　730-0015 広島市中区橋本町4-7　TEL 082-222-3760
九　州　862-0913 熊本市尾ノ上2-18-3 千代田ビル105号　TEL096-384-8045

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役　瀬戸本淳

〒650-0002 神戸市中央区北野町2丁目7—1—120　TEL078-222-1665(代)

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区南森町1丁目2番25号 南森町ISビル 〒530-0054 TEL.(06)312-3001代表

株式会社 大建設計
DAIKEN SEKKEI, INC.

代表取締役社長　小林正春
常務取締役 大阪事務所所長　島幸一郎

大阪市西区京町堀1丁目13番20号　大建設計大阪ビル　電話06-449-6800(代)
札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・長野・京都・神戸・広島・北九州・福岡

アルパック
株式会社 地域計画建築研究所

代表取締役社長　金井萬造

本社・京都事務所・〒600-8007 京都市下京区四条通高倉 大和銀行京都ビル6F
PHONE.075-221-5132(代)　FAX.075-256-1764
大阪事務所・〒540-0001 大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル15F
PHONE.06-942-5732(代)　FAX.06-941-7478
名古屋事務所・〒460-0008 名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークビジネスセンタービル13F
PHONE.052-265-2401　FAX.052-249-3925
東京事務所・〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-16　霞ビル401号
PHONE.03-3226-9130(代)　FAX.03-3226-9560
九州事務所・〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-35　ホンダハピエ6F
PHONE.092-731-7671　FAX.092-731-7673

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　　社　名古屋市中区栄2丁目8番1号(白川ビル別館)　〒460-0008 TEL052-202-1241(代表)
東京事務所　東京都中央区八丁堀3丁目1番1号(京橋第3長岡ビル)　〒104-0032 TEL03-3555-0474(代表)

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　市川　宏
取締役社長　眞塚達夫

本社(大阪事務所)　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号 電話(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号(永田町ビル) 電話(03)3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中区錦1丁目13番26号(三井生命伏見ビル) 電話(052)223-3931
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1(福岡センタービル) 電話(092)472-8737

建築・土木の設計監理

日建設計

代表取締役会長　薬袋公明
代表取締役社長　牧　英二

大阪	541-8528	大阪市中央区高麗橋4丁目6—2	電話 (06) 203-2361
東京	112-8565	東京都文京区後楽2丁目1—3	電話 (03) 3813-3361
名古屋	460-0008	名古屋市中区栄4丁目15—32	電話 (052) 261-6131
支所・その他	東北(仙台)・神奈川(横浜)・北陸(富山)・神戸・広島・九州(福岡) シンガポール・上海・台北・ソウル・クアラルンプール		

株式会社 日積サーベイ

会長　生島道春
社長　加藤哲也

本社	〒540-0012 大阪市中央区谷町3－1－9 (MG大手前ビル)	TEL(06) 944－2755代表
SSDセンター	〒540-0012 大阪市中央区大手通2－1－6 (MG大手通ビル)	TEL(06) 944－9348代表
㈱東京日積	〒110-0016 東京都台東区台東4－14－8 (シモジン・パークビル)	TEL(03)3836－1271代表
日積設計監理㈱	〒550-0003 大阪市西区京町堀1－10－8 (福岡ビル)	TEL(06) 444－2706

株式会社 安井建築設計事務所

取締役会長　佐野正一
取締役社長　佐野吉彦

本　社　〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話 06(943)1371(大代)
支　社　大阪・東京・名古屋・神戸・広島・福岡

暑中お見舞申し上げます

平成10年盛夏

建設業有志

人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

株式会社 淺沼組

取締役社長　淺沼健一

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話 06(768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5番地　電話03(5269)3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号　電話052(571)5571
支店　北海道・東北・横浜・神戸・広島・九州

空間に新しいエナジー

ANDO 安藤建設

取締役社長　沖田幸作　　常務取締役支店長　柳澤淳右

本社　東京都港区芝浦3丁目12－8　電話(03)3457－0111㈹
大阪支店　大阪市福島区福島6丁目3－21　電話 (06)453－2190㈹

imanishi

株式会社 今西組

取締役社長　今西邦夫

本社　大阪市天王寺区上本町6丁目9番21号　TEL06 (779) 3361
支店　東京都新宿区内藤町1番地　TEL03(3354) 0581
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

OBAYASHI

株式会社 大林組

取締役会長　大林芳郎
取締役社長　向笠慎二

東京本社　東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 03 (3292)1111番
本店　大阪市中央区北浜東4番33号　電話 06 (946) 4578番
支店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州

株式会社 奥村組

取締役社長　奥村正太郎

本社　〒545-8555 大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号　電話 大阪(06) 621-1101(代表)
東京本社　〒107-8429 東京都港区元赤坂一丁目3番10号　電話 東京(03)3404-8111(代表)

快適な環境を創造する

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　梅田貞夫
専務取締役 関西支店長　豊田佳徳

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03(3404)3311(大代)
関西支店　大阪市西区阿波座1－3－15　電話 06 (536)3311(大代)

共立建設株式会社　関西支店

取締役支店長　飯塚英雄

支　店　〒540-0026 大阪市中央区内本町2－2－5　TEL 06－ 942—2491 (代表)
本　社　〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1—16—10　TEL 03—3461—6141 (代表)

株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　松本良夫
取締役 大阪支店長　山口啓二

本　社　東京都新宿区津久戸町2番1　電話03(3260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06 (353)2516番

公成建設

代表取締役社長　絹川治

本　社　〒600-8322　京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-365-8300
大阪支店　〒531-0072　大阪市北区豊崎2丁目4番3号　☎ 06-375-1121
東京営業所　〒141-0021　東京都品川区上大崎3－3－9—215　☎03-3442-1100
名古屋営業所　〒453-0023　名古屋市中村区若宮町3丁目48　☎052-471-1223

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　社　〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06(779)7731(代)
FAX 大阪06(779)7133
関東支店　〒350-2211 埼玉県鶴ヶ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492(87)0301
FAX 埼玉0492(87)0300

SANWA

三和建設株式会社

取締役社長　森本晴夫

本社・本店　大阪市淀川区加島1丁目55番6号　〒532-0031　電話 06(301)6636
東京・京都・神戸・高槻

人がつくる、人の場所。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設

取締役社長　今村治輔
常務取締役大阪支店長　増島修二

本　社　東京都港区芝浦１－２－３　電話 03(5441)1111
大阪支店　大阪市中央区本町３－５－７　電話 06 (263)2800

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　和田　勇

本　社　〒531-0076　大阪市北区大淀中1丁目1番88号（梅田スカイビル）　☎06（440）3111
東京本社　〒151-8070　東京都渋谷区代々木2丁目1番1号（新宿マインズタワー）　☎03(5352)3111

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　社　大阪市西区西本町２丁目２番11号
なにわ筋ツインズ　ウエスト
大阪(06)531—6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京(03)3265—4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国
九州
URL http://www.zenitaka.co.jp

TAISEI

大成建設株式会社

取締役社長　平島　治
専務取締役関西支店長　遠藤郁夫

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL03(3348)1111大代表
関西支店　大阪市中央区南船場１丁目14番10号　TEL06(268)8500
支　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国・千葉・関東・神戸

DNC. 大日本土木株式会社

代表取締役社長　甕（もたい）　哲司

東京本社　〒162-8410 東京都新宿区市ヶ谷田町２丁目35番地　電話03（3268）5511
大阪支店　〒530-8272 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話06（341）5211

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541-0053　大阪市中央区本町４丁目1—13　電話 大阪（252）1201番(代表)

信用と技術の

鉄建

TEKKEN

常務取締役大阪支店長　田中義孝

大阪支店　〒541-0048 大阪市中央区瓦町３－３－７　電話 06 (201)1881(代表)
本　社　〒101-8366 東京都千代田区三崎町２－５－３　電話 03(3262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
取締役大阪支店長　河口允昭

本　社　〒104-8388　東京都中央区京橋１丁目７番１号　TEL 東京03(3562)6111
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町１丁目13番47号　TEL 大阪06 (531)6095
支　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・神戸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

南海辰村建設

取締役社長　芝谷昭

〒556-0011　大阪市浪速区難波中３丁目５番19号　電話 06 (644)7823番

不動建設株式会社

取締役社長　市吉正信

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話 ０６（２０１）９２０３番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話 ０３（3837）６００９番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

FUJIKI

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本　社　〒540-0028　大阪市中央区常盤町 1-3-8　☎06-966－0400(代)
東京本社　〒160-0008　東京都新宿区三栄町23-4　☎03-3357-1600(代)
本支店　大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡

豊國建設株式会社

代表取締役　松丸哲也

本　社　〒530-0042 大阪市北区天満橋2丁目3番1号　☎06(353)1001(代)
支　店　東京・東北　FAX06(353)1091・1092
営業所　北上・新井・福井・京都・舞鶴・加古川・益田・福岡・神戸・西宮

Matsumura

株式会社 松村組

取締役社長　福　田　耕　作

本社・大阪本店　大阪市北区東天満1丁目10番20号　電話 大代表 大阪(353) 1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都・横浜

MICHIDA

株式会社 道田工務店

本　社／〒666-0016 川西市中央町18番21号 TEL(0727)57-9777㈹ FAX(0727)58-2360

望月建設株式会社

代表取締役会長　望月小太郎
代表取締役社長　松村利重

本　社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　〒530-0015　電話 大阪 (375)2345(代表)

株式会社 森組

取締役社長　岡本利一

本　社　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06) 201-2761
大阪本店　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06) 201-2762
東京本店　東京都中央区日本橋浜町3丁目23-1　電話(03)3808-2071
支　店　東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　栃木・埼玉・滋賀・京都・和歌山・紀泉・堺・高石・西宮・松山・北九州・長崎・熊本

保存と開発に取り組む…

数寄屋建築

株式会社 安井杢工務店

代表取締役　安井洋太郎

本　社　〒617-0006 京都府向日市上植野町御塔道42　TEL (075)933—0012㈹　FAX (075)933—4931
東京事務所　東京都練馬区東大泉3-22-11-401　TEL・FAX (03)3925—0798

株式會社 米田工務店

代表取締役会長　米田良男
代表取締役社長　米田髙明

本　社　〒543-0062　大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号　TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)771-5077代表

暑中お見舞申し上げます

平成10年盛夏

団体・報道・建材・設備工事有志

財団法人 大阪建築防災センター

理事長　白石靜二

〒540-0011 大阪市中央区農人橋2－1－10（大阪建築会館5F）　電話 06(943)7253

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　望月秀祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館別館　電話075(211)2857・2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　古林敏郎

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目8-4日興ビル内　TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　小宮三辰

〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階)　電話052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　黒田　征四郎

〒640-8045 和歌山市ト半町38番地 建築士会館内　電話0734(23)2562

社団法人

日本建築材料協会

会　長　柴田藤祐

〒550-0003　大阪市西区京町堀1丁目8番3号　電話06(443)0345

OCT

学校法人　福田学園

大阪工業技術専門学校

建築・土木　　CAD　　機械

〒530-0043　大阪市北区天満1-9-27　☎06(352)0091　FAX06(352)2861
URL http://www.oct.ac.jp/ e-mail info@oct.ac.jp　0120-0910-19

もっとも信頼され、読まれている情報紙

創業43年

株式会社

建設日報社

代表取締役社主　重村登龍
代表取締役社長　重村一

本　社　〒550-0006 大阪市西区江之子島1-7-3 TEL06(444)2405-9
別　館　〒550-0006 大阪市西区江之子島1-6-2 TEL06(444)6431-4

建設通信新聞

株式会社

日刊建設通信新聞社関西支社

関西支社長　霜崎　等

〒540-0026 大阪市中央区内本町1－3－5　電　話 06(944) 9191代表
内本町山森・住友生命ビル　FAX 06(944) 9197
本社・〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-13-7　電　話 03(3259)8711代表

大阪府耳順会

(大阪府OB建設技術研究会)

会　長　名手宏彦(ミサワホーム)　副会長　八木常美(大都工業)　桝谷芳明(藤木工務店)
幹　事　岡崎次良(因幡電機製作所)　豊田忠男(大末建設)　難波敏廣(環境開発研究所)
甫出裕紀(フジタ)　四方清敏(ダイキン工業)
会計幹事　伊地知徳春(東洋建設)　福家　敬(鉄建建設)　監事　石橋輝雄(大鉄工業)　桜井安則(日立製作所)

定例会［第2・4金曜日；場所　㈱日本建築協会　☎06－348－0635　FAX 06－348－0634

会員の親睦と講演――――――――入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表　佐野正一

事務局　日本建築協会

〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100　大阪駅前第3ビル21階
電　話 (06) 348－0635　　FAX (06) 348－0634

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社　〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428　Fax.06-351-5299

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工
金属製屋根、外装工事業

OSHIMA OHYO

代表取締役社長　貞利政和
本社／大阪本店　大阪市旭区太子橋1-15-22　TEL 06-954-6521
支店、営業所　東京・名古屋・新居浜・四日市・岡山・広島・宇部・福岡
工場　新居浜・寝屋川
大島応用化学工業株式会社

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役 木村雅秀

〒540-0037　大阪市中央区内平野町3丁目2番11号　電話 06(941)4181㈹

人と文化のふれあいをつくる

SANSEI YUSOKI sansei

三精輸送機株式会社

代表取締役　本多孟

本　社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564 ☎ 06 (385) 5621 ㈹
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷５の29の11 ☎ 03 (3356)5651 ㈹
福知山工場：福知山市長田野町２丁目45番地 ☎ 0773 (27)1211 ㈹
営業所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・九州・沖縄

TAJIMA 株式会社タジマ

東京営業本部　〒101-0032 東京都千代田区岩本町３―11―13　電話(03)3862-5908
大阪営業所　〒550-0003 大阪市西区京町堀１―10―５　電話(06) 441-5951　FAX(06) 444-2596

田島ルーフィング株式会社

東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101-0032　東京都千代田区岩本町３―11―13　電話 (03)5821―7711
大　阪：〒550-0003　大阪市西区京町堀１―10―５　電話 (06) 443―0431

大日本インキ化学工業株式会社

常務取締役 支社長 所澤　新　　取締役 支店長 中野近幸

土木建築材料
販売促進プロジェクト

〒541-0056　大阪市中央区久太郎3丁目5―19
TEL（06）252-6161

TOYOShutter

東洋シヤッター株式会社

代表取締役社長　岡田　敏

本　社　〒540-0024 大阪市中央区南新町1-2-10（TSビル）電話(06) 943―6571
東京本社　〒106-0032 東京都港区六本木6-3-18(第一地所麻布ビル）電話(03)3479―2911

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　玉川公弘

本　社　大阪市北区中津6丁目8番4号　電話 大阪(06)458―3628
支店・営業所　福岡・北九州・宮崎・京都・神戸・天理・川西

日本電植株式会社

代表取締役社長　松村信人

〒530-0043　大阪市北区天満2丁目5―15　TEL06-352-7502㈹　FAX06-355-2714

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲メルタン21（トーチ工法）

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長　佐々木通博

本社営業所　東京都足立区千住東2－23－4　☎東京(3882)2424（代）
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

支部長　友長幸男

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（533）3191　大代表

超高層ビルから 一戸建てまで

愛される夢を育てる

日立冷熱株式会社 代理店
日立化成工業株式会社 代理店
新明和工業株式会社 代理店
BRIDGESTONE 代理店

三協アルミニウム工業㈱ 代理店
立山アルミニウム工業株式会社 代理店
信越ユニット株式会社 代理店
昭和ロック株式会社 代理店
庭づくりのパイオニア GLOBEN

ムツミ産業株式会社

代表取締役 傳馬正明

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目17番15号 電話（06）大代表441—0378番 出張所：東京・京都・北九州

YAMAMOTO YOGYO

山本窯業化工株式会社

代表取締役社長 山本泰通

本　　社 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町41-20 TEL(06)338-8601 FAX(06)338-8606
大阪営業部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町8-7 TEL(06)338-8701 FAX(06)384-0557
営 業 所 東京・北関東・名古屋・静岡・広島・岡山・福岡・仙台／福崎工場

ITEMS
●建築用ドアハンドル
●レバーハンドル
●ケアシステムーハンドバー
●クロセットドア
●ドアストップーエッセ
●フロアシステム
●消火器収納ケース－アルジャン
●サインシステムーピクト
●都市景観ランドボール・エキスボール
●キャスタル+メタルアート
●アーキパーツ
http://www.artunion.co.jp/

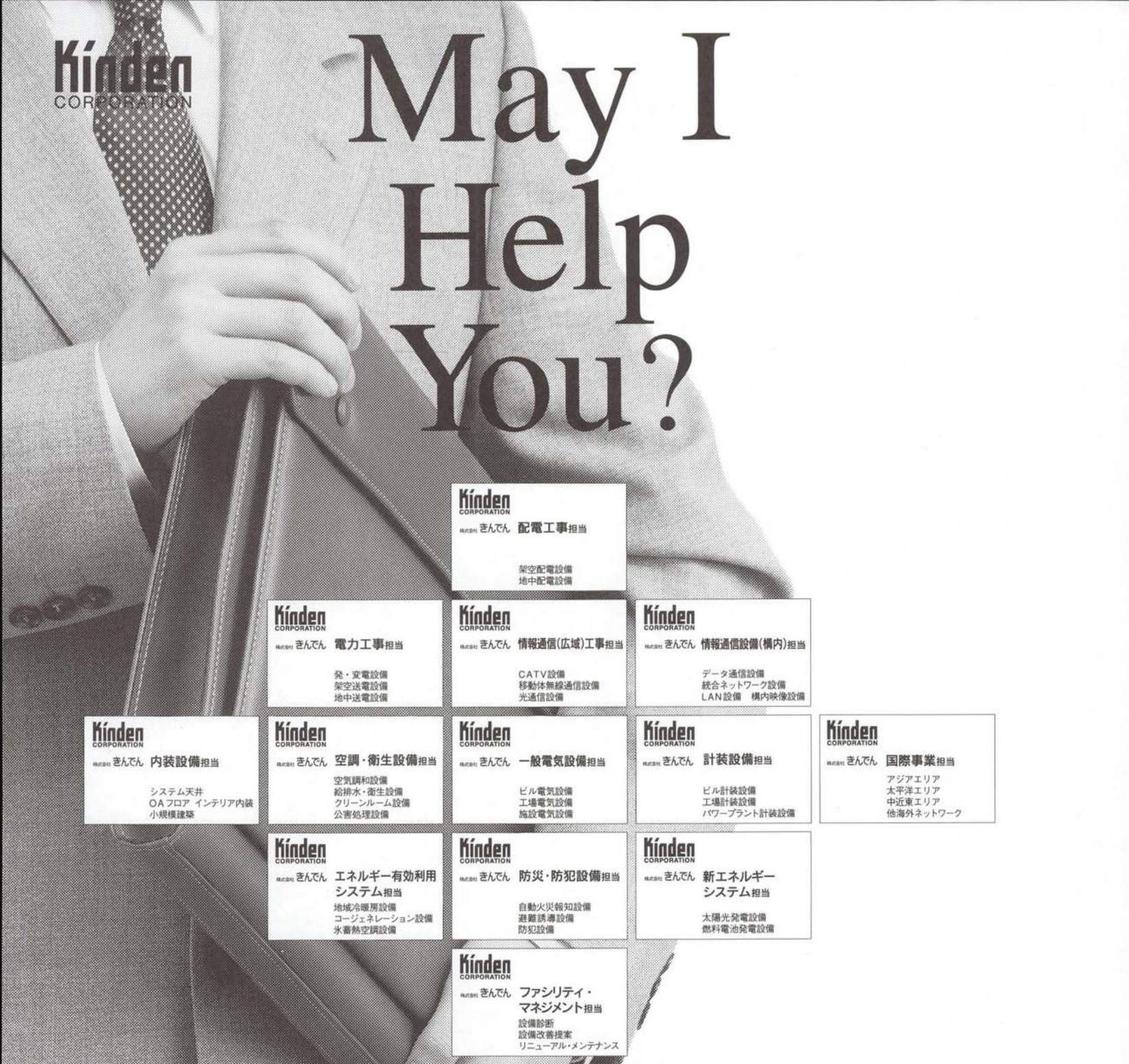

大阪ショールーム

建設環境金属製品の
UNION 株式会社ユニオン
UNION CORPORATION

代表取締役 社長 立野純三

■本社 ——— 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015
■大阪支店 ——— 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(532)3731 ㊠06(532)0568
■大阪ショールーム ——— 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(532)8920 ㊠06(533)0224
■東京支店 ——— 東京都江東区白河2-9-5 〒135-0021 ☎03(3630)2811 ㊠03(3630)2816
■東京ショールーム ——— 東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105-0001 ☎03(3506)1717 ㊠03(3506)1718
■名古屋営業所・ショールーム — 名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805 ☎052(363)5221 ㊠052(363)5255





May I Help You?

株式会社きんでん 配電工事担当
架空配電設備
地中配電設備

株式会社きんでん 電力工事担当
発・変電設備
架空送電設備
地中送電設備

株式会社きんでん 情報通信(広域)工事担当
CATV設備
移動体無線通信設備
光通信設備

株式会社きんでん 情報通信設備(構内)担当
データ通信設備
統合ネットワーク設備
LAN設備　構内映像設備

株式会社きんでん 内装設備担当
システム天井
OAフロア インテリア内装
小規模建築

株式会社きんでん 空調・衛生設備担当
空気調和設備
給排水・衛生設備
クリーンルーム設備
公害処理設備

株式会社きんでん 一般電気設備担当
ビル電気設備
工場電気設備
施設電気設備

株式会社きんでん 計装設備担当
ビル計装設備
工場計装設備
パワープラント計装設備

株式会社きんでん 国際事業担当
アジアエリア
太平洋エリア
中近東エリア
他海外ネットワーク

株式会社きんでん エネルギー有効利用システム担当
地域冷暖房設備
コージェネレーション設備
氷蓄熱空調設備

株式会社きんでん 防災・防犯設備担当
自動火災報知設備
避難誘導設備
防犯設備

株式会社きんでん 新エネルギーシステム担当
太陽光発電設備
燃料電池発電設備

株式会社きんでん ファシリティ・マネジメント担当
設備診断
設備改善提案
リニューアル・メンテナンス

きんでんがお手伝いできることは結構多い。

私たちの事業分野にご注目ください。すでにご存じの人もいらっしゃるでしょうが
おや、こんなこともやっていたのかという人もいらっしゃるはずです。
きんでんは、「情報」「エネルギー」「環境」をテーマに技術領域を拡げ
それらの技術を有機的に結合させることで新たなる価値を創造する
総合設備エンジニアリング事業を展開しています。
そのなかで生まれたのがこれらの事業です。その多彩さは
きんでんが現代の都市や社会が求めるニーズにフレキシブルにお応えしている証と言えるでしょう。
今日の都市をより豊かにするために、明日の社会をさらに創造的にするために。
私たち きんでんが、いろいろとお手伝いしていきたいと思います。

いろんな技術が集まって、きんでんです。

株式会社きんでん
本　店 大阪市北区本庄東２丁目３番41号
東京本社 東京都品川区東五反田５丁目25番12号

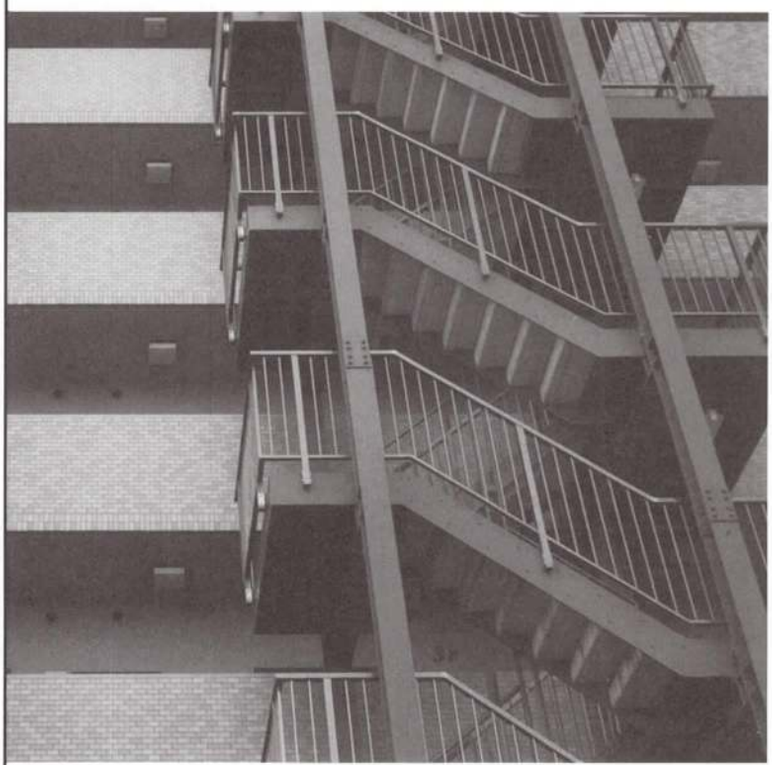
国内事業所185ヵ所／海外事務所12ヵ所／国内関係会社19社／海外関係会社4社／海外合弁会社7社

フエロクリート®

システム階段・ラセン階段

FERRO CRETE SYSTEM STAIRS & SPIRAL STAIRCASE

フエロクリートシステム階段は、錆びない、騒音の出ない外部階段です。



フエロクリートシステム階段は、
あらかじめ工場で段板と一体化されたササラ部材と
鉄骨架構部材を現場で組立てる工法です。

部材は規格化されており、
厳重な品質管理のもと工場において製作され、
かつ、ササラ桁と階段板を一体化しますので、
現場に於ける組立て作業を最少限にして
架設された高品質高精度の階段です。

- 階段鉄部はドブメッキで錆びない、メンテナンスフリーです。
- 階段段板はPC板で騒音なし。
- ドブメッキ手摺、アルミ手摺、パネル手摺等、ご注文に応じられます。

フエロクリートラセン階段は、あらかじめセットされた鋼管柱に、現場で取付る段板です。この部材はフエロクリート(一般名ではフエロセメントと呼ばれるプレキャストコンクリート製品の一種)でつくられていて、薄板成形の特長を生かしているため、この種の製品としては軽量で、構造体に対する負担も少なく、現場での取付工事も容易です。





日本セメント株式会社
建材事業部

本社建材事業部(特販課)●東京都千代田区大手町1-6-1(大手町ビル6階)☎(03)3214-2525㈹

電気不要の新しい消火装置
ガス圧式加圧送水装置
消防革命
ウォータップ
現在の消火設備を根底からくつがえす
電気不要の消火装置が登場
(財)日本消防設備安全センター
性能評定品



代理店募集中
ポエック株式会社
〒721-0973 広島県福山市南蔵王町2-1-12 TEL(0849)22-8551(代) FAX(0849)22-8552
E-mail:info@puequ.co.jp ホームページ http://www.puequ.co.jp

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料
オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー!

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルエターノコア(ETC-F)
・オリエンタルスチールライト(STL)
・オリエンタルユニライト(UNL)


関西国際空港エネルギーセンター景観壁工事

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材) D.G.　※カタログをご請求ください。

オリエンタルメタル株式会社
本　　社　〒335-0002 埼玉県蕨市塚越5―12―2 TEL (048) 442-3111
東日本支社　〒335-0002 埼玉県蕨市塚越5―12―2 TEL (048) 442-3115
西日本支社　〒660-0802 兵庫県尼崎市長洲中通3―24―35 TEL(06)487-2121
支　　店　関東、東北、大阪、名古屋、広島、九州
工　　場　熊谷・東条・姫路

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市区江戸堀１丁目９番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３ 電0720－49－2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜２－２－21　電話 06(202) 3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町１－４－１　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話（352）１１３１代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペースクリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530-0047
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見２丁目１番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満３丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428 Fax.06-351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）768－５０３１代表
メンテナンス　電話　大阪（０６）７６８－１６５１代表
東京支社　東京都文京区小石川１丁目12番14号（日本生命小石川ビル７階）
〒112-0002　電話（03）５６８９－２３５１代表

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン（無機質壁紙）

(株)ホクシンクロス

〒583-0881　大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL（０７２９）３９－３６１０

工場　〒580-0046 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-1042 奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597-0051 大阪府貝塚市王子５０１

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(313)1101
創業1919

電気設備 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル) 電話06(385)1361(代)
大阪営業所 〒564-0062 吹田市垂水町3丁目34-6 電話06(385)1361(代)
京都営業所 〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650-0035 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市北区西天満2丁目6-8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

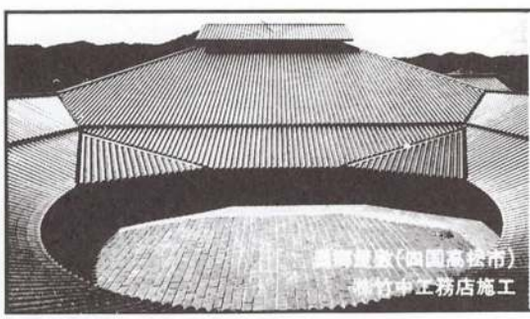
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長 伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社 〒105-0003 東京都港区西新橋3-9ランディック第7ビル TEL 03(5472)3311・FAX 03(5472)0085
名古屋支店 〒462-0847 名古屋市北区金城3-12-14 TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店 〒657-0035 神戸市灘区灘田町3-6-11K・Tビル TEL 078(842)6411・FAX 078(842)6416
堺研究所 〒590-0906 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06-532-0461(代表)
FAX.06-535-5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(792)5858 FAX06(792)2810



〒556-0024 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス 五六一～七四五四
五六一～七四一六
あらゆる屋根工事の相談は、
ナニワ瓦株式会社
施工中工務店施工

新鮮
情報処理/編集・企画/印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530-0043 大阪市北区天満2丁目5番15号 TEL06(352)7502(代)
FAX2F事務所 06(355)2714 3F制作06(357)7250

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは,日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤/コンクリート用補修材
高性能無収縮材/コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本社:東京都港区六本木3-16-26
大阪支店:大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―――― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL.03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081～2FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)4341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

快適な明日を提案する

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540-0024 大阪市中央区南新町1－2－10(TSビル)
TEL(06)943—6571（代）

■東京/横浜/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/滋賀/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に

●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに

●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に

●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入

●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）877－1581





よりよい暮らしのために永大産業は取り組んでいます。

快適な暮らしを支えるのは、「人の健康と安全を大切に考えたモノづくり」であると永大産業は考えます。

永大産業は、低ホルムアルデヒド、バリアフリー、抗菌加工等により安全で健康的な暮らしをご提案。

お子様からお年寄りまで、人々が快適に生活できる住まいづくりに積極的に取り組んでいます。





永大産業は、住む人の健康・安全を第一に考えたモノづくりを行っています。

●ホルムアルデヒド対策・バリアフリー住宅対応・抗菌処理・環境汚染対策●

EIDAI

永大産業株式会社

〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60

TEL.06-675-2372(代)

http://eidai.topica.ne.jp/

AGC
ASAHI GLASS COMPANY

ガラスで甲乙。

透明ワイヤレス防火ガラス《ピラン》です。

甲種・乙種防火戸に、新しい創造力。透明ガラスで、より開放的な空間がデザインできるようになります。旭硝子の〈ピラン〉は、ドイツの特殊ガラスメーカー、ショット社(SCHOTT GLASWERKE)との共同開発で生まれた、透明で網のない低膨張防火ガラス。すぐれた耐熱性を備えているうえ、強度や透明度は一般のフロートガラス以上です。甲種・乙種防火戸用ガラスとして、従来の網入りガラスや鉄製ドアの代わりに使用でき、美観向上、アメニティの拡大、防火区画の見通し確保などを実現。安全で快適な空間づくりに、大きく役立ちます。高機能と高意匠を両立させた、次世代の防火ガラス〈ピラン〉。建築デザインの自由度が、またひとつ広がりました。



甲種防火戸



乙種防火戸

PYRAN®

低膨張防火ガラス・ピラン
《甲種・乙種防火戸用》

※PYRAN®は、Schott Nippon K.K.の登録商標です。

旭硝子株式会社
本社 〒100-8305 東京都千代田区丸の内2-1-2(千代田ビル) 札幌支店 ☎011(212)3886 /仙台支店 ☎022(215)6611 /東京支店 ☎03(3283)9413 /
名古屋支店 ☎052(586)8711 /大阪支店 ☎06(373)5811 /福岡支店 ☎092(441)4123 /広島営業所 ☎082(248)3737 /ガラスプラザ(ショールーム) ☎03(5322)6530

軽さ・防水性能・耐久性・
経済性等で断然有利!!



くっきり、鮮やか。

――屋根はいま、新しい表情をもった

三星フネンシングルは、ガラスマット１００%の芯材と耐候性にきわめて優れた特殊合成樹脂混入無機物からなる不燃認定を受けた屋根仕上げ材です。
耐久性、柔軟性に優れ、表面は環境に調和する彩色砂粒を圧着してあります。軽量にもかかわらず風に対しても十分な安全性を持っています。どの様な形状の屋根にも容易な施工が可能です。
不燃性とソフトな化粧性を合せ持ち、下葺防水材との防水システムの併用も相まって、屋根仕上材の自信作です。
現代感覚あふれる超モダンな屋根から純和風屋根にいたるまであらゆる屋根にセンス良く調和します。

建設大臣認定 不燃(個)第1552号
三星フネンシングル
一文字
サティオン

西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大　阪　〒550-0003　大阪市西区京町堀１－10－５　TEL06（443）0431
神　戸　〒650-0023　神戸市中央区栄町通5-1-22日宝栄町ビル　TEL078（362）6121
広　島　〒730-0024　広島市中区西平塚町8-13 立駐広島ビル　TEL082（246）8625
福　岡　〒810-0041　福岡市中央区大名２－４－35　TEL092（724）8111
東　京　〒101-0032　東京都千代田区岩本町３－11－13　TEL03（5821）7711

雑誌 03379-7

社団法人 日本建築協会　〒530－0001 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06（348）0635 FAX06（348）0634 振替口座 〇〇九一〇－九－三九七五
定価1,200円（●本体1,143円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収